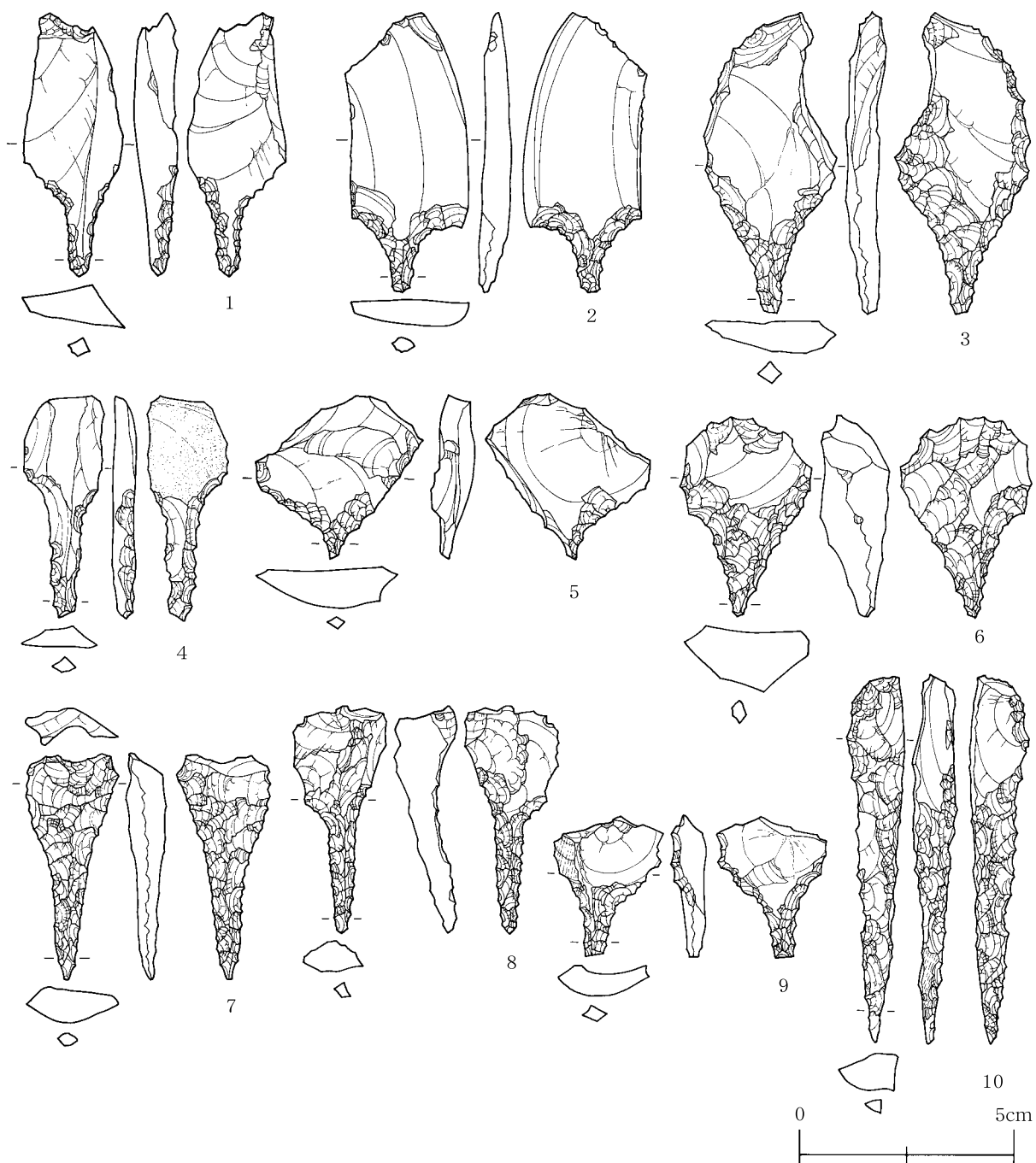


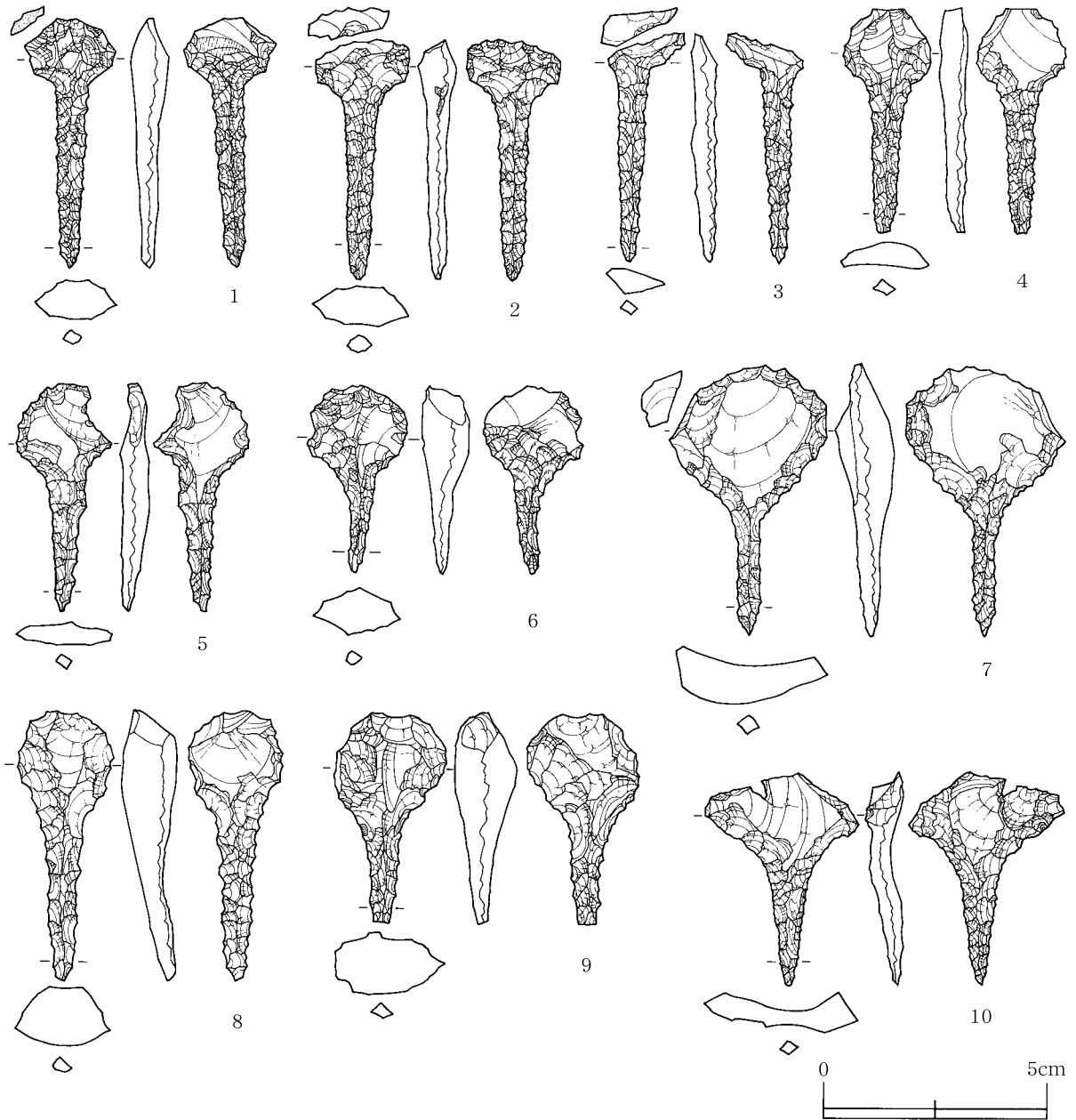
図版	番号	遺物	出土位置	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	つまみ形状	錐部形状	つまみ加工	備考
226	1	778	LR35		頁岩	42.5	20.9	8.8	5.1	A		a	
226	2	889	MA28		頁岩	58.6	16.5	10.8	7.6	A		b	アスファルト付
226	3	755	LQ33		頁岩	52.8	16.5	10.7	6.9	A		b	
226	4	760	LN31		頁岩	53.6	15.0	10.3	6.2	A		a	
226	5	801	LR35		頁岩	64.2	22.3	10.7	10.0	A		a	
226	6	772	LT33		頁岩	48.5	28.0	14.5	12.4	A		b	アスファルト付
226	7	1196	MA25		頁岩	50.4	27.3	8.4	7.7	A		a	
226	8	980	LO36		頁岩	59.0	19.9	13.4	11.0	A		b	
226	9	748	LQ32		頁岩	46.5	24.4	7.0	6.2	A		b	
226	10	762	LR30		頁岩	47.1	27.6	14.8	13.2	A		b	

第226図 石錐(1)



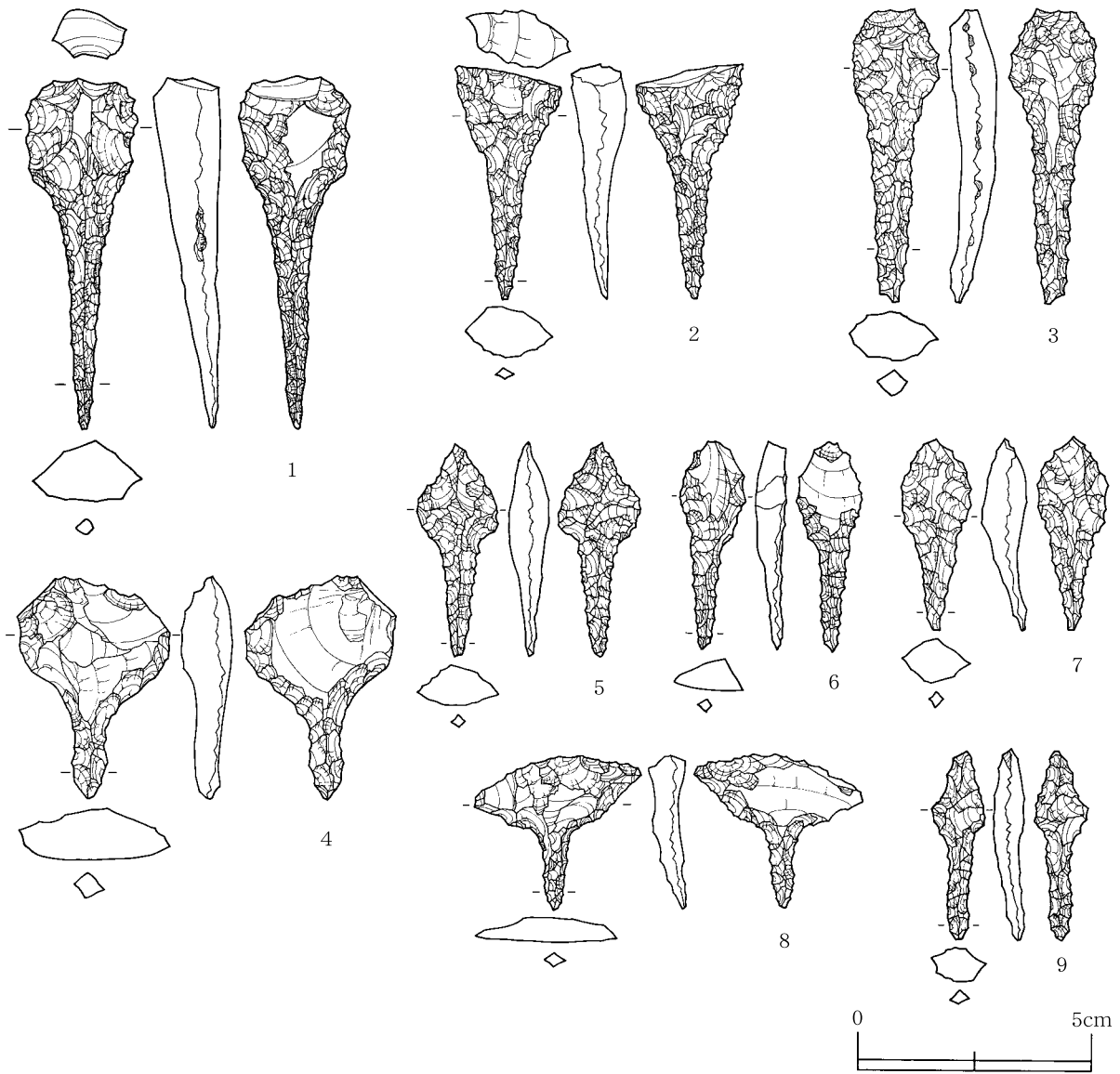
図版	番号	遺物	出土位置	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	つまみ形状	錐部形状	つまみ加工	備考
227	1	792	LP32		頁岩	60.3	23.3	11.5	9.6	A		b	
227	2	951	LS22		頁岩	65.4	28.4	7.4	15.2	A		b	
227	3	979	LQ34		頁岩	70.4	32.0	7.9	15.5	A		b	
227	4	1032	LO37		玉髓	51.4	18.7	5.9	4.5	A		b	
227	5	766	MA27		頁岩	34.8	27.1	10.0	12.0	A		b	
227	6	809	LQ36		頁岩	47.0	31.4	18.2	19.0	A		a	
227	7	983	LP32		頁岩	52.3	20.5	9.5	6.5	A		a	
227	8	777	MB23		頁岩	52.0	20.1	17.0	8.0	A		b	
227	9	764	LQ33		頁岩	31.8	25.0	5.5	3.8	A		b	
227	10	965	LR36		頁岩	84.0	14.5	10.5	9.5	B		b	

第227図 石錐(2)



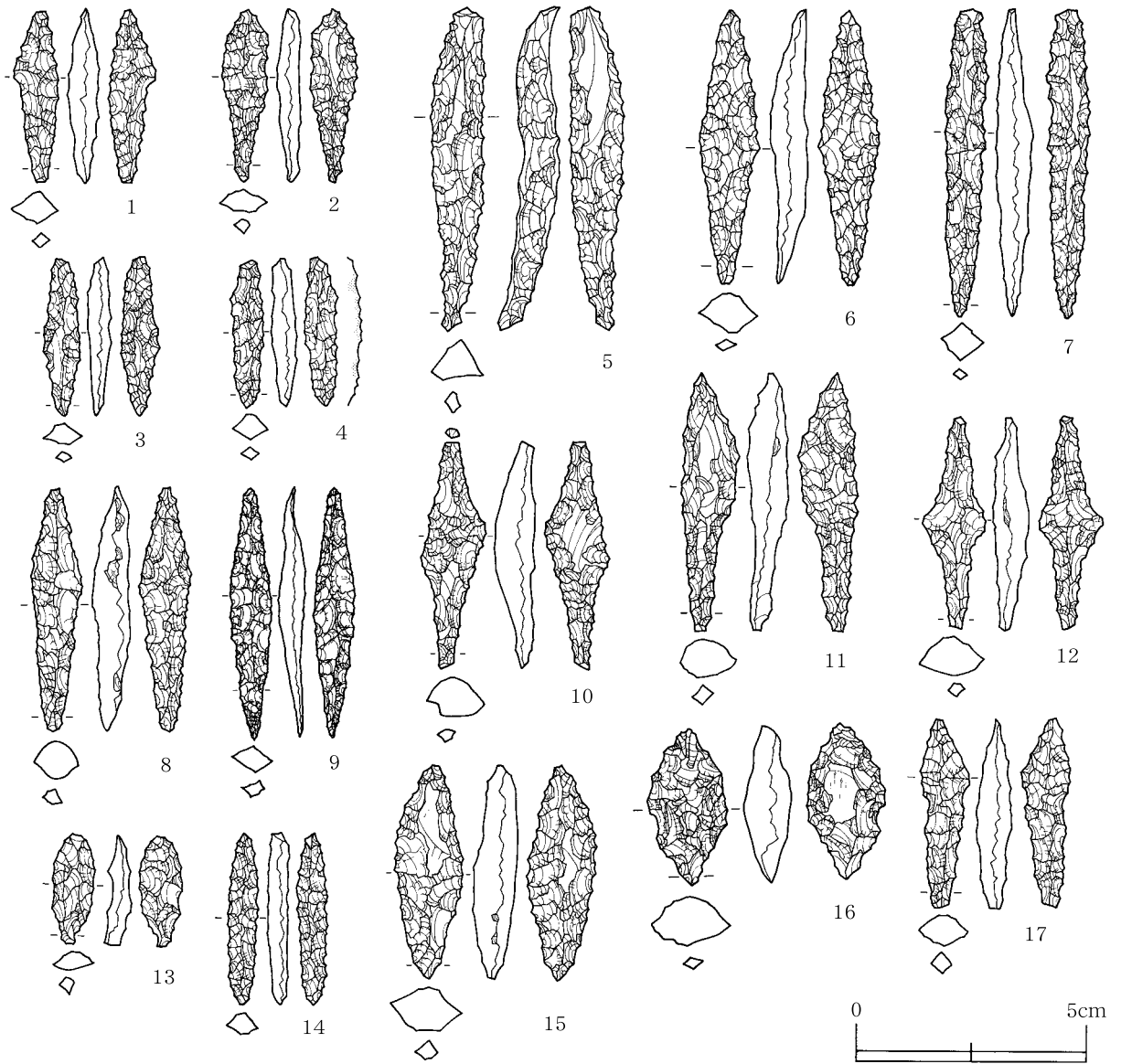
図版	番号	遺物	出土位置	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	つまみ形状	錐部形状	つまみ加工	備考
228	1	967	LO34		頁岩	55.2	20.0	8.6	4.3	A		a	
228	2	972	LP36		頁岩	52.5	20.9	7.9	4.4	A		a	
228	3	857	LN36		頁岩	49.0	17.5	5.9	2.3	A		a	
228	4	935	LO35		頁岩	49.4	19.3	7.0	4.3	A		b	
228	5	932	LQ39		頁岩	50.0	21.6	6.7	3.5	A		a	
228	6	934	LQ39		頁岩	40.6	23.1	10.8	5.2	A		a	
228	7	1049	MD34		頁岩	60.8	36.1	10.1	12.7	A		b	
228	8	747	LR33		頁岩	59.5	19.7	12.2	9.3	A		b	
228	9	821	LR33		頁岩	47.6	26.5	14.0	11.3	A		a	
228	10	768	LQ32		頁岩	47.0	34.9	6.2	4.3	A		b	

第228図 石錐(3)



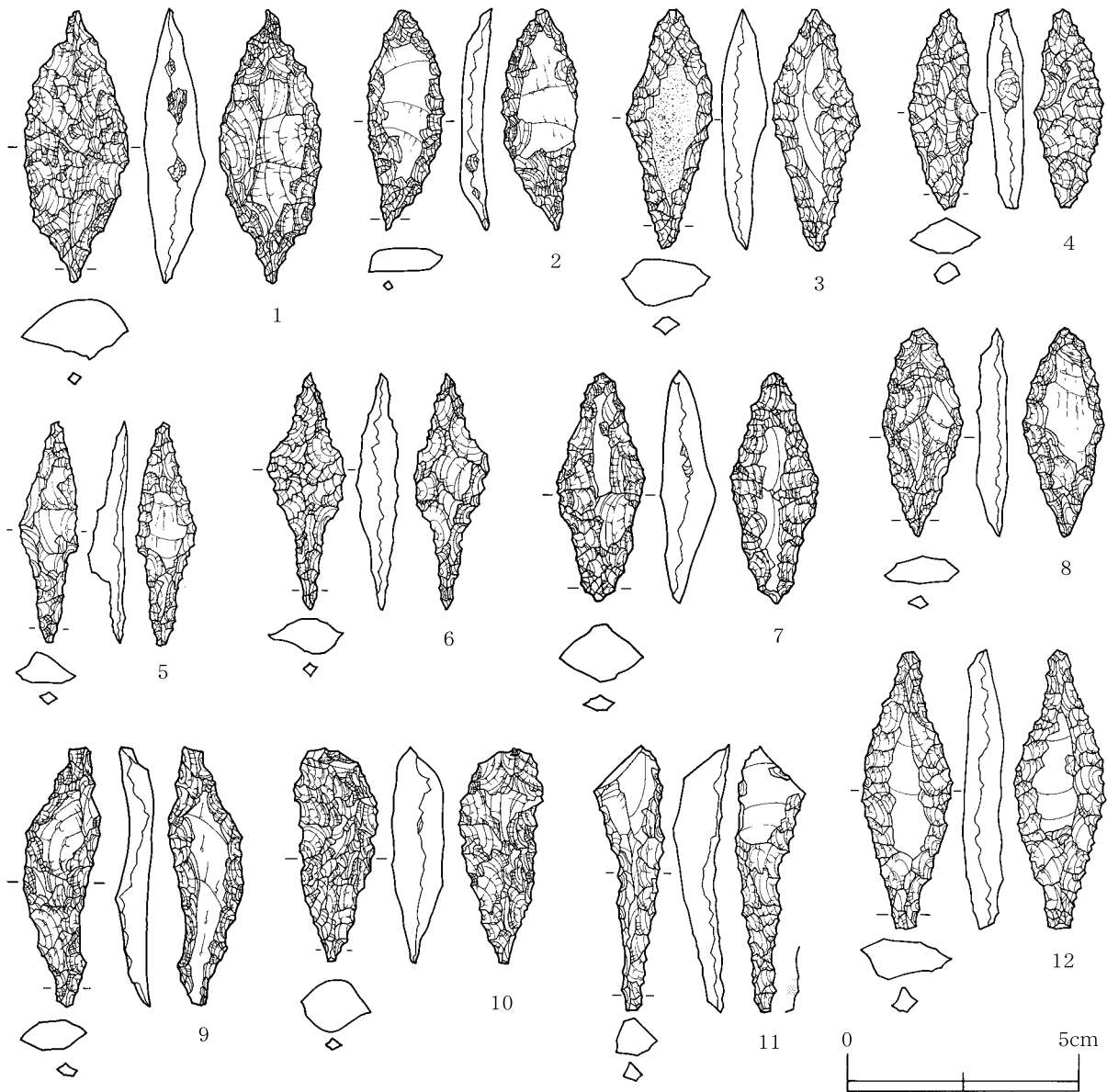
図版	番号	遺物	出土位置	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	つまみ形状	錐部形状	つまみ加工	備考
229	1	1071	LT31		頁岩	74.7	23.7	13.1	13.6	A		a	
229	2	848	LP37		頁岩	48.6	22.2	11.5	7.3	A		a	
229	3	893	LS34		頁岩	62.7	18.5	10.5	9.2	A		a	
229	4	800	LO33		頁岩	48.3	33.0	11.3	11.6	A		b	
229	5	886	LQ36		頁岩	45.4	17.6	8.8	3.8	A		a	
229	6	985	LO34		頁岩	43.5	14.6	6.7	2.7	A		a	
229	7	750	LS34		頁岩	40.5	15.6	9.6	4.0	A		b	
229	8	994	LN36		頁岩	35.3	32.5	7.8	4.4	A		a	
229	9	773	LT35		頁岩	40.3	11.8	7.2	2.1	A		a	

第229図 石錐(4)



図版	番号	遺物	出土位置	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	つまみ形状	錐部形状	つまみ加工	備考
230	1	774	LQ34		頁岩	37.3	10.2	6.9	1.9	B		a	
230	2	776	LT32		頁岩	36.6	10.2	5.2	1.6	B		a	
230	3	761	LO31		頁岩	33.7	8.0	5.2	1.3	B		a	
230	4	757	LO33		頁岩	32.0	7.5	6.0	1.4	B		a	アスファルト付
230	5	970	LS32		頁岩	70.0	12.1	9.3	7.2	B		a	
230	6	797	LT34		頁岩	59.5	13.0	9.5	4.9	B		a	
230	7	908	LN36		頁岩	67.0	9.3	8.9	4.0	B		a	
230	8	915	MA28		頁岩	53.1	11.2	8.8	4.2	B		a	
230	9	173	LS34		頁岩	64.2	8.7	5.9	1.8	B		a	
230	10	881	LQ37		頁岩	49.6	13.7	9.3	4.3	B		a	
230	11	941	MA27		頁岩	55.1	13.0	9.7	5.8	B		a	
230	12	1010	LP33		頁岩	44.9	14.4	9.1	3.2	A		a	
230	13	885	LT31		玉髄	23.5	9.0	6.0	1.0	A		a	
230	14	907	LP33		頁岩	36.8	6.8	5.6	1.3	A		a	
230	15	9057	LO37		頁岩	45.1	14.9	9.5	6.3	B		a	
230	16	9042	LP33		頁岩	32.6	17.7	10.0	5.1	B		a	
230	17	765	LQ34		頁岩	40.9	10.7	7.5	2.5	A		a	

第230図 石錐(5)



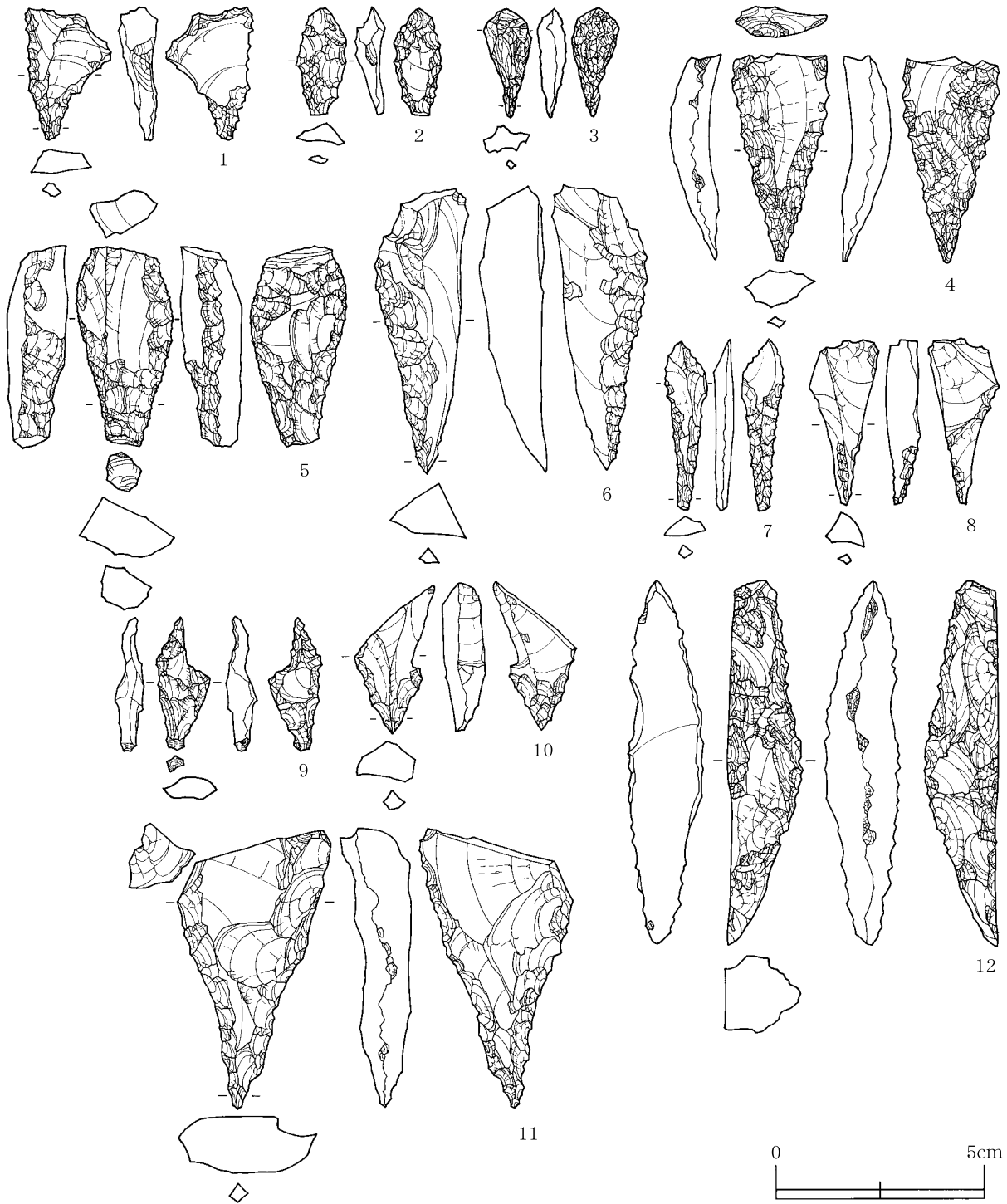
図版	番号	遺物	出土位置	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	つまみ形状	錐部形状	つまみ加工	備考
231	1	9033	LP33		頁岩	57.8	22.4	11.6	13.7	B		a	
231	2	9043	LS36		頁岩	44.6	22.0	10.1	8.1	B		b	
231	3	9058	LR35		頁岩	50.6	18.3	9.4	7.2	B		a	
231	4	9067	LT32		頁岩	41.4	14.5	7.8	4.5	B		a	
231	5	763	LS35		頁岩	47.2	12.7	8.6	2.9	B		a	
231	6	1186	LO36		頁岩	49.6	16.9	9.2	4.6	B		a	
231	7	9076	LO32		頁岩	47.9	18.9	11.7	8.4	B		a	
231	8	9047	LP31		頁岩	43.0	17.1	6.6	5.0	B		a	
231	9	9059	LQ33		頁岩	56.3	15.6	7.9	5.8	B		a	
231	10	9072	LS36		頁岩	44.9	18.5	11.5	8.6	B		a	
231	11	770	MA28		頁岩	57.0	23.5	10.1	5.5	B		b	アスファルト付
231	12	9081	LS32		頁岩	59.4	19.4	9.0	9.5	B		a	

第231図 石錐(6)



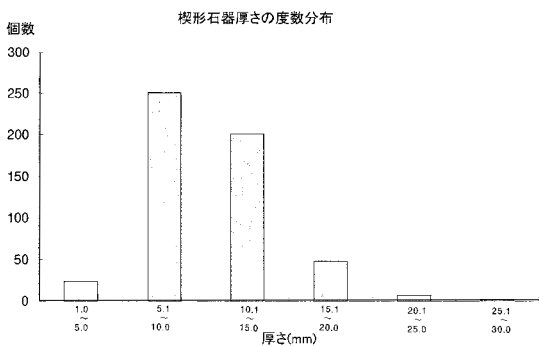
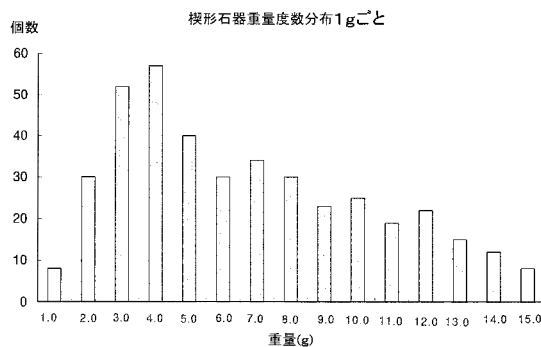
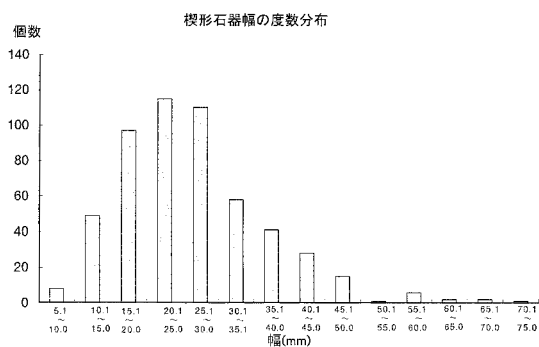
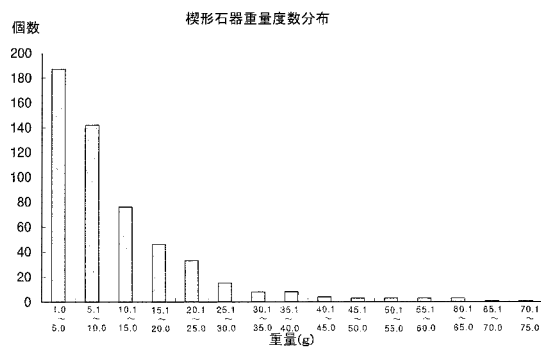
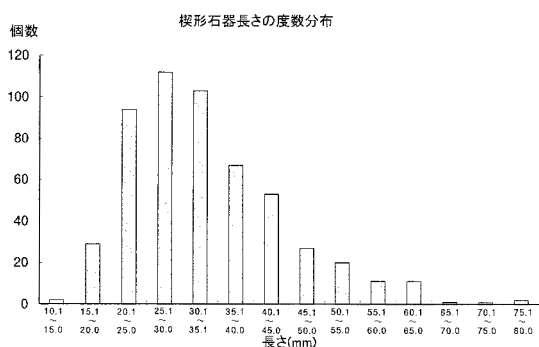
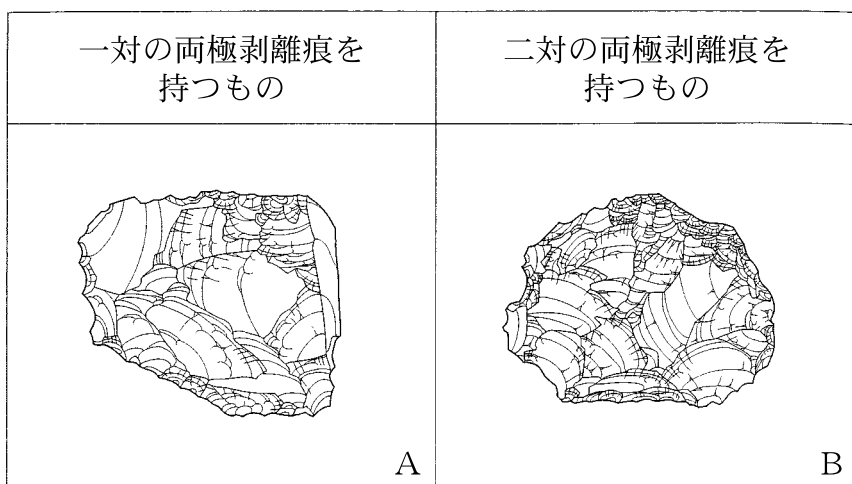
図版	番号	遺物	出土位置	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	つまみ形状	錐部形状	つまみ加工	備考
232	1	9026	LQ33		頁岩	47.8	24.9	9.4	10.6	B		b	
232	2	875	MB36		頁岩	64.1	18.0	14.0	13.9	B		b	
232	3	9021	MB28		頁岩	65.3	21.4	10.2	17.5	B		a	
232	4	9093	LP36		頁岩	51.8	18.9	10.2	10.2	B		a	
232	5	9060	LR35		頁岩	49.2	18.9	4.6	4.8	B		a	
232	6	826	LP37		頁岩	30.4	16.6	11.5	4.9	A		b	
232	7	9037	LO34		頁岩	36.1	21.1	7.2	3.8	B		b	
232	8	782	LO36		頁岩	67.1	31.5	13.2	20.4	B		b	
232	9	818	LS35		頁岩	42.5	14.8	7.3	13.3	A		a	
232	10	825	LT34		頁岩	45.6	10.8	6.1	2.5	A		a	
232	11	988	LT32		頁岩	44.7	19.3	5.4	4.5	B		a	

第232図 石錐(7)



図版	番号	遺物	出土位置	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	つまみ形状	錐部形状	つまみ加工	備考
233	1	9109	LO32		頁岩	30.0	20.8	8.4	4.3	B		b	
233	2	102490	排土		玉髓	25.2	11.6	6.3	1.6	B		b	
233	3	102492	MJ34		石英	25.3	11.0	6.2	1.4	B		a	
233	4	9095	MA26		頁岩	48.1	22.5	11.2	10.1	B		a	
233	5	830	LT35		頁岩	46.1	21.0	13.8	14.8	B		b	
233	6	961	LQ31		頁岩	67.9	22.0	16.3	16.7	B		b	
233	7	769	LQ32		頁岩	40.1	9.8	4.7	1.5	B		b	
233	8	767	MA27		頁岩	39.1	13.8	8.2	3.8	B		b	
233	9	56089	MC27		頁岩	30.9	12.9	6.6	1.6	B		a	
233	10	824	LT34		頁岩	37.2	16.5	9.3	5.1	B		b	
233	11	876	LQ31		頁岩	70.3	38.7	14.0	28.8	B		b	
233	12	9017	LR34		頁岩	84.7	17.6	16.4	25.8	B		a	

第233図 石錐(8)



第69表 楔形石器サイズの特徴 (全533点)

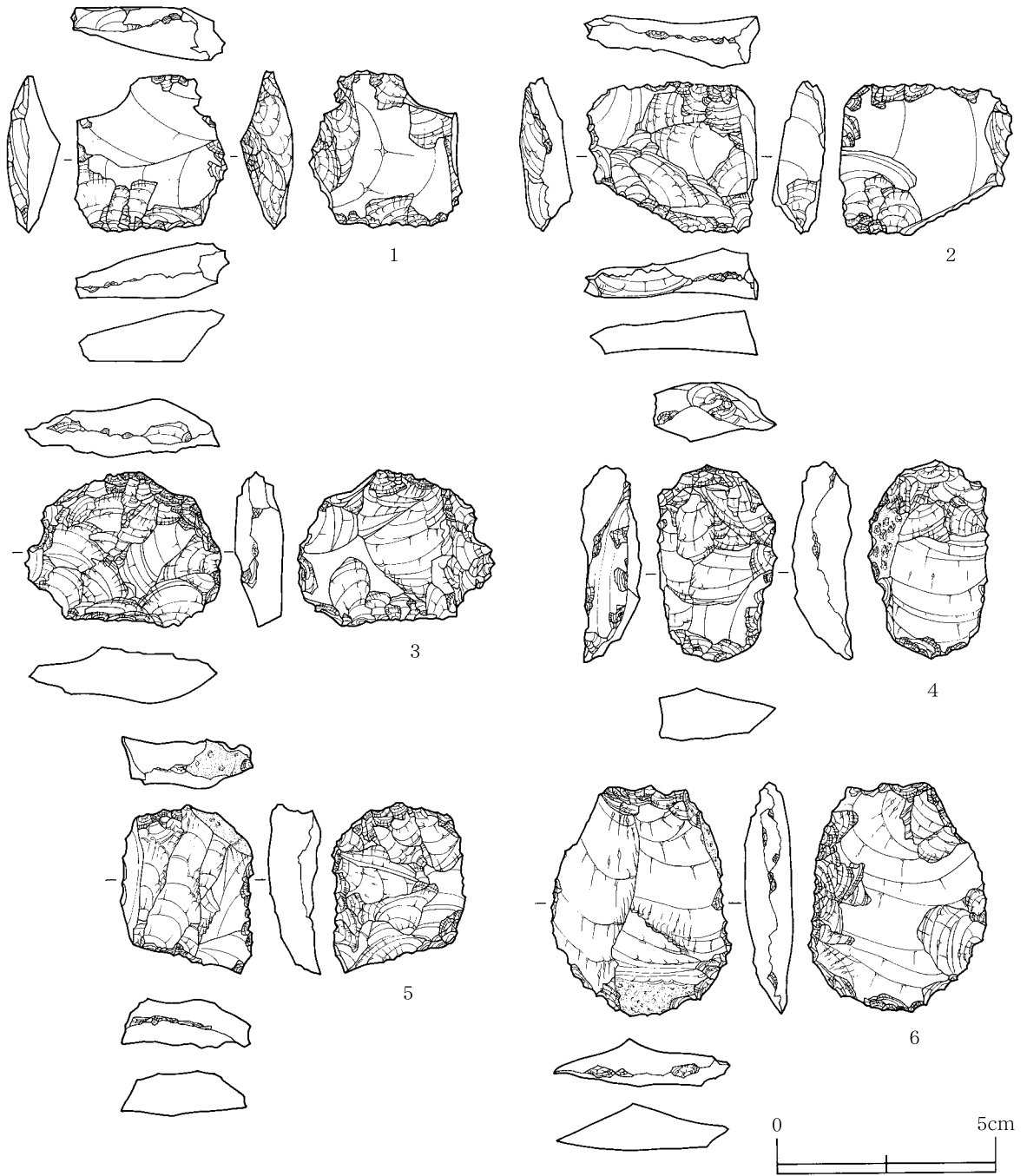
	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)
平均	33.412758	26.403189	10.270169	11.363696
最大値	79.1	70.1	28.5	71.7
最小値	14.9	6.7	3.4	0.5
範囲	64.2	63.4	25.1	71.2
最頻値	26~30mm	21~25mm	6~10mm	4g
最頻値個数	112	115	251	187
最頻値%	21.013133	21.575985	47.091932	35.084428
分散	117.65307	106.90354	13.915518	129.21369
標準偏差	10.8468	10.339417	3.7303509	11.36722
尖度	1.2018958	1.5620143	1.9364204	6.4505445
歪度	1.0293338	1.0004662	0.989053	2.3043498

第234図 楔形石器の分類とサイズの特徴



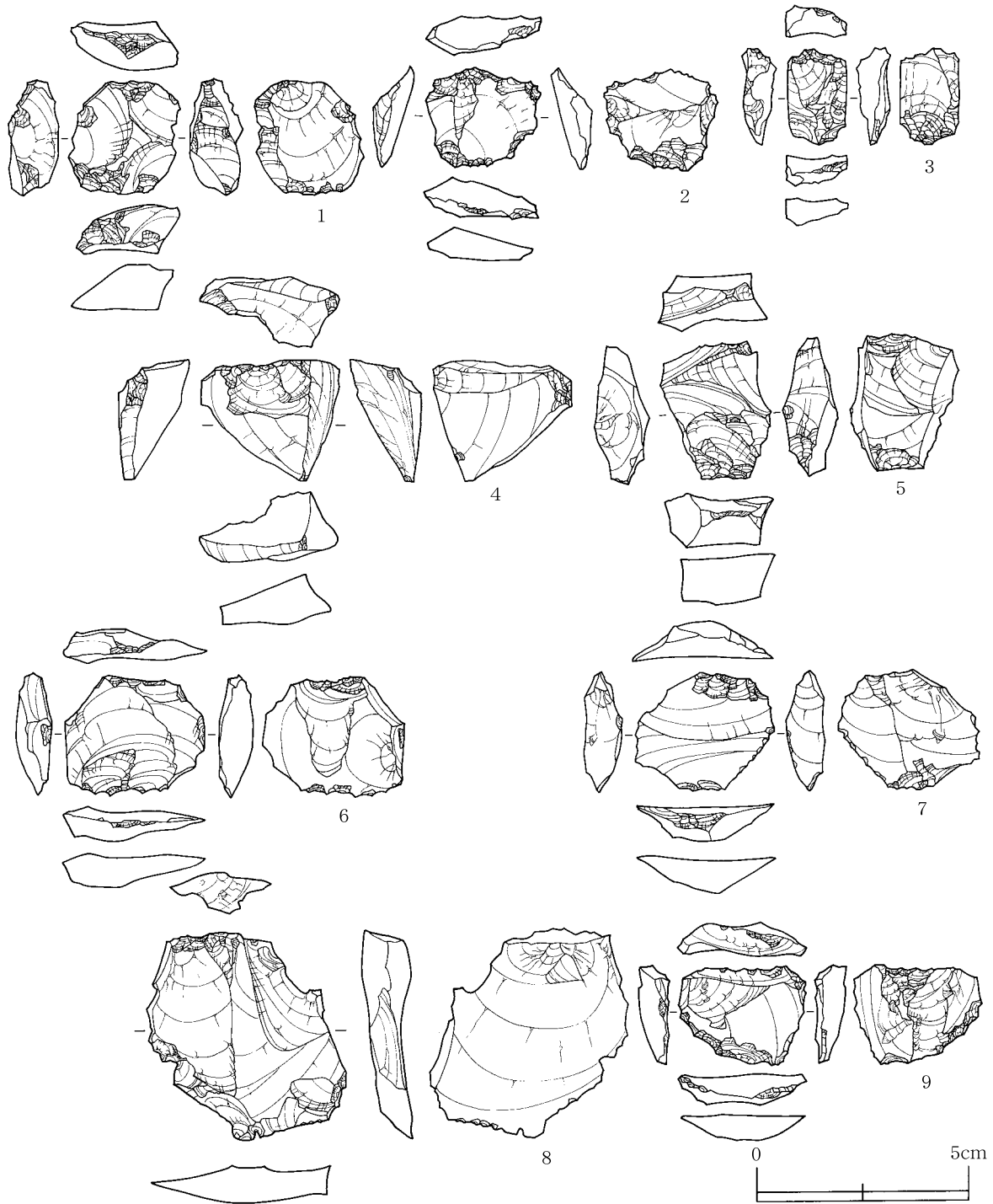
図版	番号	遺物	出土位置	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	分類	備考
235	1	69550	LR35		頁岩	64.0	64.5	14.0	72.0	A	
235	2	56044	MC36		頁岩	62.1	36.4	20.5	49.2	A	
235	3	24034	LT27		頁岩	28.2	25.2	6.1	4.4	A	
235	4	24027	MD22		頁岩	29.9	29.0	8.6	6.6	A	
235	5	9163	MB28		頁岩	43.3	69.5	14.5	40.1	A	

第235図 楔形石器(1)



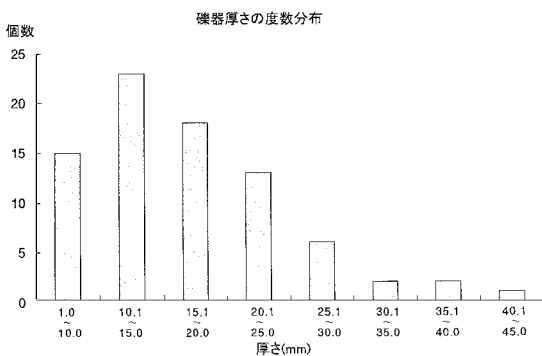
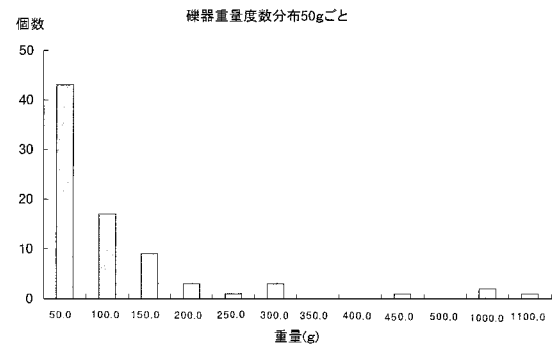
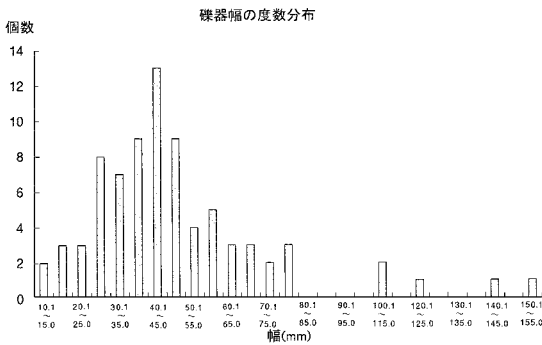
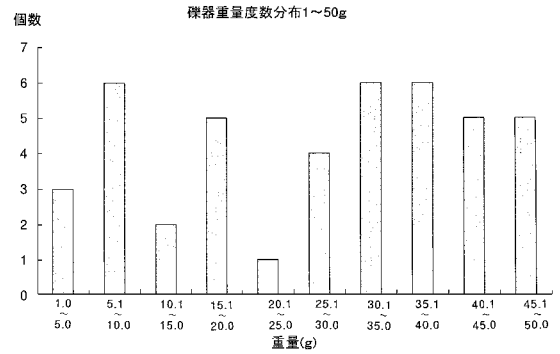
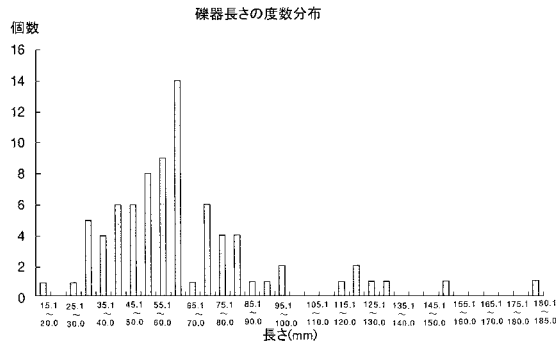
図版	番号	遺物	出土位置	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	分類	備考
236	1	24068	LN35		頁岩	35.8	35.5	11.1	14.0	A	
236	2	24021	LN32		頁岩	39.5	35.2	10.8	15.6	A	
236	3	49967	LO37		頁岩	44.6	34.5	11.8	18.2	B	
236	4	49977	MB27		頁岩	44.6	28.4	13.3	18.6	A	
236	5	49942	LQ33		頁岩	38.5	29.7	10.9	12.6	B	
236	6	16586	LR36		頁岩	52.9	41.1	10.8	23.3	B	

第236図 楔形石器(2)



図版	番号	遺物	出土位置	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	分類	備考
237	1	24030	LS34		頁岩	30.6	26.1	11.4	7.2	A	
237	2	24037	LR36		頁岩	24.1	26.2	7.7	4.8	B	
237	3	24023	MD27		頁岩	21.6	14.6	7.3	2.4	A	
237	4	24053	MB28		頁岩	30.5	30.5	12.2	10.6	A	
237	5	24038	MB37		頁岩	32.8	23.4	11.1	10.8	A	
237	6	24029	LT29		頁岩	34.3	28.6	7.3	7.4	A	
237	7	24028	LT34		頁岩	34.9	28.5	8.6	7.0	A	
237	8	49904	MA26		頁岩	41.9	39.9	12.6	22.2	B	
237	9	24039	LR38		頁岩	29.0	22.8	7.0	5.0	A	

第237図 楔形石器(3)



第70表 礫器サイズの特徴 (全80点)

	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)
平均	65.08375	51.572738	16.8975	97.2475
最大値	185	344.3	43	1003
最小値	19.8	14.3	6.1	3
範囲	165.2	330	36.9	1000
最頻値	61~65mm	41~45mm	11~15mm	31~40g
最頻値個数	14	13	23	12
最頻値%	17.5	16.25	28.75	15
分散	802.22594	1669.4655	60.992905	23820.207
標準偏差	28.323593	40.859094	7.8097955	154.33796
尖度	4.3304879	33.605543	0.8771326	17.90482
歪度	1.7816066	5.0281766	0.9916878	3.9220383

第238図 礫器サイズの特徴

れ以上の重量品である。重量品は最大820 g という物があり、伐採具として必要とされる「重さ」を確保している。

完形品とした物でも刃部の一箇所を欠く物が多い。第187図 1・2・4 や第190図はいずれも使用による衝撃剥離によって刃部を欠損した物である。

第194~195図は特異な石斧である。第194図は乳棒状の磨製石斧だが、敲打痕が全面に残り器体中央部には帯状に凹みが回る。出土状況の注記には、2号捨て場から斜めに立ち上がった状態で出土したことが記されており、スクリーン・トーンをかけた上半部は強く焼けて黒変している。

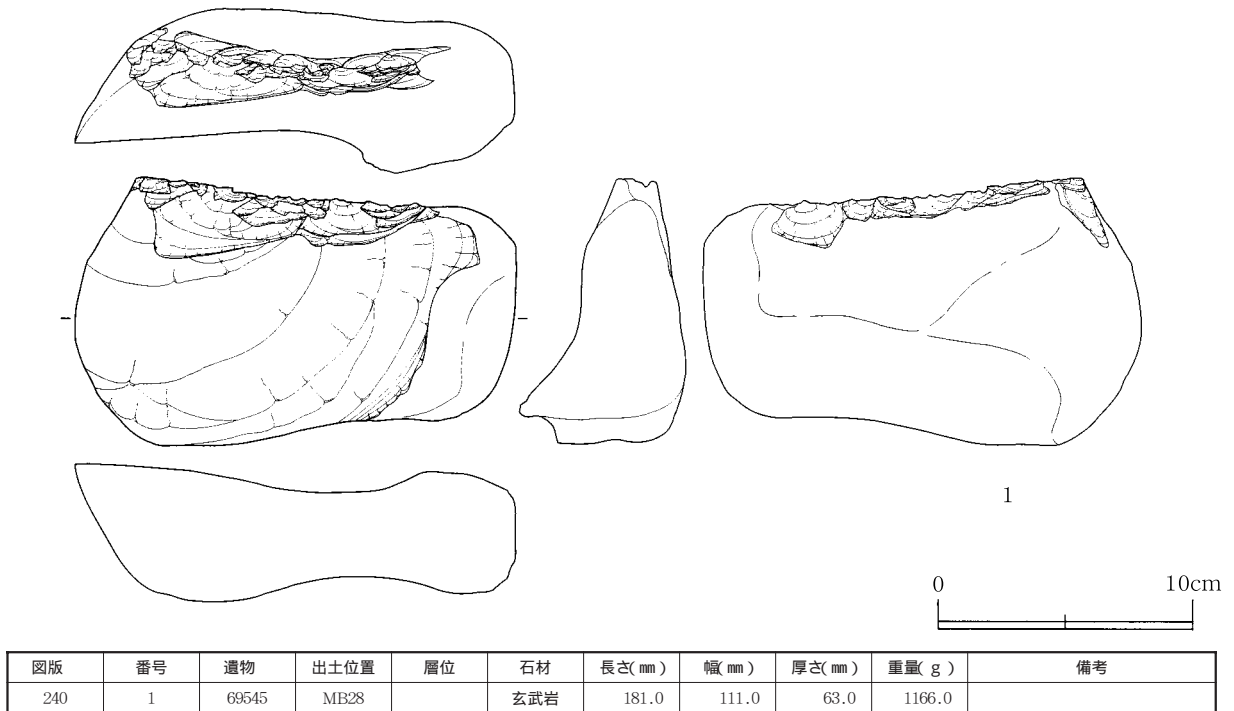
第195図 1 は、おそらく石棒の転用品である。石棒が折れた後、側面に敲打によって抉りを付け、着柄に適する様に加工し、末端を研磨して刃部をつけている。さらに凹石に転用されている。2 は、直方体の礫の一端を調整して刃部をつけている。刃部再生が頻繁に行われており、最終的には打製石斧となっている。第181図 2 の石鍬と形状が似ており、手持ちの土掘具に転用された可能性がある。

第196図には小形磨製石斧をまとめた。変質流紋岩製で、大形・中形磨製石斧とは素材が異なっている。4 は楔として使われており、上下両端に潰れが著しく残る。



図版	番号	遺物	出土位置	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	備考
239	1	69546	MB26		頁岩	130.4	58.6	42.0	295.7	
239	2	69547	MC28		頁岩	124.7	101.8	36.9	695.2	

第239図 礫器 (1)



第240図 礫器 (2)

(4) スクレイパー

スクレイパーは、全部で3,074点出土している。数が多い分、バリエーションも多い。様々な使用法や便宜的な製作技法、使用による再生と変形によって形状が多彩に変化している。

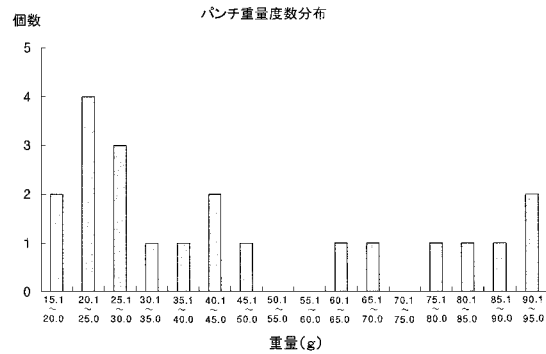
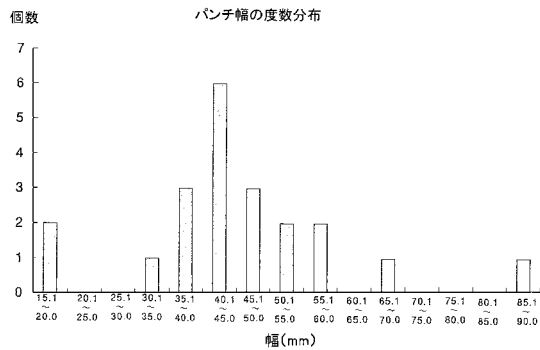
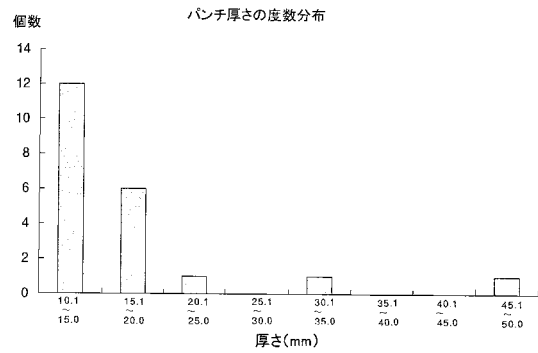
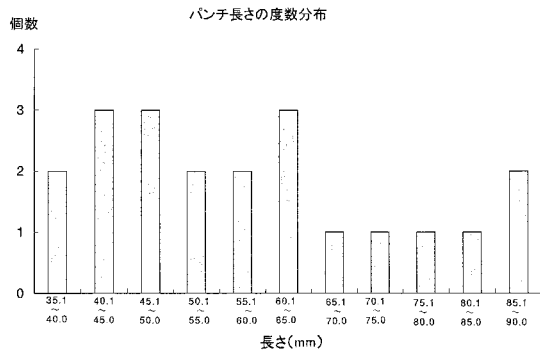
スクレイパーの長さは、最大140.2mm、最小13.0mm、平均47.3mmで、46.1～50.0mmのものが421点13.7%と最頻値を示す。幅は、最大114.6mm、最小6.4mm、平均35.3mmで、31.1～35.0mmのものが472点15.4%と最頻値を示す。厚さは、最大56.8mm、最小2.0mm、平均11.8mmで、11.1～15.0mmのものが1,234点40.1%と最頻値を示す。重量は、最大244g、最小0.4g、平均22.6gで、9.0gのものが133点と最頻値を示す。重量分布を1gごとにみると6.1～10.0gのものが571点18.6%と最も多い。スクレイパーの各サイズ分布は第198図・第62表に示した。

(5) コア・スクレイパー (C S C)

コア・スクレイパー (以下C S C) は、全部で515点出土している。スクレイパーに比べて分厚く、調整痕に残る剥離痕はより大形で粗く、幅1cm前後の貝殻状剥片をはぎ取っていることから、プロダクトとバイ・プロダクトの判別がにわかにはしがたい器種である。刃部に明確な摩滅が残る物があり、石核に比べてやや小形で、調整が周縁全部を回る傾向があることから、スクレイパーに分類した。

C S Cの長さは、最大125.5mm、最小17.4mm、平均53.8mmで、51.1～55.0mmのものが79点15.3%と最頻値を示す。幅は、最大101.8mm、最小11.8mm、平均42.2mmで、36.1～45.0mmのものが154点29.9%と最頻値を示す。厚さは、最大43mm、最小5mm、平均18.6mmで、16～20mmのものが175点34.0%と最頻値を示す。重量は、最大410g、最小2.6g、平均49.3gで、21gのものが13点と最頻値を示す。重量分布を1gごとにみると21.1～25.0gのものが48点9.3%と最も多い。C S Cの各サイズ分布は第206図・第63表に示した。

第2章 捨て場と遺物



第71表 パンチサイズの特徴 (全21点)

	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)
平均	59.352381	45.357143	17.1	69.033333
最大値	89.9	85.2	48.9	460.2
最小値	39.4	16.5	11.3	16.2
範囲	50.5	68.7	37.6	444
最頻値	41~50mm	41~45mm	11~15mm	21~25g
最頻値個数	6	6	12	4
最頻値%	28.571429	28.571429	57.142857	19.047619
分散	238.55562	214.51757	77.777	9728.1996
標準偏差	15.445246	14.646418	8.8191269	98.631636
尖度	-0.643583	2.4049258	8.6673101	13.450805
歪度	0.6080005	0.6051947	2.8396055	3.5209013

第241図 パンチサイズの特徴

(6) 鋸歯縁石器

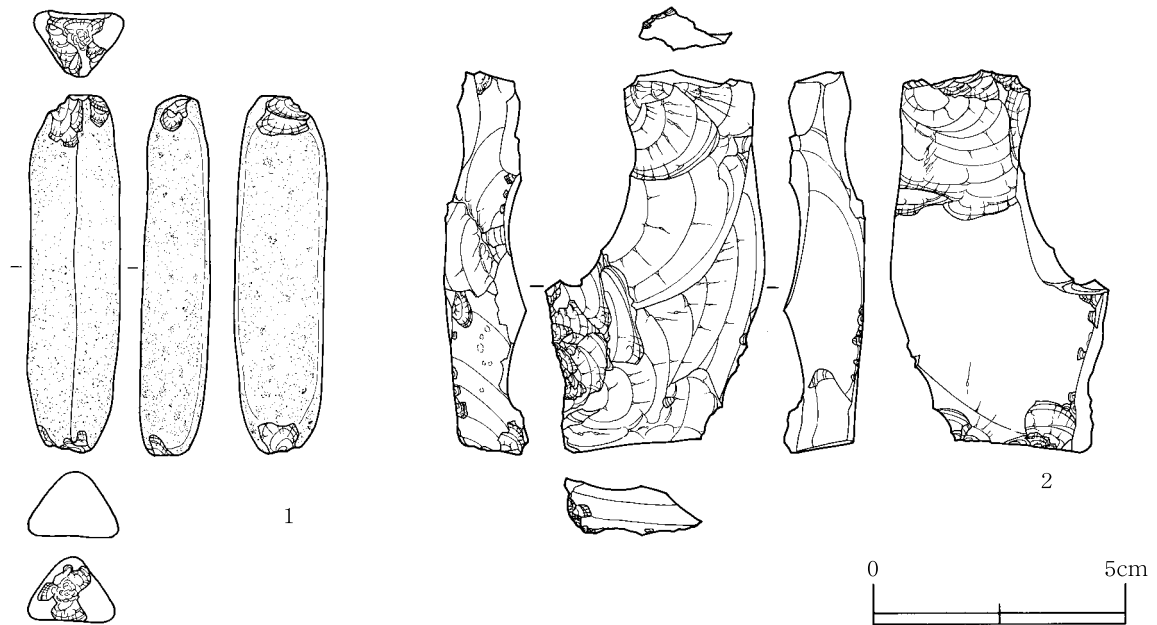
鋸歯縁石器は、全部で83点出土している。

鋸歯縁石器の長さは、最大177.0mm、最小19.5mm、平均52.6mmで、41.1~45.0mmのものが14点16.9%と最頻値を示す。幅は、最大68.5mm、最小16.0mm、平均40.1mmで、31.1~35.0mmのものが16点19.3%と最頻値を示す。厚さは、最大31.5mm、最小4.3mm、平均13.2mmで、11.1~15.0mmのものが31点37.3%と最頻値を示す。重量は、最大201.8g、最小1.0g、平均29.1gで、11.1~15.0gのものが17点と最も多い。鋸歯縁石器の各サイズ分布は第208図・第64表に示した。

(7) 挟入石器

挟入石器は、全部で187点出土している。

挟入石器の長さは、最大104.4mm、最小22.5mm、平均49.0mmで、41.1~45.0mmのものが45点24.1%と最頻値を示す。幅は、最大109.8mm、最小12.7mm、平均38.6mmで、31.1~35.0mmのものが35点18.7%と最頻値を示す。厚さは、最大30.5mm、最小3.6mm、平均11.9mmで、11.1~15.0mmのものが69点36.9%と最頻値を示す。重量は、最大203.3g、最小1.8g、平均22.7gで、12.0gのものが17点と最も多い。



図版	番号	遺物	出土位置	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	備考
242	1	56064	LP36		輝緑岩	71.3	19.0	14.1	28.0	
242	2	49901	MB38		頁岩	78.4	43.6	15.6	40.5	

第242図 パンチ (1)

抉入石器の各サイズ分布は第209図・第65表に示した。

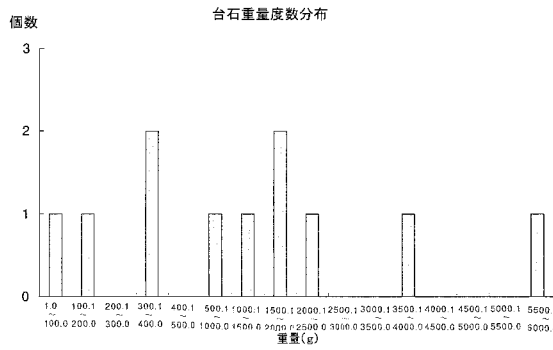
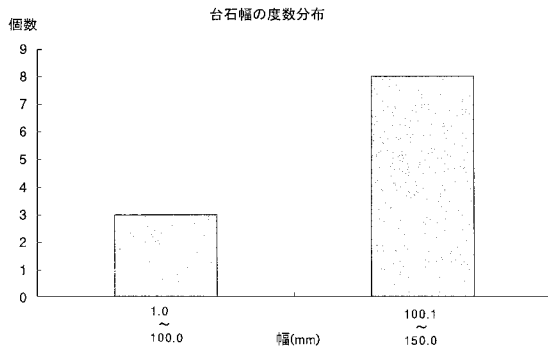
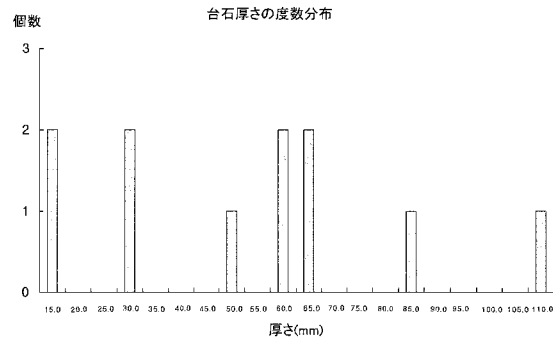
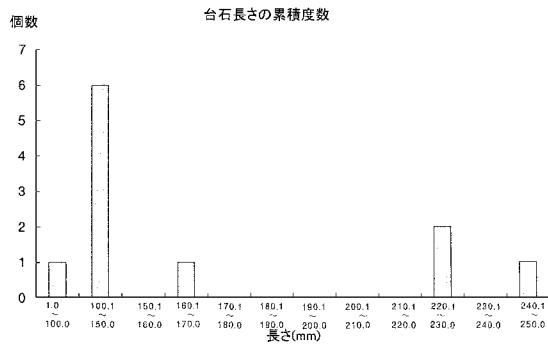
上記4器種は、刃部加工の特徴が共通し、エッジの粗さと凹凸の連続性・形態的特徴によって分離している。長さ・幅の最終サイズが廃棄された時点と考えれば、変形過程のどの時点で再生をあきらめるのが判明する。厚さの項目ではC S Cのみが16.1~20.0mmを最頻値とすることから、他の器種に比べて5mm厚い剥片を素材としていることがわかる。この点は、コアとしての利用とスクレイパーとしての利用を交互に繰り返しつつリダクションしていくこの器種に特徴的な素材剥片の選択指向性に合致した基準である。

これら4器種の素材となった目的剥片は、素材剥片の出現量カーブから類推すると、厚さを基準として素材剥片の最頻値よりも大きくなる。C S Cでは2階梯、それ以外の3器種では1階梯大きい(1階梯は5mm)。厚さが1階梯大きくなると、長さ・幅は何階梯大きくなるのだろうか。剥片計測点それぞれは独立係数ではないから、相関関係を持って大きくなるはずである。その関係は1次関数で示すことが出来るだろう。すなわち $Y = aX - b$ で示される。これをリダクション指向係数と仮称しておくと、近隣の碎淵・日廻岱Aの2遺跡と比較することができ、時期差・機能差によって様々に変化することが予想される。このような数値化の試みは始まったばかりであるので、今後数値データを増やすことでより詳細に考察が可能となるだろう。

(8) 石匙

石匙は、全部で536点出土している。第211図に分類を示した。縦長の素材剥片長軸に従う縦形と、幅広横長剥片を使う横形、刃部が長軸に対して斜めとなる物の3種類に大きく分けることが出来る。

第2章 捨て場と遺物



第72表 台石サイズの特徴 (全11点)

	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)
平均	158.32727	104.84545	51.2	1720.1909
最大値	247	147	108	6000
最小値	46.3	45.8	14.4	44
範囲	200.7	101.2	93.6	5956
最頻値	101~150mm	101~150mm	55~65mm	1500~2000g
最頻値個数	6	8	4	2
最頻値%	54.545455	72.727273	36.363636	18.181818
分散	3381.0462	1252.5767	816.228	3301152.6
標準偏差	58.146764	35.391761	28.569704	1816.9074
尖度	0.17473	-0.79217	0.0388341	2.1087829
歪度	-0.129321	-0.697551	0.4786012	1.4674096

第243図 台石サイズの特徴

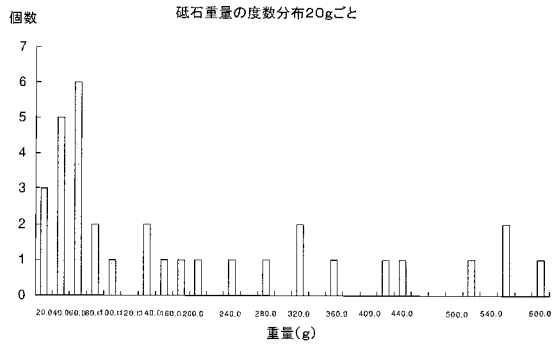
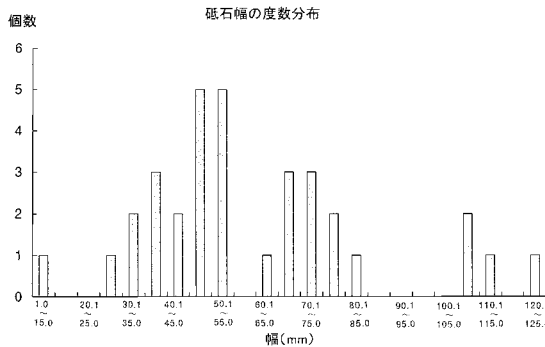
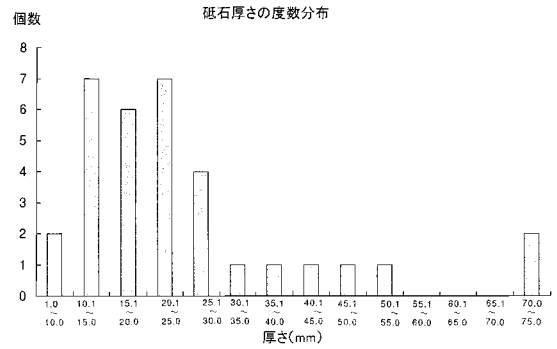
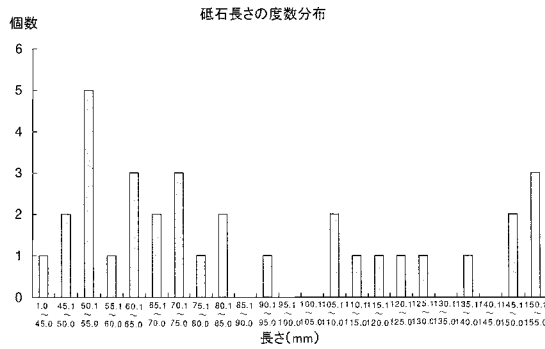
縦形石匙がより薄い作りとなる。

石匙の長さは、最大133.6mm、最小13.6mm、平均51.6mmで、51.1~55.0mmのものが83点15.5%と最頻値を示す。幅は、最大99.4mm、最小10.7mm、平均43.6mmで、26.1~30.0mmのものが59点11.0%と最頻値を示す。厚さは、最大21.0mm、最小2.7mm、平均9.5mmで、5.1~10.0mmのものが277点51.7%と最頻値を示す。重量は、最大68.2g、最小1.6g、平均18.7gで、5.1~10.0gのものが98点18.3%と最頻値を示す。石匙の各サイズ分布は第211図・第66表に示した。

(9) 石筥

石筥は、全部で128点出土している。第220図に分類を示した。

石筥の長さは、最大150.2mm、最小19.3mm、平均49.8mmで、46.1~50.0mmのものが21点16.4%と最頻値を示す。幅は、最大72.1mm、最小15.5mm、平均28.2mmで、26.1~30.0mmのものが36点28.1%と最頻値を示す。厚さは、最大31.8mm、最小5.0mm、平均12.0mmで、11.1~15.0mmのものが57点44.5%と最頻値を示す。重量は、最大184.0g、最小1.8g、平均19.8gで、11.1~15.0gのものが28点21.9%と最頻値を示す。石筥の各サイズ分布は第221図・第67表に示した。



第73表 砥石サイズの特徴（全33点）

	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)
平均	89.072727	59.681818	25.181818	182.61212
最大値	155	120.9	74.3	581
最小値	43.6	13.5	5.3	14.7
範囲	111.4	107.4	69	566.3
最頻値	51~55mm	46~55mm	21~25mm	41~60g
最頻値個数	5	10	7	6
最頻値%	15.151515	30.30303	21.212121	18.181818
分散	1352.7345	642.06216	277.79841	34024.893
標準偏差	36.77954	25.338946	16.667286	184.45838
尖度	-1.03783	0.399418	3.1411109	-0.356094
歪度	0.6377014	0.8294158	1.8196941	1.0001381

第244図 砥石サイズの特徴

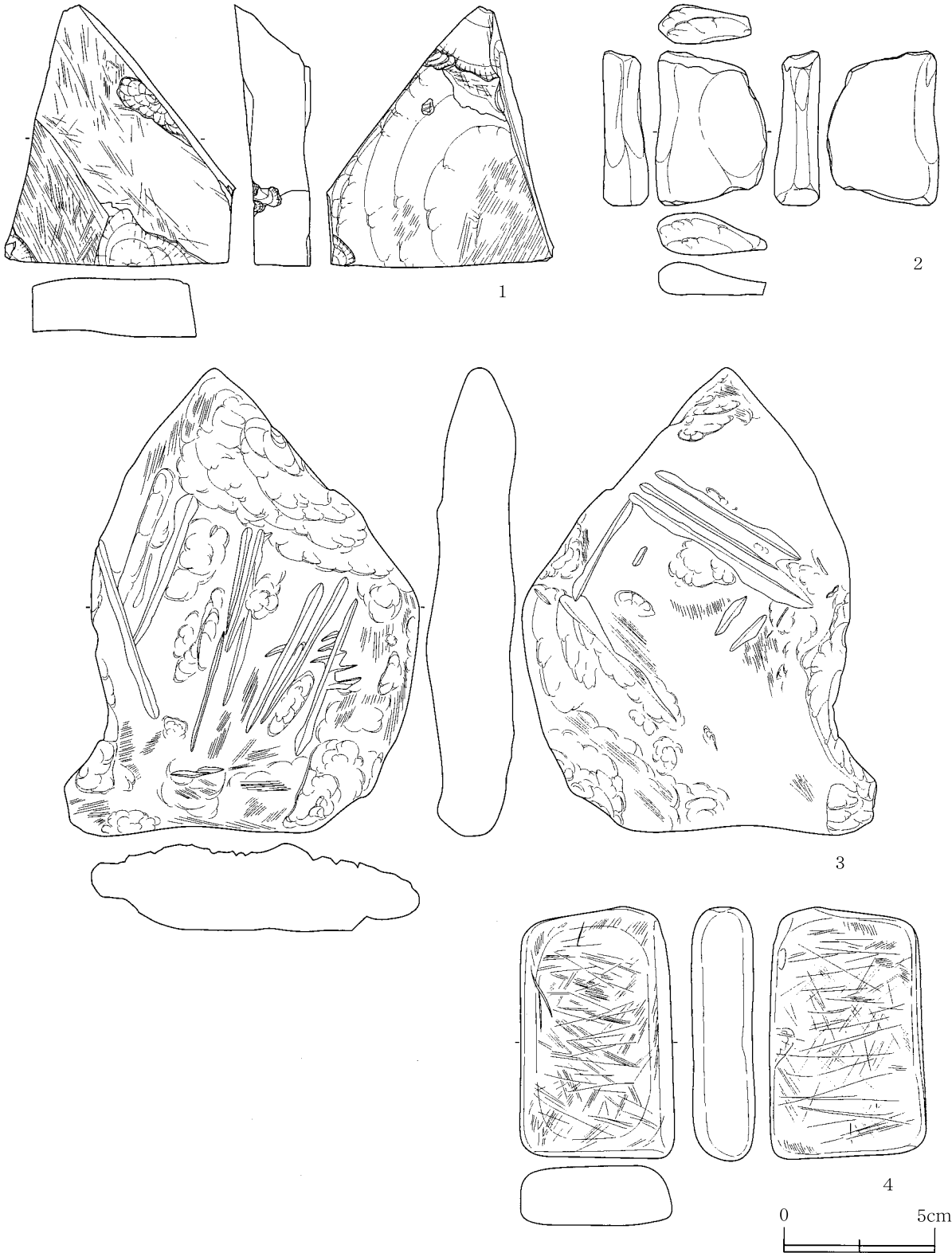
第222図1は、大形薄刃でつまみを明瞭に作り出している。石匙よりも大形で、両側縁を抉る様に背腹両面から作り出されるつまみ部分の調整が粗いことから石篋に分類した。先端に素材剥片縁辺を残し鋭い刃部を意識した作りになっている。

2は、石篋の製作途中で作業を中止したものである。「く」の字形に曲がる器体の下半分が薄く、まさに作り出されようとしている篋であり、徐々に厚く粗くなる上半分は保持のために残されていたと考えている。製作工程がよくわかる興味深い資料である。

第223図3は刃部がひどく潰れている。楔かパンチの様に使われた可能性がある。また、4は尖頭器の転用品と考えられる。本来尖頭部だった上端が折れた後、再調整を施した物である。全面に「手擦れ」のような摩滅が著しい。

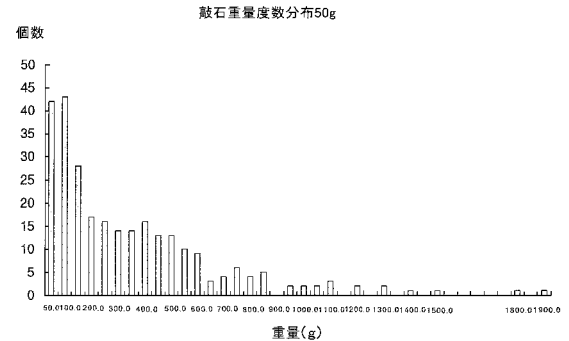
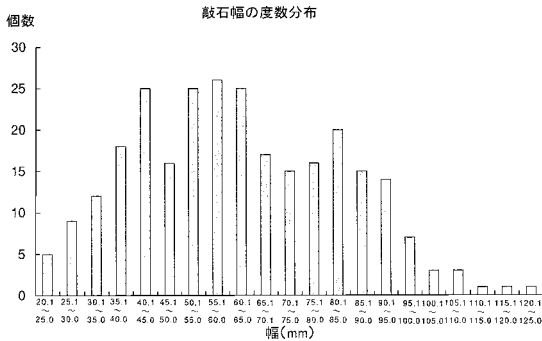
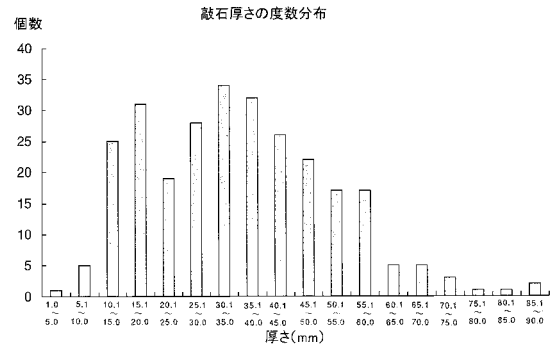
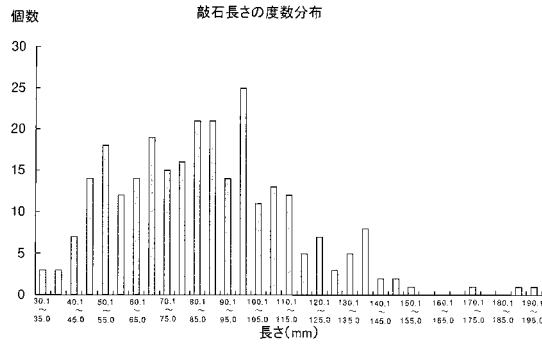
(10) 石錐

石錐は、全部で957点出土している。第224図に分類を示した。つまみを明確に作り出す物と、不明確な物、そして棒状を呈する物がある。このうち、細身で棒状を呈する物は、棒状石鏃ID類との判別がつかない。先端がより鋭利で対称性が強い物を石鏃、それ以外を錐とした。



図版	番号	遺物	出土位置	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	備考
245	1	56045	LP36		玄武岩	90.1	72.5	22.7	174.8	
245	2	56056	ME38		砂岩	51.3	38.3	14.9	29.1	
245	3	56032	MC25		凝灰岩	154.0	112.7	26.3	360.0	
245	4	56041	LQ32		玄武岩	84.0	52.4	21.5	199.0	

第245図 砥石 (1)



第74表 敲石サイズの特徴 (全274点)

	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)
平均	85.312409	62.143796	35.114234	321.15967
最大値	190.7	123.4	89.5	1900
最小値	31.7	22.7	5	5.1
範囲	159	100.7	84.5	1894.9
最頻値	96~100mm	55~60mm	31~35mm	51~100g
最頻値個数	25	26	34	43
最頻値%	9.1240876	9.4890511	12.408759	15.693431
分散	796.62351	448.13082	266.95925	101865
標準偏差	28.22452	21.169101	16.338888	319.16297
尖度	0.5890388	-0.60861	0.0125078	4.353419
歪度	0.6116562	0.2569056	0.514207	1.8265221

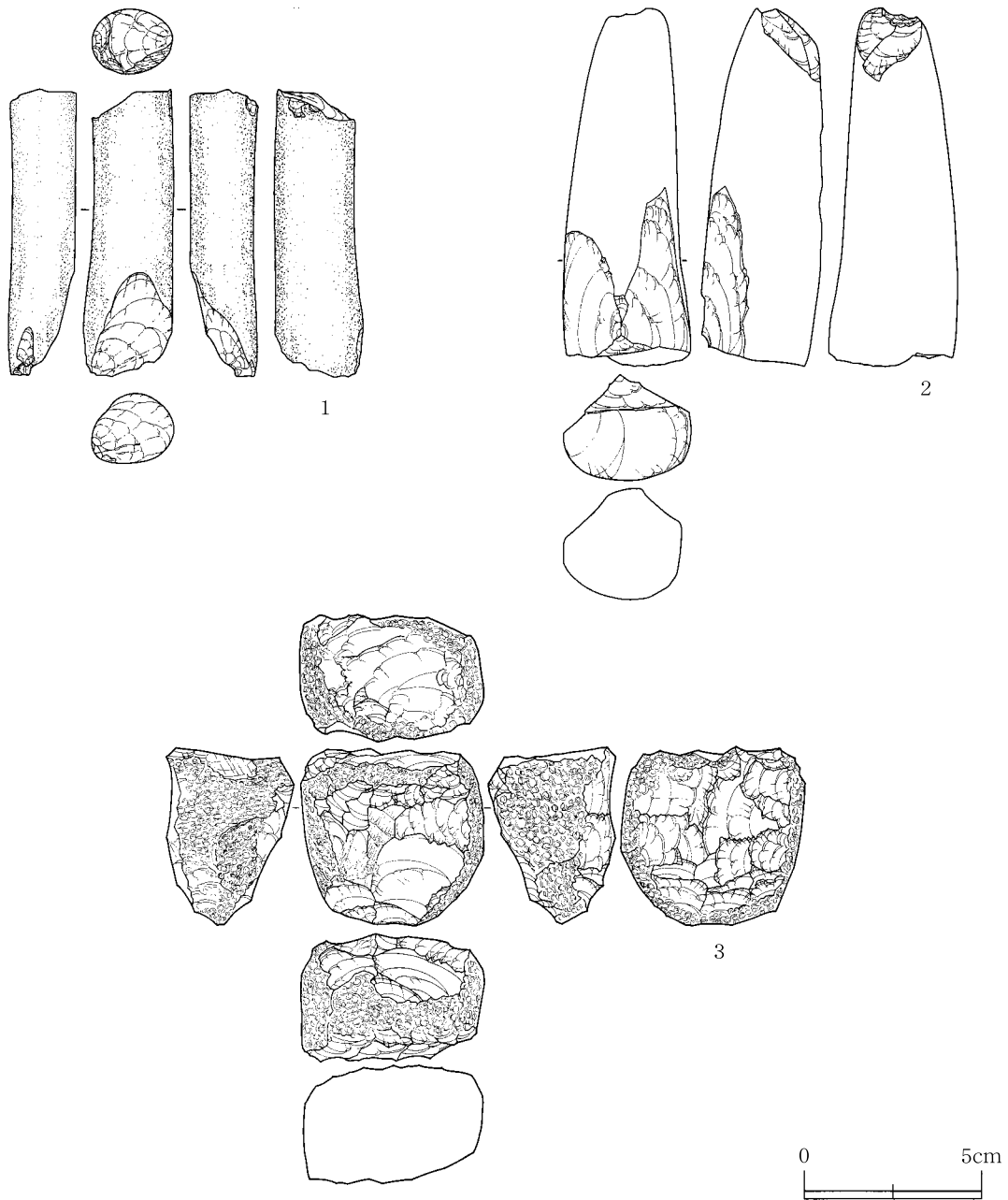
第246図 敲石サイズの特徴

石錐の長さは、最大100.8mm、最小14.9mm、平均40.6mmで、31.1~35.0mmのものが167点17.5%と最頻値を示す。幅は、最大58.6mm、最小4.9mm、平均21.9mmで、16.1~20.0mmのものが216点22.6%と最頻値を示す。厚さは、最大26.7mm、最小2.6mm、平均9.1mmで、5.1~10.0mmのものが563点58.9%と最頻値を示す。重量は、最大81.6g、最小0.4g、平均7.5gで、3.0gのものが129点13.5%と最頻値を示す。石錐の各サイズ分布は第225図・第68表に示した。

(11) 楔形石器

楔形石器は、全部で533点出土している。第234図に分類を示した。両極剥離の位置で大きく2分類したが、使用の進行によって当然剥離痕は増えるのであり、形態分類が使用進度・変形の進行状態を示している。

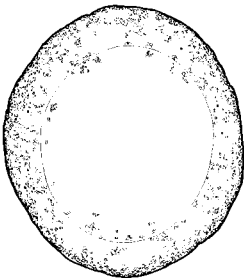

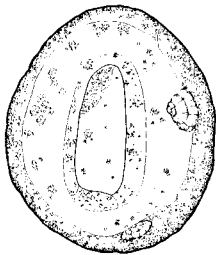

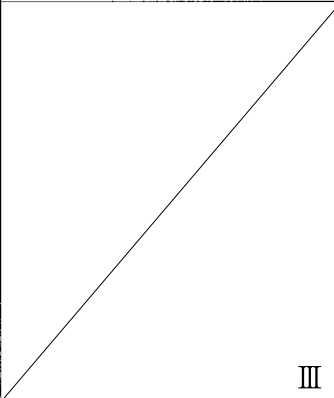
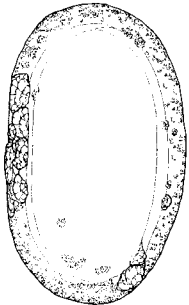

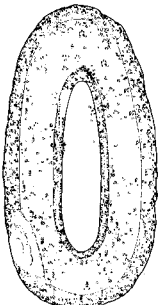

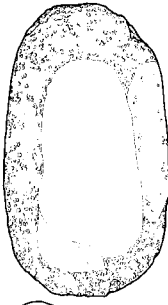

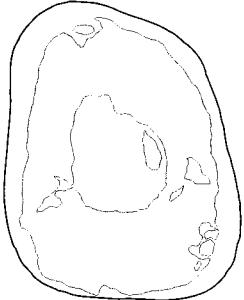

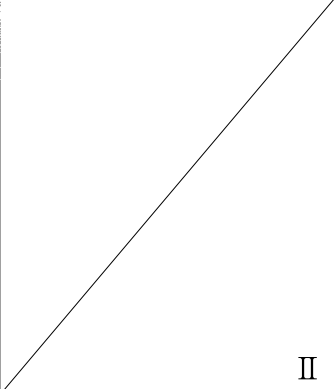
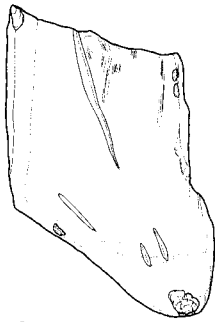
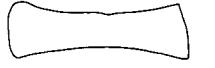
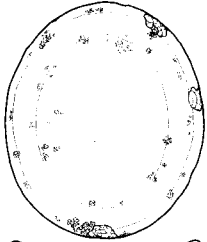

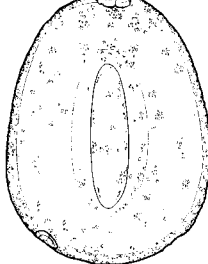

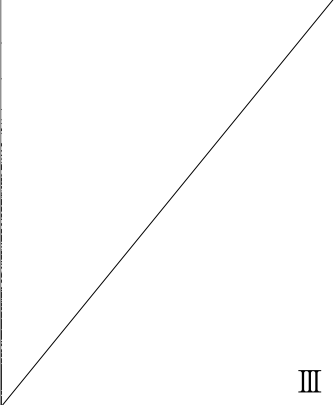
楔形石器の長さは、最大79.1mm、最小14.9mm、平均33.4mmで、25.1~30.0mmのものが112点21.0%と最頻値を示す。幅は、最大70.1mm、最小6.7mm、平均26.4mmで、20.1~25.0mmのものが115点21.6%と最頻値を示す。厚さは、最大28.5mm、最小3.4mm、平均10.3mmで、5.1~10.0mmのものが251点47.1%と最頻値を示す。重量は、最大71.7g、最小0.5g、平均11.4gで、4.0gのものが187点35.1%と最頻値を示す。楔形石器の各サイズ分布は第234図・第69表に示した。



図版	番号	遺物	出土位置	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	備考
247	1	9567	MC36		流紋岩	79.0	23.8	18.3	52.1	
247	2	2580	ME37		凝灰岩質安山岩	99.6	36.0	35.6	121.7	
247	3	2773	LT26		頁岩	50.1	50.2	34.2	125.2	

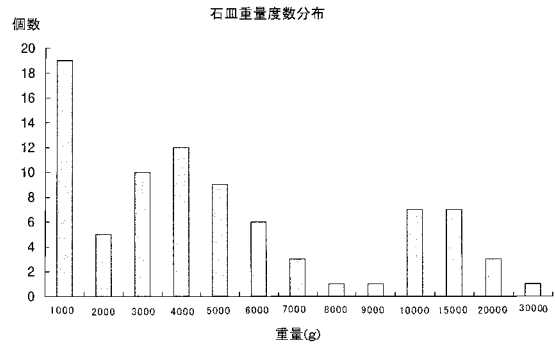
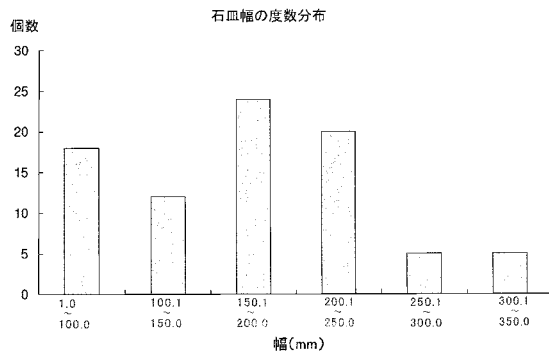
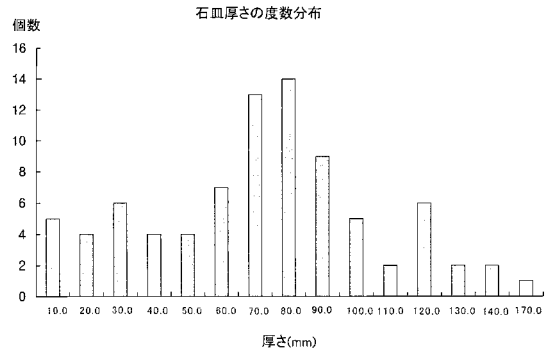
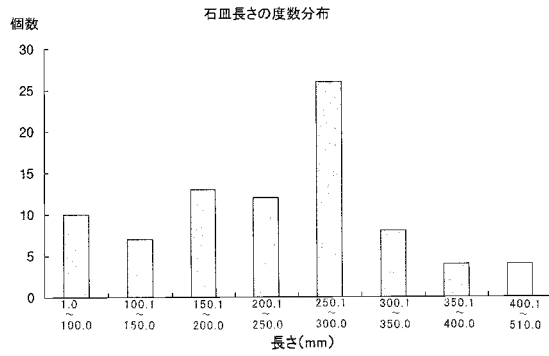
第247図 敲石 (1)

石皿の分類

	断面が凹状のもの	断面が凸状のもの	表裏に凹みのあるもの
平面が 円形に 近いもの A	  I	  II	 III
平面が 楕円形 のもの B	  I	  II	  III
平面が 不定形 のもの C	  I	 II	  III
台脚が つくもの D	  I	  II	 III

第248図 石皿の分類

第2章 捨て場と遺物



第75表 石皿サイズの特徴(全85点)

	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)
平均	226.79647	169.05412	66.7	4908.9812
最大値	502	333	163	20900
最小値	29.3	14	3.3	2
範囲	472.7	319	159.7	20898
最頻値	271~290mm	231~240mm	71~75mm	3001~3500g
最頻値個数	14	8	9	7
最頻値%	16.470588	9.4117647	10.588235	8.2352941
分散	10209.901	6235.5133	1203.5856	23193187
標準偏差	101.04406	78.965267	34.692732	4815.9305
尖度	-0.045446	-0.571606	-0.176893	1.9841696
歪度	-0.000754	-0.050392	0.1135727	1.4280819

第249図 石皿サイズの特徴

(12) 礫器

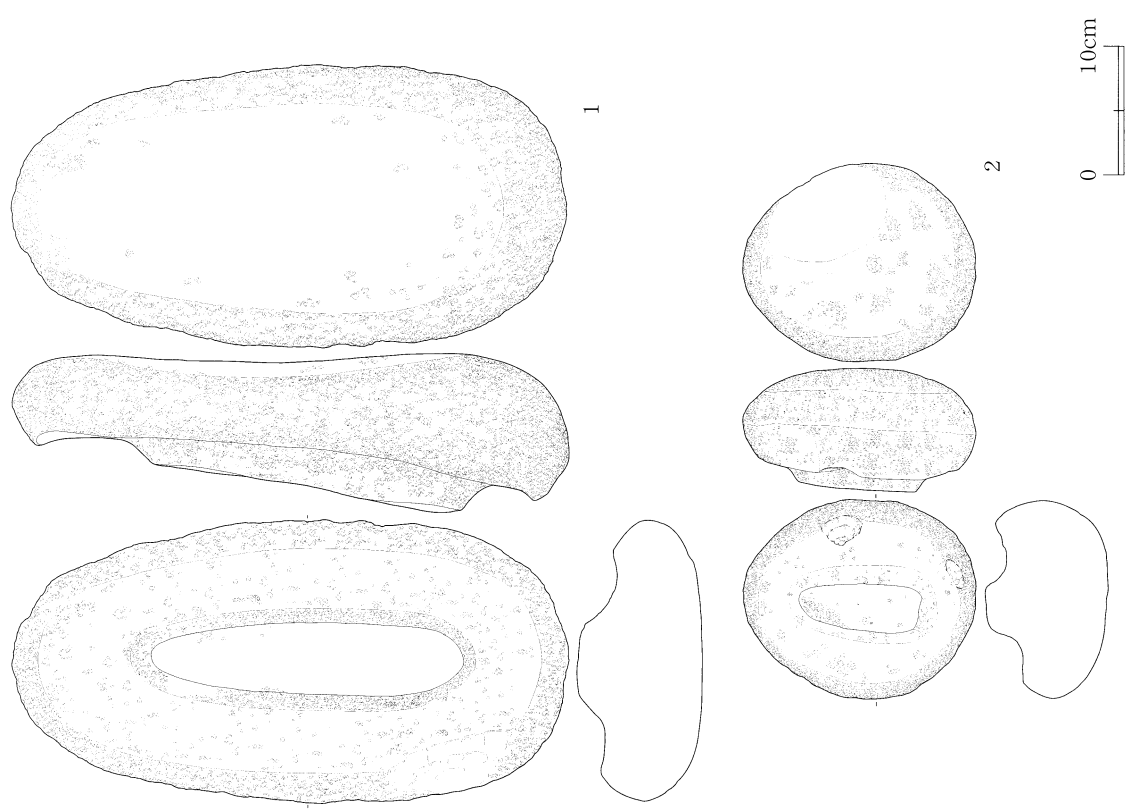
礫器は、全部で80点出土している。扁平で四角い河原石の1辺をチョッパー状に粗く調整して長い直刃を作っている。アッズに分類される石器に似て、前面にある作業対象に正対して、石器を両手で持ち、振り上げてはたたきつける様な動作を想定できる。

礫器の長さは、最大185.0mm、最小19.8mm、平均65.1mmで、61.1~65.0mmのものが14点17.5%と最頻値を示す。幅は、最大344.3mm、最小14.3mm、平均51.6mmで、40.1~45.0mmのものが13点16.3%と最頻値を示す。厚さは、最大43.0mm、最小6.1mm、平均16.9mmで、10.1~15.0mmのものが23点28.8%と最頻値を示す。重量は、最大1,003.0g、最小3.0g、平均97.2gで、5.1~10.0gのものと30.1~40.0gのものがそれぞれ6点ずつ7.5%と最も多い。礫器の各サイズ分布は第238図・第70表に示した。

(13) パンチ

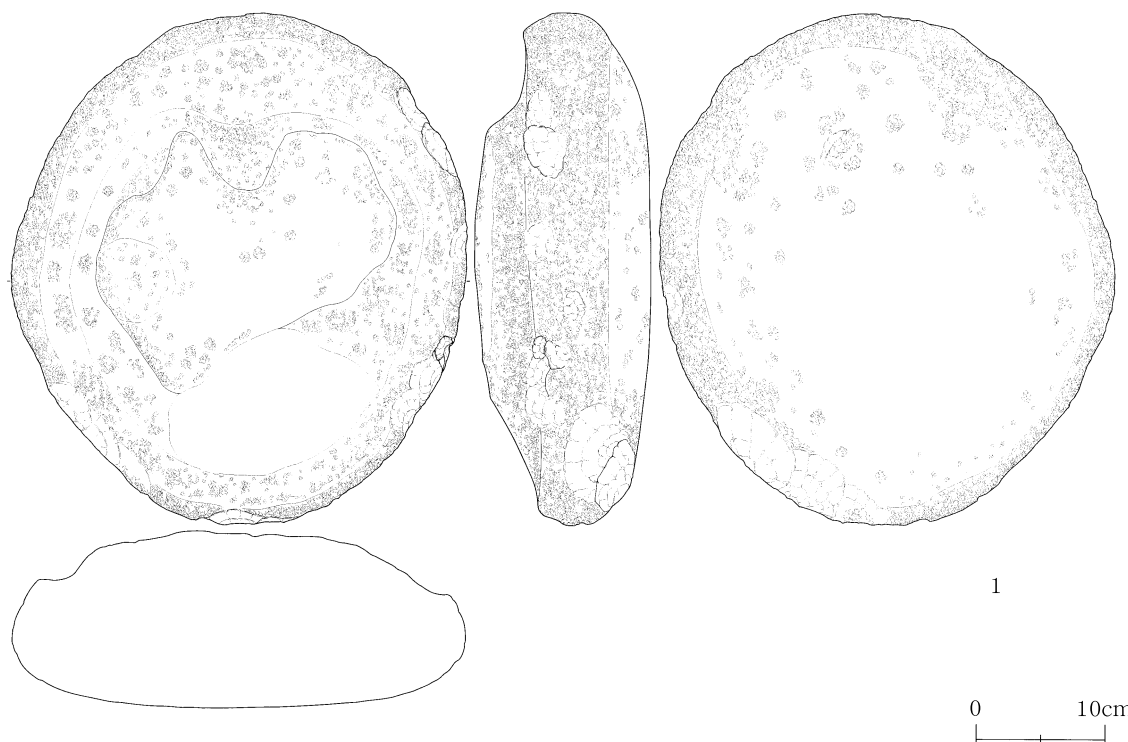
パンチは、全部で21点出土している。

パンチの長さは最大89.9mm、最小39.4mm、平均59.4mmで、41.1~50.0mmのものが6点28.6%と最頻値を示す。幅は、最大85.2mm、最小16.5mm、平均45.4mmで、41.1~50.0mmのものが6点28.6%と最頻



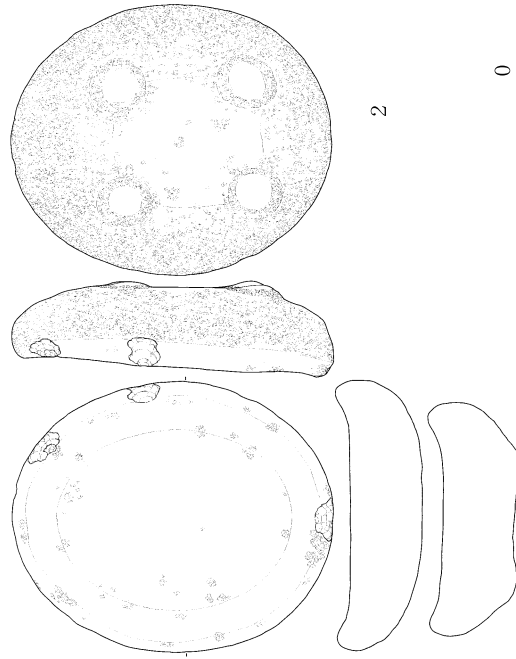
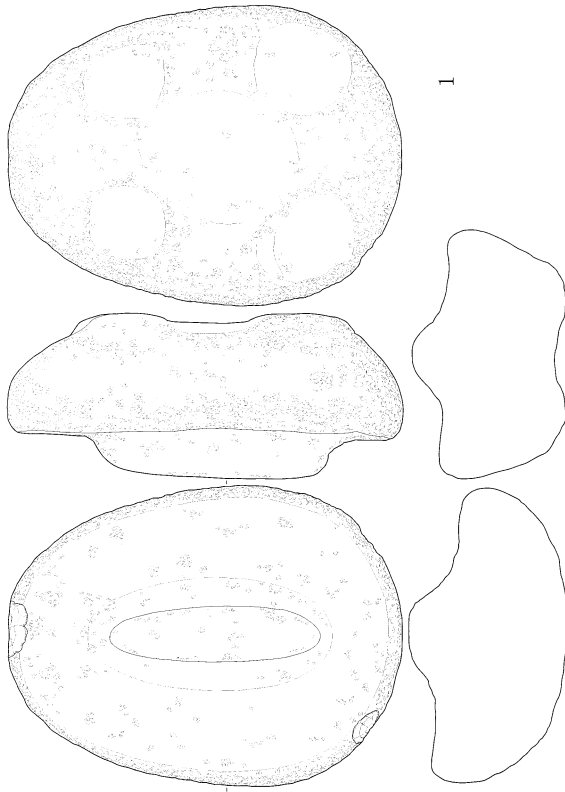
図版	番号	遺物	出土位置/層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	平面	断面	備考
251	1	71402	M135	凝灰岩質砂岩	435.0	220.0	125.0	10900	B		完形
251	2	71323	M135	輝石安山岩	183.0	154.0	100.0	3200	A		完形

第251図 石皿 (2)



図版	番号	遺物	出土位置/層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	平面	断面	備考
250	1	72001	MH34	凝灰岩質安山岩	405.0	355.0	122.0	23500	A		完形

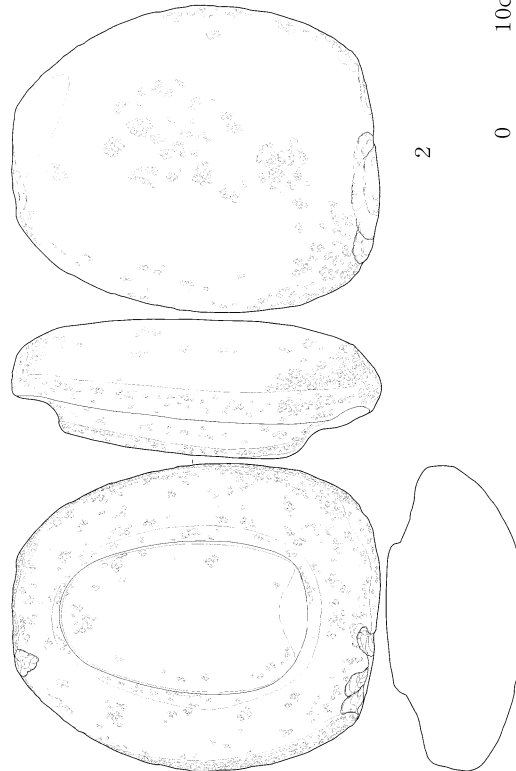
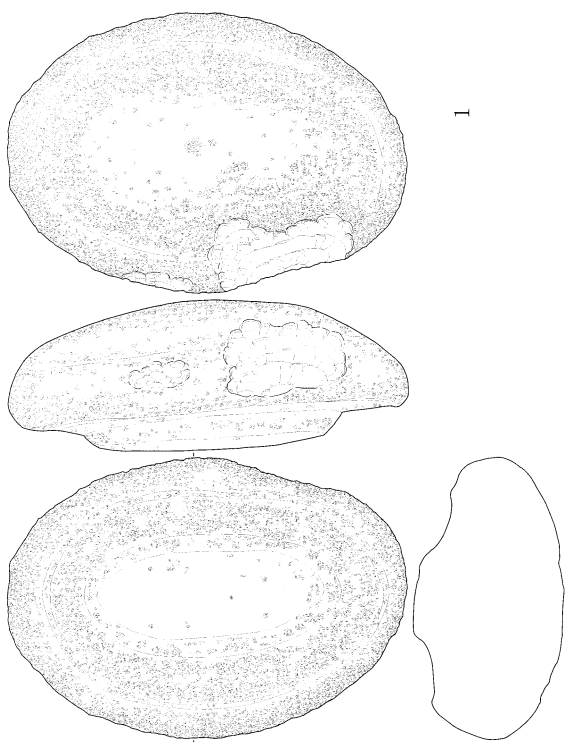
第250図 石皿 (1)



0 10cm

図版	番号	遺物	出土位置	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	平面	断面	備考
253	1	7721	LS33		安山岩	308.0	234.0	128.0	11200	D		完形
253	2	71339	MI34		輝石安山岩	248.0	211.0	70.0	4599	D		完形

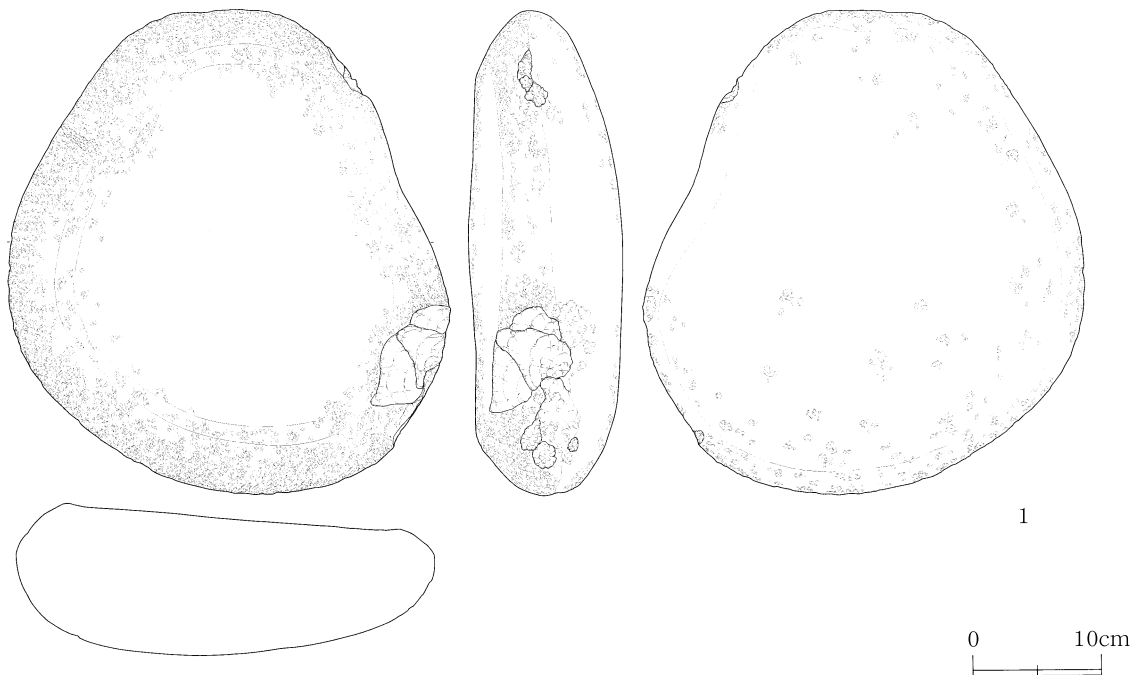
第253図 石皿 (4)



0 10cm

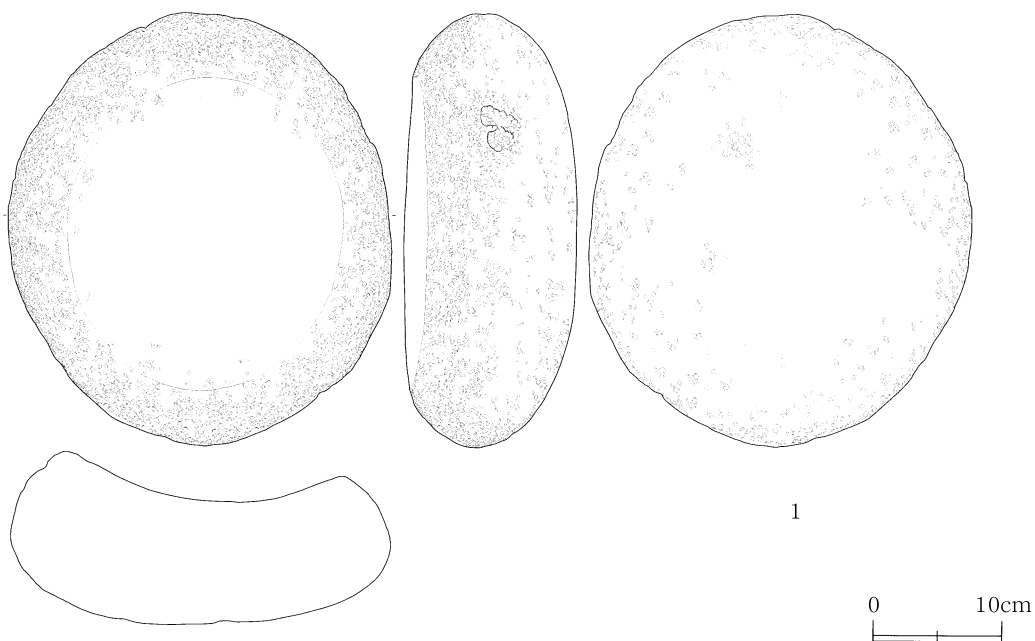
図版	番号	遺物	出土位置	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	平面	断面	備考
252	1	71401	不明		凝灰岩質砂岩	308.0	221.0	115.0	9600	B		完形
252	2	7720	MI28		輝石安山岩	285.0	249.0	108.0	9400	B		完形

第252図 石皿 (3)



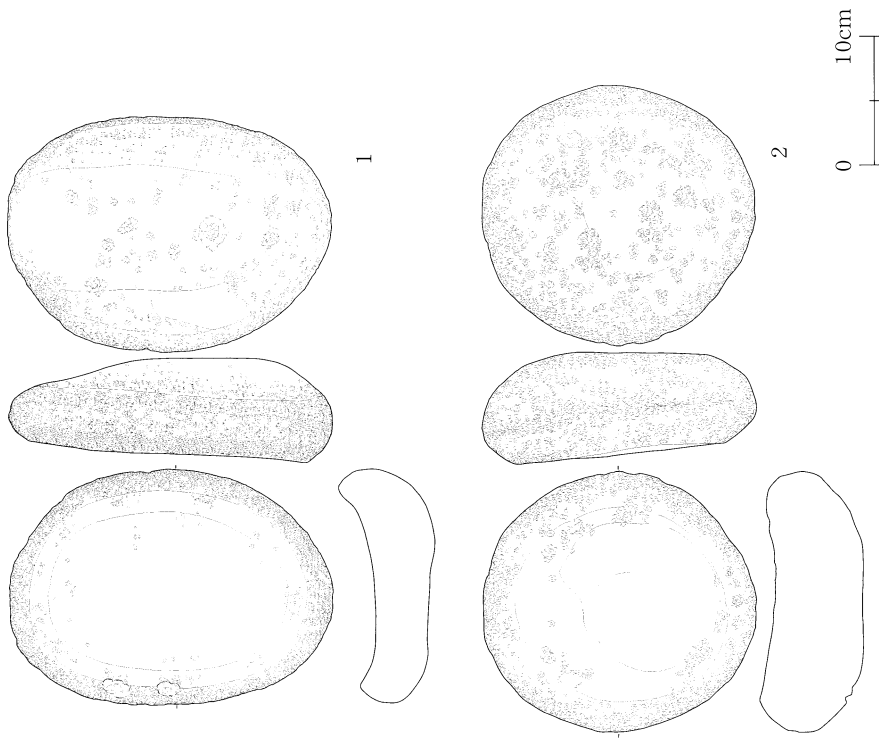
第255図 石皿 (6)

図版	番号	遺物	出土位置	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	平面	断面	備考
255	1	7728	MB29		凝灰岩質砂岩	395.0	326.0	118.0	19600	C		完形



第254図 石皿 (5)

図版	番号	遺物	出土位置	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	平面	断面	備考
254	1	7710	MC25		輝石安山岩	335.0	330.0	138.0	16400	A		完形



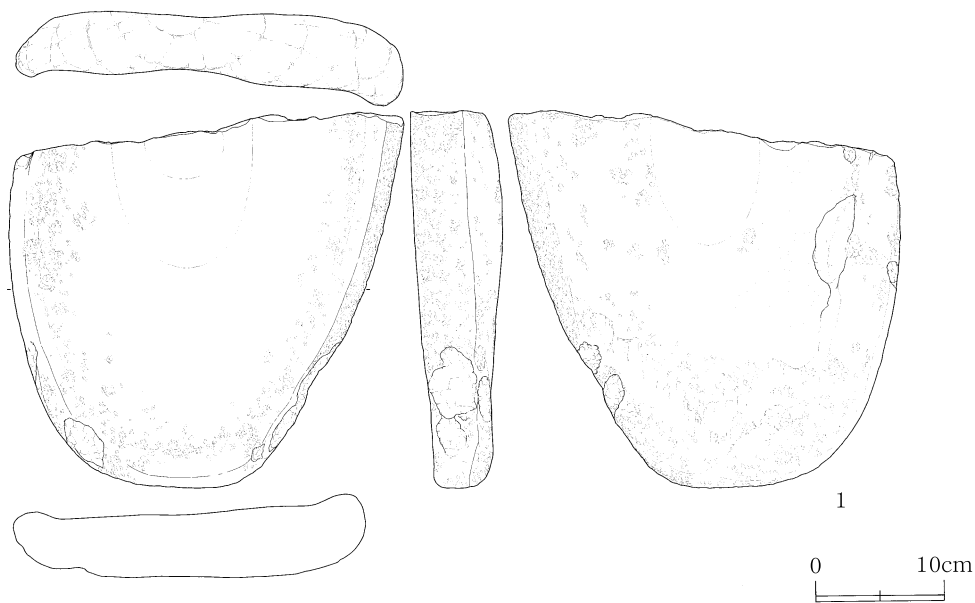
図版	番号	遺物	出土位置	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	平面	断面	備考
257	1	7712	MB27		輝石安山岩	251.0	185.0	73.8	4000	B		完形
257	2	71328	MH34		輝石安山岩	205.0	199.0	85.0	4300	A		完形

第257図 石皿 (8)



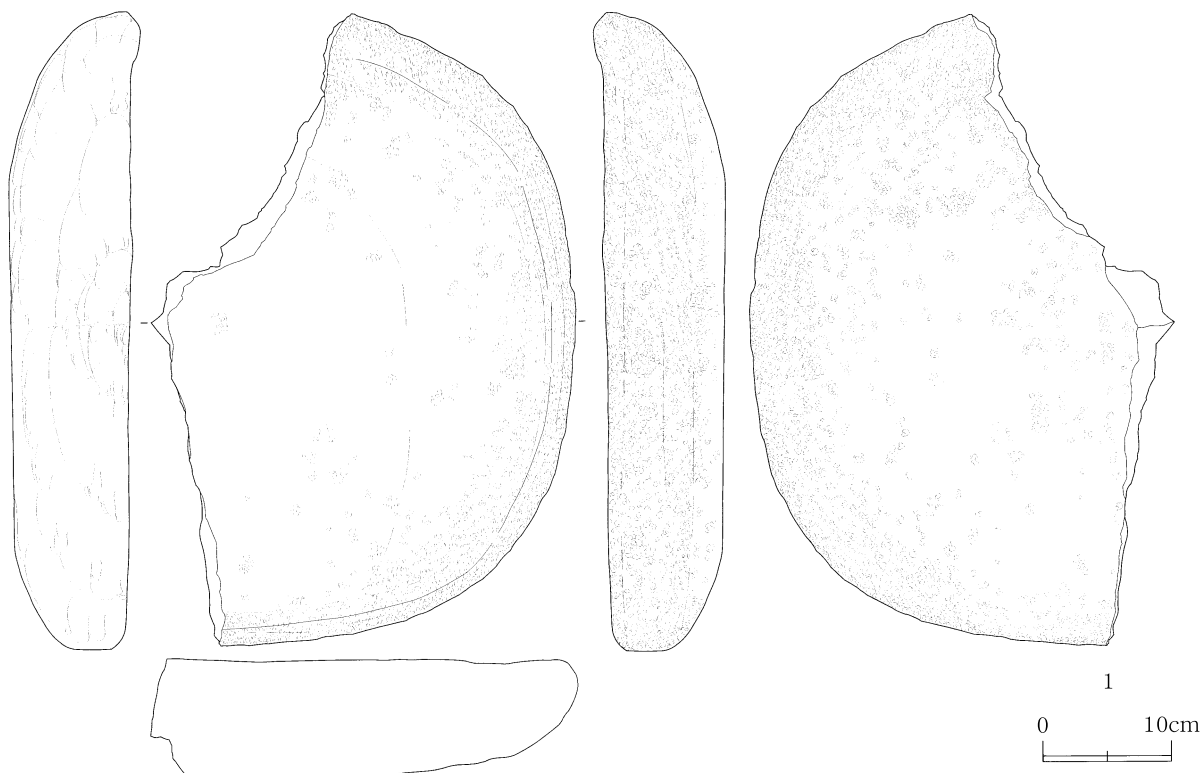
図版	番号	遺物	出土位置	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	平面	断面	備考
256	1	72000	排土		輝石安山岩	282.0	260.0	117.0	11200	B		一部分有り
256	2	71322	ME31		輝石安山岩	281.0	179.0	74.0	3200	B		完形

第256図 石皿 (7)



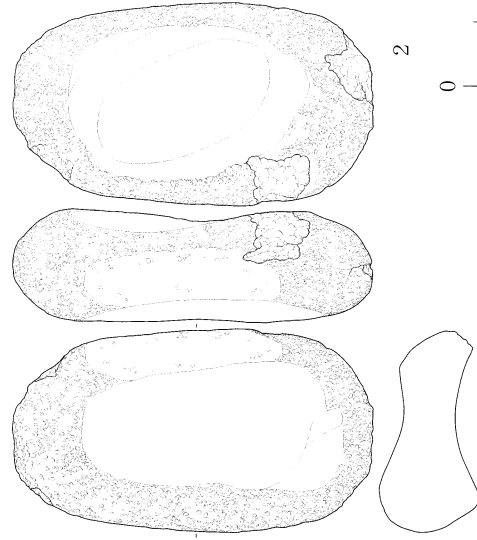
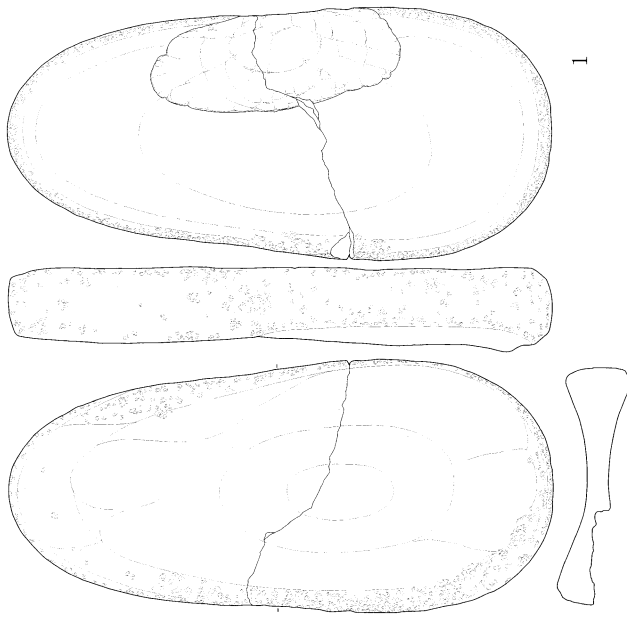
第259図 石皿 (10)

図版	番号	遺物	出土位置	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	平面	断面	備考
259	1	72005	MD27		輝石安山岩	300.0	293.0	70.2	6300	C		一部欠損



第258図 石皿 (9)

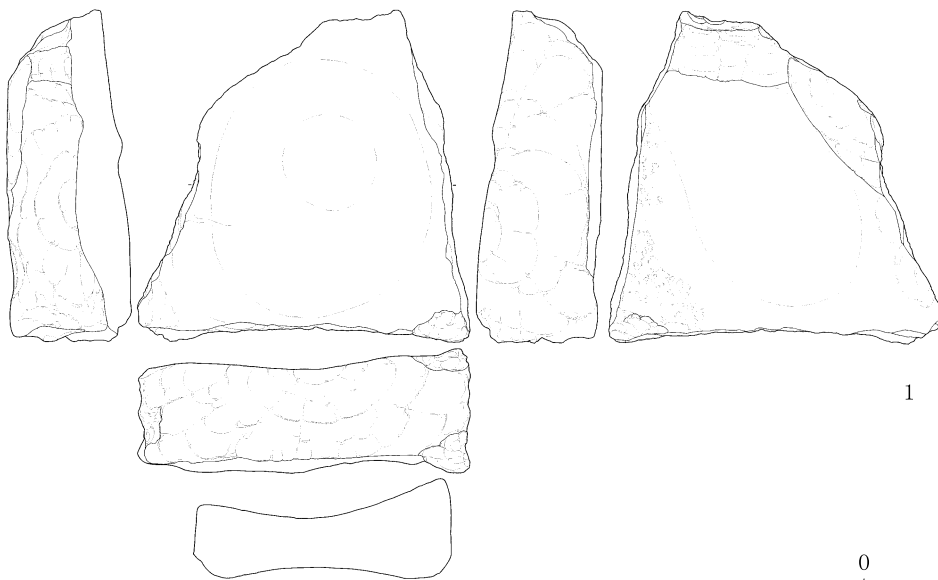
図版	番号	遺物	出土位置	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	平面	断面	備考
258	1	7723	MC37		輝石安山岩	502.0	333.0	99.8	20900	B		一部欠損



0 10cm

図版	番号	遺物	出土位置	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	平面	断面	備考
261	1	71330	MG37		輝石安山岩	426.0	197.0	66.0	4850	B		一部欠損
261	2	77116	MA28		輝石安山岩	279.0	160.0	92.0	5000	B		突形

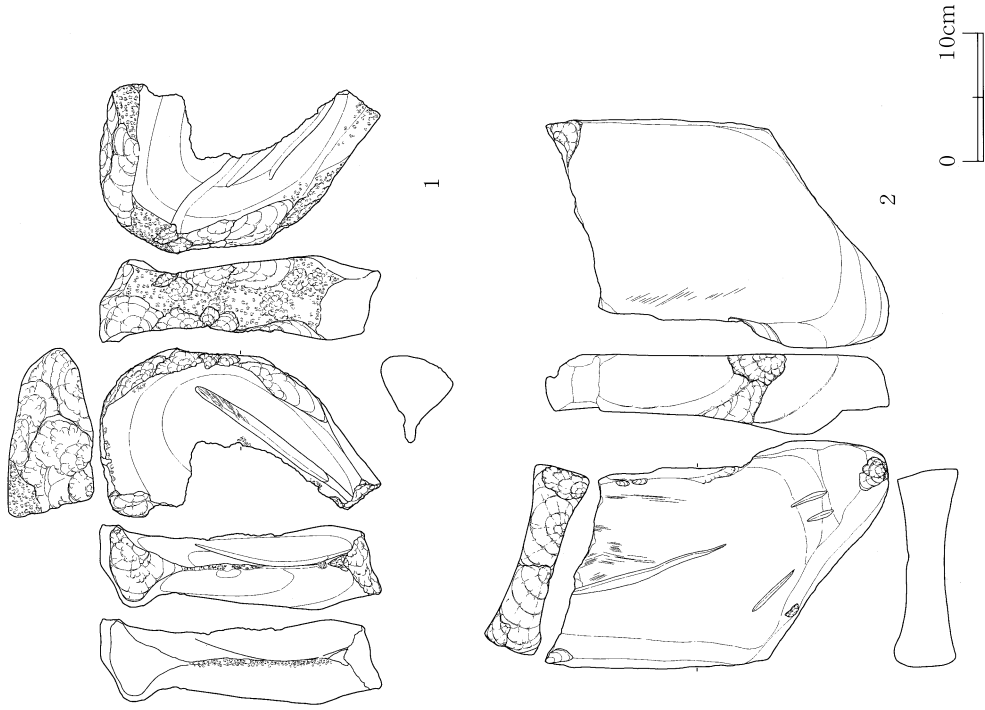
第261図 石皿 (12)



0 10cm

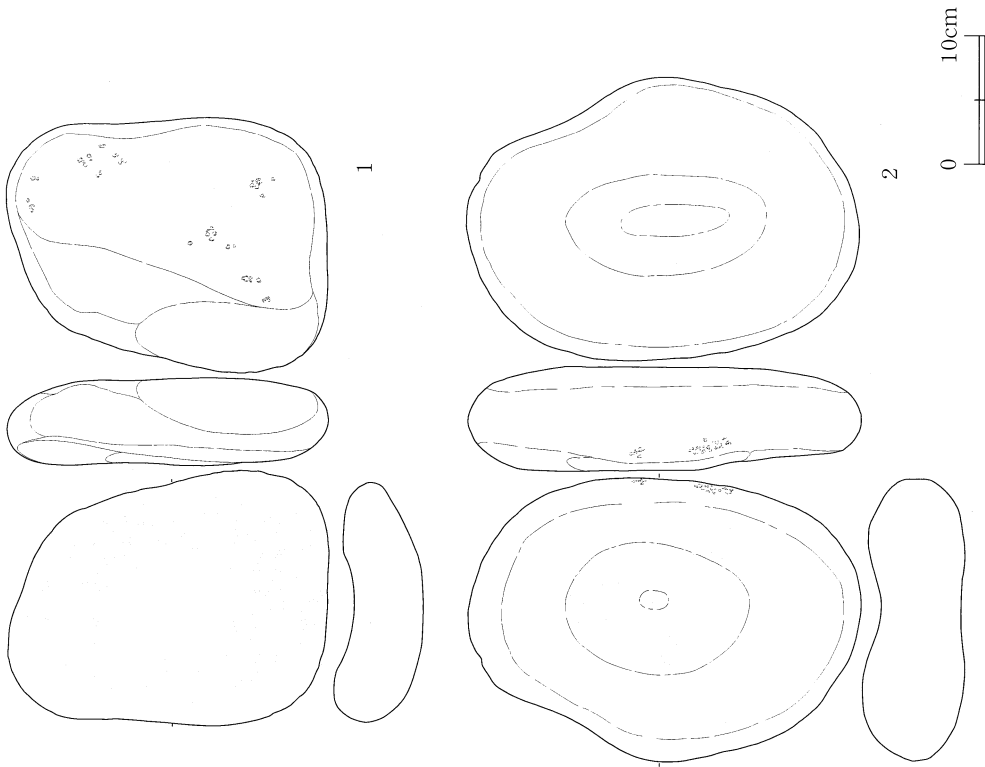
図版	番号	遺物	出土位置	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	平面	断面	備考
260	1	77115	MA28		輝石安山岩	359.0	261.0	99.0	5400	C		周縁欠損

第260図 石皿 (11)



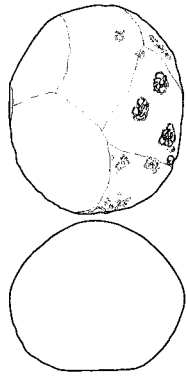
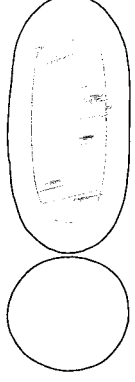
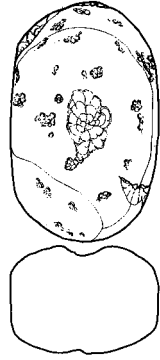
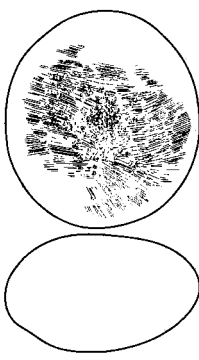
図版	番号	遺物	出土位置	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	平面	断面	備考
263	1	7729	MB25		輝石安山岩	218.0	141.0	163.0	12400	C		欠損品・線状痕
263	2	71321	MF34		輝石安山岩	264.0	178.0	64.1	2400	C		欠損品・線状痕

第263図 石皿 (14)



図版	番号	遺物	出土位置	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	平面	断面	備考
262	1	7711	MA27		輝石安山岩	253.0	204.0	63.1	5700	C		赤色顔料付着
262	2	71329	MF34		輝石安山岩	264.0	178.0	64.1	2400	C		赤色顔料付着

第262図 石皿 (13)

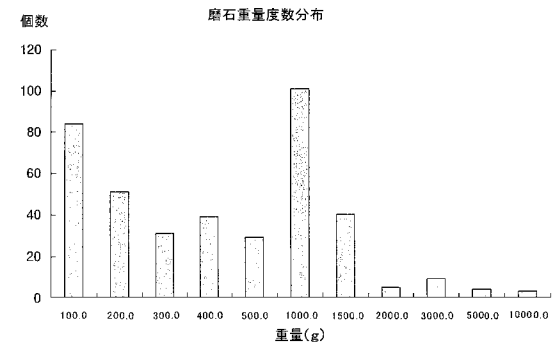
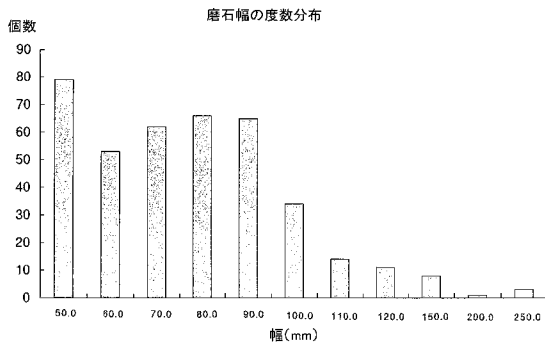
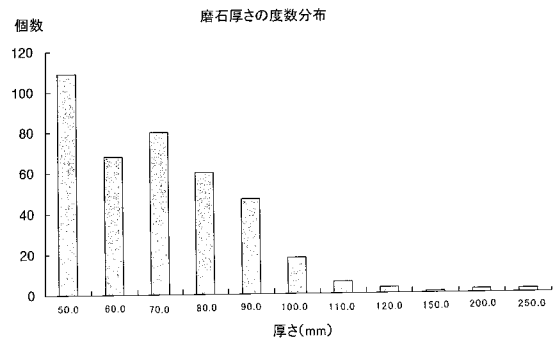
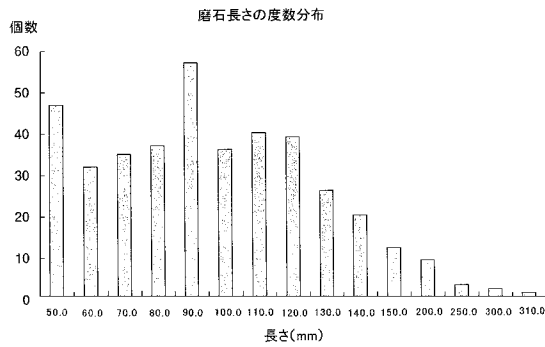
	六面に磨痕のあるもの	表裏二面に磨痕のあるもの
断面が 円形状 のもの A	 I	 II
断面が 楕円形状 のもの B	 I	 II

第264図 磨石の分類

値を示す。厚さは、最大48.9mm、最小11.3mm、平均17.1mmで、11.1~15.0mmのものが12点57.1%と最頻値を示す。重量は、最大460.2g、最小16.2g、平均69.0gで、21.1~25.0gのものが4点19.0%と最も多い。パンチの各サイズ分布は第241図・第71表に示した。

第242図1は、細身で両すばみの平面形を持つ。骨角器製のストーン・リタチャーにもよく似ている。両端には、ハンマーによる打撃と石核からの反作用による剥離面が形成されている。この使用痕は、器体の断面形に合致して3方向にほぼ同じ大きさの剥離面となっており、上下から垂直に等質な打撃を受けたことを推定させる。すなわち、パンチは石核打面に対して垂直に保持されて、真上からハンマーが振り下ろされている。そこから想定される「身振り」は、パンチ長軸・ハンマー打撃軸が、バランスよく結合されて対象に働きかけることを期待しているのであり、剥離の目的物は、縦長で歪みの少ない剥片であった可能性が高い。凝灰岩質安山岩製である。

2は、対照的に大形で粗い印象を受ける。ごく小形のハンマーか両極石核の可能性もある。ただし、ハンマーには軽すぎる。使用痕として残された剥離痕は、器体長軸に平行するもの・直交するもの両方があり、ここからもパンチとしての機能のみではなかったと考えられる。しかし最終の剥離軸は、



第76表 磨石サイズの特徴（全396点）

	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)
平均	91.910354	71.64899	43.314394	602.28548
最大値	304	226	124	9500
最小値	10.5	14.1	6.3	1.8
範囲	293.5	211.9	117.7	9498.2
最頻値	80~90mm	71~80mm	41~50mm	500~1000g
最頻値個数	57	66	80	101
最頻値%	14.393939	16.666667	20.20202	25.505051
分散	1377.3132	676.07248	421.92746	940916.44
標準偏差	37.11217	26.001394	20.540873	970.00847
尖度	5.1166525	6.146034	0.885882	47.542169
歪度	1.3458357	1.4103478	0.5949748	6.0443509

第265図 磨石サイズの特徴

器体平面形の対角線を結ぶものであり、打撃の力点と作用点は角に設定されていることから、比較的大形で打面の広い石核を対象にしたパンチと推定した。

(14) 台石

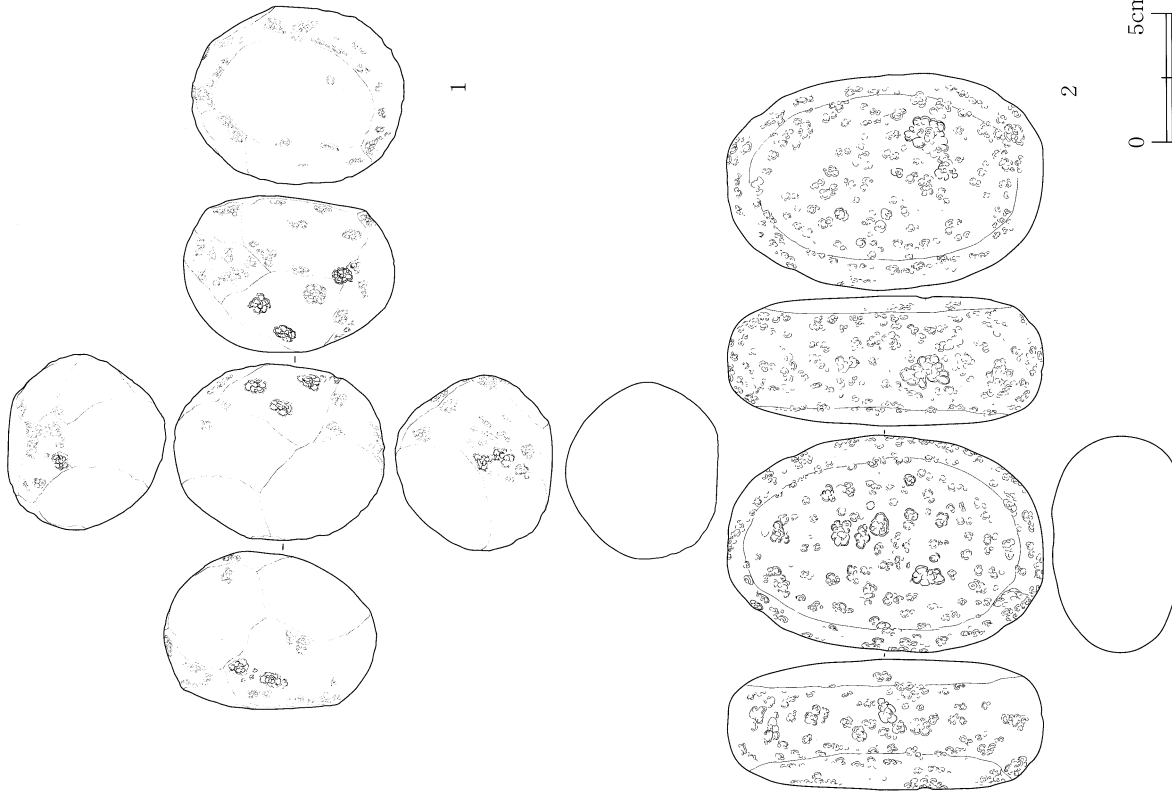
台石は、全部で11点出土している。サイズの特徴を第243図・第72表に示した。

台石の長さは、最大247.0mm、最小46.3mm、平均158.3mmで、101.1~150.0mmのものが6点54.5%と最頻値を示す。幅は、最大147.0mm、最小45.8mm、平均104.8mmで、101.1~150.0mmのものが8点72.7%と最頻値を示す。厚さは、最大108.0mm、最小14.4mm、平均51.2mmで、55.1~65.0mmのものが4点36.4%と最頻値を示す。重量は、最大6,000g、最小44.0g、平均1,720.2gで、1,500~2,000gのものが2点18.2%と最も多い。

(15) 砥石

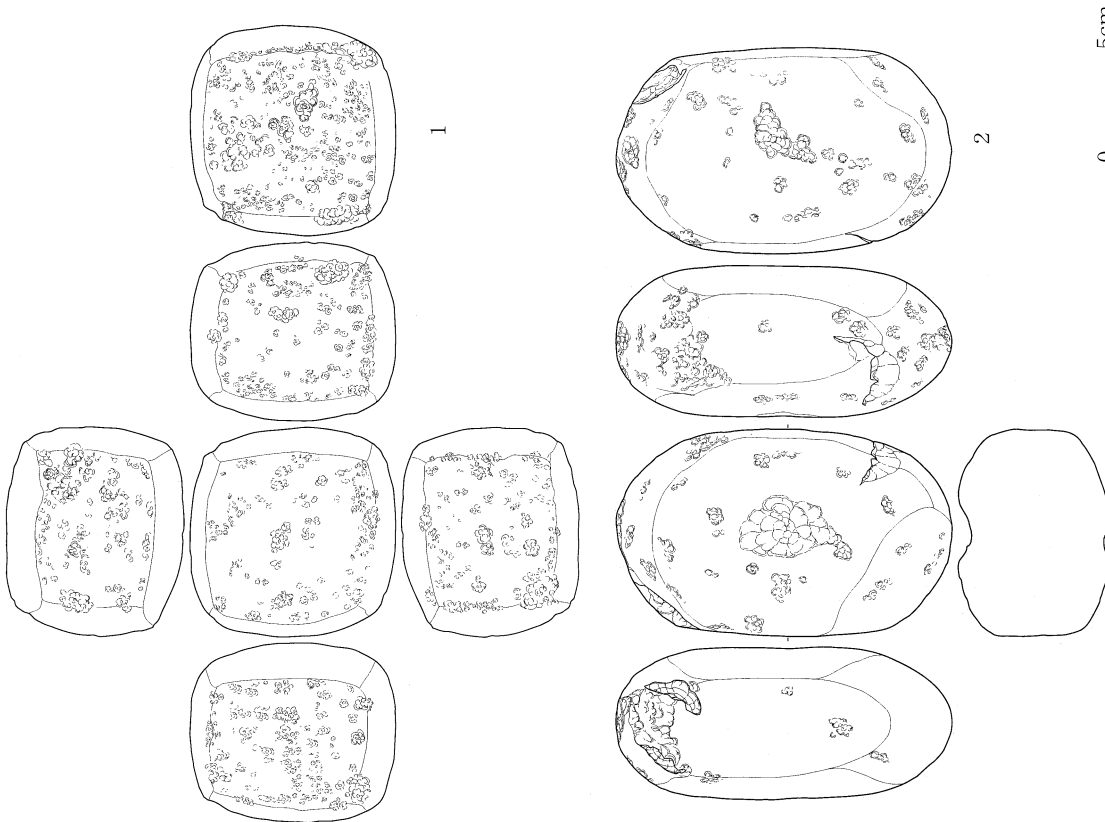
砥石は、全部で33点出土している。砥石の各サイズ分布は第244図・第73表に示した。

砥石の長さは、最大155.0mm、最小43.6mm、平均89.1mmで、51.1~55.5mmのものが5点15.2%と最頻値を示す。幅は、最大120.9mm、最小13.5mm、平均59.7mmで、45.1~55.5mmのものが10点30.3%と最頻



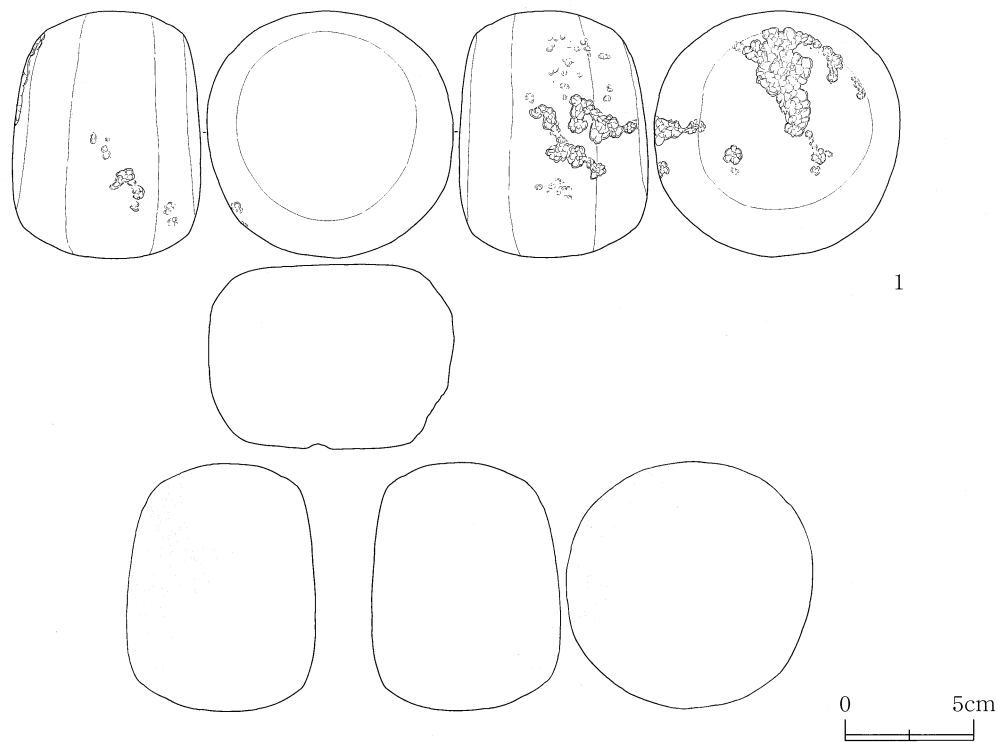
図版	番号	遺物	出土位置	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	断面	擦痕	備考
267	1	71279	NK28		玄武岩	83.4	68.2	60.8	456.0	A		
267	2	71278	NK28		花崗岩	122.0	83.8	49.4	790.0	B		

第267図 磨石 (2)



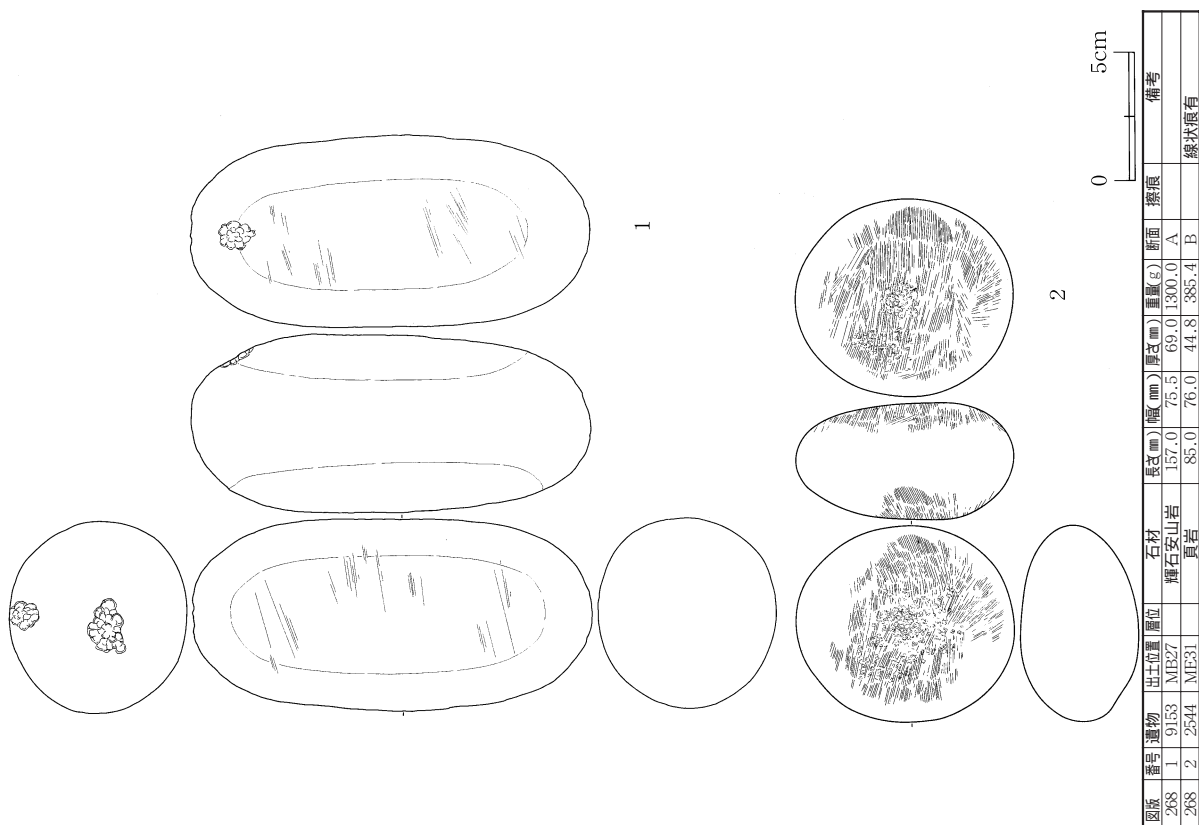
図版	番号	遺物	出土位置	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	断面	擦痕	備考
266	1	71275	NK27		輝石安山岩	79.7	80.2	68.9	678.5	A		
266	2	71313	LS22		花崗閃綠岩	130.9	78.1	59.2	1040.5	B		

第266図 磨石 (1)



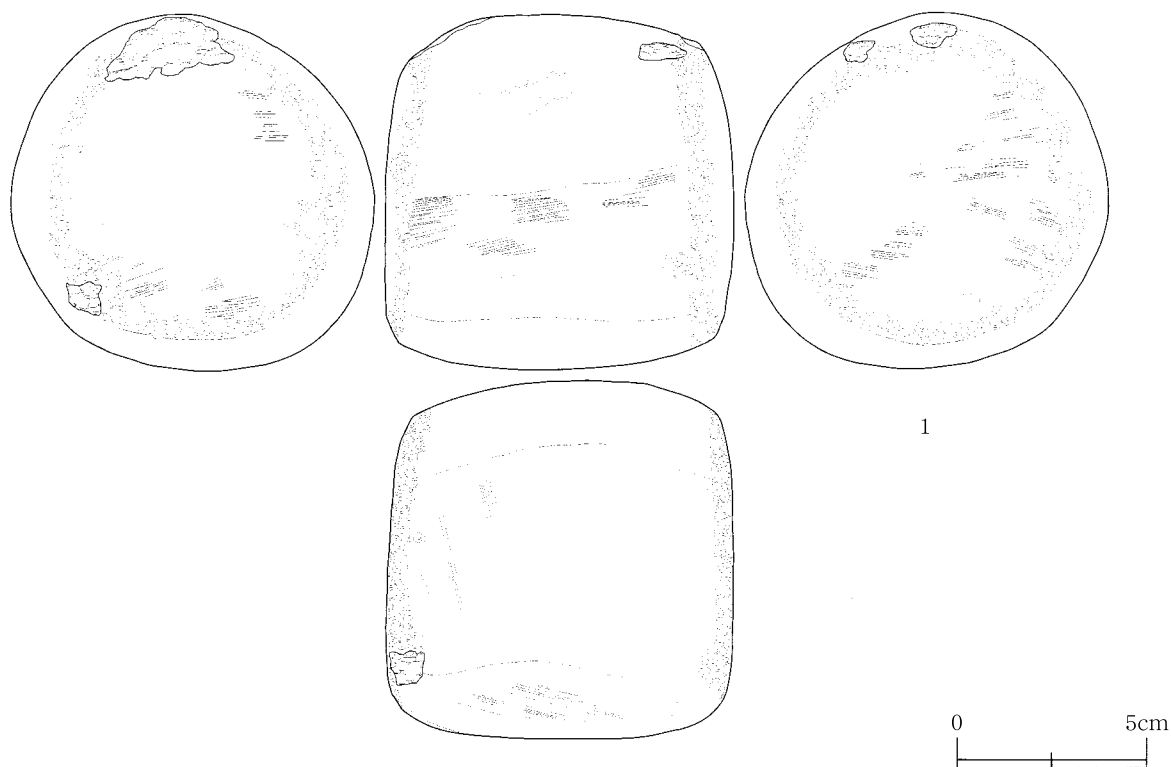
図版	番号	遺物	出土位置	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	断面	擦痕	備考
269	1	71304	MI35		輝石安山岩	96.1	87.4	70.8	677.0	A		焼跡有

第269図 磨石 (4)



図版	番号	遺物	出土位置	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	断面	擦痕	備考
268	1	9153	MI327		輝石安山岩	157.0	75.5	69.0	1300.0	A		
268	2	2544	ME31		頁岩	85.0	76.0	44.8	385.4	B		緑状脈有

第268図 磨石 (3)



図版	番号	遺物	出土位置	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	断面	擦痕	備考
270	1	70539	MC39		輝石安山岩	94.7	94.5	93.5	1500.0	A		

第270図 磨石 (5)

値を示す。厚さは、最大74.3mm、最小5.3mm、平均25.2mmで、20.1~25.0mmのものが7点21.2%と最頻値を示す。重量は、最大581.0g、最小14.7g、平均182.6gで、40.1~60.0gのものが6点18.2%と最も多い。

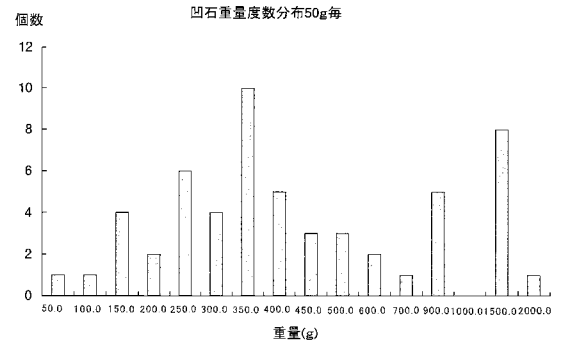
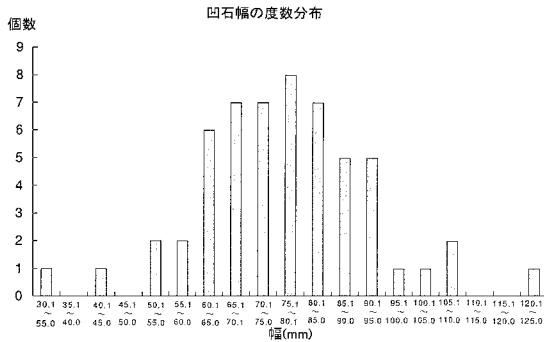
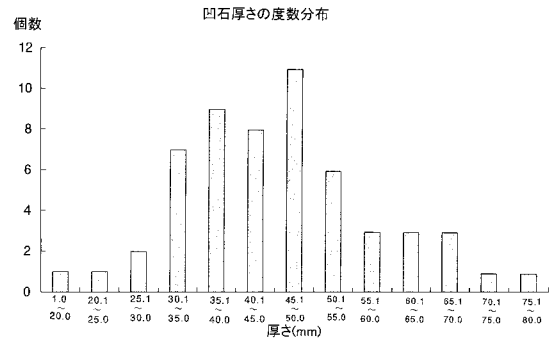
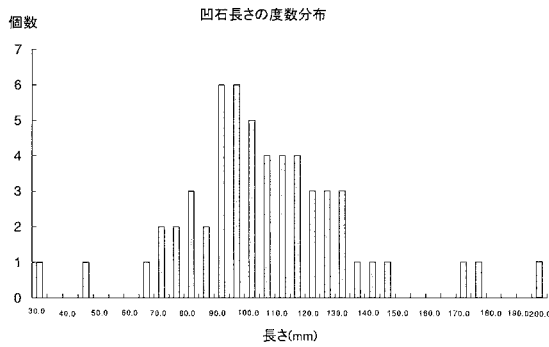
凝灰岩製で軟質な物が多いが、第245図1・4の様に比較的硬質で使用痕が直線的に無数残る物がある。

(16) 敲石

敲石は、全部で274点出土している。敲石の各サイズ分布は第246図・第74表に示した。

敲石の長さは、最大190.7mm、最小31.7mm、平均85.3mmで、95.1~100.0mmのものが25点9.1%と最頻値を示す。幅は、最大123.4mm、最小22.7mm、平均62.1mmで、55.1~60.0mmのものが26点9.5%と最頻値を示す。厚さは、最大89.5mm、最小5.0mm、平均35.1mmで、30.1~35.0mmのものが34点12.4%と最頻値を示す。重量は、最大1,900.0g、最小5.1g、平均321.2gで、50.1~100.0gのものが43点15.7%と最も多い。

使用による破損・潰れが著しい。手のひらに握り込んで、石器長軸に沿って垂直に振り下ろす小形品が多い。



第77表 凹石サイズの特徴（全56点）

	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)
平均	101.92679	76.603571	45.342857	540.8375
最大値	194	122.1	75.2	2000
最小値	28.5	33.7	20	61
範囲	165.5	88.4	55.2	1939
最頻値	86~95mm	76~80mm	46~50mm	351~400g
最頻値個数	12	8	11	10
最頻値%	21.428571	14.285714	19.642857	17.857143
分散	823.03691	256.80071	154.87377	139700.85
標準偏差	28.68862	16.025003	12.444829	373.76577
尖度	2.0172631	0.7858311	-0.010745	3.218687
歪度	0.5975164	0.0849863	0.3800551	1.6409807

第271図 凹石サイズの特徴

4 調理具






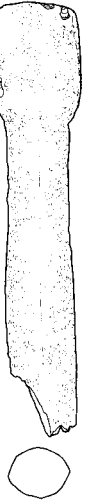

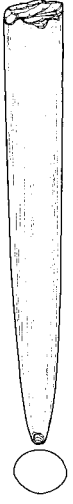
調理具は、石皿、磨石、凹石がある。

(1) 石皿

石皿は、全部で85点出土している。平面形4種類と断面形3種類の12種類の内、9種類が存在する。第248図に分類を示した。

石皿の長さは、最大502.0mm、最小29.3mm、平均226.8mmで、271.1~290.0mmのものが14点16.5%と最頻値を示す。長さの数値には注意が必要で、長軸に対して折損した破損品が多いために、短い値となっている。幅は、最大333.0mm、最小14.0mm、平均169.1mmで、231.1~240.0mmのものが8点9.4%と最頻値を示す。厚さは、最大163.0mm、最小3.3mm、平均66.7mmで、71.1~75.0mmのものが9点10.6%と最頻値を示す。重量は、最大20,900g、最小2.0g、平均4,909gで、3,001~3,500gのものが7点8.2%と最も多い。石皿の各サイズ分布は第249図・第75表に示した。

ベンガラ用の石皿はいずれも断面が凹むもので、凸となる物は使われていない。また、大形重量品でも割れて廃棄されている物が多く、意識的な破損であることは明白である。

	上端部に線刻による文様のあるもの	上部にくびれのあるもの	胴部に線刻による文様のあるもの	下端部が鋭利に研磨されているもの
断面が扁平な楕円状のもの A	 I	 II	 III	 IV
断面が円形状のもの B	 I	 II	 III	 IV

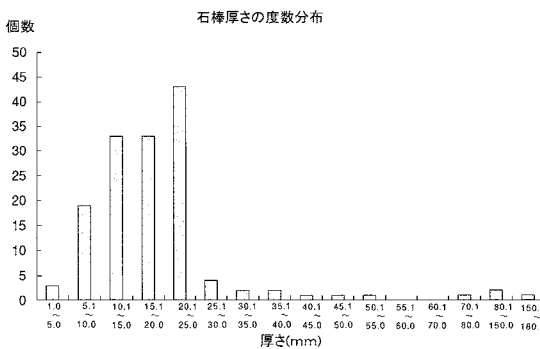
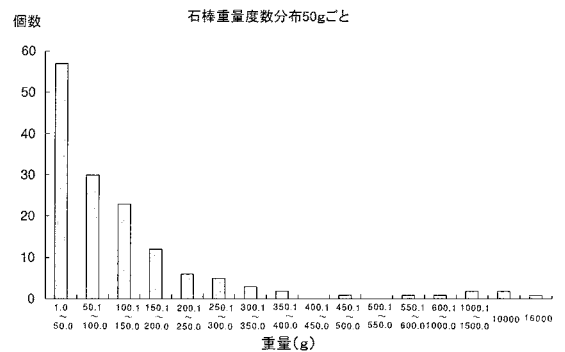
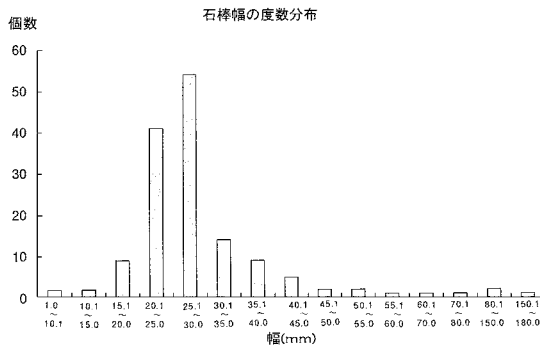
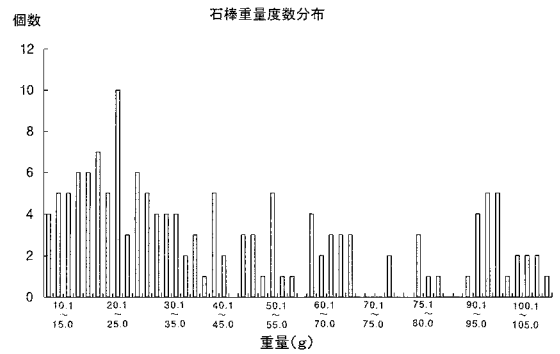
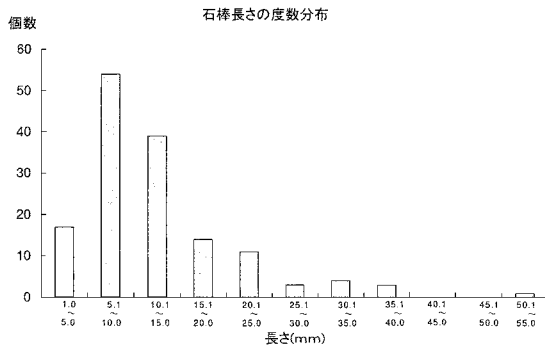
第272図 石棒・石剣の分類

第263図1は、徹底的な使用によって磨り面に穴が開いてしまった物である。それでも砥石・敲石に転用して使用を続けている。折れ面にも摩滅痕があることから廃棄直前には「ノッチ」のような使い方をされていた物である。この資料は、廃棄のための意図的破損とはいえない。

(2) 磨石

磨石は、全部で396点出土している。分類は、第264図に示した。

磨石の長さは、最大304.0mm、最小10.5mm、平均91.9mmで、81.1~90.0mmのものが57点14.4%と最頻値を示す。幅は、最大226.0mm、最小14.1mm、平均71.6mmで、71.1~80.0mmのものが66点16.7%と最頻値を示す。厚さは、最大124.0mm、最小6.3mm、平均43.3mmで、41.1~50.0mmのものが80点20.2%と最



第78表 石棒サイズの特徴(全146点)

	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)
平均	122.01438	30.885068	20.679452	311.56781
最大値	515	178	160	15300
最小値	13.4	7.3	3.4	2.2
範囲	501.6	170.7	156.6	15297.8
最頻値	66~75mm	26~30mm	21~25mm	1~50g
最頻値個数	16	54	43	57
最頻値%	10.958904	36.986301	10.958904	39.041096
分散	7101.1731	423.46924	439.62164	2143094.2
標準偏差	84.268459	20.578368	20.967156	1463.9311
尖度	3.7571544	29.522742	29.452798	80.516136
歪度	1.7413427	5.032641	5.1240258	8.5605994

第273図 石棒・石剣サイズの特徴

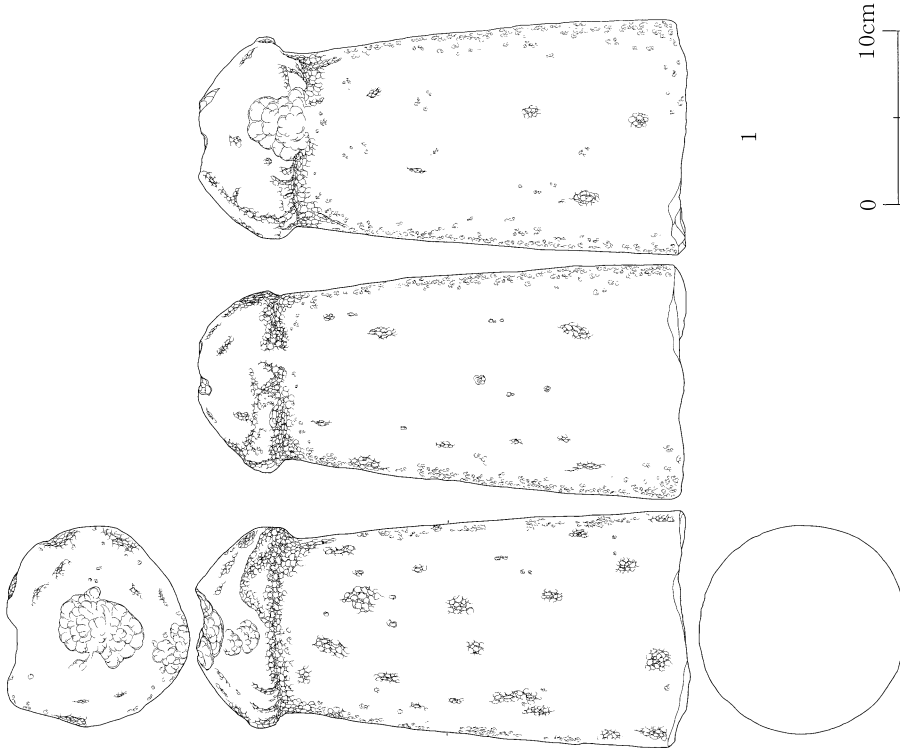
頻値を示す。重量は、最大9,500g、最小1.8g、平均602.3gで、500.1~1,000.0gのものが101点25.5%と最も多い。磨石の各サイズ分布は第265図・第76表に示した。

砥石に比べて硬い石を使っている。硬質頁岩の円礫を使った第268図2には明瞭な線状痕が付いている。

(3) 凹石

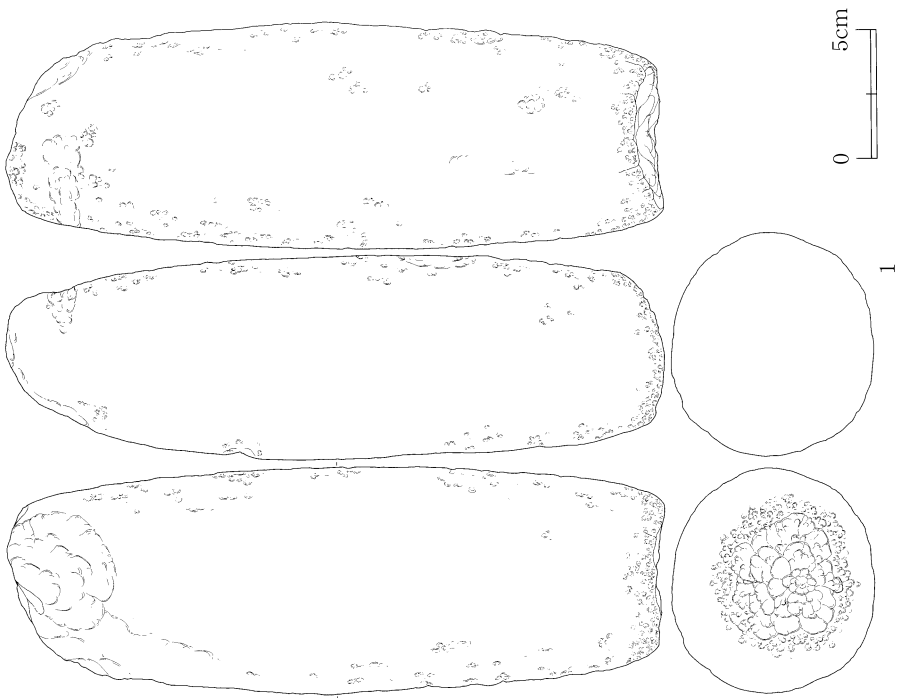
凹石は、全部で56点出土している。凹石の各サイズ分布は第271図・第77表に示した。

凹石の長さは、最大194.0mm、最小28.5mm、平均101.9mmで、86.1~95.0mmのものが12点21.4%と最頻値を示す。幅は、最大122.1mm、最小33.7mm、平均76.6mmで、76.1~80.0mmのものが8点14.3%と最頻値を示す。厚さは、最大75.2mm、最小20.0mm、平均45.3mmで、46.1~50.0mmのものが11点19.6%と最頻値を示す。重量は、最大2,000g、最小61.0g、平均540.8gで、351.1~400.0gのものが10点17.6%と最も多い。



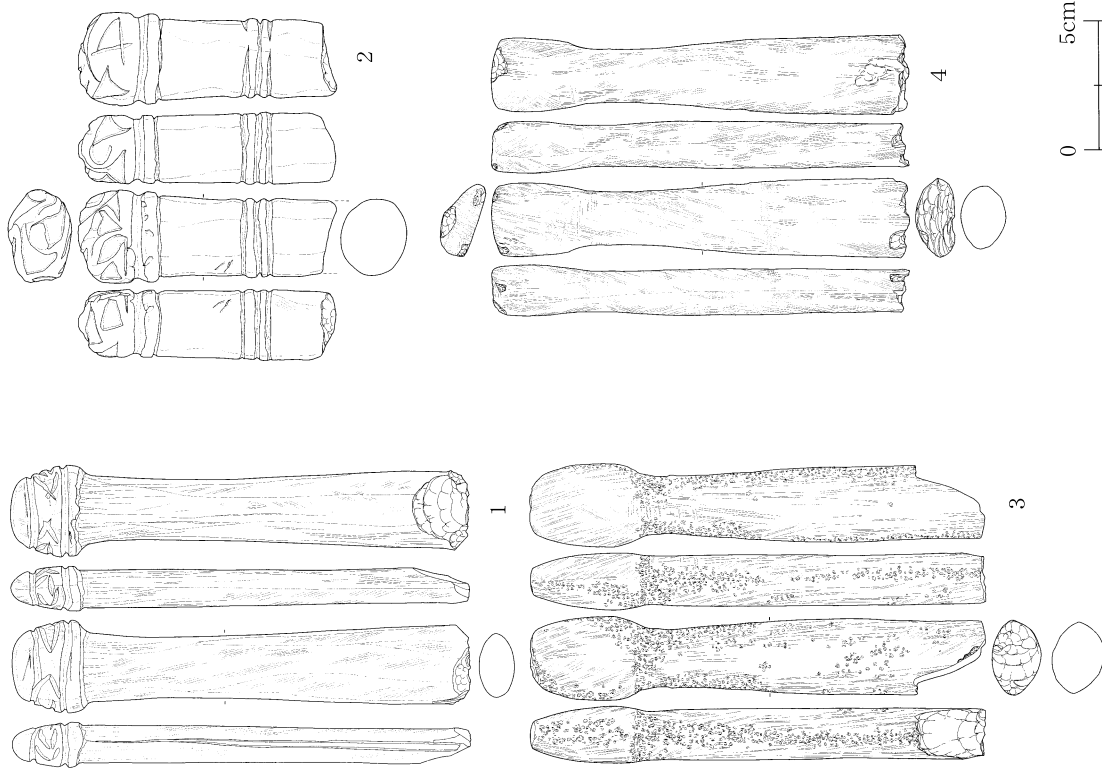
図版	番号	遺物	出土位置	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	断面	形文様	備考
275	1	7724	MA28		凝灰岩質砂岩	285.0	147.0	147.0	6500	B		完形

第275図 石棒 (2)



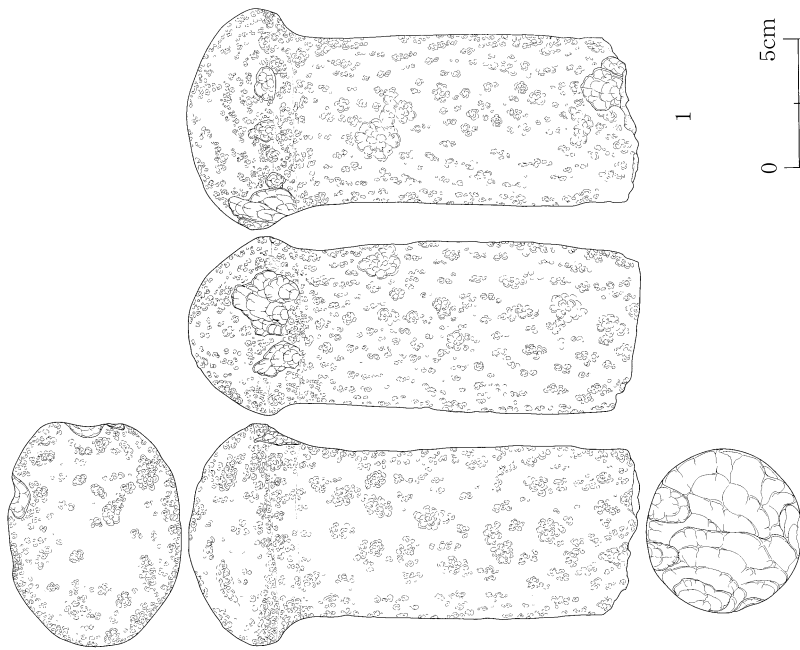
図版	番号	遺物	出土位置	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	断面	形文様	備考
274	1	7719	不明		輝石安山岩	515.0	178.0	160.0	15300	B		完形

第274図 石棒 (1)



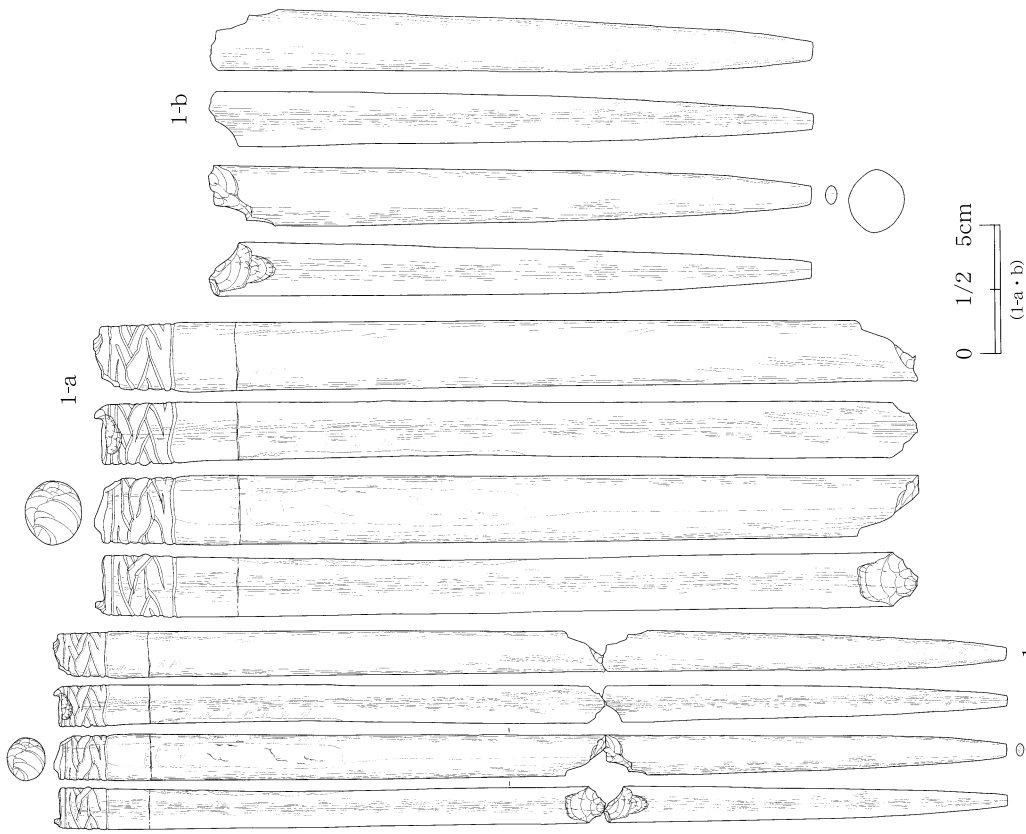
図版	番号	遺物	出土位置	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	断面	形・文様	備考
277	1	103888	L726		真岩	18.2	35.7	17.1	139.4	A		下端折
277	2	103889	LO36		真岩	90.5	37.2	26.9	105.0	B		下端折
277	3	15058	MR28		凝灰岩	180.0	31.5	21.6	176.5	A		下端折
277	4	15059	LR35		真岩	166.0	29.7	17.0	140.0	A		下端折

第277図 石棒・石剣 (4)



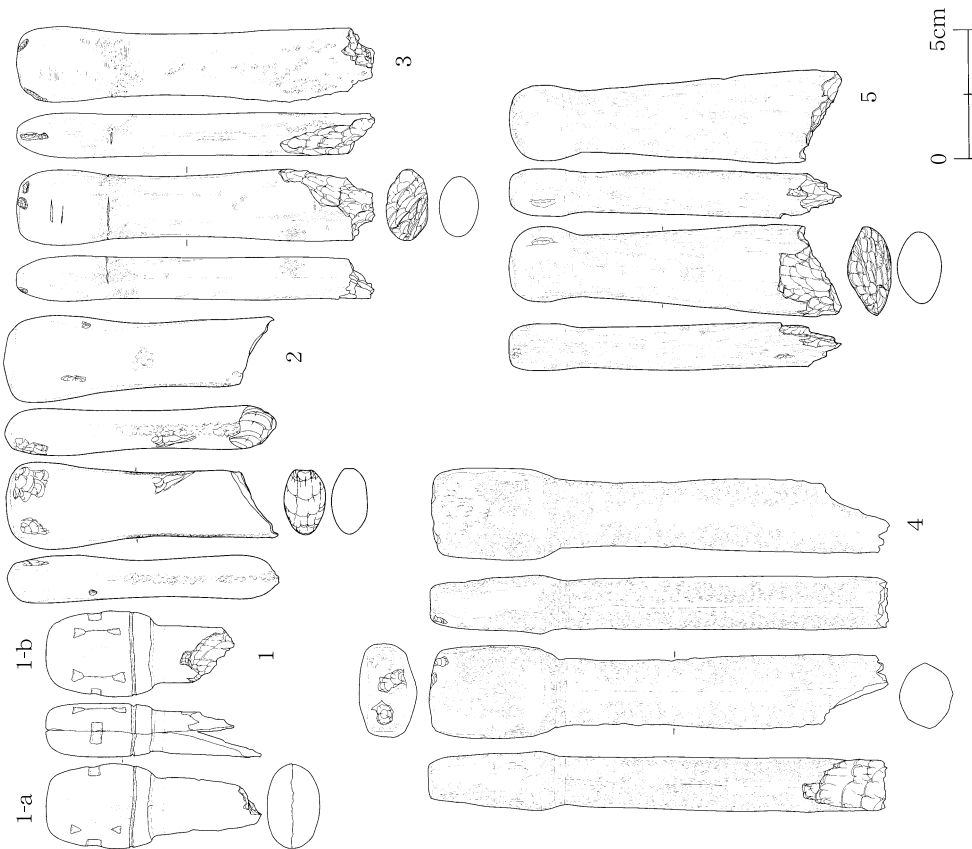
図版	番号	遺物	出土位置	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	断面	形・文様	備考
276	1	71214	不明		輝石安山岩	179.0	80.0	75.0	1300	B		壳形

第276図 石棒 (3)



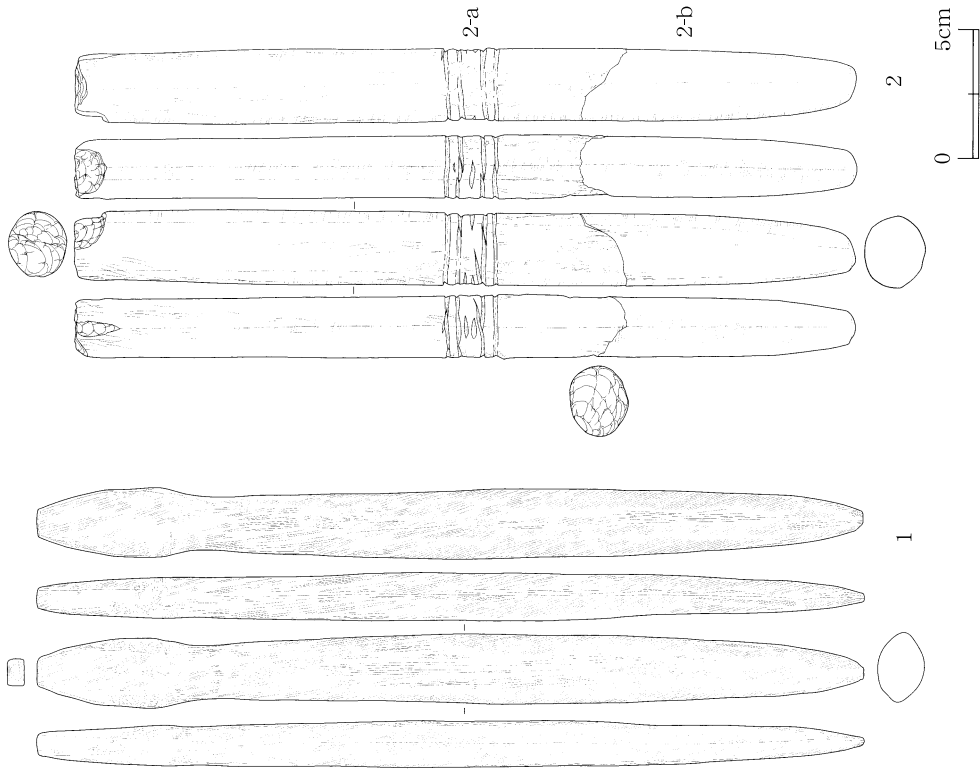
図版	番号	遺物	出土位置	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	断面	形式	備考
279	1	9542+9546	MR28		頁岩	538.0	26.6	21.9	303.4	B	.	9546と 9542接合
279	1-a	9546	MR28		頁岩	322.0	26.6	21.9	352.9	B		接合品・頭部
279	1-b	9542	MR28		頁岩	236.0	22.1	19.8	150.5	B		接合品・末端部

第279図 石棒・石剣 (6)



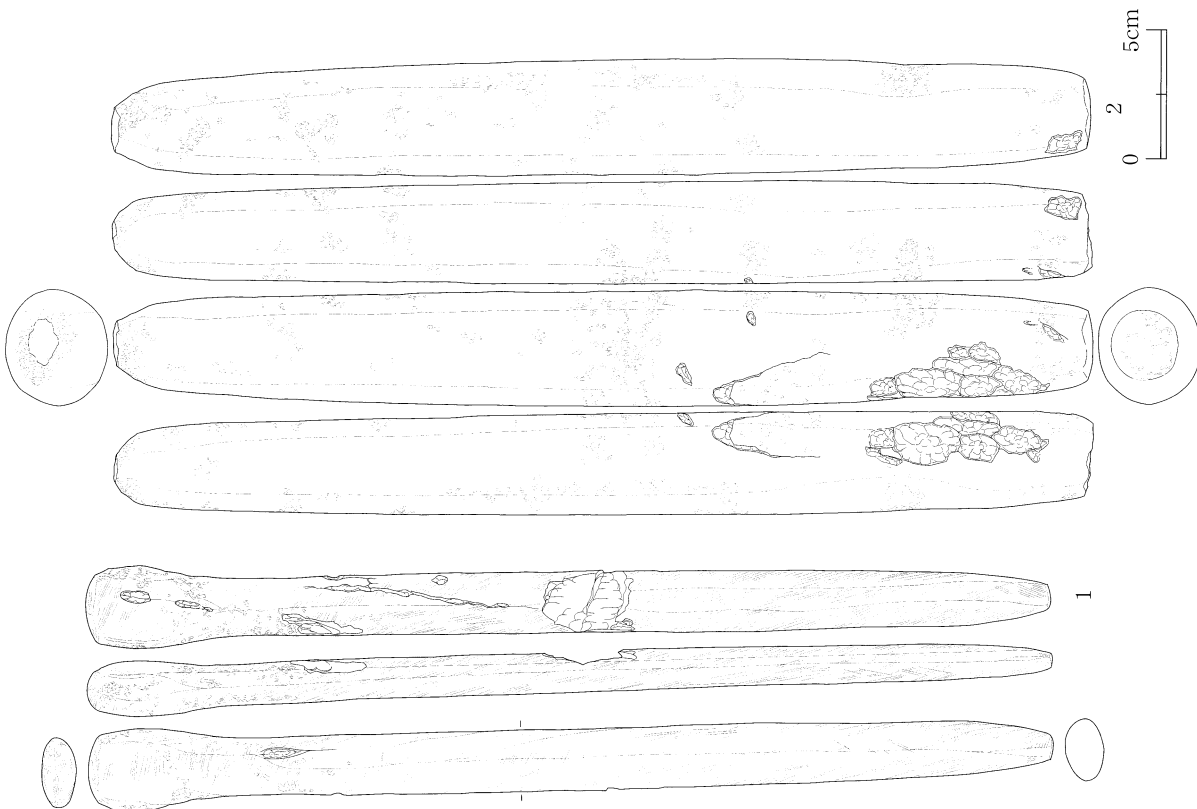
図版	番号	遺物	出土位置	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	断面	形式	備考
278	1	15047+15048	LP36		緑泥片岩	82.7	32.6	9.8	73.7	A		15048と 15047接合
278	1-a	15048	LP36		緑泥片岩	82.7	32.6	9.8	37.1	A		接合品・上端折
278	1-b	15047	LP36		緑泥片岩	73.0	32.6	9.2	36.6	A		接合品・下端折
278	2	15043	MC28		ホルツァエルス	105.8	33.5	18.0	94.5	A		下端折
278	3	15042	LC37		頁岩	140.0	30.0	17.7	118.4	A		下端折
278	4	15060	LT26		頁岩	181.5	36.3	23.3	202.4	B		
278	5	15040	LS35		頁岩	129.6	36.3	17.7	119.0	A		下端折

第278図 石棒・石剣 (5)



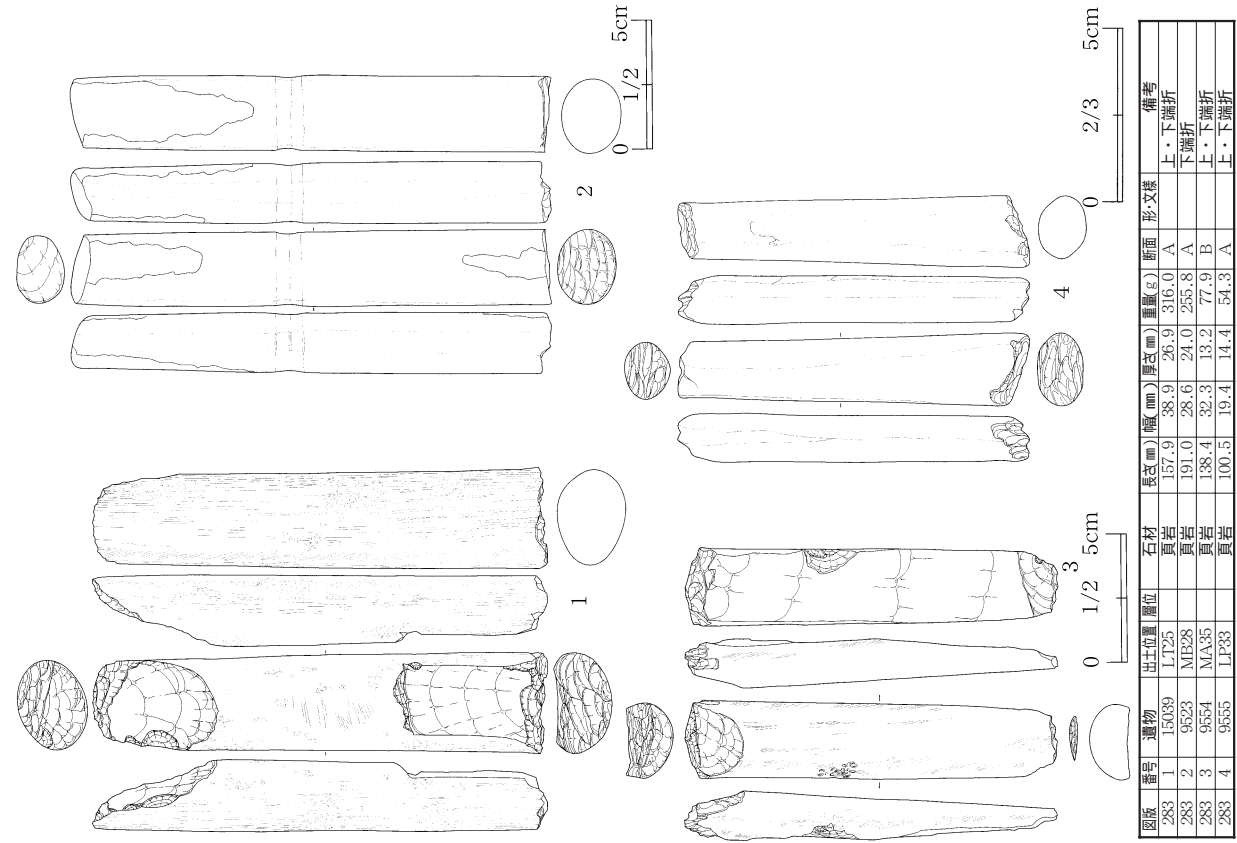
図版	番号	遺物	出土位置	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	断面	形状	文様	備考
281	1	15462	I-Q34		頁岩	324.5	27.3	18.4	243.8	A			完形
281	2	9522+9530	MB, MC36		ホルンフェルス	300.4	27.8	23.8	384.5	B			9522と9530接合
281	2-a	9522	MB36		ホルンフェルス	217.0	27.8	23.8	279.5	B			接合品・下端折
281	2-b	9530	MC36		ホルンフェルス	106.7	27.1	23.7	105.0	B			接合品・上端折

第281図 石棒・石剣 (8)



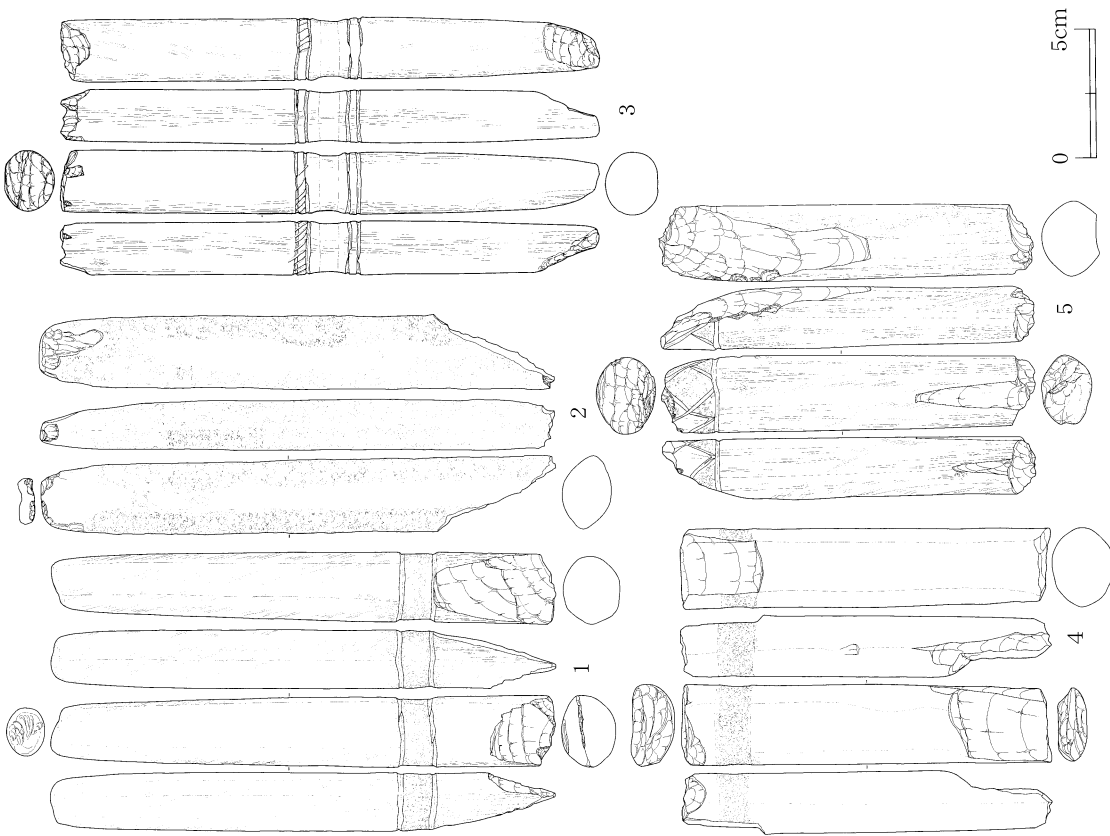
図版	番号	遺物	出土位置	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	断面	形状	文様	備考
280	1	15063	I-Q35		頁岩	377.0	32.4	20.6	282.0	A			完形
280	2	7724	MA28		凝灰岩質砂岩	382.0	43.4	39.6	1200.0	B			完形

第280図 石棒・石剣 (7)



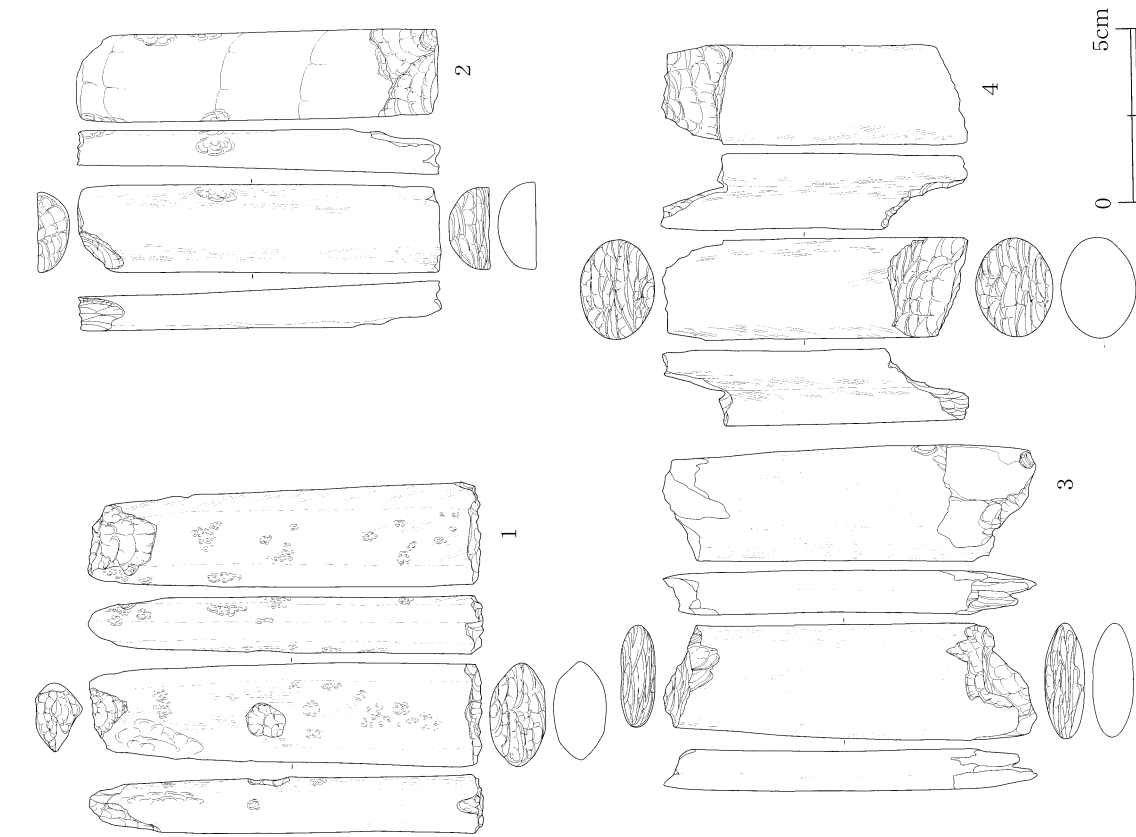
第283図 石棒・石剣 (10)

図版	番号	遺物	出土位置	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	断面	形状	備考
283	1	15039	L125		頁岩	157.9	38.9	25.9	316.0	A		上・下端折
283	2	9523	MR28		頁岩	191.0	28.6	24.0	255.8	A		下端折
283	3	9554	MA35		頁岩	138.4	32.3	13.2	77.9	B		上・下端折
283	4	9555	L133		頁岩	100.5	19.4	14.4	54.3	A		上・下端折



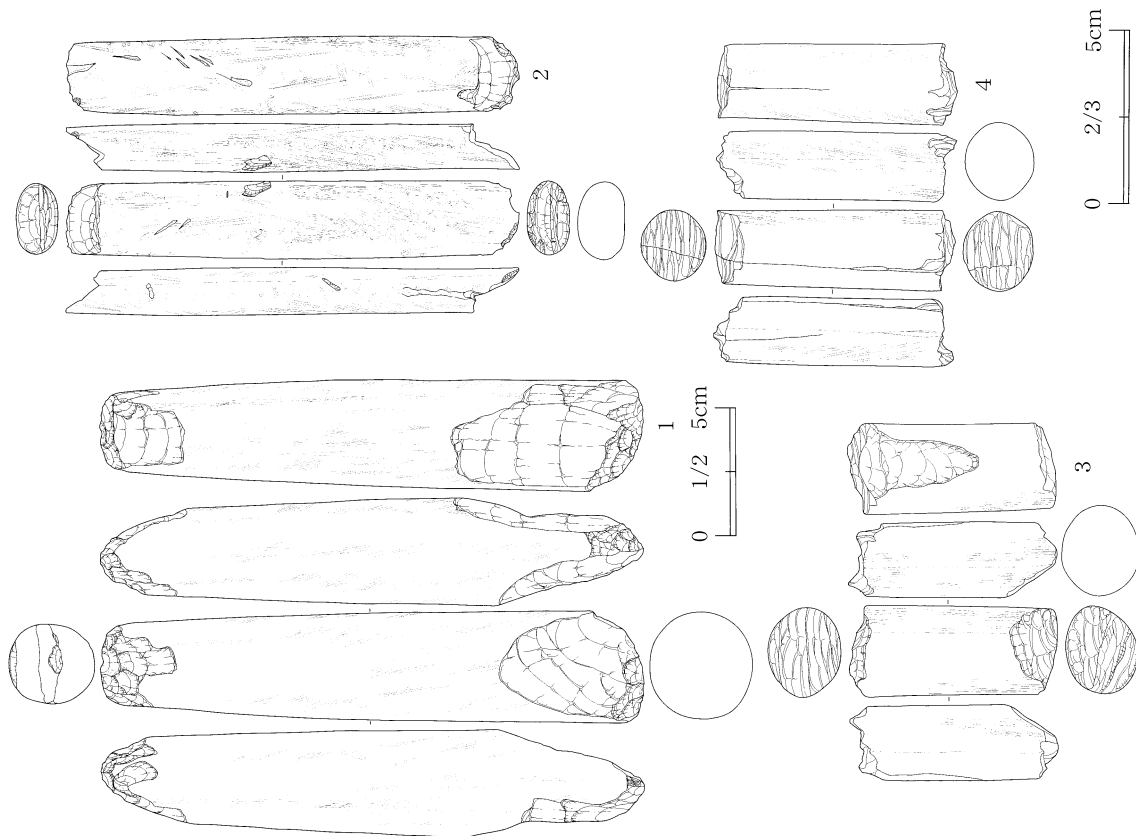
第282図 石棒・石剣 (9)

図版	番号	遺物	出土位置	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	断面	形状	備考
282	1	9550	MA28		頁岩	194.0	28.1	22.9	216.1	B		下端折
282	2	15037	L125		頁岩	200.3	28.9	20.0	177.5	A		下端折
282	3	1084	MA28		頁岩	209.0	23.9	20.6	195.3	B		上・下端折
282	4	15032	MC37		赤トリアールス	143.5	31.5	23.7	191.0	B		上・下端折
282	5	9534	MA25		頁岩	145.5	28.3	23.0	159.4	B		上・下端折



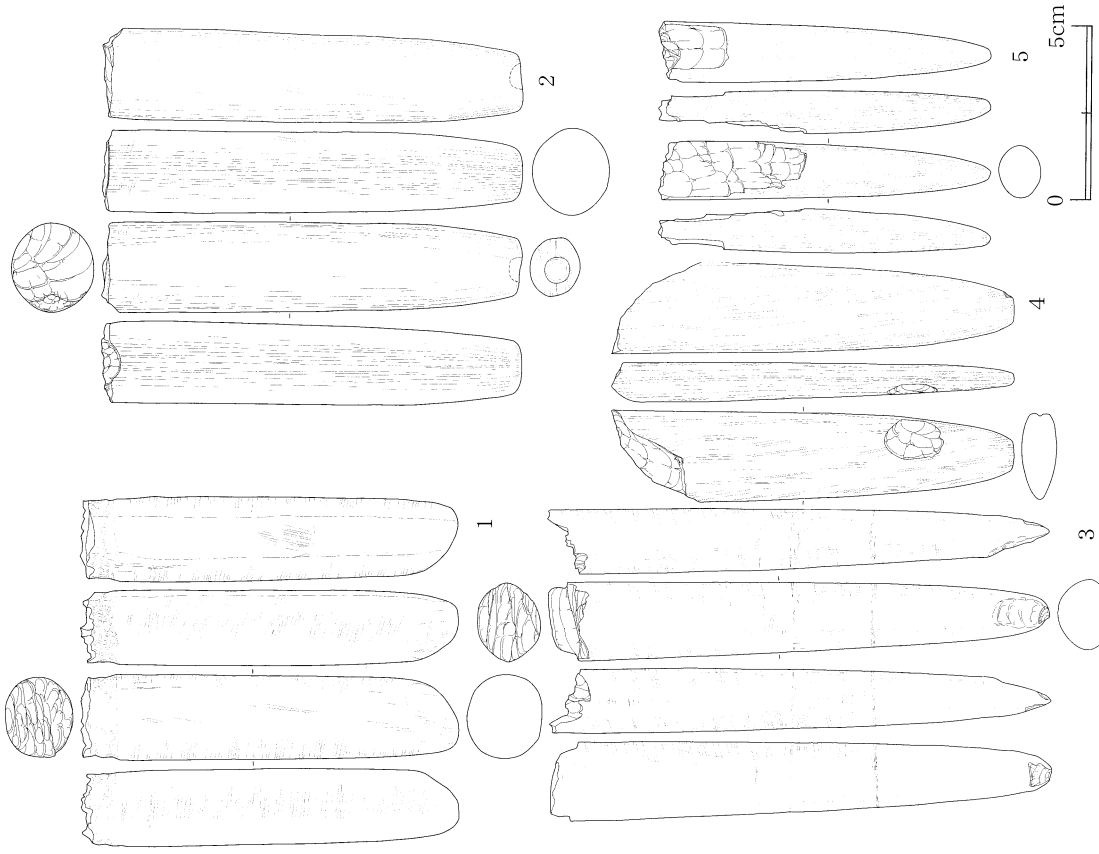
図版	番号	遺物	出土位置	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	断面	形文様	備考
285	1	15035	LS35		真岩	114.3	29.8	16.5	86.5	A		上・下端折
285	2	9559	LP35		真岩	105.7	24.5	11.9	57.5	B		上・下端折
285	3	15038	MC33		真岩	108.1	33.7	11.8	70.0	A		上・下端折
285	4	9557	MC37		ホルンフェルス	86.5	29.3	22.7	87.4	B		上・下端折

第285図 石棒・石剣 (12)



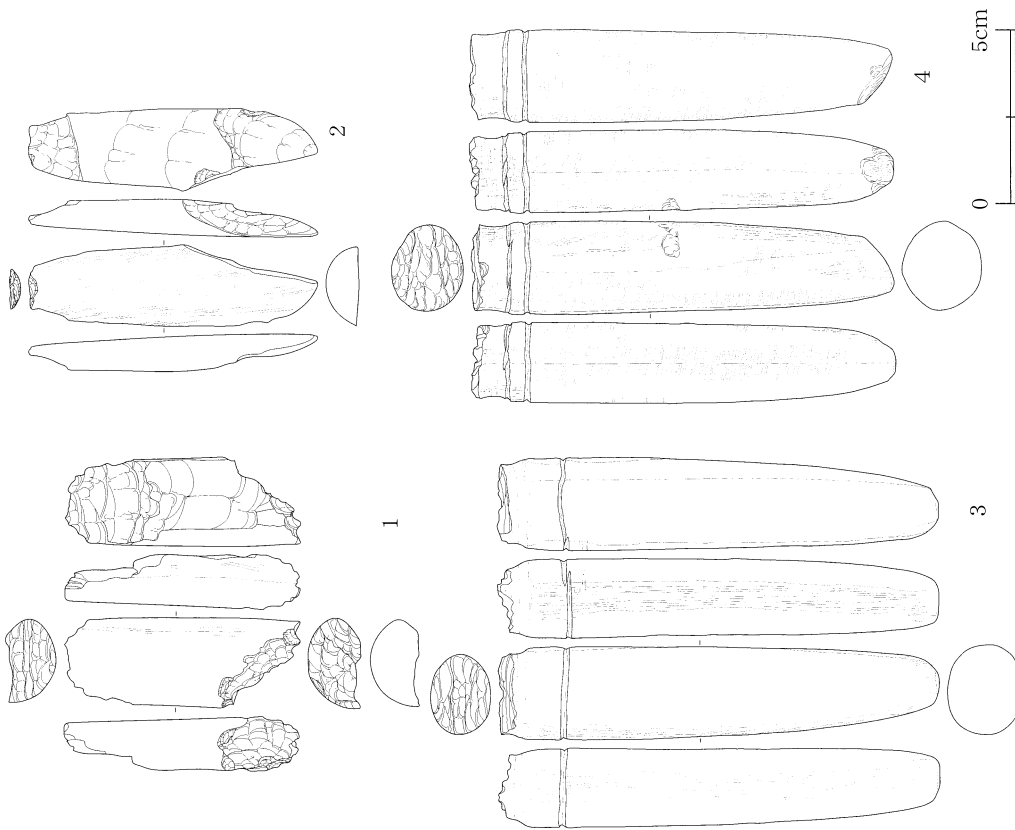
図版	番号	遺物	出土位置	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	断面	形文様	備考
284	1	9549	MB35		安山岩	211.0	43.6	41.5	533.9	B		上・下端折
284	2	15036	LC36		真岩	131.5	22.3	13.7	74.0	A		上・下端折
284	3	9571	MA35		真岩	59.3	26.5	21.4	56.0	B		上・下端折
284	4	9572	MD31		真岩	68.6	22.8	20.6	55.1	B		上・下端折

第284図 石棒・石剣 (11)



図版	番号	遺物	出土位置	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	断面	形・文様	備考
287	1	9527	MA27		頁岩	109.8	25.1	22.7	116.7	B		上端折
287	2	9537	MB28		頁岩	122.5	28.4	24.6	109.6	B		上端折・下端扶り有
287	3	9536	MA28		頁岩	144.5	20.6	18.8	87.9	B		上端折
287	4	15049	LN37		頁岩	118.1	26.4	10.7	49.5	A		上端折
287	5	15051	MB35		頁岩	95.3	17.2	12.5	28.0	B		上端折

第287図 石棒・石剣 (14)



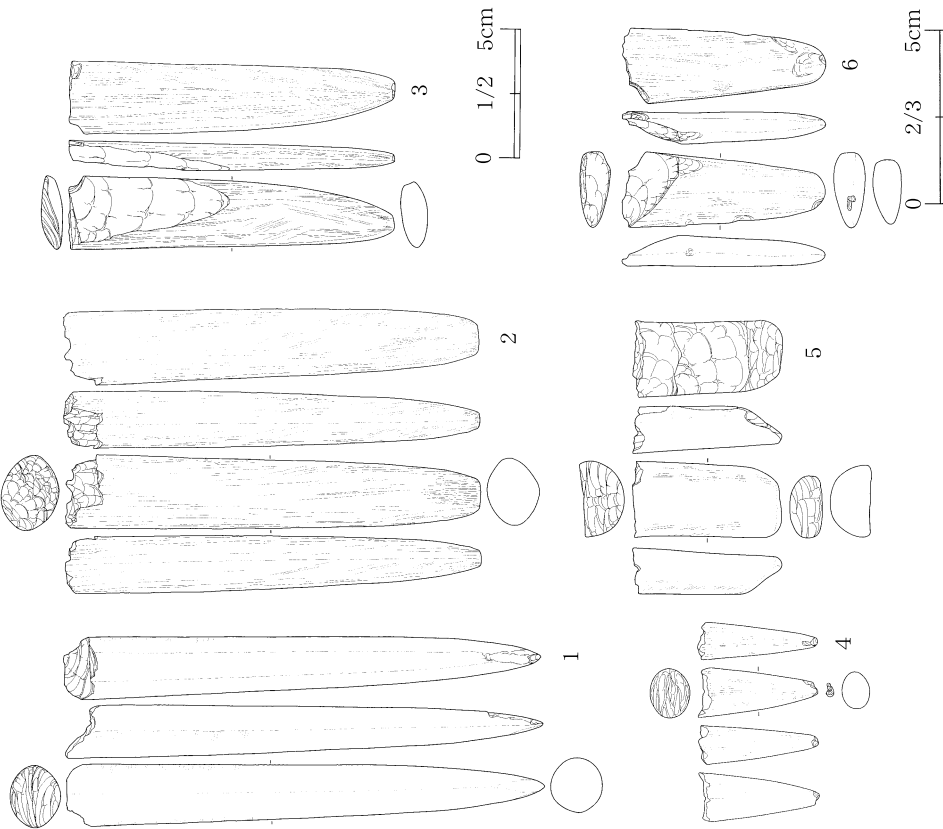
図版	番号	遺物	出土位置	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	断面	形・文様	備考
286	1	9573	LT33		頁岩	67.3	25.3	15.0	33.8	B		上・下端折
286	2	9561	LS35		頁岩	83.0	22.7	9.7	24.0	B		上・下端折
286	3	9538	LP34		頁岩	121.8	26.0	22.6	136.3	B		上端折
286	4	9529	LS26		頁岩	121.8	27.0	23.5	135.2	B		上端折

第286図 石棒・石剣 (13)



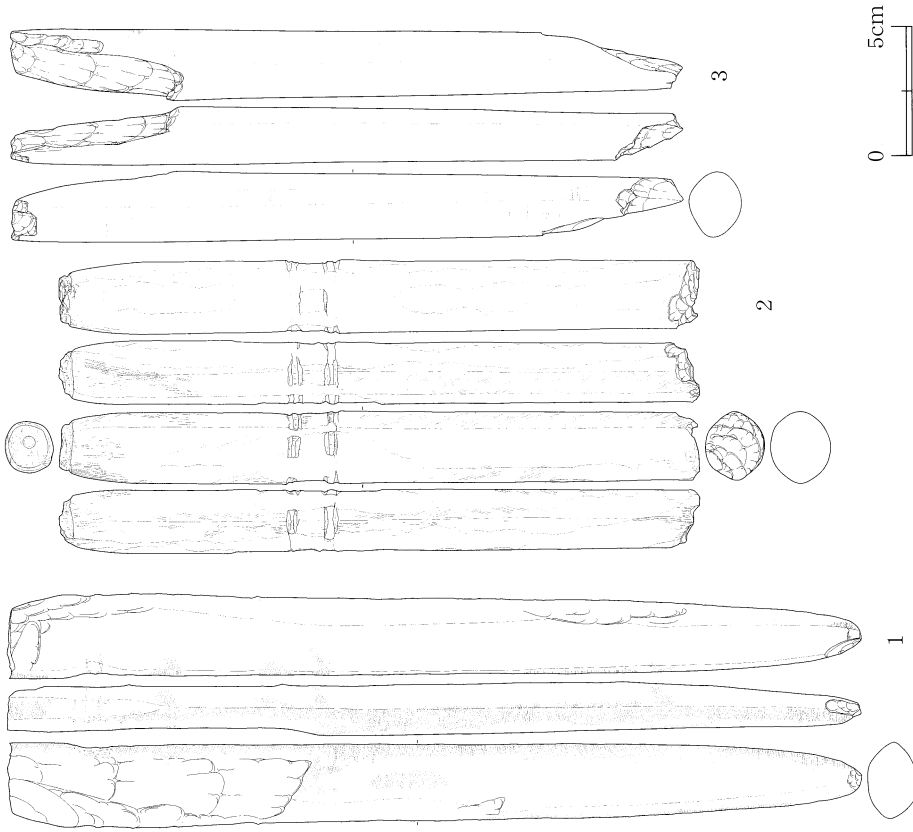
図版	番号	遺物	出土位置	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	断面	形文様	備考
289	1	9543	MD38		真岩	272.0	24.7	20.4	191.4	B		上端折
289	2	9548	MA27		ホルンフェルス	230.0	24.4	19.8	149.0	B		上端折
289	3	9547	MP25		真岩	238.0	21.8	18.0	129.6	B		上端折
289	4	9560	MP28		真岩	117.1	25.7	12.3	63.0	B		上端折
289	5	9562	LR34		真岩	120.6	26.4	7.2	38.3	A		上端折

第289図 石棒・石剣 (16)



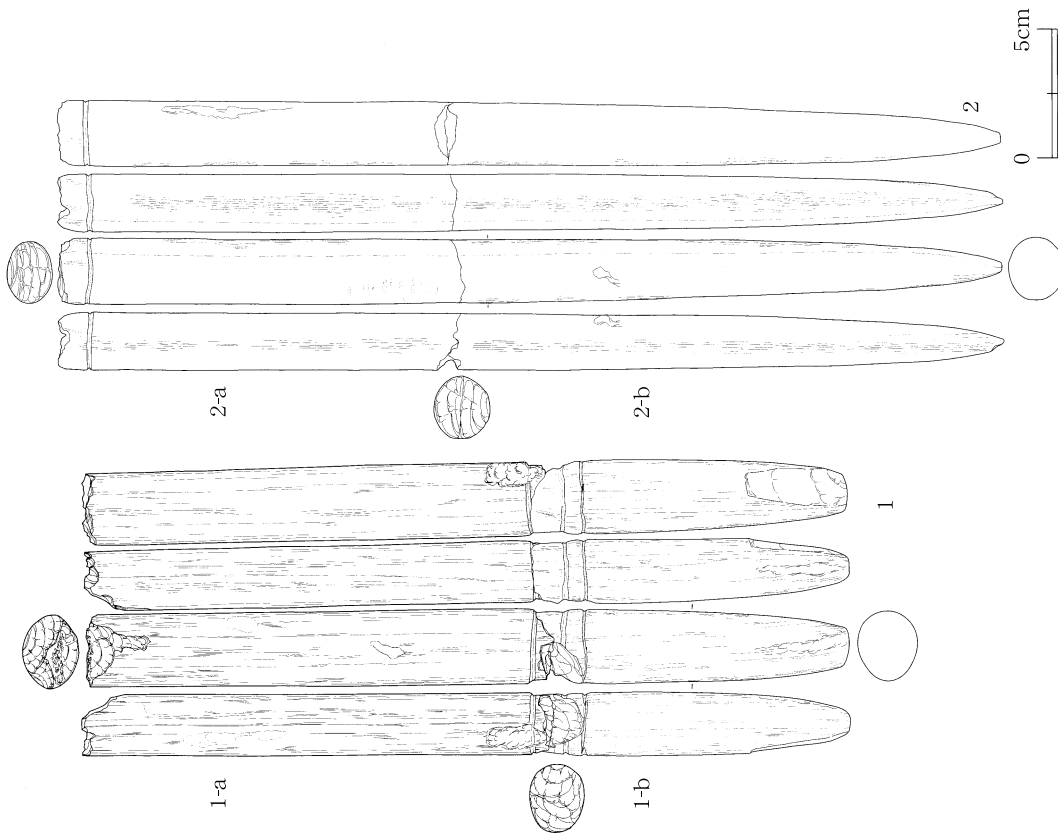
図版	番号	遺物	出土位置	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	断面	形文様	備考
288	1	9551	MC36		真岩	184.0	23.6	20.3	120.6	B		上端折
288	2	15033	MP26		真岩	160.0	28.7	22.0	149.4	A		上端折
288	3	102487	MG31		真岩	127.4	28.6	10.1	50.0	A		上端折
288	4	9582	LR35		真岩	34.5	12.9	10.1	6.1	B		上端折
288	5	9581	MA33		真岩	43.2	20.7	11.6	18.6	A	0	上端折
288	6	9424	MA27		真岩	57.6	20.1	7.4	14.0	A		上端折

第288図 石棒・石剣 (15)



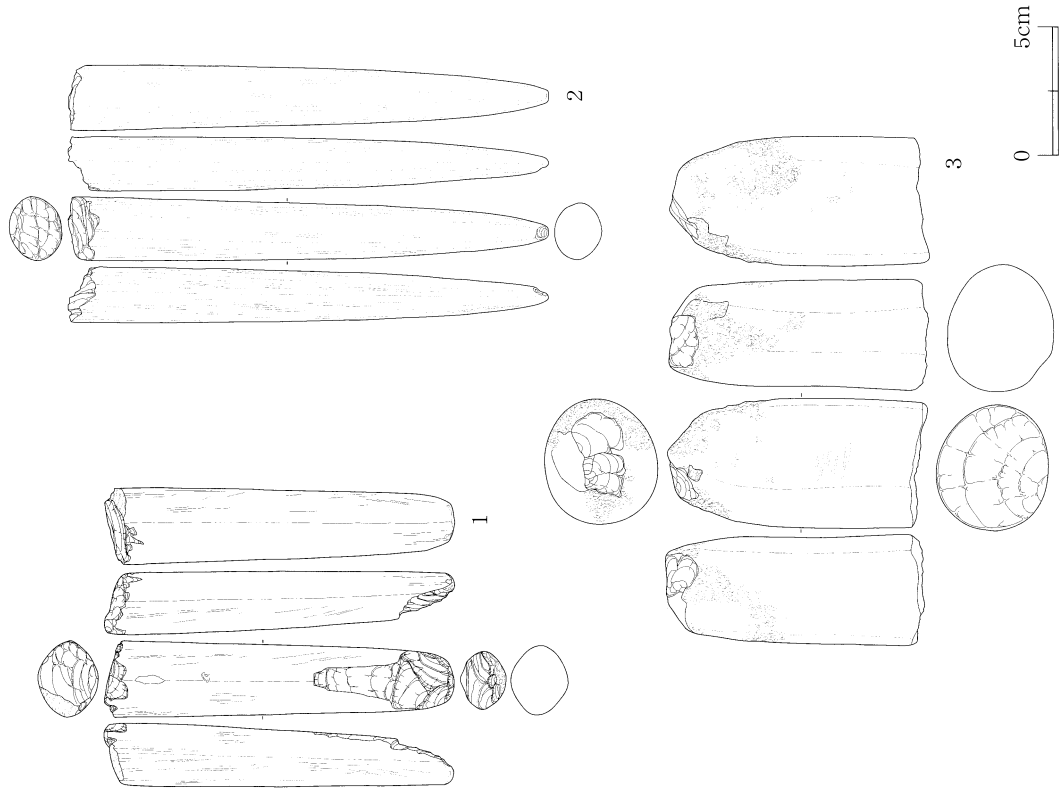
図版	番号	遺物	出土位置	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	断面	形文様	備考
291	1	15064	1R35	ホルンフェルス	333.0	32.0	19.7	328.8	A		上端折
291	2	9541	ME35	頁岩	250.0	26.3	22.5	316.4	B		下端折
291	3	9545	MA28	頁岩	262.0	25.6	21.5	222.5	B		下端折

第291図 石棒・石剣 (18)



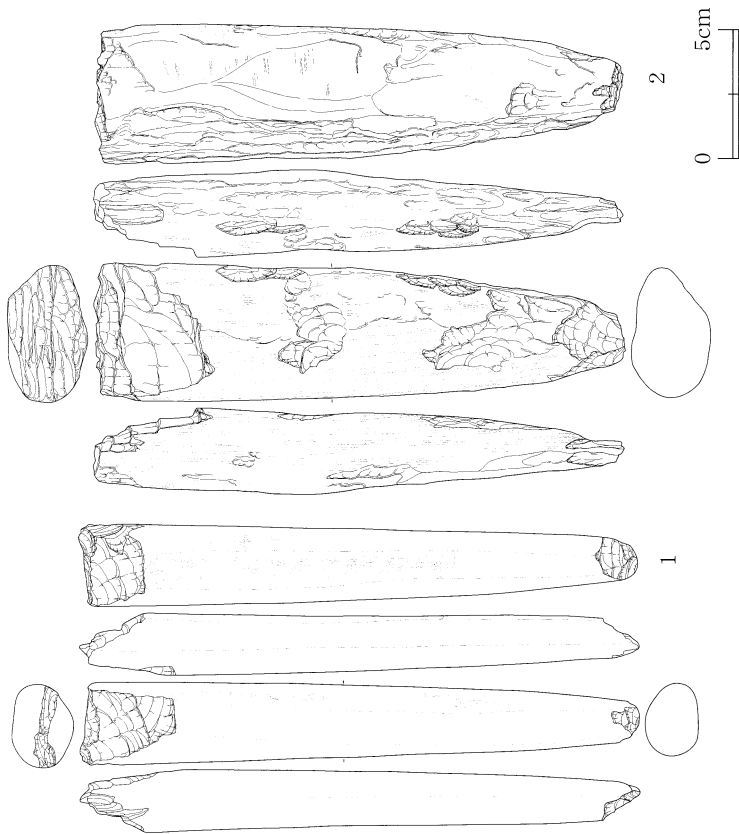
図版	番号	遺物	出土位置	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	断面	形文様	備考
290	1	9521+9537	MA, ME28	頁岩	295.0	29.0	24.0	302.4	B		9521と9537接合
290	1-a	9521	MA28	頁岩	183.0	29.0	24.0	193.4	B		接合品・上端折
290	1-b	9537	ME28	頁岩	123.0	28.3	24.0	109.0	B		接合品・上端折
290	2	104007	LP35	頁岩	369.0	25.7	22.4	359.0	B		9544と9544-a接合
290	2-a	9544	LP35	頁岩	155.0	25.7	22.4	185.0	B		接合品・上端折
290	2-b	9544-a	LP35	頁岩	214.0	24.0	21.2	174.0	B		接合品・上端折

第290図 石棒・石剣 (17)



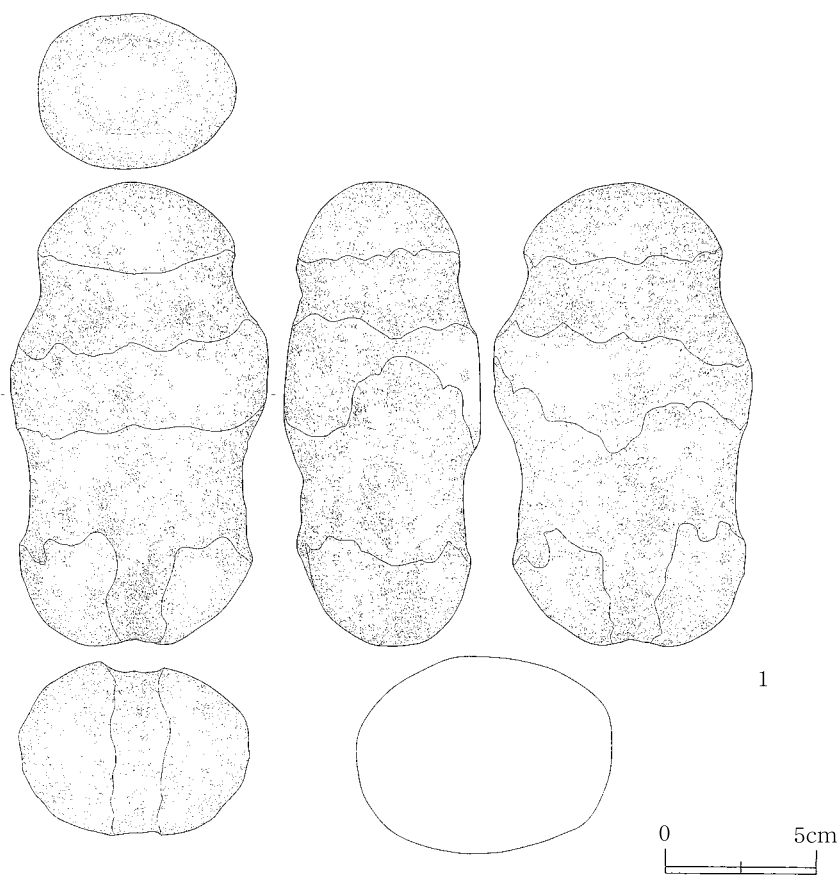
図版	番号	遺物	出土位置	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	断面	形・文様	備考
293	1	9525	MF31		頁岩	13.4	29.8	24.1	144.3	B		上端折
293	2	9524	MC28		頁岩	187.0	25.4	21.3	140.5	B		上端折
293	3	7727	MC37		輝緑岩	98.8	50.6	41.5	374.1	B		下端折

第293図 石棒・石剣 (20)



図版	番号	遺物	出土位置	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	断面	形・文様	備考
292	1	15061	ME28		頁岩	221.5	32.2	24.3	247.6	B		上端折
292	2	15067	MG31		安山岩	209.0	53.1	32.3	467.5	A		上端折

第292図 石棒・石剣 (19)



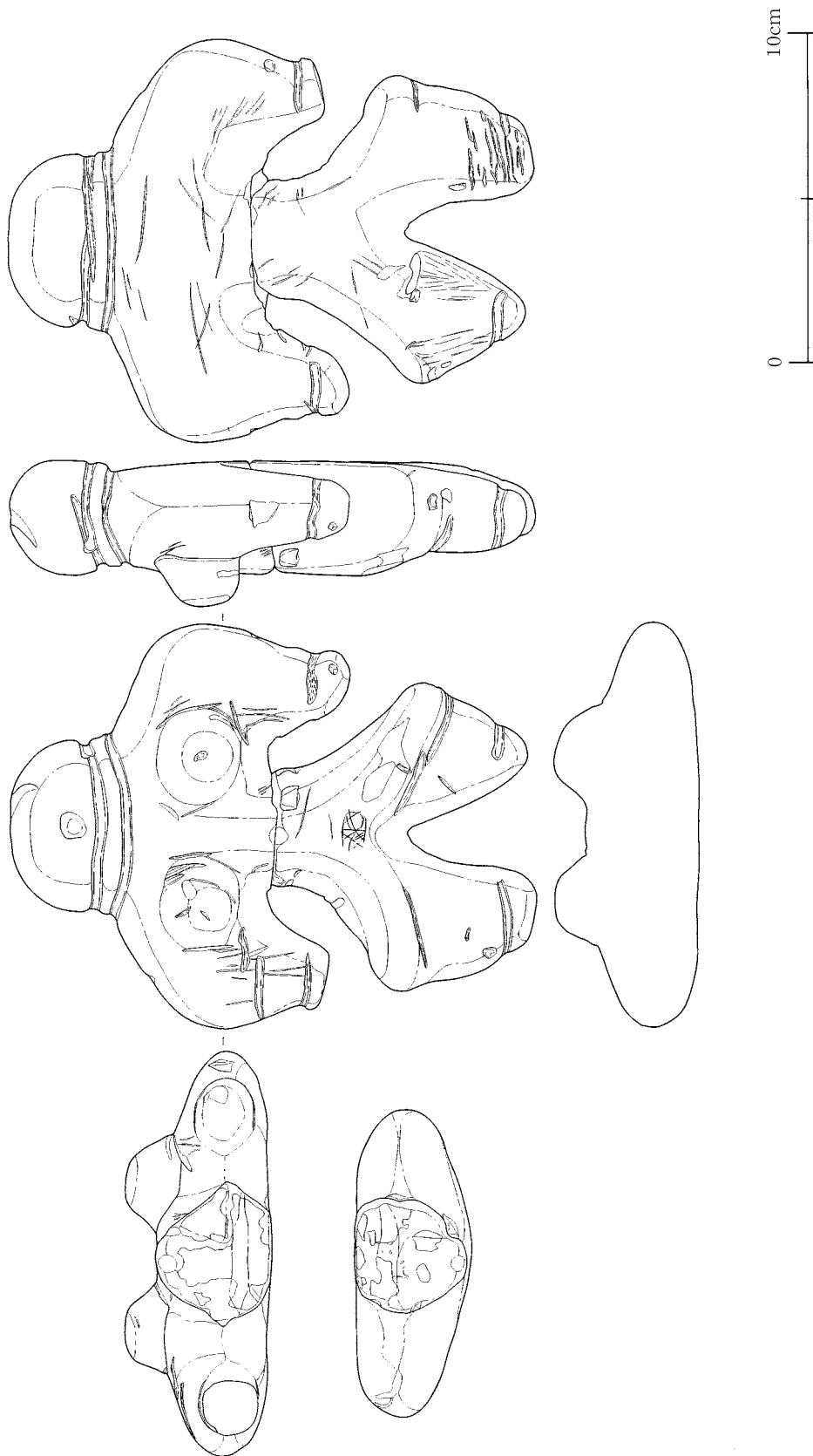
図版	番号	遺物	出土位置	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	備考
294	1	56031	MA31		安山岩	153.8	85.8	68.0	1160.0	

第294図 岩偶 (1)



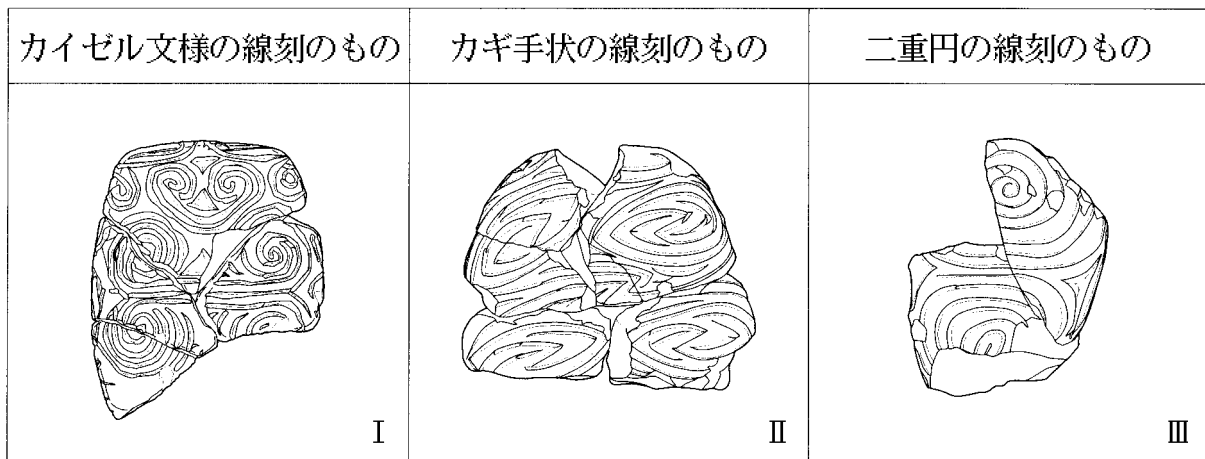
図版	番号	遺物	出土位置	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	備考
295	1	1206	MC28c		凝灰岩	99.0	81.0	45.5	72.0	

第295図 岩偶 (2)



図版	番号	遺物	出土位置	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	備考
296	1	692	LO35b	SN99下	凝灰岩	161.0	123.0	45.0	325.0	No.692~694接合

第296図 岩偶 (3)



第297図 岩版の分類

5 祭祀具・装身具・石製品

(1) 石棒・石剣

石棒・石剣は、全部で146点出土している。分類は、第272図に示した。

石棒・石剣の長さは、最大515.0mm、最小13.4mm、平均122.0mmで、65.1~75.0mmのものが16点11.0%と最頻値を示す。幅は、最大178.0mm、最小7.3mm、平均30.9mmで、25.1~30.0mmのものが54点37.0%と最頻値を示す。厚さは、最大160.0mm、最小3.4mm、平均20.7mmで、20.1~25.0mmのものが43点11.0%と最頻値を示す。重量は、最大15,300.0g、最小2.2g、平均311.6gで、50.0g以下のものが57点39.0%と最も多い。石棒・石剣の各サイズ分布は第273図・第78表に示した。

大形石棒は完形だが、それ以外のものは全て破損している。第279~280図の接合例を見ると、3分割以上されている。破損後、適当なサイズのものを選んで楔形石器や打製石斧に転用されている物がある。第284図1は、破損面を再調整して打製石斧とした物である。また第286図1・2は、楔形石器となっている。

(2) 岩偶

3点出土している。第294図は石棒に類似した平面形を呈するが、末端中央部には脚部を意識した作り出しをしている。全面を敲打によって整形している。安山岩製である。第295~296図は凝灰岩製である。第296図の岩偶は3分割されて出土した。胴部破損面にはアスファルトによる補修がされていた。

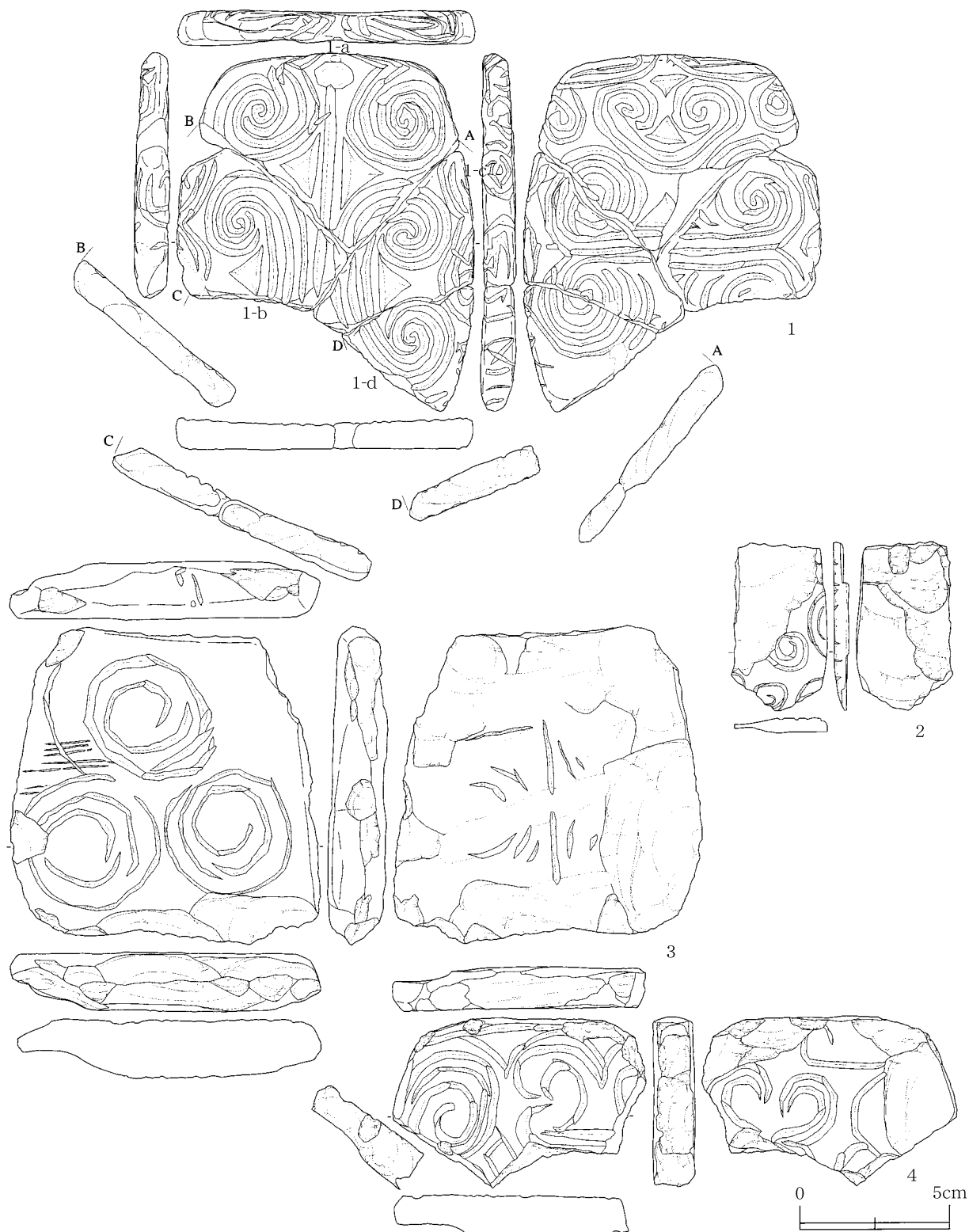
(3) 岩版

文様で3分類した。いずれも軟質凝灰岩製で、鋭利な工具によって線刻を施し、三叉文や入組文を描き出している。赤彩される資料も多い。

全て、分割されており完形品で出土することはごくまれである。文様があることから1個体に復原することが比較的容易で、石棒よりも接合率が高い。第298~301図に提示した。

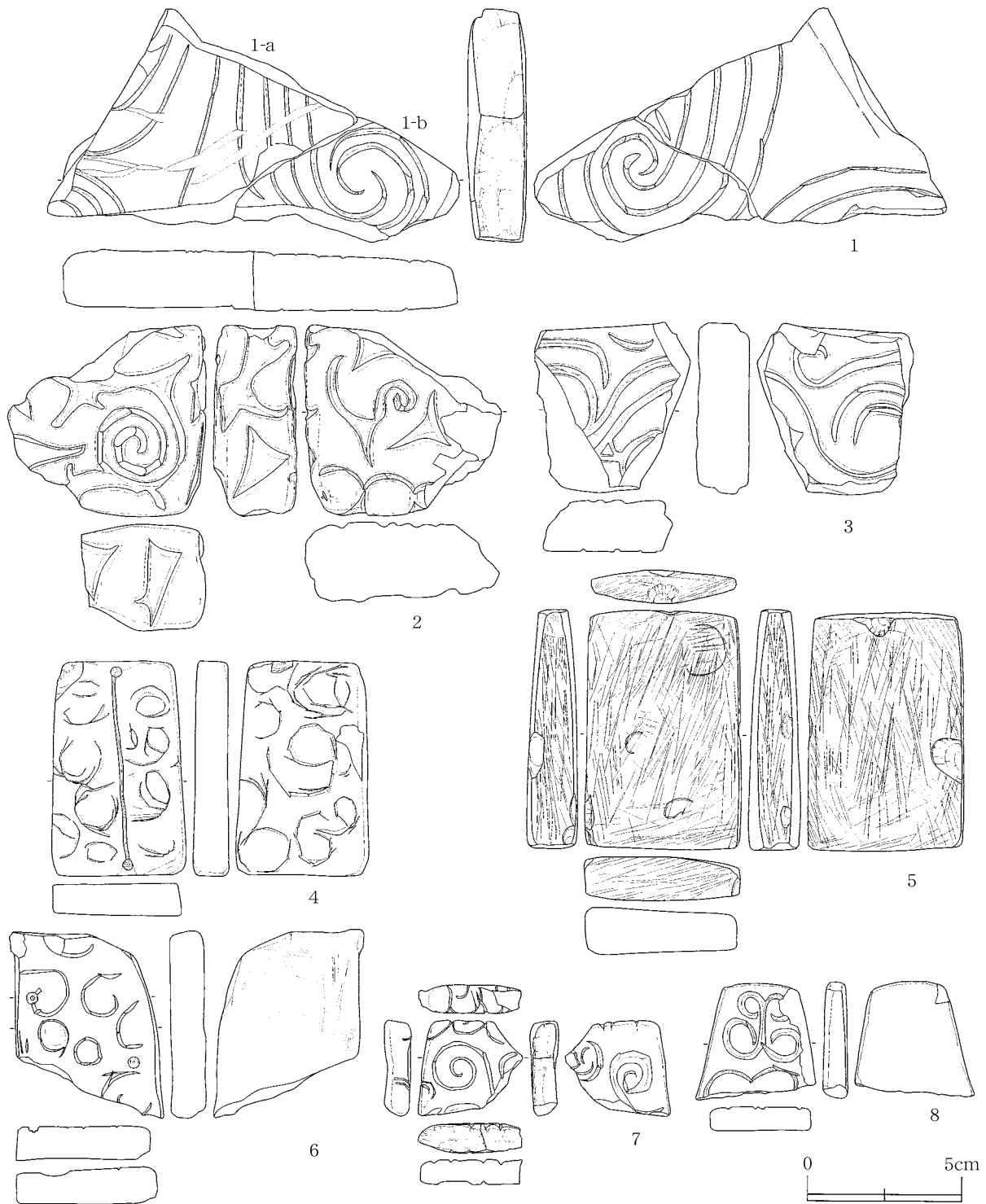
(4) 異形石器

異形石器は全部で54点出土している。形状はバリエーションが多く分類は困難であるが、平面形で



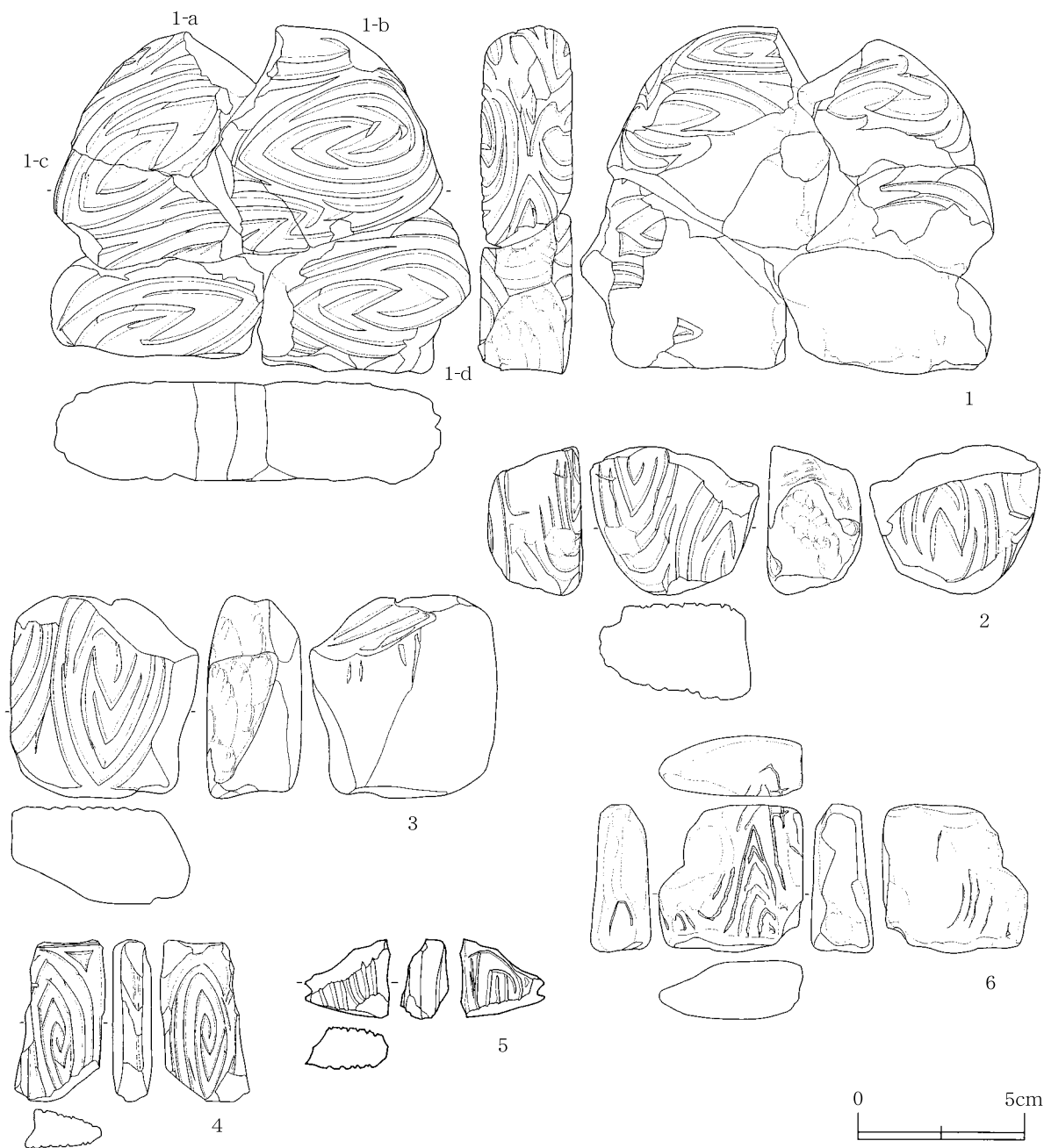
図版	番号	遺物	出土位置	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	分類	備考
298	1	102641	LP35		凝灰岩	116.1	98.6	11.0	76.9		接合品 朱塗り
298	1-a	102641	LP35		凝灰岩	65.5	86.2	10.1	31.3		接合品 朱塗り
298	1-b	102641	LP35		凝灰岩	53.0	55.9	11.0	19.4		接合品 朱塗り
298	1-c	102641	LP35		凝灰岩	43.6	60.8	10.3	16.0		接合品 朱塗り
298	1-d	102641	LP35		凝灰岩	41.6	38.4	10.4	102.0		接合品 朱塗り
298	2	56063	MD26		凝灰岩	55.2	131.2	5.6	11.0		
298	3	102642	MA30		凝灰岩	102.6	103.6	19.6	263.5		
298	4	103681	NL29		凝灰岩	54.6	82.9	13.8	77.0		

第298図 岩版(1)



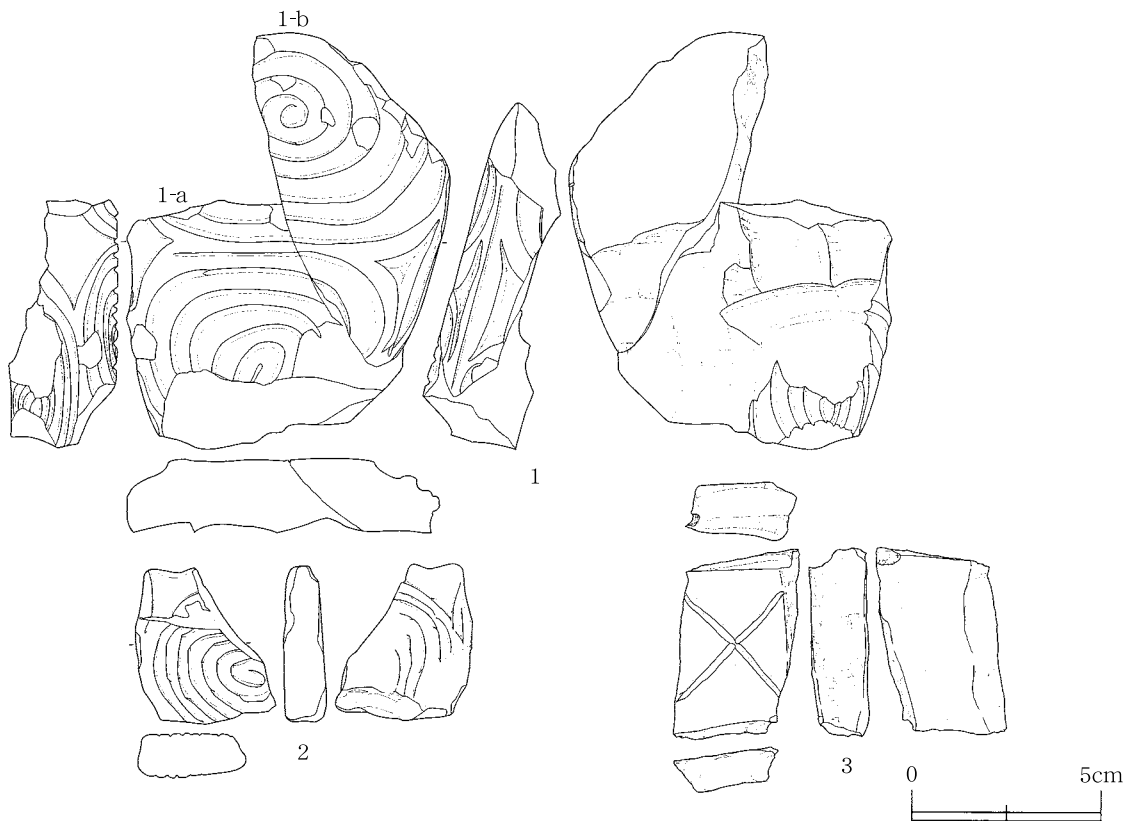
図版	番号	遺物	出土位置	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	分類	備考
299	1	56039+56049	LO35		凝灰岩	70.9	134.0	20.6	114.0		56039と 56049接合
299	1-a	56039	LO35		凝灰岩	70.9	105.1	20.6	81.5		
299	1-b	56049	不明		凝灰岩	39.2	73.3	19.9	32.5		
299	2	56047	LO34		凝灰岩	62.6	63.5	28.4	74.1		
299	3	56050	LO32		凝灰岩	55.6	40.3	16.8	42.0		
299	4	56053	LR44	砂層下	凝灰岩	69.2	43.7	11.8	49.0		
299	5	56052	MD36		凝灰岩	78.9	52.5	17.4	104.0	?	線状痕
299	6	56055	LQ33		凝灰岩	59.5	46.3	12.2	37.5		
299	7	56061	LQ34		凝灰岩	31.1	32.4	9.8	11.0		
299	8	56058	LP32	A	凝灰岩	39.0	38.0	8.3	15.9		

第299図 岩版 (2)





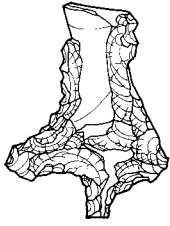



図版	番号	遺物	出土位置	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	分類	備考
300	1	104001	不明		凝灰岩	110.0	127.2	32.5	281.4		56033～56036接合
300	1-a	56034	不明		凝灰岩	60.4	67.6	31.2	70.2		接合品
300	1-b	56033	不明		凝灰岩	67.7	71.6	32.5	94.5		接合品
300	1-c	56036	不明		凝灰岩	40.3	63.8	32.1	46.9		接合品
300	1-d	56035	不明		凝灰岩	55.2	70.4	32.0	69.8		接合品
300	2	56038	MJ24		凝灰岩	42.2	54.0	29.3	36.3		
300	3	56037	MJ24		凝灰岩	60.5	55.8	30.5	70.0		
300	4	56057	MC32		凝灰岩	49.4	24.9	12.5	11.8		
300	5	56062	LT25		凝灰岩	22.1	25.3	13.3	4.2		
300	6	103682	LO37		凝灰岩	42.8	44.4	18.0	22.4		

第300図 岩版 (3)



図版	番号	遺物	出土位置	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	分類	備考
301	1	104002	LN36		凝灰岩	93.9	105.4	28.3	142.4		56048と 56051接合
301	1-a	56051	LP37		凝灰岩	78.3	67.2	28.3	83.8		接合品
301	1-b	56048	LN36		凝灰岩	93.9	46.1	21.4	58.6		接合品
301	2	56059	MB40		凝灰岩	42.4	34.0	11.7	12.7		
301	3	102501	MI25		頁岩	49.8	29.8	15.1	30.6		

第301図 岩版 (4)

トカゲ形状のもの	動物形状のもの	ドリル状部位のあるもの
 <p style="text-align: right;">I</p>	 <p style="text-align: right;">II</p>	 <p style="text-align: right;">III</p>
三日月形状のもの	クチバシ様ドリル状のもの	ロケット形状のもの
 <p style="text-align: right;">IV</p>	 <p style="text-align: right;">V</p>	 <p style="text-align: right;">VI</p>

第302図 異形石器の分類

大きく6種類に分けた(第302図)。四足獣の様に見える・類や、中期末から後期前半に多く作られる三脚石器の系譜を引く類などがある。第303～305図に示した。

(5) 円盤状石製品

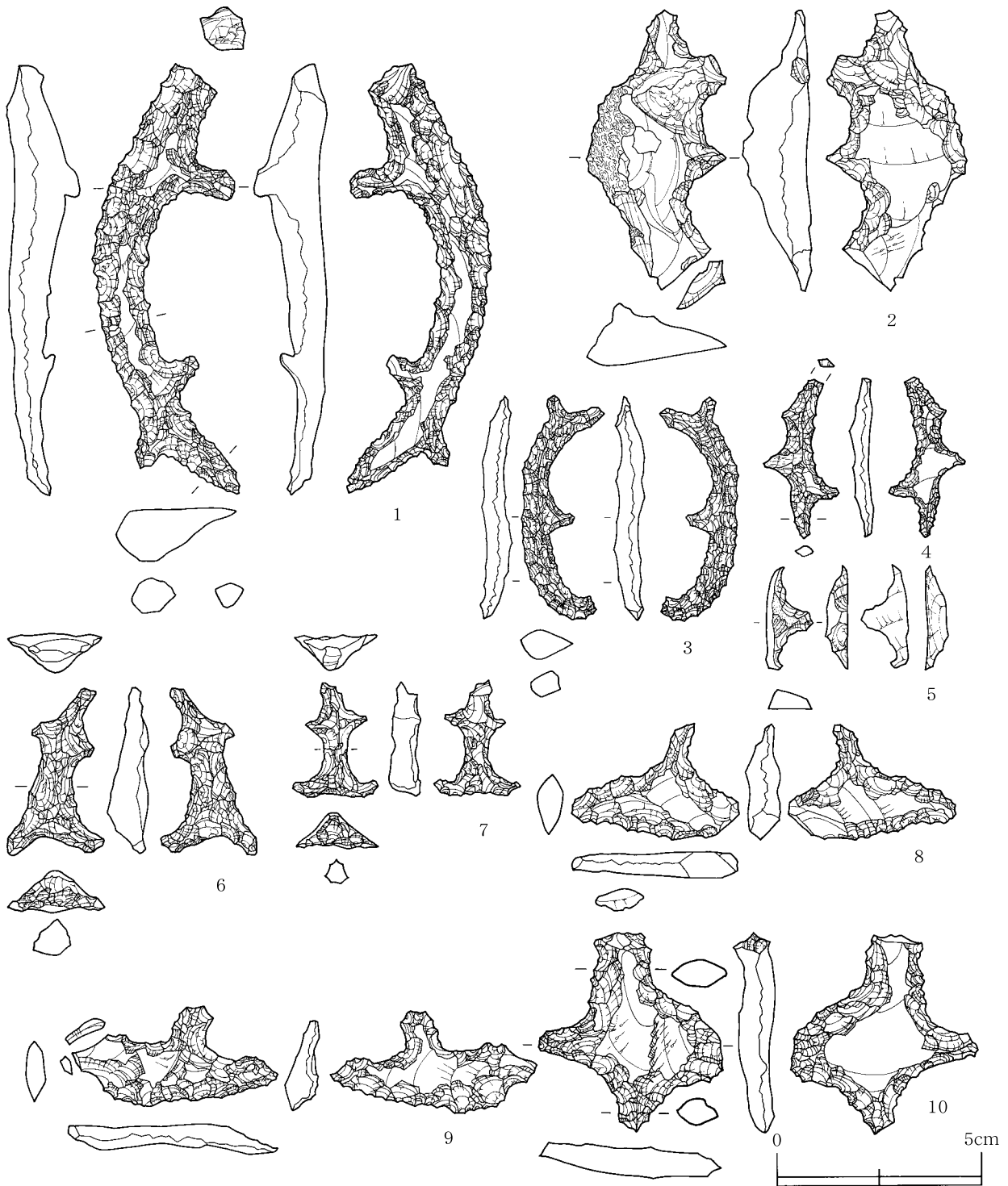
円盤状石製品は、全部で90点出土している。周囲を打ち欠いただけのA類と周囲を研磨したB類の二種類がある(第306図)。

使用石材は、頁岩、玄武岩、輝石安山岩の板状の原礫や粗割剥片を用いる。水平に発達する石材の節理面を、背腹面に対して平行になるようにして用いる。したがって円盤状を形成するための側面調整は、節理面に直交するように施される。「石の目」に反しての調整であるから、調整剥片は小形の横長貝殻状となる。

円盤状石製品の長さは、最大110.9mm、最小28.8mm、平均58.8mmで、55.1～60.0mmのものが14点15.6%と最頻値を示す。幅は、最大101.1mm、最小17.2mm、平均52.9mmで、45.1～50.0mmのものが15点16.7%と最頻値を示す。厚さは、最大35.7mm、最小5.4mm、平均15.0mmで、10.1～15.0mmのものが30点33.3%と最頻値を示す。重量は、最大534.3g、最小5.2g、平均75.3gで、45.1～50.0gのものが12点13.2%と最も多い。円盤状石製品の各サイズ分布は第307図・第79表に示した。

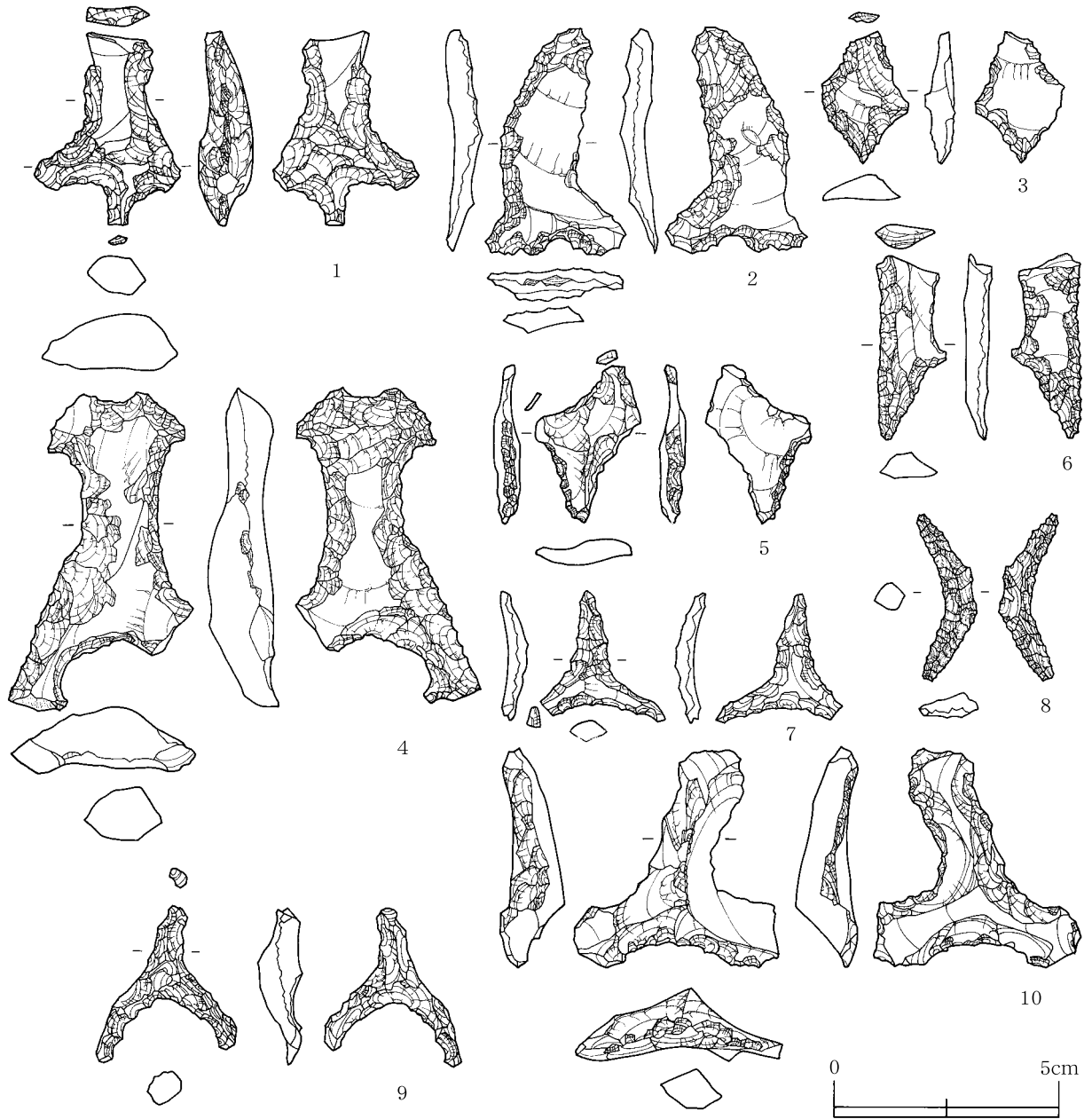
(6) 石球

石製品の中に敲打・研磨によって球形を作り出した球状石製品「石球」がある。成形技法は、敲打・磨石と同じであるが、形態がより球に近く「投弾」や儀礼的な祭祀具を思わせるため、別器種と



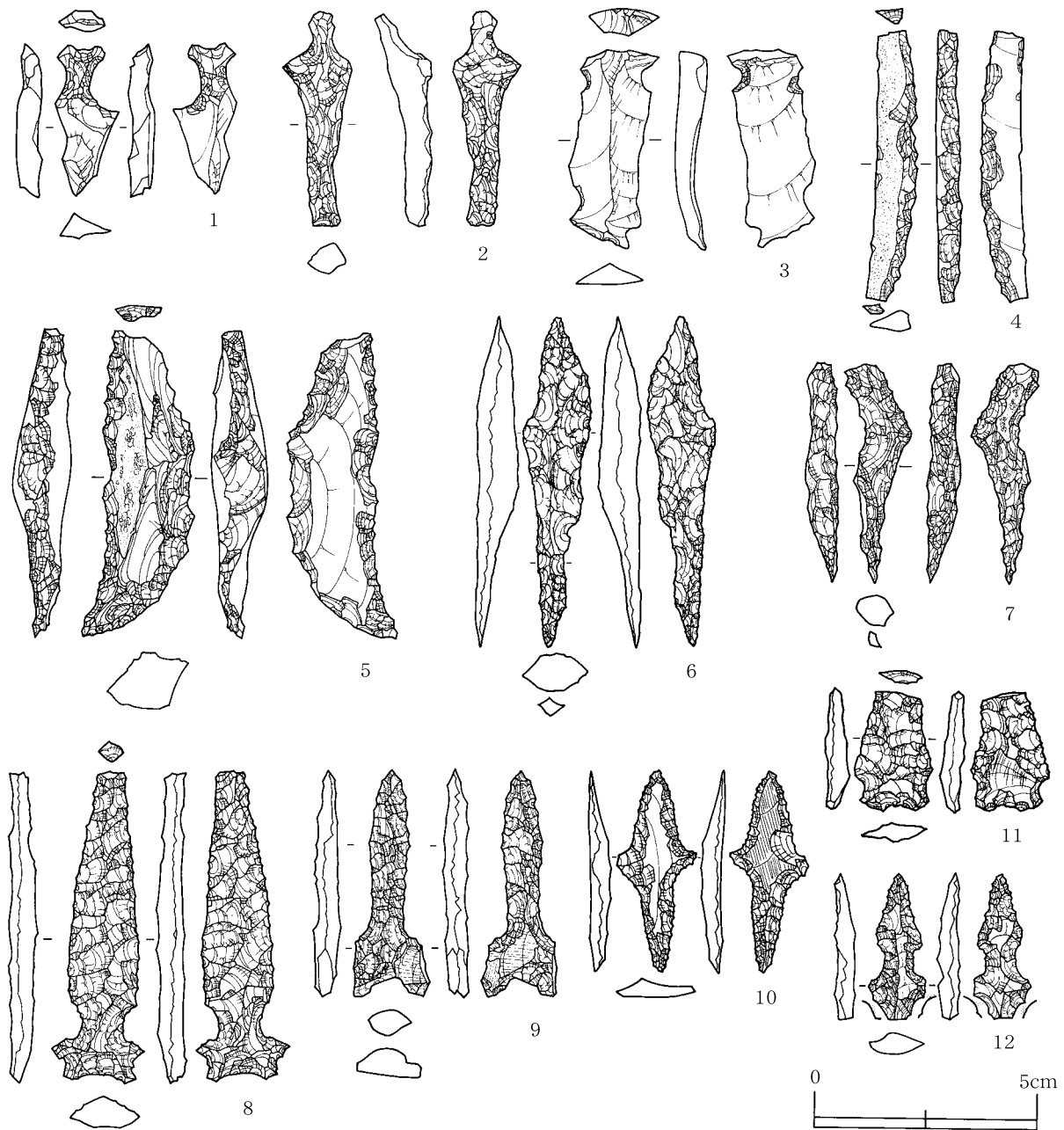
図版	番号	遺物	出土位置	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	分類	備考
303	1	102656	MB28		頁岩	105.0	32.0	13.8	27.4		
303	2	56074	MB32		頁岩	68.0	35.0	17.3	25.3		
303	3	102654	不明		頁岩	52.3	18.0	6.6	3.3		
303	4	56082	LR32		頁岩	37.5	17.8	4.3	1.6		
303	5	56084	LT28		頁岩	24.0	11.1	5.0	1.0		
303	6	56078	MC27		頁岩	43.2	22.3	10.1	5.3		
303	7	56083	LT35		頁岩	27.0	19.6	7.5	2.4		
303	8	69555	LN35		頁岩	28.5	39.8	6.5	6.4		
303	9	69556	LO35		頁岩	23.1	49.7	4.8	4.5		
303	10	56075	LP37		頁岩	49.0	45.0	8.6	15.1		

第303図 異形石器 (1)



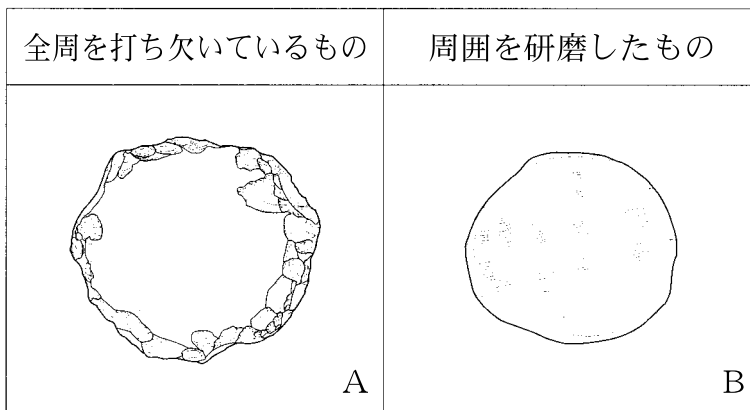
図版	番号	遺物	出土位置	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	分類	備考
304	1	56085	LO37		頁岩	42.0	32.8	12.7	11.4		
304	2	56086	LQ35		頁岩	33.4	12.8	6.2	2.2		
304	3	69557	LQ38		頁岩	28.4	18.6	5.9	2.3		
304	4	56073	MC27		頁岩	75.0	30.3	13.7	28.2		
304	5	56090	LS31		頁岩	34.6	23.4	6.2	3.3		
304	6	56088	LQ34		頁岩	41.0	14.6	6.4	3.3		
304	7	56077	LT33		頁岩	33.4	17.3	5.1	2.1		
304	8	102661	MB28		頁岩	51.8	17.1	6.3	3.2		
304	9	56076	LT32		頁岩	37.2	30.5	8.6	3.5		
304	10	56072	LS37		頁岩	49.8	45.0	13.6	15.2		

第304図 異形石器 (2)



図版	番号	遺物	出土位置	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	分類	備考
305	1	56086	LQ35		頁岩	33.4	12.8	6.2	2.2		
305	2	56079	LS31		頁岩	48.4	14.9	9.0	3.9		
305	3	5687	LS34		頁岩	43.2	16.6	5.9	3.2		
305	4	56081	LP36		頁岩	59.7	8.9	5.6	3.3		
305	5	55926	LS33		頁岩	69.1	21.6	12.7	16.5		
305	6	102494	MJ35		頁岩	74.1	14.9	9.3	6.6		
305	7	55927	LS33		頁岩	48.4	10.0	7.6	3.5		
305	8	102658	MB28		頁岩	103.0	29.4	13.7	27.4		
305	9	102657	LO36		頁岩	68.4	18.9	6.7	7.2		
305	10	102659	LQ37		頁岩	43.8	17.5	4.6	2.0		
305	11	9213	MB25		頁岩	26.4	16.3	4.5	2.2		
305	12	102660	MC27		頁岩	32.0	12.5	4.6	1.6		アスファルト付

第305図 異形石器 (3)



第306図 円盤状石製品の分類

して分別した。全部で20点出土している。

石球の長さは、最大59.9mm、最小15.6mm、平均36.2mmで、40.1～45.0mmのものが4点20.0%と最頻値を示す。幅は、最大55.0mm、最小14.0mm、平均32.7mmで、25.1～30.0mmのものが6点30.0%と最頻値を示す。厚さは、最大50.7mm、最小9.3mm、平均28.1mmで、25.1～30.0mmのものが6点30.0%と最頻値を示す。重量は、最大141.1g、最小2.7g、平均49.7gで、30.1～35.0gのものが3点15.0%と最も多い。実測図はないが、石球の各サイズ分布を第312図・第80表に示した。

(7) 石冠

石冠は2点出土した。第313図1は、先述の岩偶(第294図)や磨製石斧(第194図)に似て、全面に敲打痕を残し、火を受けて変色している。第313図2は、次に述べる有孔石製品と製作法が似る。使用石材も同じで、軟質の緑色凝灰岩である。表裏上方に穿孔しているが、盲孔である。

(8) 有孔石製品

有孔石製品は、全部で29点出土している。これらは孔・溝の有無と平面形で、A～Dの4類に大きく分かれる。

A類は、1孔式のものである。勾玉状のものと球形を呈するものに、2細分できる。それぞれをA、A類とする。A類は5点17.2%、A類は2点6.9%である。

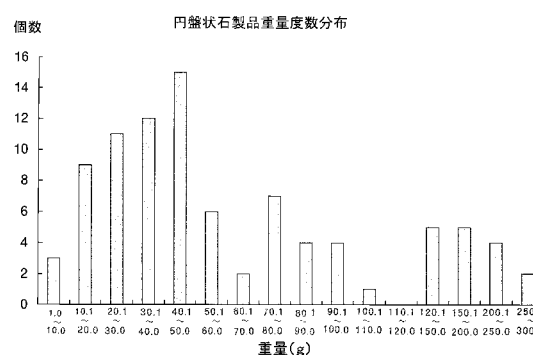
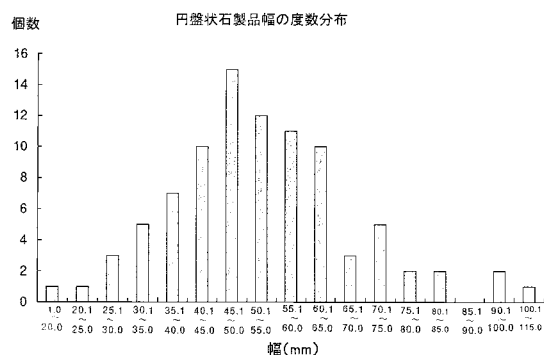
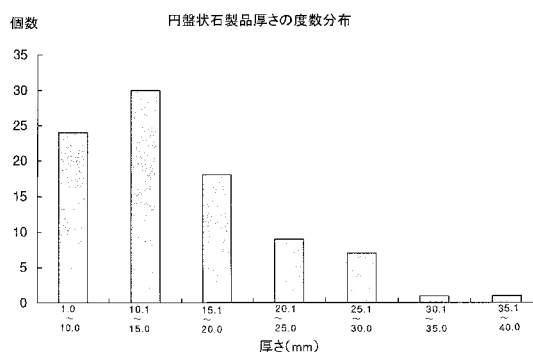
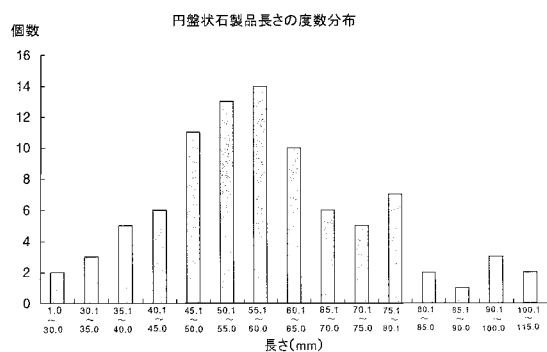
B類は、多孔式のものである。ボタン形、鯉節形(有孔)、鯉節形(有孔有溝)と、平面形と溝の有無で3細分できる。それぞれをB類、B類、B類とする。B類は3点10.3%、B類は10点34.5%、B類は1点3.4%である。

C類は、鯉節形で溝を持つものである。溝の付け方で細分できるが、ここでは一括した。5点17.2%である。

D類は、有孔石製品の素材で孔・溝を持たないものである。盲孔であっても孔を開ける意志が明瞭なもの未製品として各類型に分類した。本類とした3点10.3%は、研磨が終了した段階でストップしている。第319図6は、瑪瑙製で特に注目される。おそらく牙玉を意識したものと考えられる。

有孔石製品の長さは、最大91.4mm、最小8.6mm、平均46.1mmで、30.1～35.0mmのものが5点17.2%と最頻値を示す。幅は、最大59.7mm、最小8.9mm、平均23.6mmで、20.1～25.0mmのものが9点31.0%と最

第2章 捨て場と遺物



第79表 円盤状石製品サイズの特徴（全90点）

	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)
平均	58.824444	52.868889	14.956667	75.305495
最大値	110.9	101.1	35.7	534.3
最小値	28.8	17.2	5.4	5.2
範囲	82.1	83.9	30.3	529.1
最頻値	56~60mm	46~50mm	11~15mm	46~50g
最頻値個数	14	15	30	12
最頻値%	15.555556	16.666667	33.333333	13.186813
分散	279.95108	254.72644	39.955067	6291.5324
標準偏差	16.731739	15.960152	6.3210021	79.31918
尖度	1.2362234	0.8871531	0.3360547	12.27705
歪度	0.9218927	0.6270312	0.8551739	2.9309616

第307図 円盤状石製品サイズの特徴

頻値を示す。厚さは、最大22.5mm、最小4.0mm、平均11.9mmで、10.1～15.0mmのものが12点41.4%と最頻値を示す。重量は、最大73.4g、最小0.4g、平均19.4gで、31.0gのものが6点20.7%と最頻値を示す。有孔石製品の各サイズ分布は第315図・第81～87表に示した。

他に、形態が特異で、意図的に搬入されたと推定できる礫（「奇石」とする）もここに掲載した。

6 素材

(1) 赤礫（ベンガラ・鉄石英・鉄鉱石）

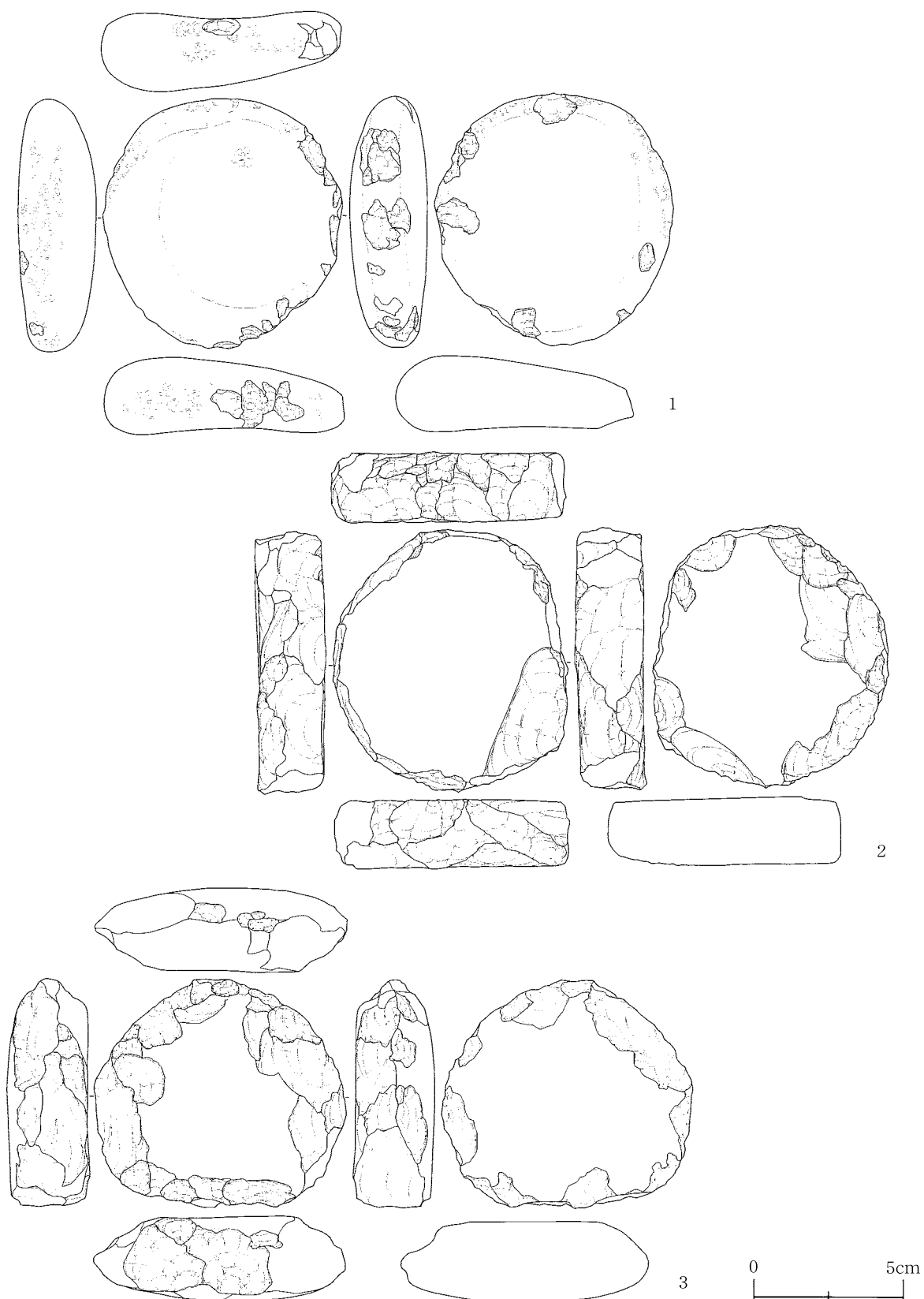
本遺跡から出土したベンガラ・鉄石英・鉄鉱石は、1,264点約17kg（16,962.35g）にも及ぶ。他遺跡と比べて異常な数値である。

本稿ではベンガラ・鉄石英・鉄鉱石を分離せず、便宜的に赤礫として一括している。その理由は、本体の大部分は未風化の鉄石英であっても外皮の一部は風化してベンガラとなっているものが多く、画一的な一線は引けないからである。さらにベンガラによる顔料生産の工程を考えたとき、内部が未



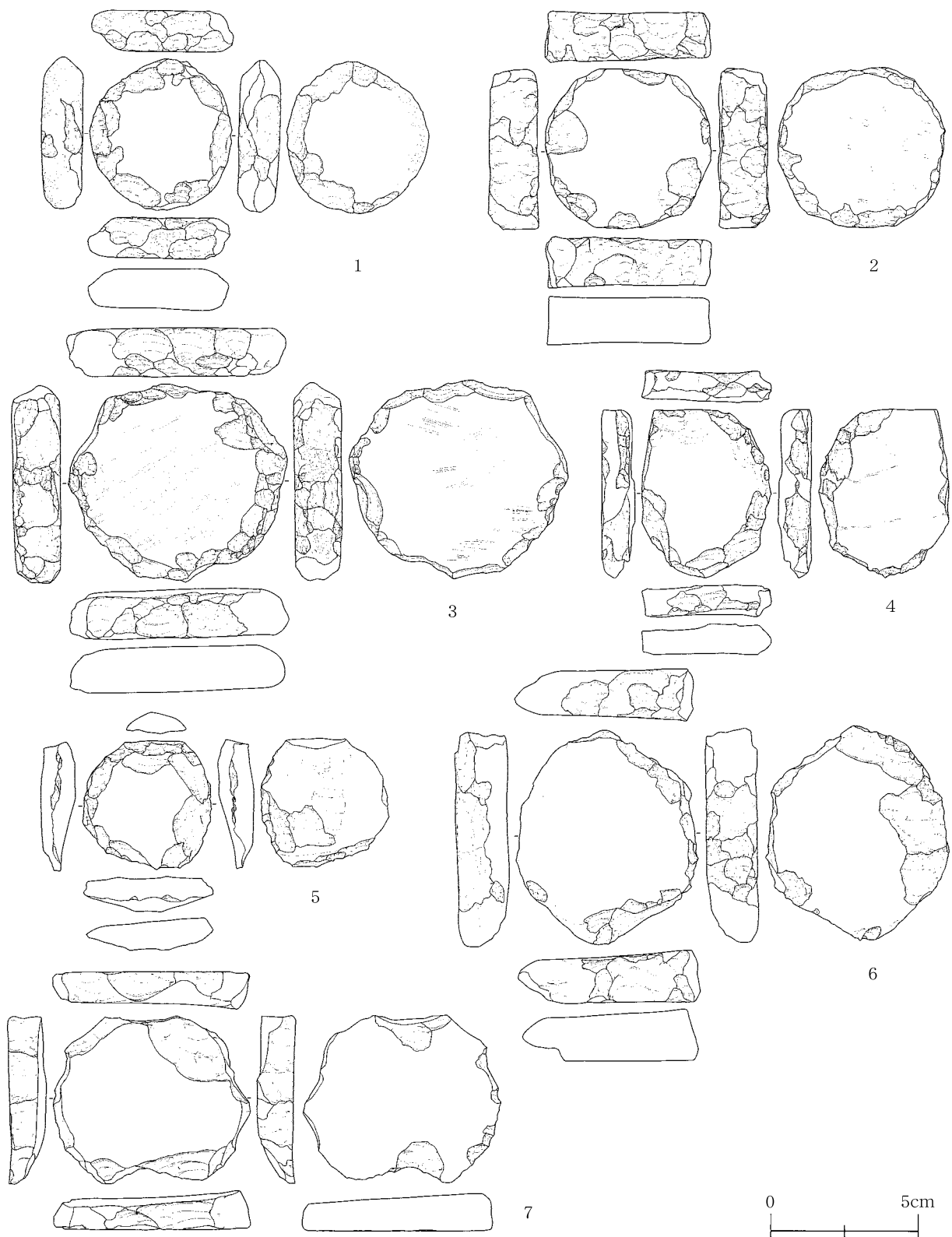
図版	番号	遺物	出土位置	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	分類	備考
308	1	2158	MD25		安山岩	74.3	76.8	25.2	237.2	A	
308	2	2139	ME38		輝石安山岩	70.5	72.8	29.7	245.8	A	
308	3	2156	LO31		流紋岩	93.5	82.0	27.1	295.2	A	一部未調整

第308図 円盤状石製品 (1)



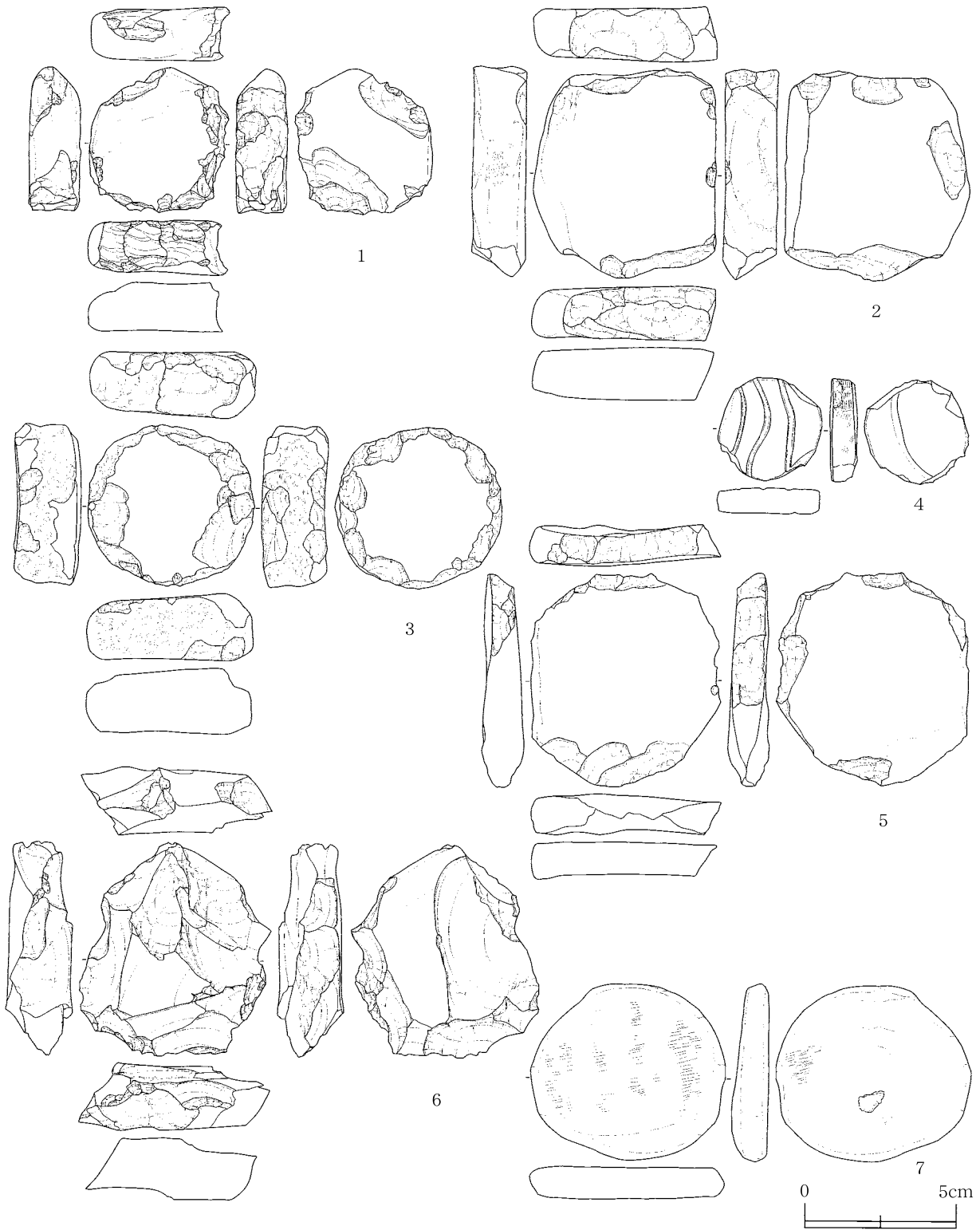
図版	番号	遺物	出土位置	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	分類	備考
309	1	2157	MD25		安山岩	82.0	82.6	26.5	245.7	A	一部末調整
309	2	2150	MB29		安山岩	86.2	79.5	22.6	278.3	A	
309	3	2138	LS37		輝石安山岩	76.1	85.4	28.3	283.1	A	

第309図 円盤状石製品 (2)



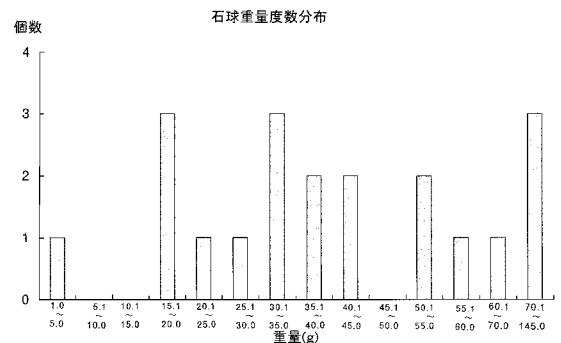
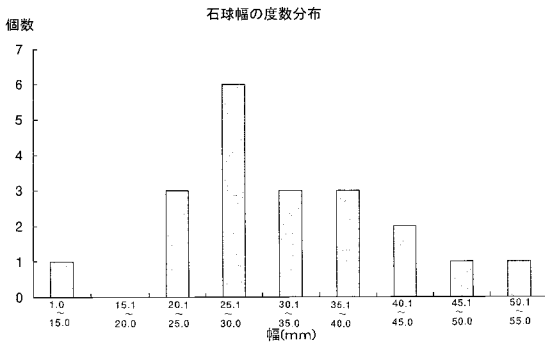
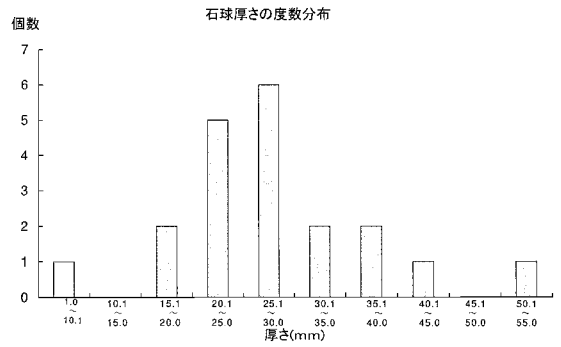
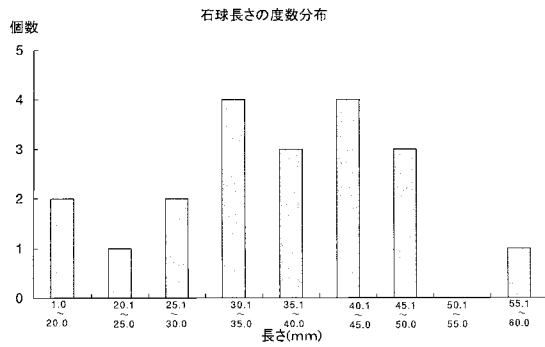
図版	番号	遺物	出土位置	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	分類	備考
310	1	2147	MB28		安山岩	50.2	49.5	13.8	51.9	A	
310	2	2140	MC22		安山岩	55.0	57.0	17.8	99.1	A	赤色顔料
310	3	2155	MC30		玄武岩	69.7	71.7	16.0	139.9	A	磨り痕有り
310	4	2130	MF32		頁岩	57.1	44.7	10.4	44.8	A	
310	5	2148	MD28		玄武岩	43.7	44.6	11.7	26.3	A	
310	6	2152	LO31		安山岩	72.2	62.1	19.1	124.2	A	
310	7	2131	LQ32		輝石安山岩	67.0	56.6	12.3	70.8	A	

第310図 円盤状石製品 (3)



図版	番号	遺物	出土位置	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	分類	備考
311	1	2160	MG38		頁岩	46.7	51.6	18.7	59.1	A	
311	2	2151	MA28		輝石安山岩	69.6	61.3	18.7	155.8	A	一部未調整
311	3	2142	MA29		輝石安山岩	56.7	51.5	21.8	109.7	A	
311	4	57426	LQ37		安山岩	34.5	33.5	8.8	10.6	B	線刻有り
311	5	2137	MA26		安山岩	64.1	71.0	12.8	92.3	A	一部未調整
311	6	2144	MB28		頁岩	68.3	61.1	21.6	104.0	A	
311	7	2574	LQ32		安山岩	65.5	58.1	13.1	49.1	B	擦痕有り

第311図 円盤状石製品 (4)



第80表 石球サイズの特徴 (全20点)

	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)
平均	36.245	32.74	28.065	49.665
最大値	57.9	55	50.7	141.1
最小値	15.6	14	9.3	2.7
範囲	42.3	41	41.4	138.4
最頻値	41~45mm	26~30mm	26~30mm	31~35g
最頻値個数	4	6	6	3
最頻値%	20	30	30	15
分散	115.6205	94.522526	94.703447	1489.3045
標準偏差	10.752697	9.7222696	9.7315696	38.591508
尖度	0.0095687	0.2560564	0.4885091	1.3225586
歪度	-0.123038	0.3994177	0.4455707	1.4477748

第312図 石球サイズの特徴

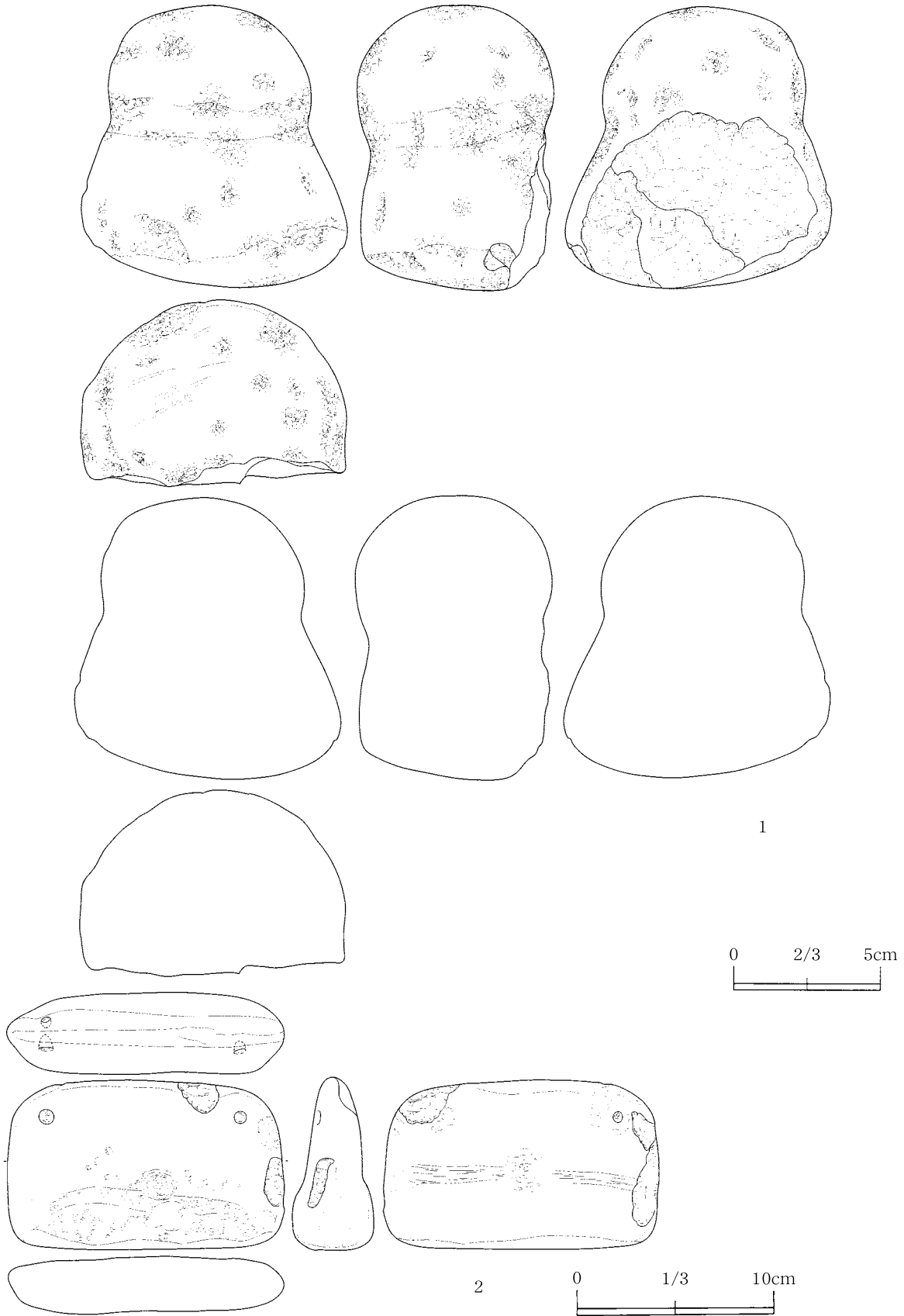
風化かどうかはあまり重要ではない。縄文人が目的とした部分は、外皮の風化部分である。

赤礫は、風化の度合いを3段階(強・中・弱)に分類し、さらに風化面における管状構造(表皮のあばた)の有無によって2細分した。風化の度合いは、表皮が「ベタツとした粘土状」を呈するもの=強、「指に赤い粉が付くもの」=中、「何も付かないもの」=弱とする。

風化度の強いものは433点34.3%、中のもの619点49.1%、弱のもの209点16.6%という内訳である。赤礫の1,052点83.4%には中以上の風化が認められる。遺跡には、度合いの強弱こそあれ風化したものが持ち込まれている。

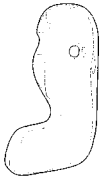




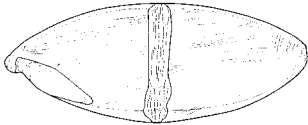

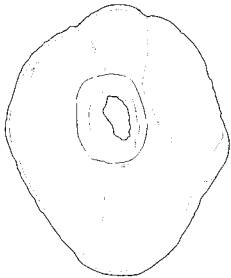
管状構造を持つものは1,021点81.0%に対して、持たないもの240点19.0%である。80%を超える赤礫に管状構造が認められる。風化度と同様に、表面に管状構造を持つことが、持ち込みの要因になっている。

では、風化度と管状構造の対応を見る。風化度の強弱に対する管状構造の有無は、風化度強+管状構造有り392点31.1%、風化度強+管状構造無し41点3.3%、風化度中+管状構造有り512点40.6%、風



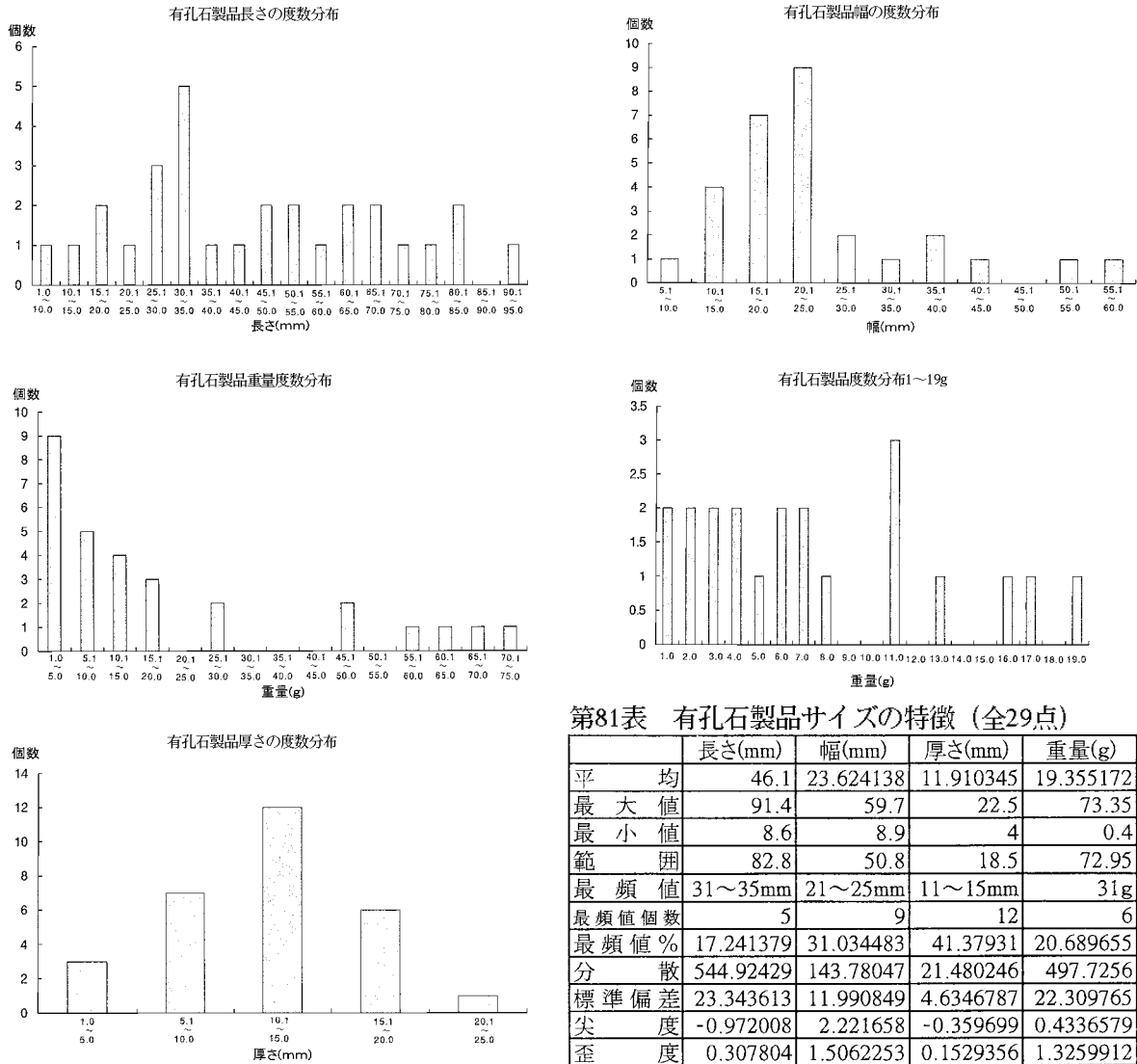
図版	番号	遺物	出土位置	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	備考
313	1	55928	MA37		安山岩	97.1	90.7	68.3	787.5	焼き跡有り
313	2	55929	MA31		凝灰岩	88.4	143.8	43.0	491.0	

第313図 石冠 (1)

	勾玉	玉
1孔のもの A	 I	 II
2孔のもの B I		
		
2孔+溝 B III		
溝加工のあるもの C		
孔なしの玉 D		
形態が特異な円礫 (奇石) E		

第314図 石製品の分類

第2章 捨て場と遺物



第81表 有孔石製品サイズの特徴 (全29点)

	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)
平均	46.1	23.624138	11.910345	19.355172
最大値	91.4	59.7	22.5	73.35
最小値	8.6	8.9	4	0.4
範囲	82.8	50.8	18.5	72.95
最頻値	31~35mm	21~25mm	11~15mm	31g
最頻値個数	5	9	12	6
最頻値%	17.241379	31.034483	41.37931	20.689655
分散	544.92429	143.78047	21.480246	497.7256
標準偏差	23.343613	11.990849	4.6346787	22.309765
尖度	-0.972008	2.221658	-0.359699	0.4336579
歪度	0.307804	1.5062253	0.1529356	1.3259912

第315図 有孔石製品サイズの特徴

化度中 + 管状構造無し92点8.5%、風化度弱 + 管状構造有り117点9.3%、風化度弱 + 管状構造無し92点7.3%となる。

管状構造を持つ赤礫の比率は、風化度の低下と一致して減少する(90.5% 56.0%)。それでも風化度強と風化度中では、管状構造を持つもの90.5%と82.7%を占めており、外皮状態における管状構造の有無が、原石獲得や遺跡持ち込みへの重要な条件であったことがわかる。このことは風化していない原石であっても、管状構造を持つものが少なくない(56.0%)ことから判明する。

風化度中、または弱でありながら管状構造が発達する92点は、観察結果が矛盾するようだが実在する。このような観察結果が出る理由は、外皮面に石英質の脈が縦横に走り、直径3mm内外のクレーターが多く開く蜂の巣状(石英脈が壁となる)で、各セル中に粘土状のベンガラがこびりついているからである。これらは背面からだけ見ていれば、内部までどれだけのベンガラが入っているものと期待させる産状を呈する。このような外皮面を持つものが持ち込まれていること自体、縄文人の赤礫選択基準が「管状構造を持つこと」にあったことは間違いがない。

第82表 有孔石製品A 類サイズの特徴(全5点) 第83表 有孔石製品A 類サイズの特徴(全2点)

	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)
平均	28.2	13.033333	5.5833333	4.925
最大値	46.9	22.2	10.2	16.8
最小値	17.7	10.3	4	0.9
範囲	29.2	11.9	6.2	15.9
分散	141.878	32.333	6.965	43.463
標準偏差	11.911255	5.6862114	2.6391286	6.5926474

	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)
平均	17.2	12.2	9.4	2.1
最大値	25.8	15.5	13.9	3.8
最小値	8.6	8.9	4.9	0.4
範囲	17.2	6.6	9	3.4
分散	147.92	21.78	40.5	5.78
標準偏差	12.162237	4.6669048	6.363961	2.4041631

第84表 有孔石製品B 類サイズの特徴(全3点) 第85表 有孔石製品B 類サイズの特徴(全10点)

	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)
平均	44.766667	27.466667	12.366667	20.6
最大値	77.9	36.5	16.4	49.8
最小値	25.8	16.5	9.3	1.8
範囲	52.1	20	7.1	48
分散	829.12333	102.80333	13.303333	657.12
標準偏差	28.794502	10.139198	3.6473735	25.634352

	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)
平均	52.9	27.08	15.59	30.265
最大値	91.4	50.5	22.5	73.35
最小値	12.3	12.4	8.5	2.4
範囲	79.1	38.1	14	70.95
分散	794.18889	168.65289	15.661	896.11503
標準偏差	28.181357	12.986643	3.9573981	29.93518

第86表 有孔石製品C 類サイズの特徴(全5点)

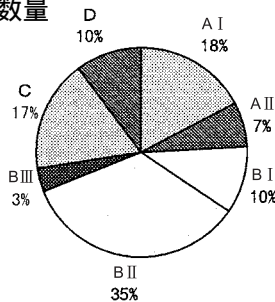
	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)
平均	52.34	29.02	9.34	16.55
最大値	74.3	59.7	12.9	45.8
最小値	18.6	16.1	6.1	3.45
範囲	55.7	43.6	6.8	42.35
分散	464.108	306.697	7.593	304.44
標準偏差	21.543166	17.512767	2.7555399	17.448209

第87表 有孔石製品D 類サイズの特徴(全3点)

	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)
平均	51.933333	20.9	14.133333	21.516667
最大値	64.9	22.1	15	29.85
最小値	31.3	18.5	13	5.2
範囲	33.6	3.6	2	24.65
分散	326.32333	4.32	1.0533333	199.70583
標準偏差	18.064422	2.078461	1.0263203	14.131731

第88表 有孔石製品形態別数量

形態	個数
A I	5
A II	2
B I	3
B II	10
B III	1
C	5
D	3



第316図 有孔石製品形態比率

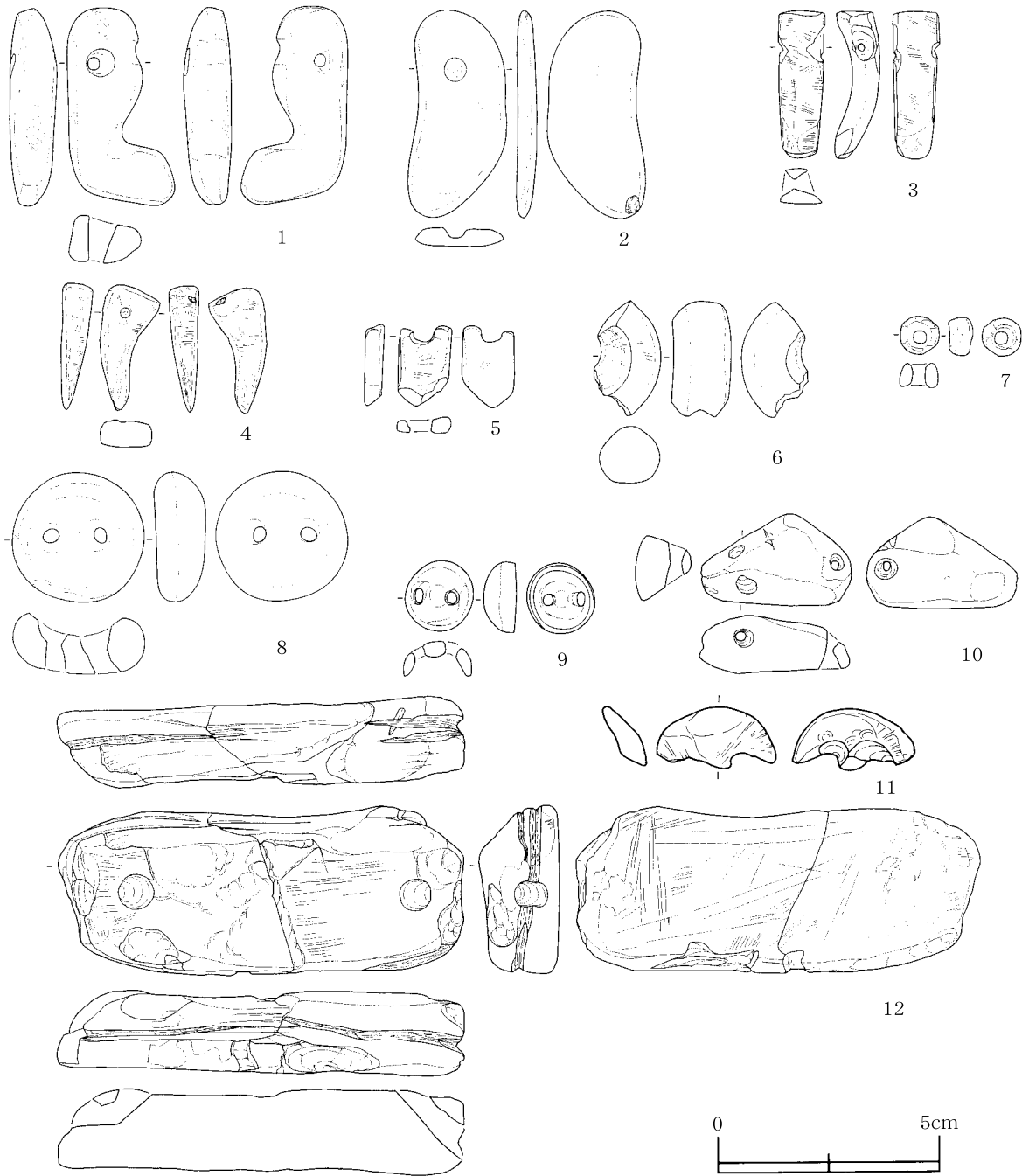
上述のように縄文人が、赤礫の外皮の状態を原料獲得の基準としていたことは、この素材に対する剥片剥離技術の選択制を大きく規定することになった。以下原石90点を除く、剥片884点と石核287点を分析対象とする。

赤礫石核と剥片の風化度百分率をF分布表により検定した。結果は、危険率99%で帰無仮説「風化度強の剥片は風化度強の石核に対して少ないとはいえない」を棄却することができた($F_s = 1.59 > F(0.01) = 1.24$)。すなわち風化度強の剥片比率45.4%は、風化度強の石核比率54.6%よりも明らかに少ない。これは、何を意味するのだろうか。

石核は廃棄物であるから、本来存在したであろう数量比を比較的よく残していると考えられる。また、剥片は一撃で割ったときに多くの剥片が飛び散るが、おなじ比率で割れると仮定すれば、石核と同様に本来存在した比率を大きく違えることはないはずである。

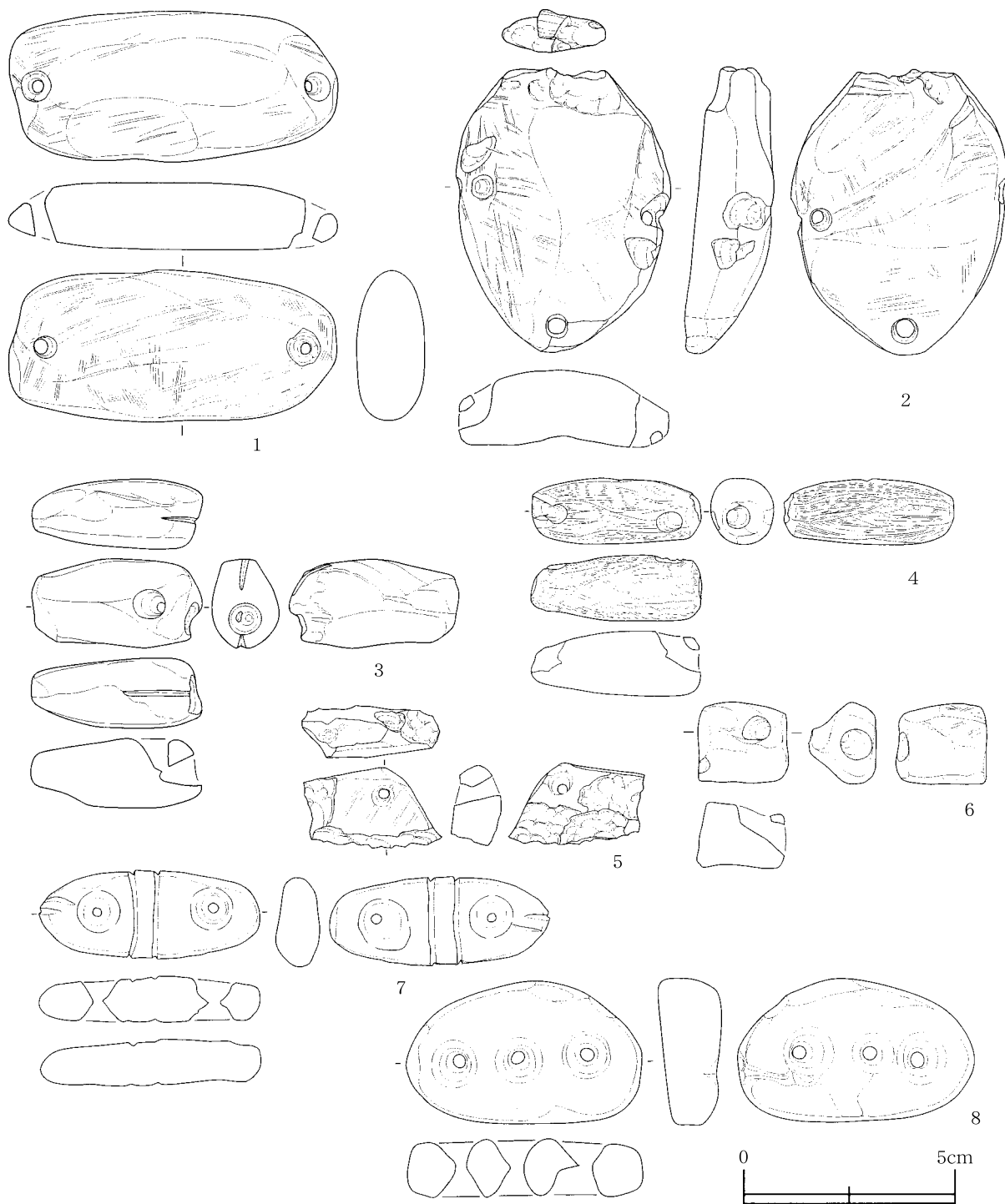
問題は風化度の強いものは石核の外側、風化度の弱い部分は石核の内側にあることから、剥片剥離の進捗と風化度の低下は比例することになるはずである。赤礫石核の目的剥片が、外皮風化度の強い部分であるならば、石核は外皮風化面が除去された段階で捨てられることになり、比率は風化度が弱いものが強いものに数量的に勝るはずである。

第2章 捨て場と遺物



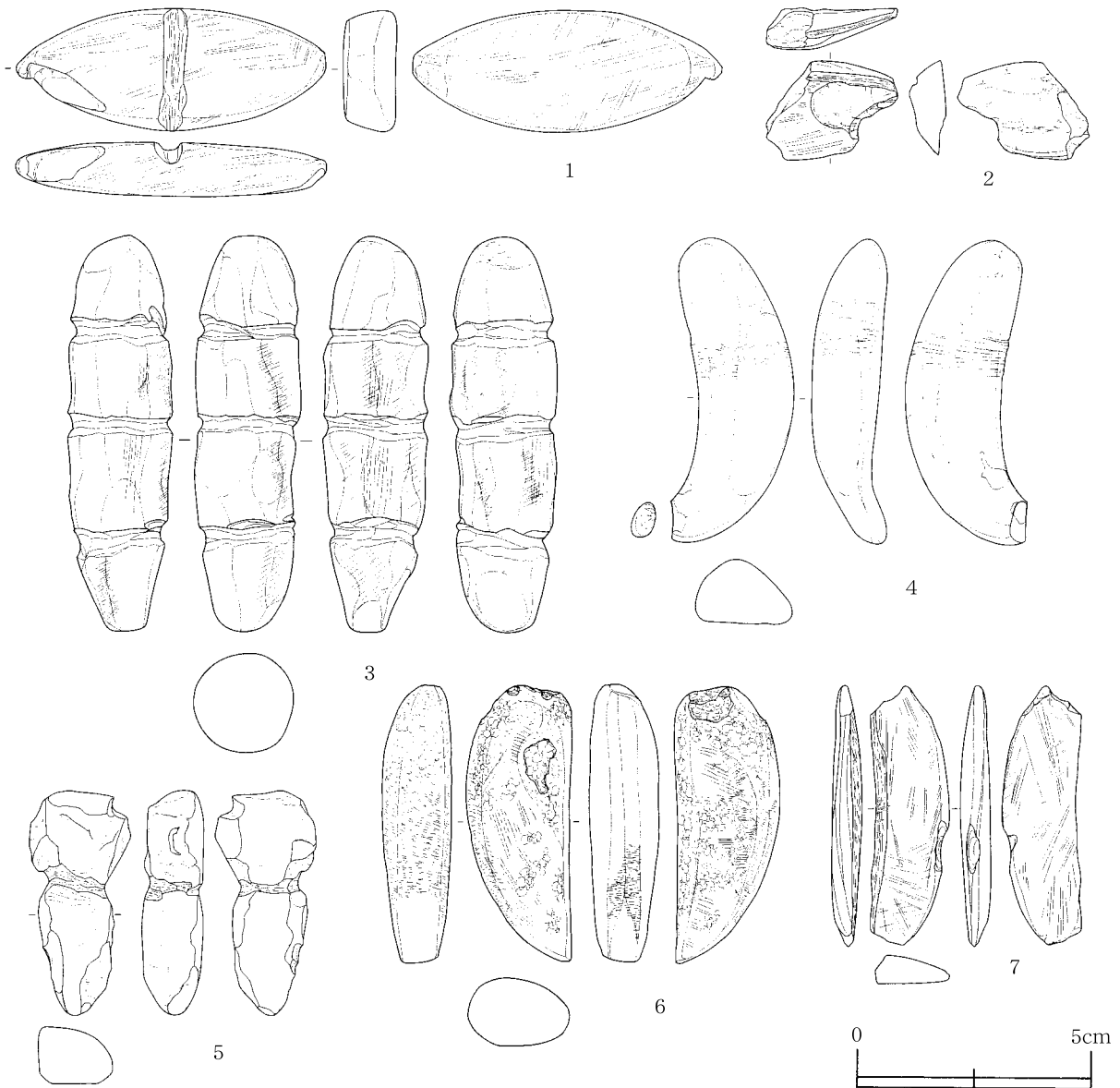
図版	番号	遺物	出土位置	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	分類	備考
317	1	7805	LQ34		変質流紋岩	43.7	22.2	10.2	16.8	A-	
317	2	102495	NK29		安山岩	46.9	21.4	4.0	7.4	A-	有孔石製品
317	3	55916	LT36		凝灰岩	33.3	10.3	8.3	2.8	A-	有孔石製品
317	4	102496	ME34		安山岩	27.6	11.8	6.7	1.6	A-	有孔石製品の未製品
317	5	55914	LR32		凝灰岩	17.7	12.5	4.3	0.9	A-	有孔石製品・ブルータフ
317	6	55919	LR36		凝灰岩	25.8	15.5	13.9	3.8	A-	
317	7	102499	排土		変質流紋岩	8.6	8.9	4.9	0.4	A-	玉
317	8	102652	MA28		凝灰岩	30.6	29.4	11.4	10.2	B-	ボタン状
317	9	102649	LS35		凝灰岩	14.8	15.4	7.2	1.0	B-	ボタン状
317	10	55904	LR30		凝灰岩	34.3	20.9	13.0	6.9	B-	ブルータフ
317	11	102498	表探		凝灰岩	25.8	16.5	9.3	1.8	B-	ブルータフ
317	12	55901	MA29		凝灰岩	91.4	36.7	18.2	73.4	B-	ブルータフ・装身具

第317図 石製品(1)



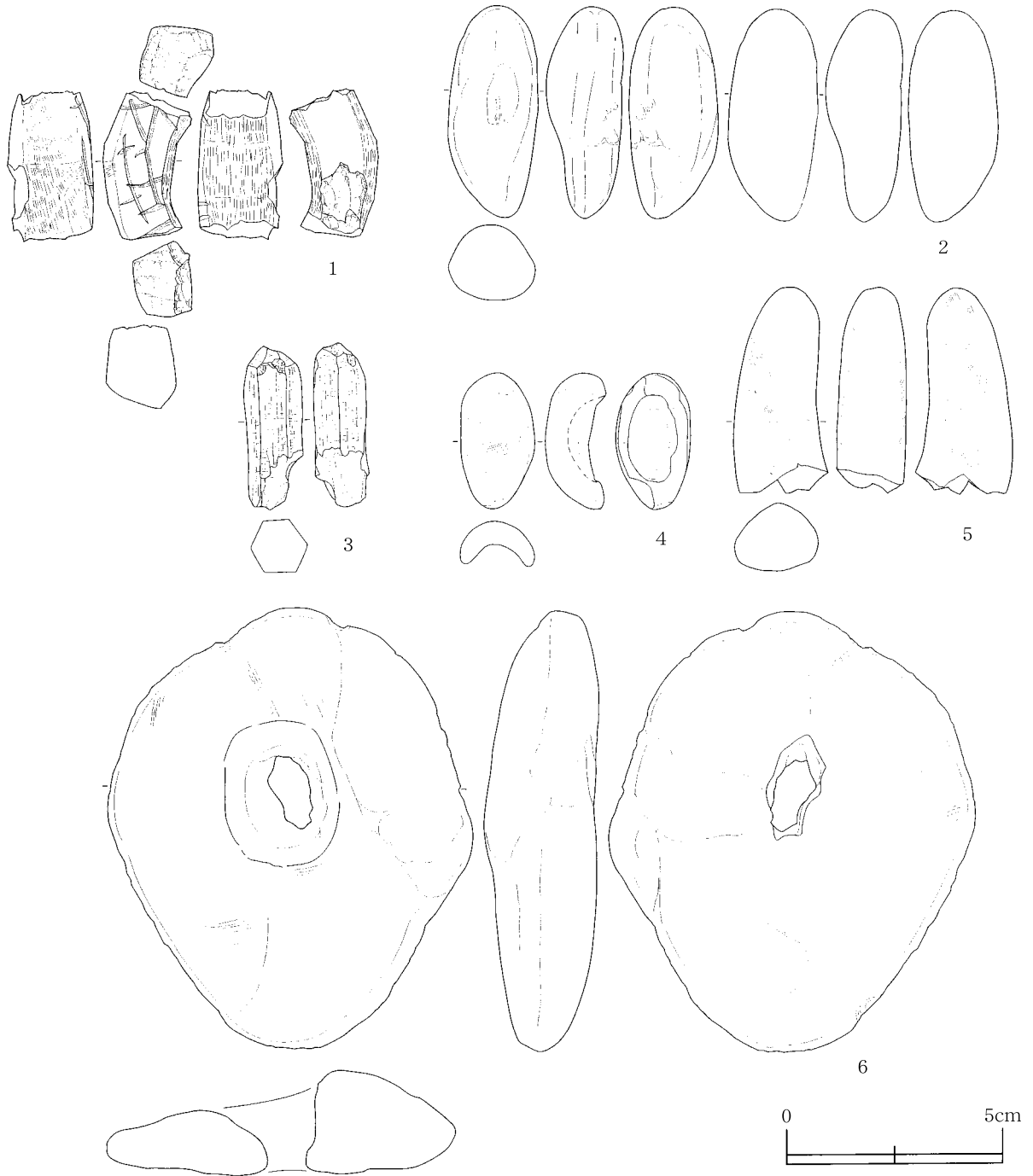
図版	番号	遺物	出土位置	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	分類	備考
318	1	102647	MB28		凝灰岩	77.9	36.7	16.2	50.0	B-	ブルータフ・装身具
318	2	55902	LT35		凝灰岩	67.7	50.5	19.4	60.5	B-	ブルータフ・装身具
318	3	102648	MB28		凝灰岩	39.3	20.8	15.8	11.0	B-	ブルータフ
318	4	55905	LR35		凝灰岩	39.9	15.9	15.6	10.4	B-	ブルータフ
318	5	102497	表探		凝灰岩	32.7	18.8	12.3	6.6	B-	
318	6	55907	MA28		凝灰岩	22.7	16.9	17.0	6.0	B-	ブルータフ
318	7	102651	LQ36		安山岩	52.5	21.5	11.0	15.8	B-	
318	8	102650	LP36		凝灰岩	60.5	31.3	14.2	12.2	B-	

第318図 石製品(2)



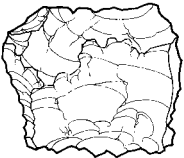
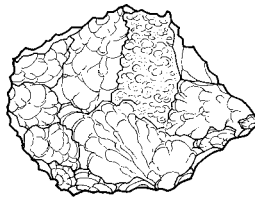
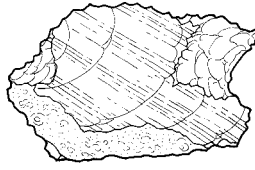

図版	番号	遺物	出土位置	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	分類	備考
319	1	55903	MA28		凝灰岩	66.8	26.0	11.4	18.8	C	
319	2	55906	LR35		凝灰岩	18.9	22.3	8.4	3.4	C	欠損品
319	3	102646	MB37		安山岩	84.0	23.4	23.4	56.2	C	
319	4	55921	LQ36		頁岩	64.9	22.1	14.4	29.5	C	
319	5	55937	LN36		凝灰岩	47.5	21.0	13.5	10.2	C	
319	6	55922	LR37		瑪瑙	59.6	22.1	15.0	29.8	D	
319	7	55908	LS35		凝灰岩	54.4	16.1	6.1	4.5	D	

第319図 石製品(3)



図版	番号	遺物	出土位置	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	分類	備考
320	1	63632	LQ34		凝灰岩	32.3	18.8	16.0	10.6	C	腕輪
320	2	102500	MH35		安山岩	48.4	20.0	17.9	19.0	D	朱塗り
320	3	55950	LR35		石英	36.9	14.4	12.1	10.2	E	6面体、奇石
320	4	55915	表探		凝灰岩	31.3	18.5	13.0	5.2	C	
320	5	64203	MA33		安山岩	46.1	20.8	16.5	27.0	E	
320	6	7806	LR33		安山岩	100.2	83.4	25.3	201.8	E	奇石

第320図 石製品奇石(4)

楔に属するもの	石核に属するもの	剥片に属するもの	礫に属するもの
			

第321図 赤礫（鉄鉱石・鉄石英・ベンガラ）の分類

ところが石核の場合ほぼ同数である。持ち込まれた原石の比率では、風化度の強いものが弱いものに勝っていることから、優先的に風化度の強いものを消費し、ある程度剥離が進んだ段階で捨てていることを示している。原石における風化度比率を反映して剥片が出土するならば、当然剥片の風化度が強いものばかりになるはずだが、実際の結果は検定したとおり、風化度の強い剥片が明らかに少ないことがわかった。

この理由を考えると、先述の目的剥片の使用方法＝顔料の素材と結びつく。すなわち、風化した剥片は磨り潰されて顔料となり、土器や土偶に塗られ、また死者に撒かれて消費された結果が、風化度の強弱数量比の逆転として現れたものと考えてよい。

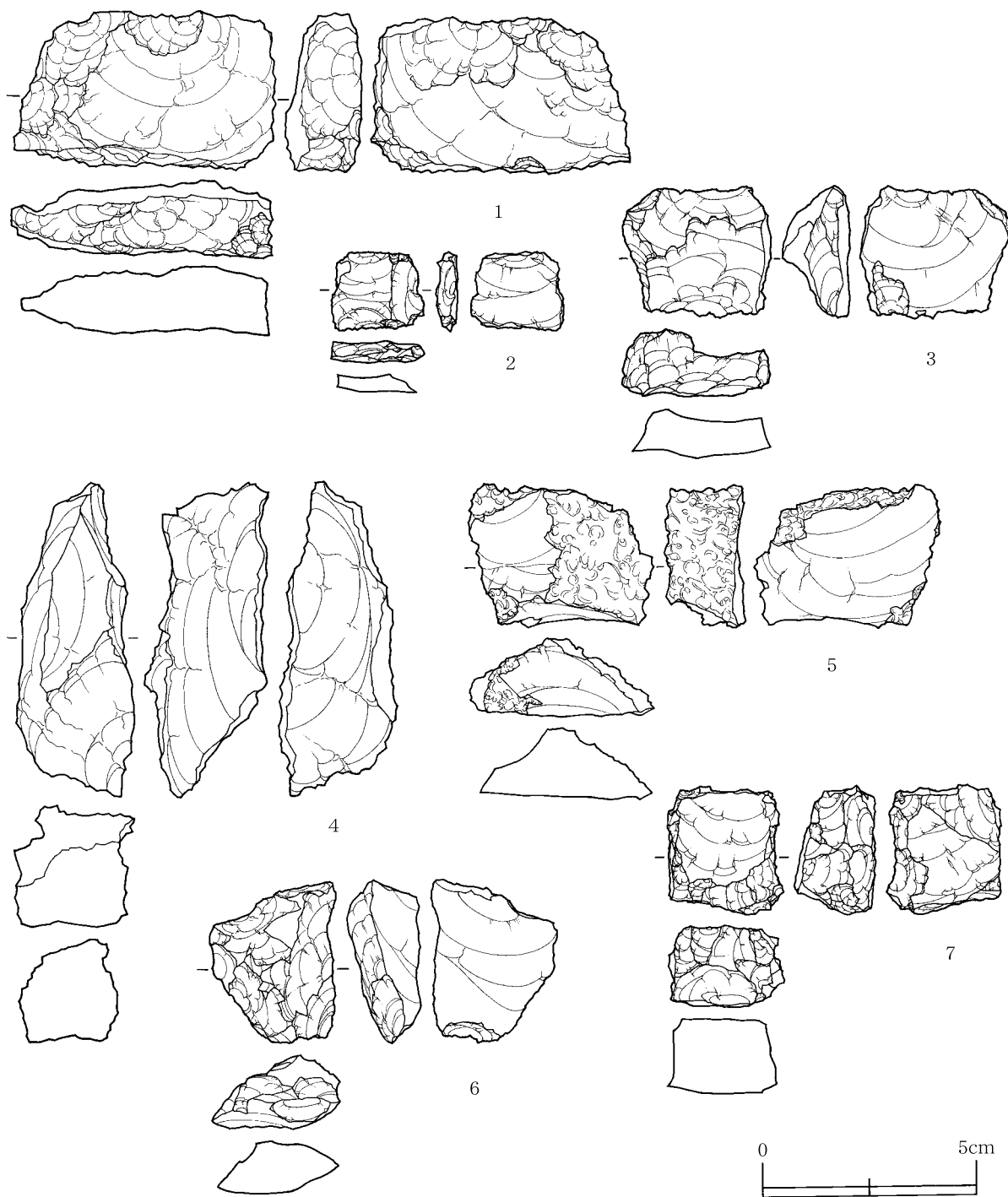
(2) 剥片・R.F.・U.F.について

剥片は49,700点出土している。使用されている石材は90%以上が頁岩で、他は凝灰岩と安山岩である。この傾向は、リタッチのある剥片(以下R.F.)・使用痕のある剥片(以下U.F.)とも同じである。

剥片の長さは、最大216.0mm、最小3.0mm、平均11.2mmで、26.0～30.0mmのものが7,722点と最頻値を示す。幅は、最大183.0mm、最小3.0mm、平均7.7mmで、21.1～25.0mmのものが10,124点と最頻値を示す。厚さは、最大95.0mm、最小0.4mm、平均2.6mmで、6.1～10.0mmのものが22,077点と最頻値を示す。重量は、最大1,450g、最小0.05g、平均2.8gで、5g以下のものが24,507点と最頻値を示す。重量分布を1gごとにみると1.1～2.0gのものが6,536点と最も多い。剥片の各サイズ分布は第325図・第89表に示した。

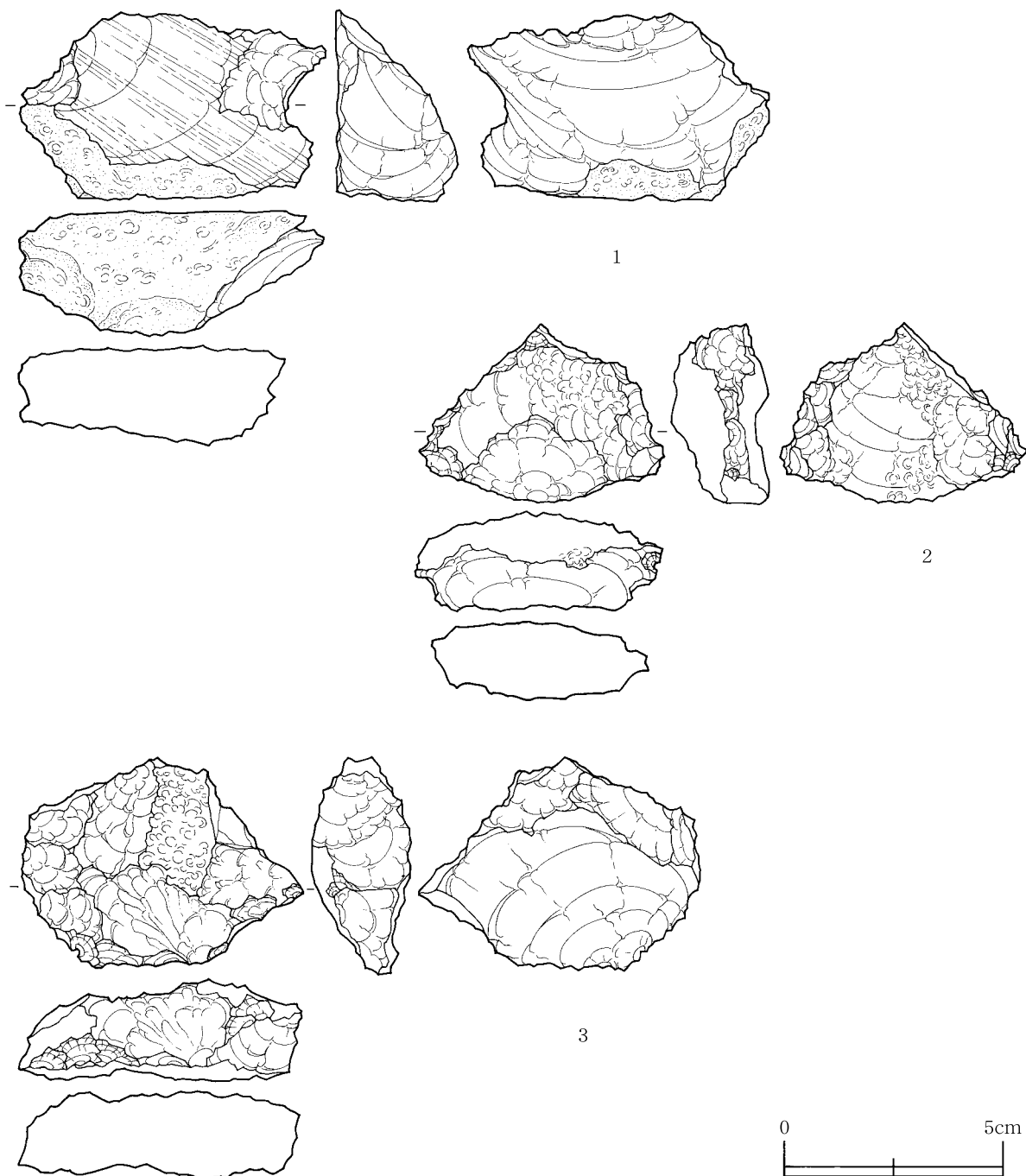
R.F.は13,909点出土している。長さは最大170.0mm、最小5.5mm、平均45.3mmで、36.1～40.0mmのものが2,047点と最頻値を示す。幅は、最大112.9mm、最小4.1mm、平均32.4mmで、26.1～30.0mmのものが2,689点と最頻値を示す。厚さは、最大100.3mm、最小1.6mm、平均10.8mmで、6.1～10.0mmのものが5,966点と最頻値を示す。重量は、最大1,001.3g、最小0.1g、平均17.0gで、6.1～10.0gのものが3,455点と最頻値を示す。重量分布を1gごとにみると6gのものが810点と最も多い。R.F.の各サイズ分布は第326図・第90表に示した。

U.F.は8,874点出土している。長さは最大119.5mm、最小3.9mm、平均43.3mmで、36.1～40.0mmのものが1,398点と最頻値を示す。幅は、最大103.3mm、最小4.7mm、平均29.9mmで、26.1～30.0mmのものが



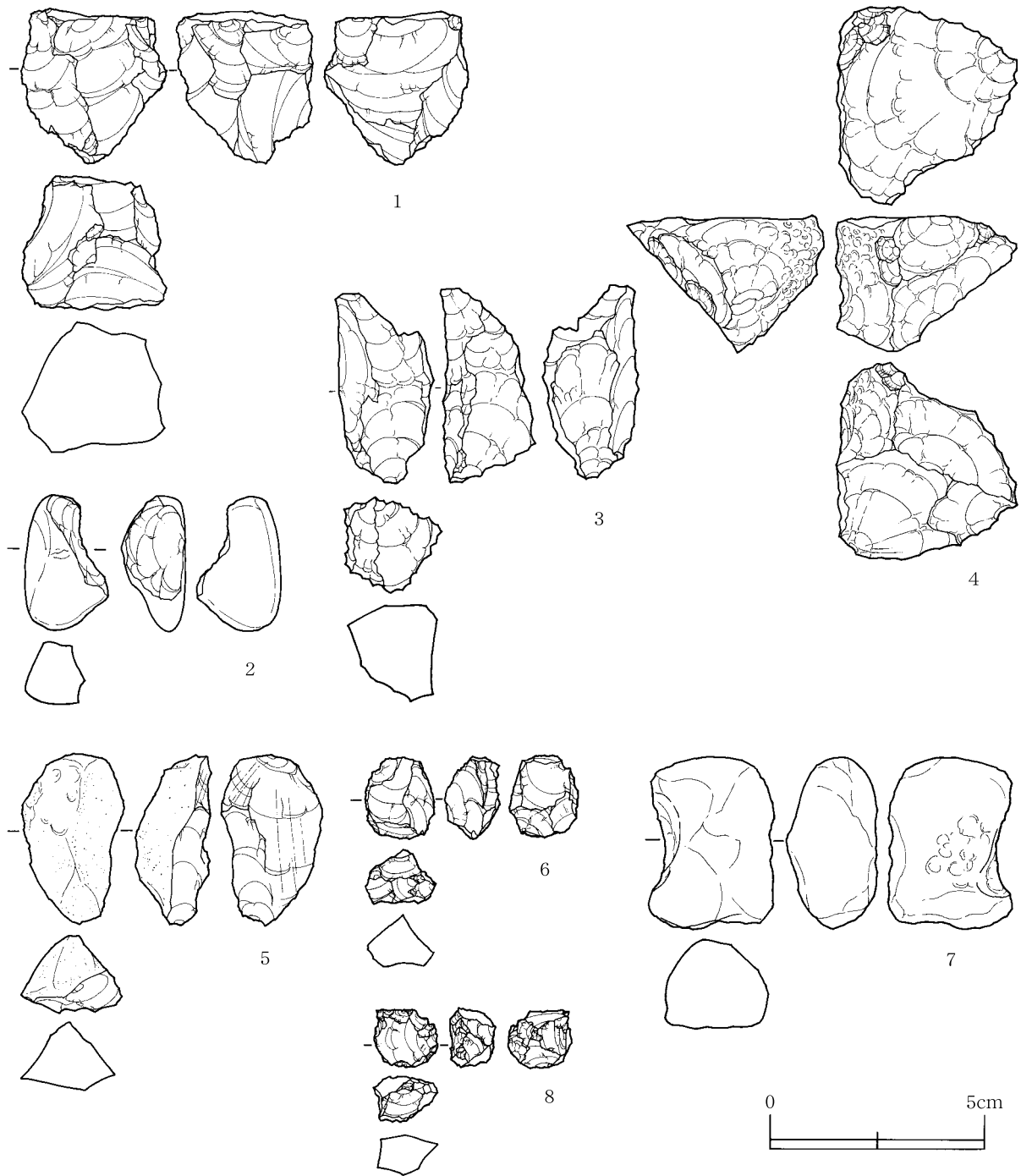
図版	番号	遺物	出土位置	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	分類	風化	あばた
322	1	18130	MA34		鉄石英	59.9	36.6	17.4	52.2	楔	強	有
322	2	103614	LN35		鉄石英	21.2	17.5	4.9	2.6	楔	強	有
322	3	103624	MA27		鉄石英	34.0	30.1	14.5	14.6	楔	中	有
322	4	103625	LQ32		鉄石英	72.2	27.1	26.3	63.2	剥片	強	有
322	5	103626	LN35		鉄石英	42.7	32.5	18.0	28.0	剥片	中	有
322	6	18132	LO33		鉄石英	34.6	34.3	14.0	16.0	剥片	強	有
322	7	18148	LP35		鉄石英	29.2	28.5	18.0	19.7	剥片	強	有

第322図 赤礫(鉄鉱石・鉄石英・ベンガラ)(1) 1~3 楔形石器 4~7 剥片



図版	番号	遺物	出土位置	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	分類	風化	あばた
323	1	103622	MA26		鉄石英	70.0	46.2	28.0	61.6	剥片	強	有
323	2	103627	LN36		鉄石英	54.4	40.0	21.9	47.4	石核	強	有
323	3	18119	LN35		鉄石英	64.4	49.1	21.3	66.3	石核	中	有

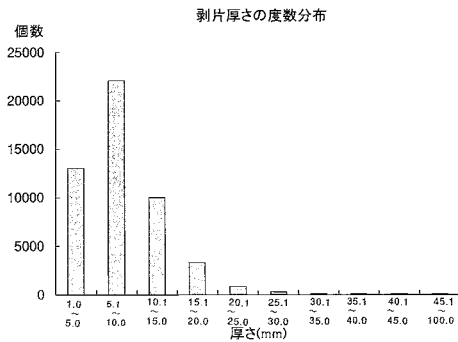
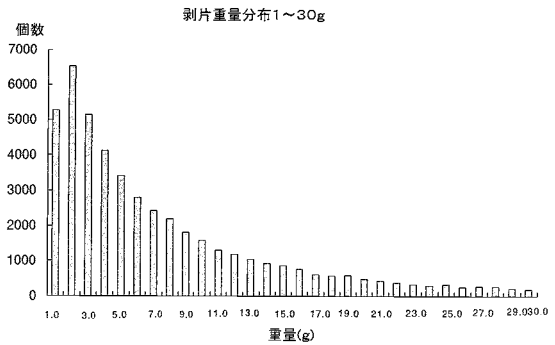
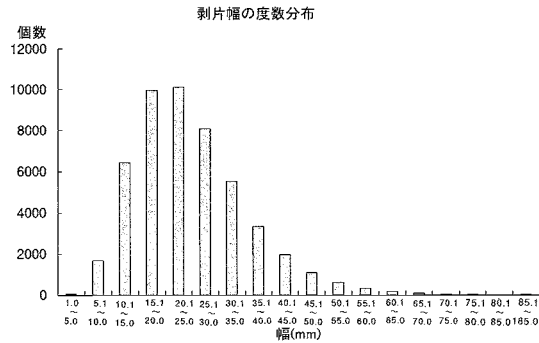
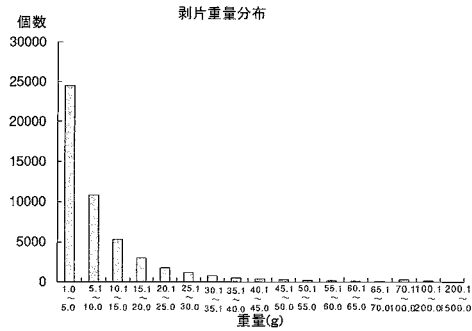
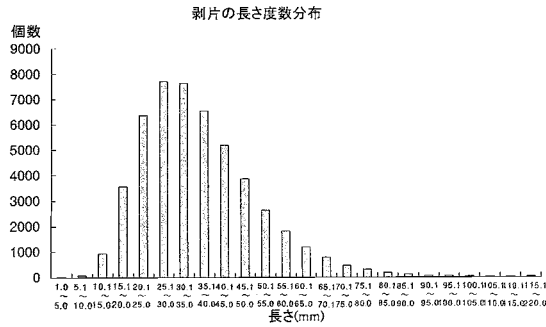
第323図 赤礫(鉄鉱石・鉄石英・ベンガラ)(2) 1剥片 2・3石核



図版	番号	遺物	出土位置	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	分類	風化	あばた
324	1	103681	LP36		鉄鉱石	37.0	33.5	31.7	50.0	石核	強	有
324	2	103630	LN36		鉄鉱石	28.2	18.3	14.8	13.7	石核	強	無
324	3	18126	LP34		ベンガラ	45.4	22.2	19.9	21.4	石核	強	有
324	4	103620	LO37		鉄石英	44.5	42.2	32.3	53.0	石核	中	有
324	5	103615	LO33		ベンガラ	38.4	23.0	16.5	13.2	石核	弱	有
324	6	103616	MA28		ベンガラ	17.9	12.6	12.0	3.8	石核	中	有
324	7	18112	LR38		鉄鉱石	38.2	28.4	20.9	44.1	原石	強	無
324	8	103617	MB28		ベンガラ	14.6	13.0	10.4	2.5	石核	中	有

第324図 赤礫(鉄鉱石・鉄石英・ベンガラ)(3) 1~7石核 8原石

第2章 捨て場と遺物



第89表 剥片サイズの特徴 (全49,700点)

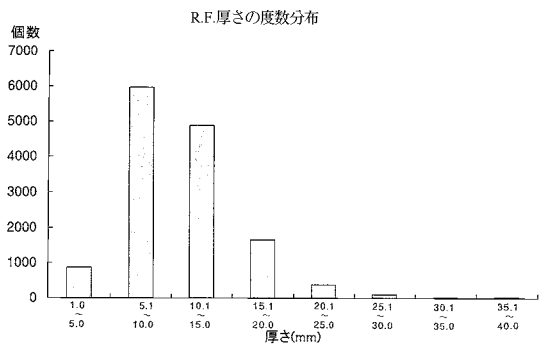
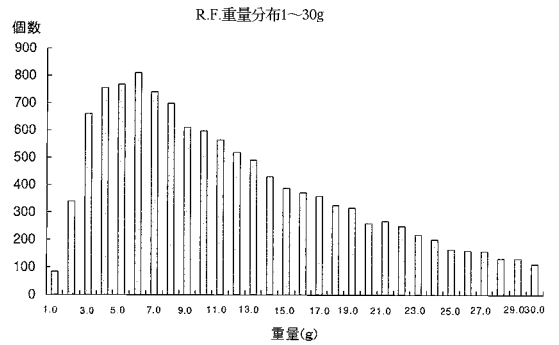
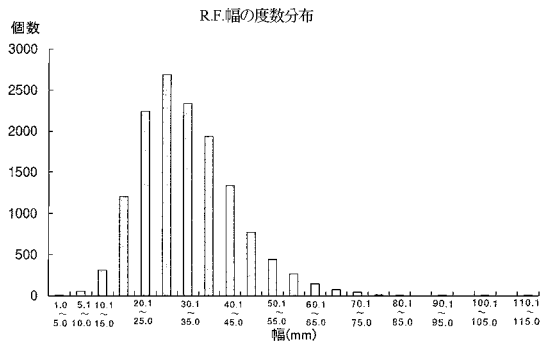
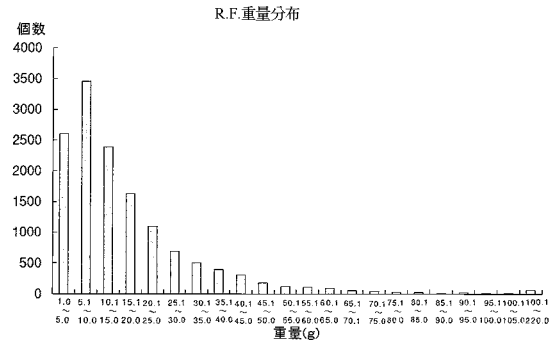
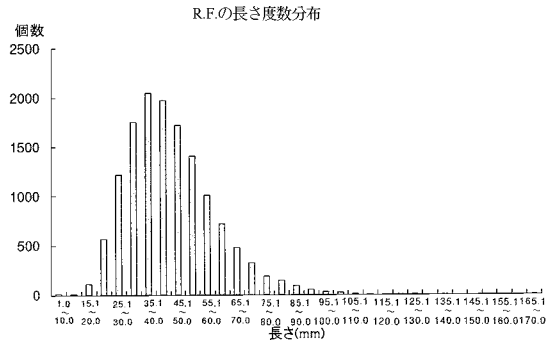
	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)
平均	11.183069	7.6527549	2.5636227	2.7902191
最大値	216	183	95	1450
最小値	3	3	0.4	0.05
範囲	213	180	94.6	1449.95
最頻値	26~30mm	21~25mm	6~10mm	2g
最頻値個数	7722	10124	22077	6536
最頻値%	15.537223	20.370221	44.420523	13.150905
分散	211.00644	117.4921	24.394457	310.40372
標準偏差	14.526061	10.839377	4.9390746	17.618278
尖度	3.6148042	4.2251503	12.512756	1589.2408
歪度	1.2281693	1.2824539	1.9814787	24.515227

第325図 剥片サイズの特徴

1,868点と最頻値を示す。厚さは、最大5.6mm、最小1.0mm、平均9.6mmで、6.1~10.0mmのものが4,736点と最頻値を示す。重量は、最大218.0g、最小0.15g、平均12.2gで、6.1~10.0gのものが4,736点と最頻値を示す。重量分布を1gごとにみると6gのものが810点と最も多い。U.F.の各サイズ分布は第327図・第91表に示した。

これら剥片・R.F.・U.F.のサイズ分布の対称性から、その特徴を記述する。剥片長の尖度3.6、歪度1.2に対して、R.F.長の尖度1.9、歪度1.0、U.F.長の尖度1.4、歪度0.9となる。剥片幅の尖度4.2、歪度1.3に対して、R.F.幅の尖度1.5、歪度0.8、U.F.幅の尖度1.8、歪度0.9となる。剥片厚の尖度12.5、歪度2.0に対して、R.F.厚の尖度20.1、歪度1.0、U.F.厚の尖度8.2、歪度1.6となる。剥片重量の尖度1,589.2、歪度24.5に対して、R.F.重量の尖度18.8、歪度3.2、U.F.重量の尖度25.9、歪度3.6となる。

剥片を基本としてR.F.・U.F.と比較する。正規分布の場合、尖度 = 3、歪度 = 0である。サンプル数が最も多い剥片が最も正規分布に近い。



第90表 R.F.サイズの特徴 (全13909点)

	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)
平均	45.279006	32.432533	10.757996	16.916387
最大値	170	112.9	40	276.2
最小値	5.5	4.1	1.6	0.1
範囲	164.5	108.8	38.4	276.1
最頻値	36~40mm	26~30mm	6~10mm	6g
最頻値個数	2047	2689	5966	810
最頻値%	14.71709	19.332806	42.893091	5.8235675
分散	224.55519	128.2194	20.058665	298.42718
標準偏差	14.985166	11.323401	4.4786901	17.275045
尖度	1.9037609	1.472065	1.8598572	18.874047
歪度	0.9841927	0.8528178	1.0340525	3.247127

第326図 R.F.サイズの特徴

剥片の尖度は、長さ・幅・厚さ・重量のいずれも3より大きい(尖度 > 3)。R.F.・U.F.では厚さと重量のみが3より大きく、長さ・幅は3より小さい(尖度 < 3)。また、重量も剥片 - R.F.・U.F.はプラスの値を示す。これらのことから、長さ・幅・重量は、R.F.・U.F.の方がまとまりがよい。

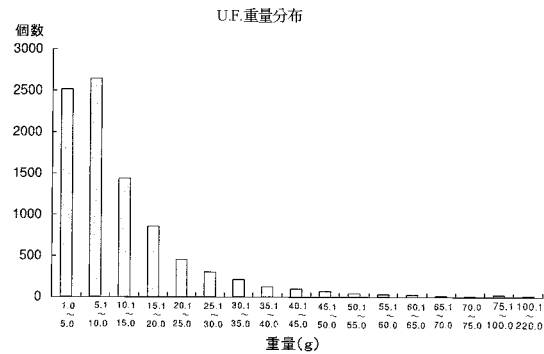
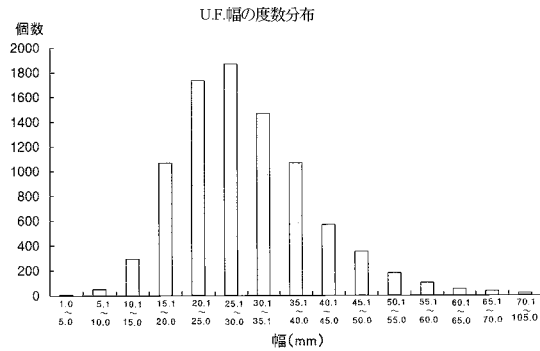
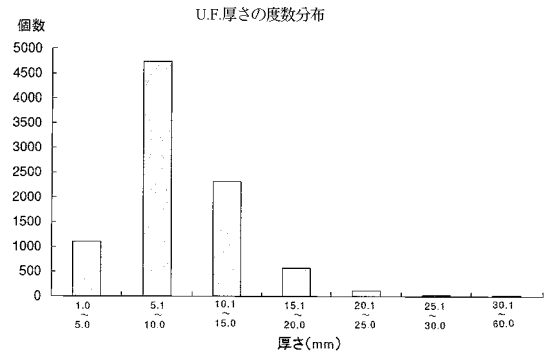
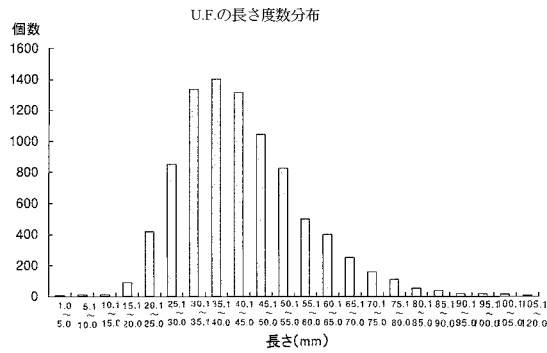
歪度については、剥片・R.F.・U.F.のいずれも0よりも大きい(歪度 > 0)ことから、最頻値は平均値よりも小さく、分布の裾は右へ(大きい値の方へ)のびることを示している。R.F.の厚さをのぞいていずれも剥片の歪度が大きい(剥片の歪度 - R.F.・U.F.の歪度 = 正の値)。

尖度・歪度とも厚さをのぞいて、R.F.・U.F.の方が小さな値を示すことから、剥片に比べてまとまりがよいことがわかる。特に尖度 < 3となることは、素材剥片からある特定範囲のサイズの個体を目的剥片として選択していることを示す。

反面、(剥片厚さの尖度・歪度) - (R.F.厚さの尖度・歪度)は負の値を示す。これは、厚さの選択幅が大きいことを示す。分布曲線はより分厚いもの方向へ裾をのぼすから、R.F.は、素材剥片の中で相対的に分厚いものを選択的に使用していたことを示す。

このような特徴を示す理由は、R.F.・U.F.の使用目的の差に規定されていると考えられる。R.F.

第2章 捨て場と遺物



第91表 U.F.サイズの特徴（全8874点）

	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)
平均	43.280774	29.860976	9.1580201	12.213664
最大値	119.5	103.3	56.6	218
最小値	4.9	4.7	1	0.15
範囲	114.6	98.6	55.6	217.85
最頻値	36~40mm	26~30mm	6~10mm	6~10g
最頻値個数	1401	1870	4737	2644
最頻値%	15.787694	21.072797	53.380663	29.794906
分散	196.00542	108.82111	16.668317	156.93778
標準偏差	14.000194	10.431736	4.0826851	12.527481
尖度	1.3652634	1.7853665	8.1862334	25.92875
歪度	0.9081008	0.9408137	1.6105929	3.5744443

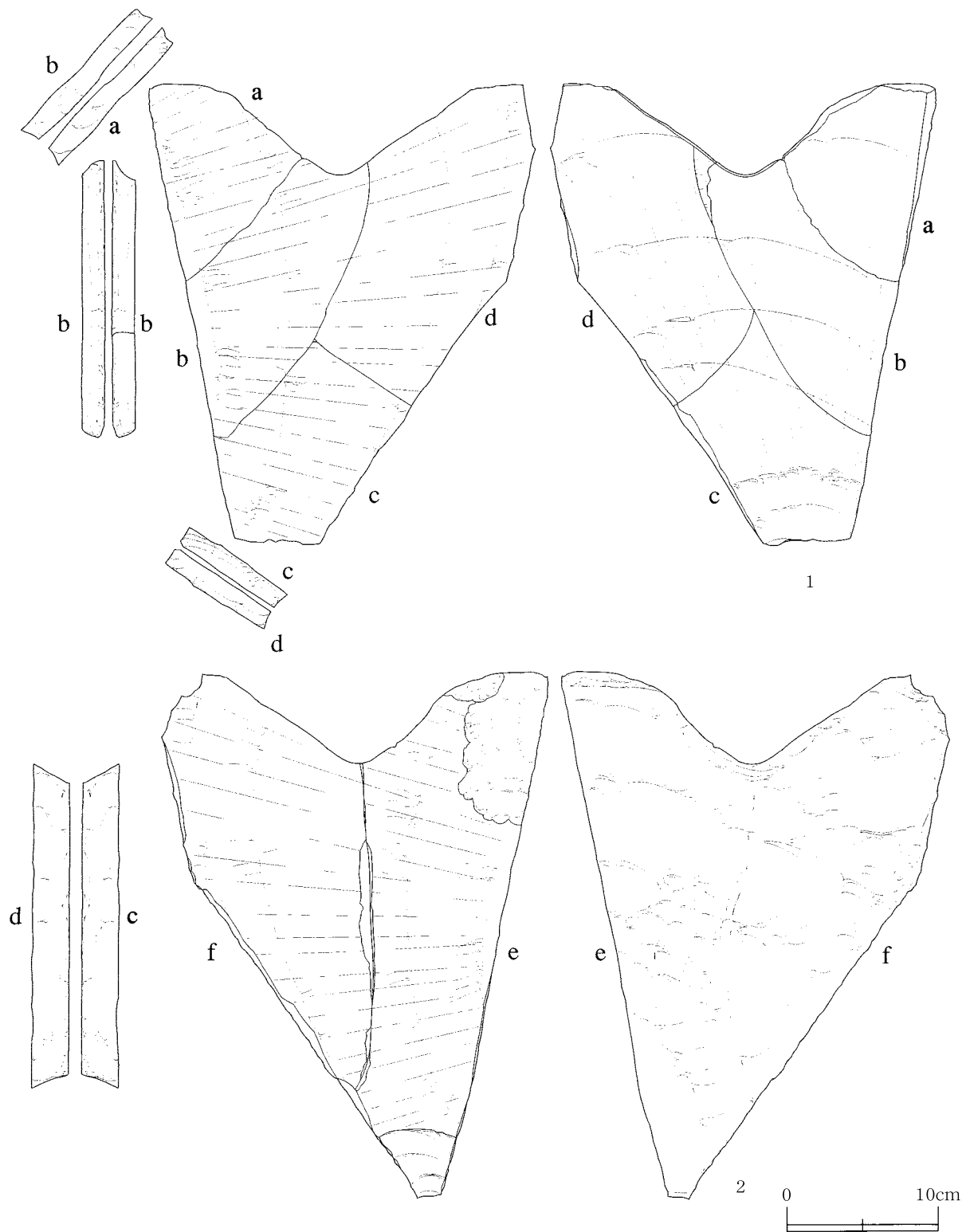
第327図 U.F.サイズの特徴

は縁辺を粗く調整してエッジをつけるので、分厚いものを志向する。

この点は、剥片とR.F.・U.F.の長さの平均値・最頻値と関連して理解される。剥片長平均値11.2mm、最頻値26.1~30.0mmに対し、R.F.長平均値45.3mm、最頻値が36.1~40.0mm、U.F.長平均値43.3mm、最頻値36.1~40.0mmとなる。剥片長では平均値と最頻値のズレが15mm以上あるのに対して、R.F.・U.F.では最大でも10mmのズレである。

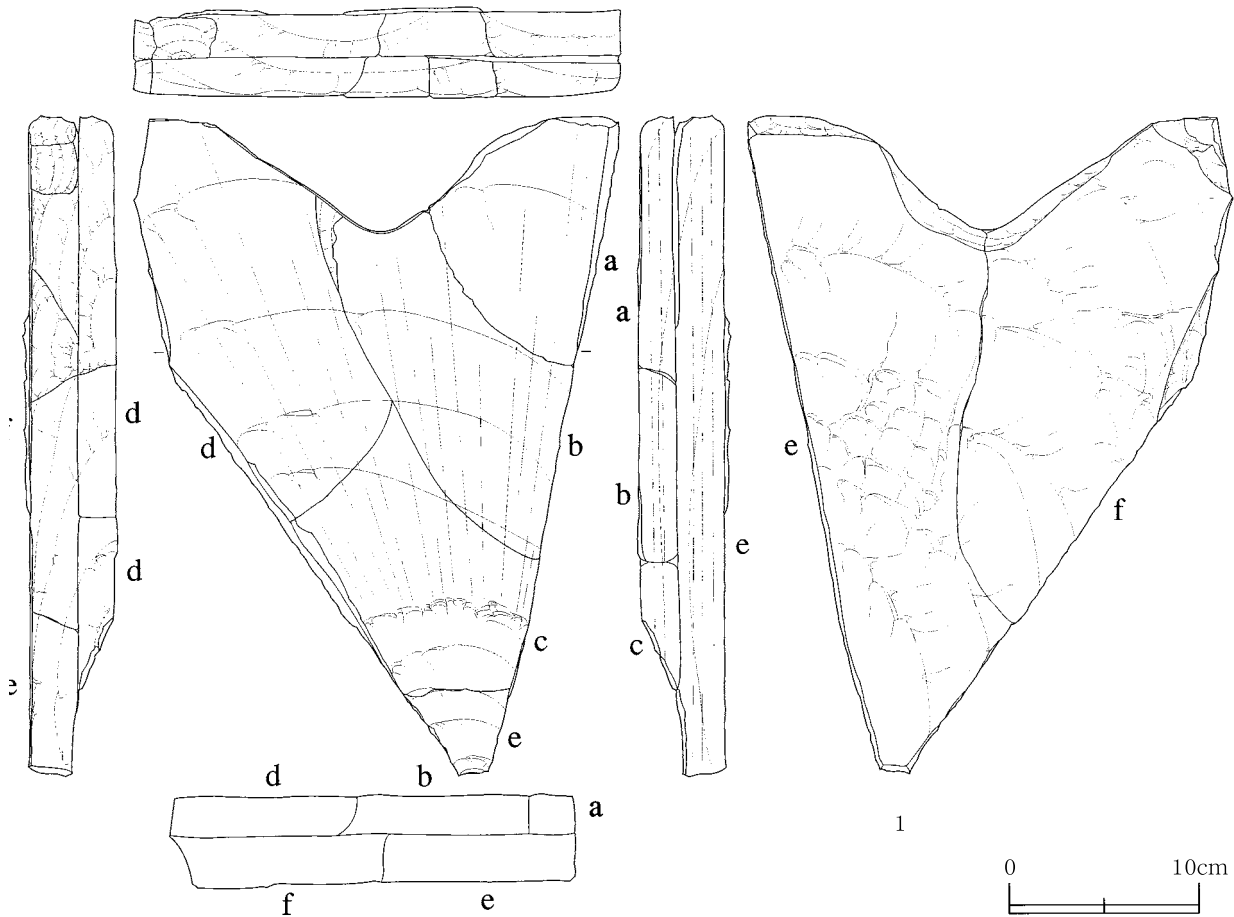
剥片長の平均値と最頻値のズレが大きいのは、目的剥片以外に大量に剥離される小形剥片debitageのサイズに影響されるところが大きい。

以上より、素材剥片の最頻値よりも10mm長い剥片を目的剥片として選択していることがわかる。そして、剥片では長さの平均値<最頻値であるのに対し、R.F.・U.F.の長さでは平均値>最頻値と逆転する。つまり、R.F.・U.F.長では大形の剥片側へ分布の裾がのびることを示しているから、素材剥片最頻値よりも長いものを目的剥片としていることが理解される。R.F.・U.F.では平均値-最頻値のズレが最大10mmに収まることは、分布曲線の歪み=歪度を小さくしている。これらの特徴は、幅と厚さについても当てはまる。



図版	番号	遺物	出土位置	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	備考
328	1	71102	LS34		凝灰岩	347.0	252.0	18.5	1180.0	接合品・素材
328	2	7717	LS34		凝灰岩	297.0	252.0	28.5	1910.0	接合品・素材

第328図 剥片(1)



図版	番号	遺物	出土位置	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	備考
329	1	71102+7717	LS34		凝灰岩	347.0	252.0	47.0	3090.0	7717と 71102接合

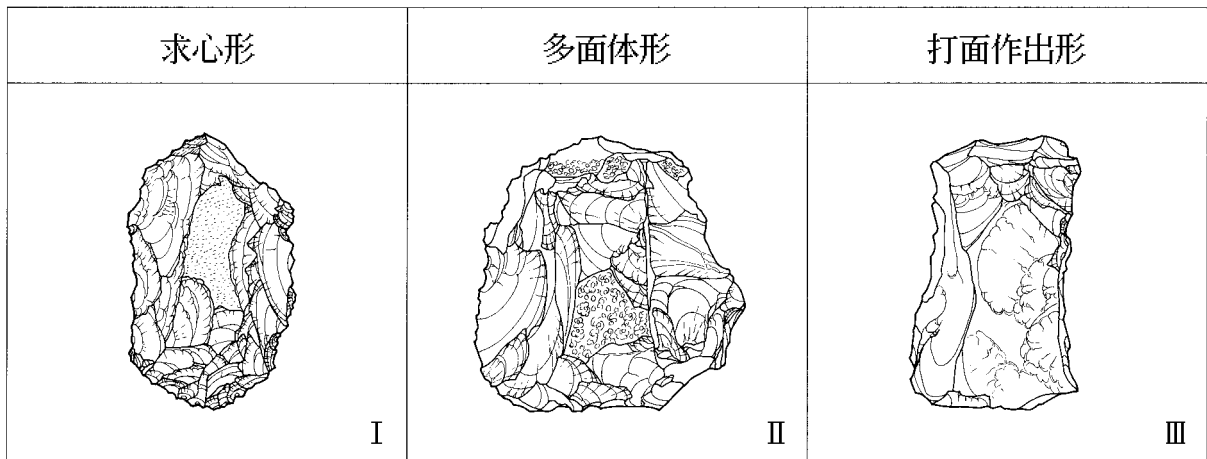
第329図 剥片(2)

したがって、R.F.・U.F.サイズの尖度が素材剥片より低いことは当然で、目的的に一定のサイズ以上のものを選択していることから、すでに選ばれたものは(選択された中での大小があっても)全て使っているのである。

R.F.の厚さについて尖度が2.0と非常に高い点は注目される。素材剥片・R.F.・U.F.共に6~10mmを最頻値とするから、この厚さのものが目的剥片となっていることは容易に理解される。剥片厚の分散24.4、標準偏差4.9に対して、R.F.厚では分散20.0、標準偏差4.5であるから、まとまりが比較的良好なのはわかる。

剥片のサイズは独立変数ではないから、長さ・幅・厚さ・重量の増減は、高い相関関係を持つはずである。ところが、R.F.厚の尖度が長さ・幅に対して目立って高いのは、R.F.は使用による刃部再生によってサイズが小さくなっていくことと関係するのだろう。石器のリダクションでは、長幅比の変化は著しいが、厚さはほとんど変わらない。

R.F.は、2分割以上されるものが非常に多い。このような石器は、秋田県内の縄文時代遺跡ではごく一般的と考えられ、意識的に同定につとめた結果、近年類例もいくつか報告されている(註3)。森



第330図 石核の分類

吉山ダム関連遺跡では、日廻岱A・碎淵両遺跡で、秋田県北域内では、大館市根下戸・・・遺跡で取り上げられた切断石器・R.F.・U.F.のなかに、類似した折取りによって刃部を更新するR.F.が多く存在している。ここで必要とされる刃部は角度が直角のエッジであり、おそらくは木・骨・角に対するスクレイピング（掻き取り・こそぎ取り）を主な動作とする。

（3）石核

石核は、全部で1,108点出土している。

打面・作業面の設定位置と打面転移方向及び剥片剥離方向で大きく3類に分けられる（第330図）。類を求心形、類を多面体形、類を打面作出形とした。類はチョッパー、チョッピング・ツール状、類はサイコロ形を呈する。技術的な特徴は以下の3点に集約される。

打面・作業面を頻繁に入れ替えて、転移を繰り返す。

剥片剥離角（石核打面と作業面のなす角度）が、50～100度内にほぼ収まること。

90%以上の石核は複合剥離面打面で、残りが単純剥離面打面となり、打面調整は見あたらないこと。

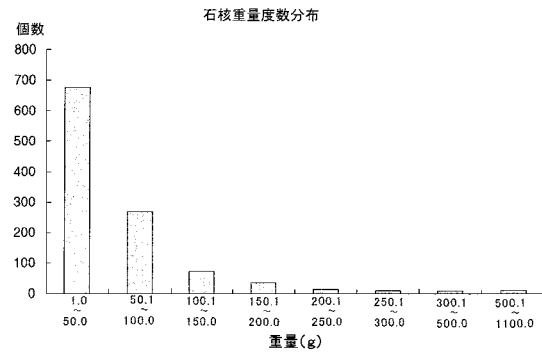
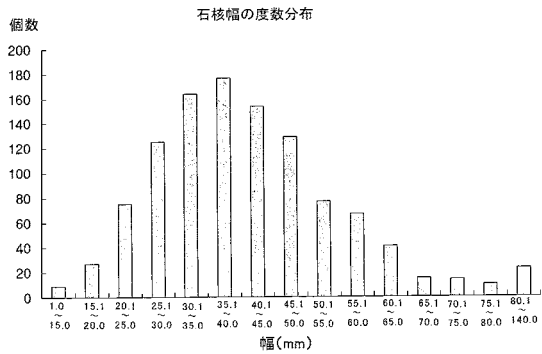
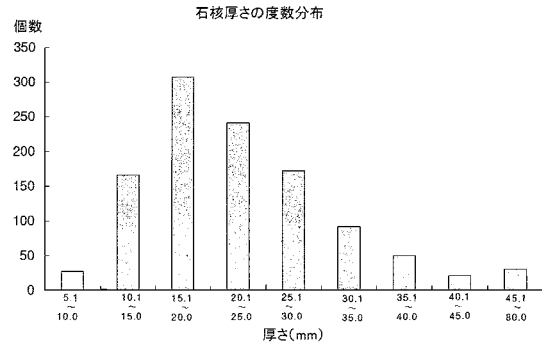
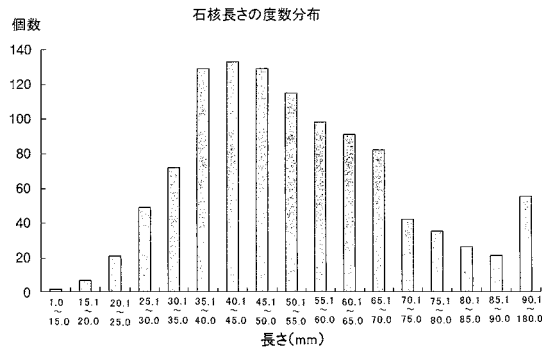
特徴は、剥片に残された打面が8割が単純剥離面打面、残された2割が複合剥離面打面であるのと逆転しているように見える。

しかし、これは共通した技術による所産である。石核の複合剥離面打面が卓越するのは、すなわち打面作業面の頻繁な入れ替えによるものである。それはチョッピング・ツール状の類石核に顕著に表れる。剥片の打面に残る複合剥離面打面は、当然石核の複合剥離面打面の稜を取り込んだものであり、打面転移の目的が剥片剥離を行いやすい平滑な打面の選択にあった以上、単純剥離面打面が剥片に残るのは至極当然のことだろう。

採用される剥離技術と結果である最終的な石核形態の差は、素材となった原石形態と初期分割法に規定されていると考えられる。特に類と類の差は、初期段階での母岩選択差によるものだろう。また、類と類で採用される剥片剥離技術には本質的な差はない。より厚みの少ない原石を使うと類となり、厚みのある原石を選択すると打面転移方向選択の幅が広がることによる。

さらに本遺跡の石核は、容易にコア・スクレイパー（CSC）への機能変換がなされる。石核長の

第2章 捨て場と遺物



第92表 石核サイズの特徴 (全1,108点)

	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)
平均	53.792692	41.444336	22.91490515	63.071183
最大値	180	138.2	79.5	1100
最小値	10.3	4.4	5.2	1.8
範囲	169.7	133.8	74.3	1098.2
最頻値	41~45mm	36~40mm	16~20mm	21~25g
最頻値個数	133	177	307	98
最頻値%	12.014453	15.98916	27.73261066	8.8527552
分散	390.11973	228.1017	90.03556237	8038.9525
標準偏差	19.751449	15.103036	9.488707097	89.660206
尖度	3.4233559	4.8606528	4.943383932	41.780072
歪度	1.2729347	1.4488821	1.661899917	5.4682117

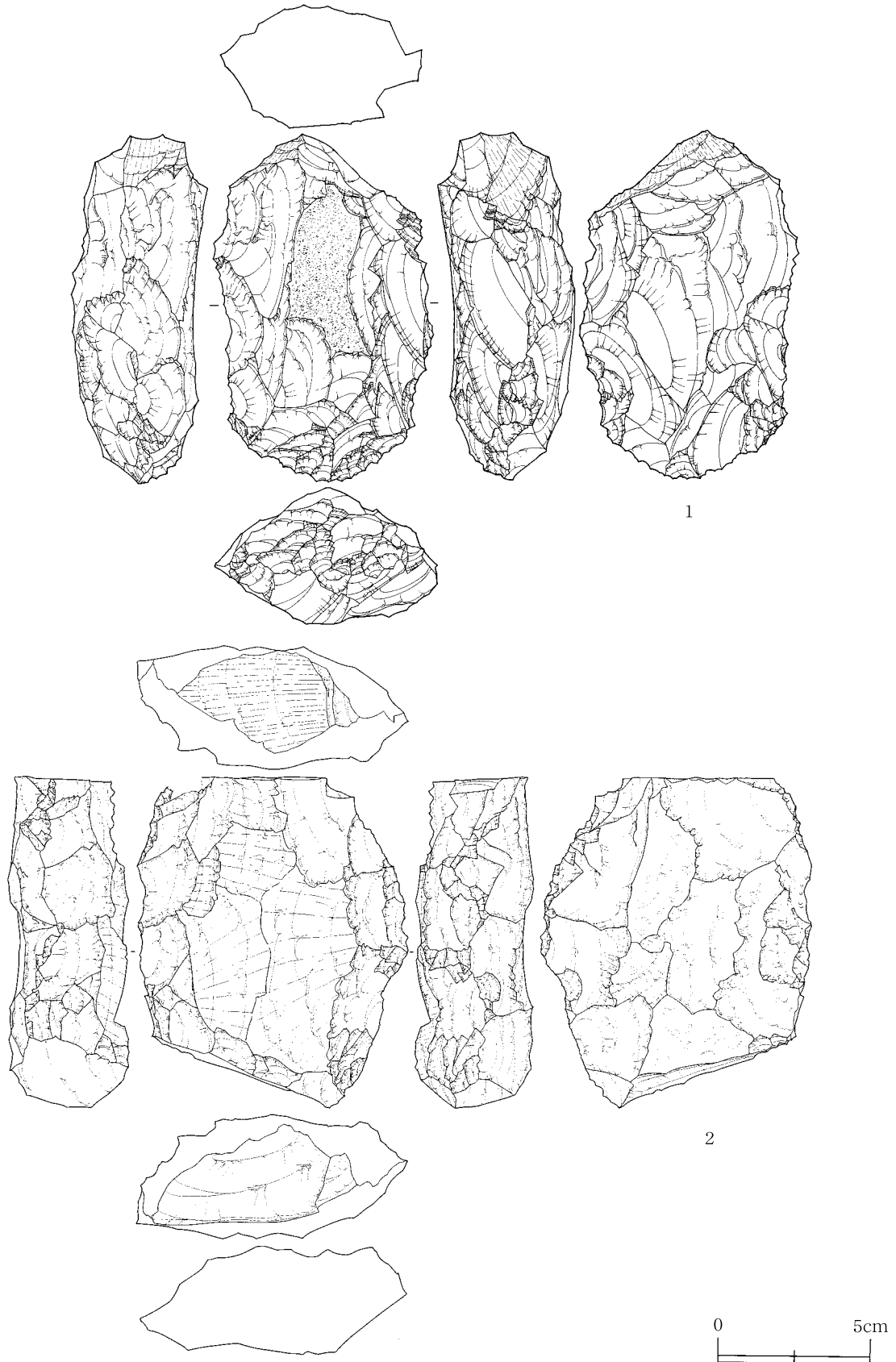
第331図 石核サイズの特徴

最頻値が10mm短いのは、それだけ剥離が進んでいることを示すものと考えられる。石核とC S Cの不偏分散をF分布表で検定すると $F_s = 1.39$ $F(1\%) = 1.15$ となり高度に有意差がある。母分散が異なることが判明したので、石核の不偏分散・標準偏差がC S Cより大きいのは、当然石核の大きさがC S Cよりもばらつく傾向があることを示している。つまり、石核の大きさは、大小様々である。

さらに石核とC S Cの長さ・幅の平均値に対するt検定では有意差が出ないが、厚さと重量に対しては高度に有意差がある(厚さの $t_s = 11.02$ $t(1\%) = 1.96$ 、重量の $t_s = 3.28$ $t(1\%) = 1.96$)。つまり、平均値の上では平面の大きさは変わらないが、石核では厚さと重量が大きい。このことは石核に要求される第1の機能が「良質の剥片をたくさんとること」であることから、厚みのある(つまり作業面長を長く設定できる)素材を選択していることを示す。重量は厚さの増加に伴う。

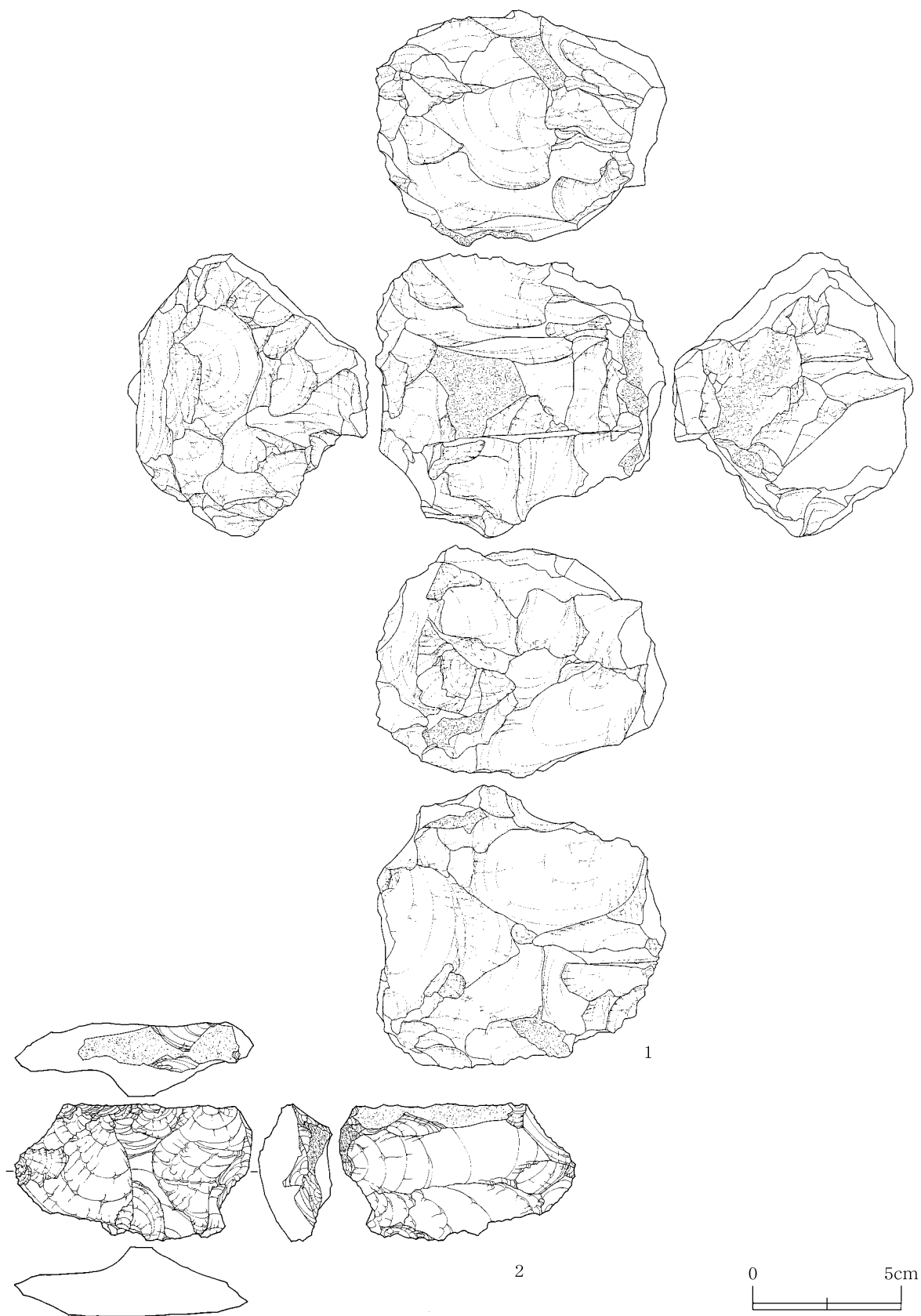
また、石核長とC S C長では、最頻値が10mm異なる。最も必要とされるサイズが異なること、そして石核はより変形が進んでいることを示す。

石核の長さは、最大180.0mm、最小10.3mm、平均53.8mmで、40.1~45.0mmのものが133点12.0%と最頻値を示す。幅は、最大138.2mm、最小4.4mm、平均41.4mmで、35.1~40.0mmのものが177点16.0%と最



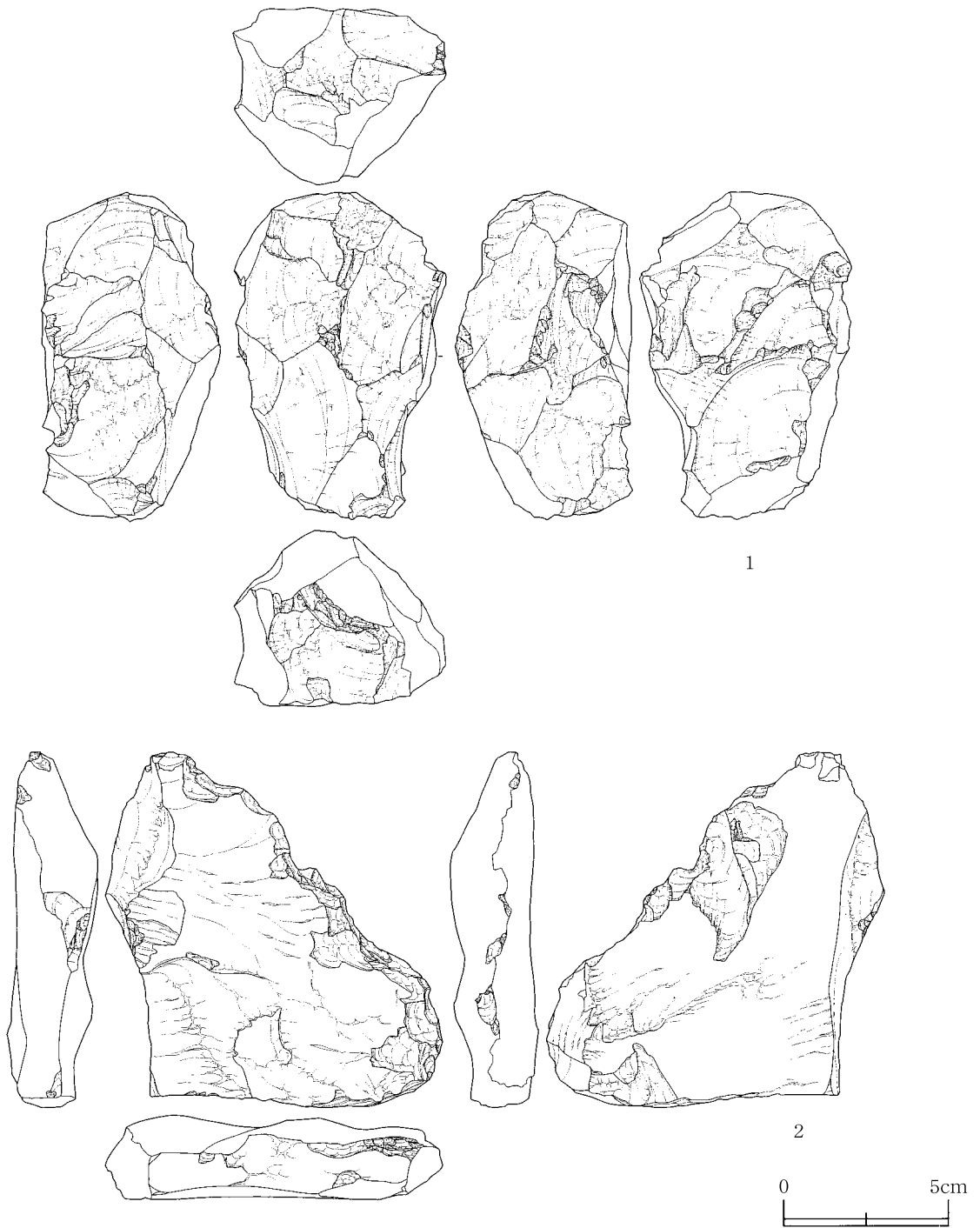
図版	番号	遺物	出土位置	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	分類	備考
332	1	49753	LQ36		頁岩	113.9	68.1	40.6	342.2		
332	2	2711	LT32		頁岩	17.8	89.4	41.0	449.1		

第332図 石核(1)



図版	番号	遺物	出土位置	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	分類	備考
333	1	8984	MA28		頁岩	97.0	92.3	75.5	749.7		
333	2	16749	LQ35		頁岩	44.8	79.0	23.6	82.4		

第333図 石核 (2)



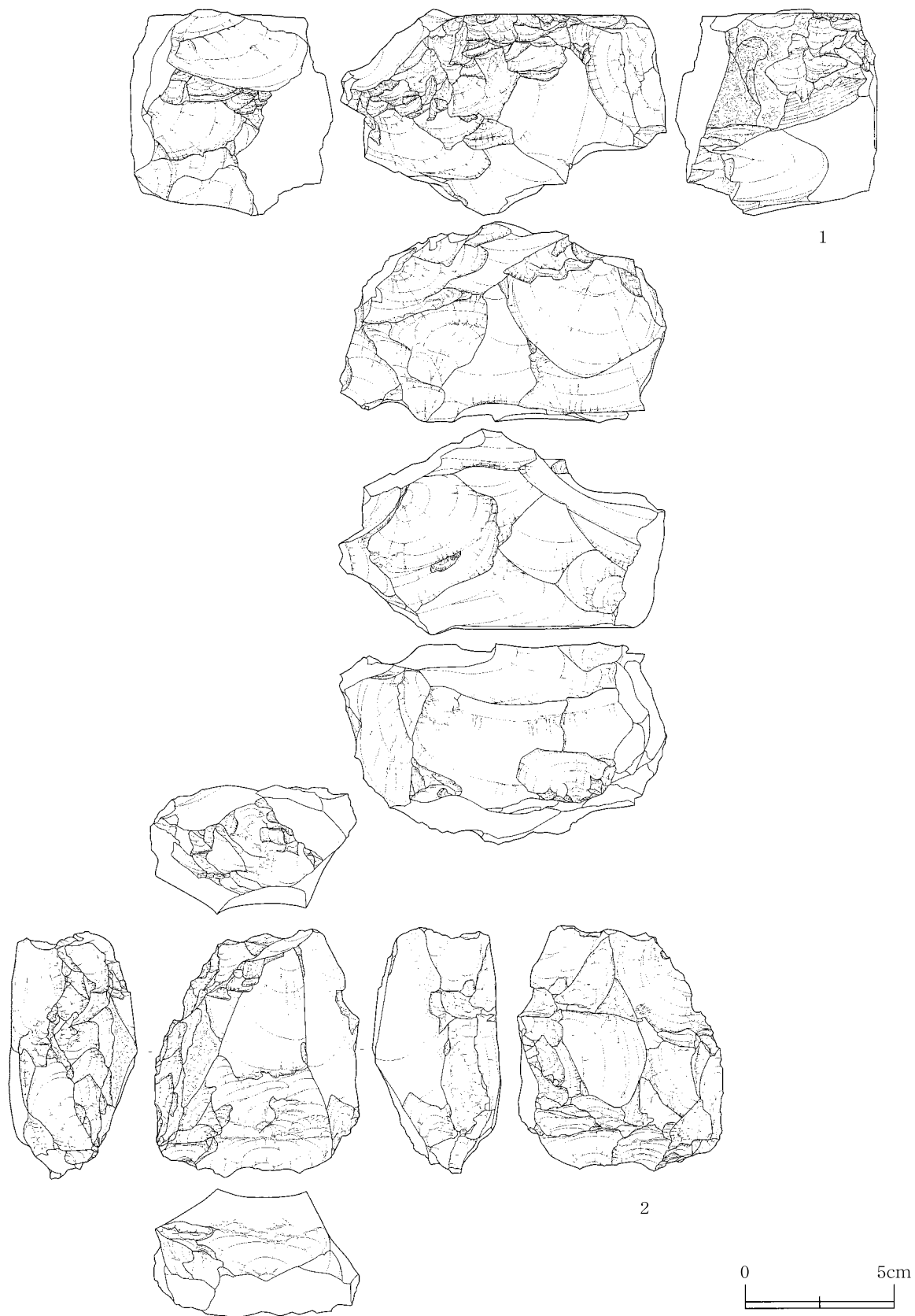
図版	番号	遺物	出土位置	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	分類	備考
334	1	8941	LP33		頁岩	99.8	63.9	55.9	376.0		
334	2	8937	LO38		頁岩	109.7	103.7	26.3	267.9		

第334図 石核 (3)



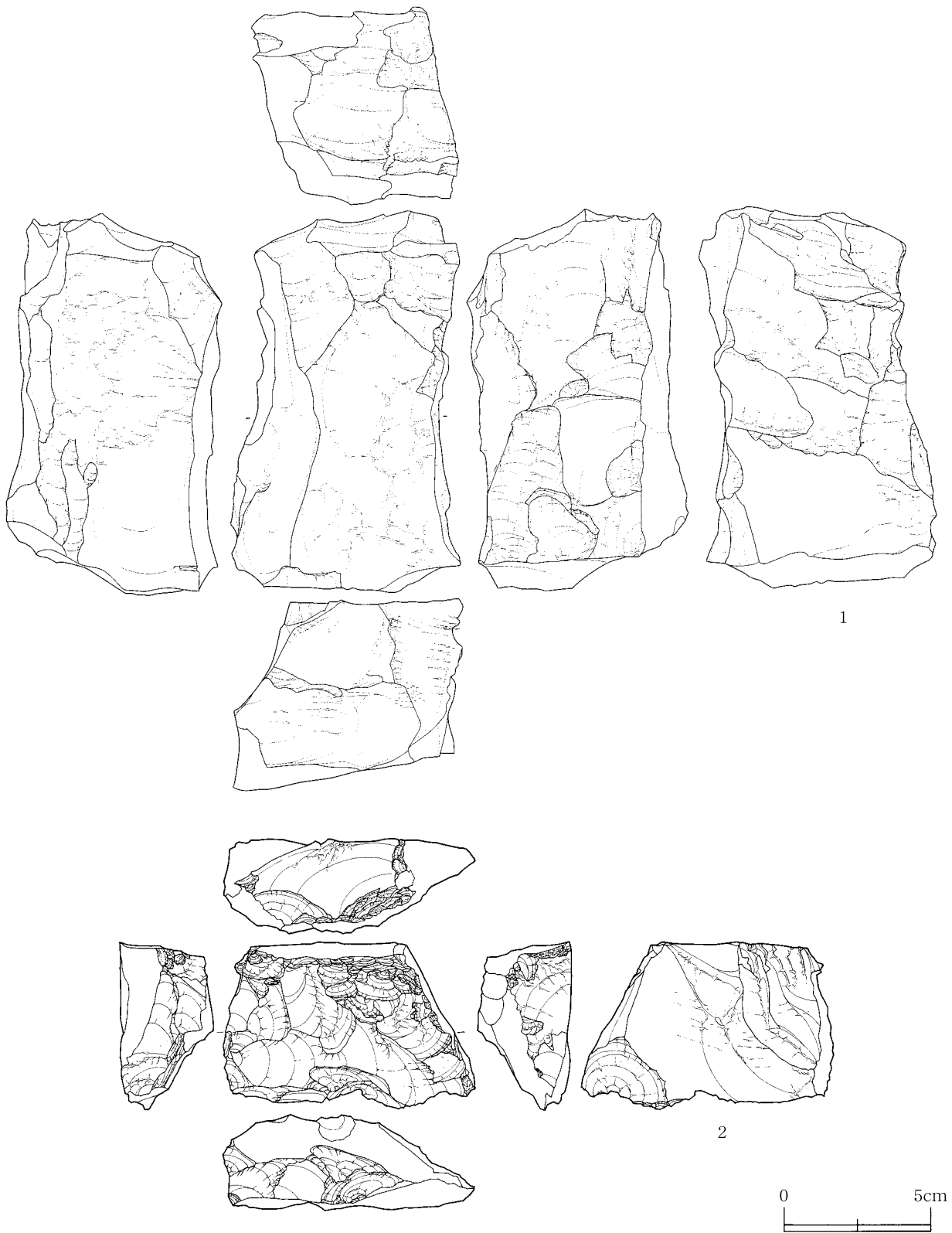
図版	番号	遺物	出土位置	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	分類	備考
335	1	102471	MG22		頁岩	180.0	114.4	75.0	1100.0		

第335図 石核 (4)



図版	番号	遺物	出土位置	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	分類	備考
336	1	8936	MA28		頁岩	67.5	108.5	69.6	571.5		
336	2	8946	MA28		頁岩	89.1	68.9	42.9	276.0		

第336図 石核 (5)



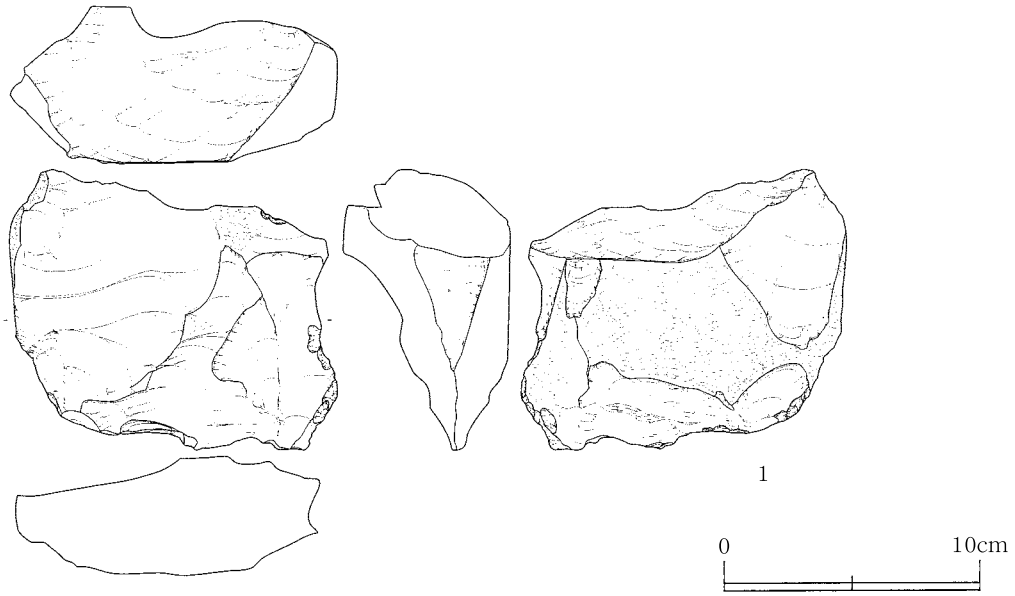
図版	番号	遺物	出土位置	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	分類	備考
337	1	8971	MB40		頁岩	130.4	69.7	81.1	813.0		
337	2	8939	LO35		頁岩	56.8	85.3	34.2	171.0		

第337図 石核 (6)



図版	番号	遺物	出土位置	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	分類	備考
338	1	69548	LT33		頁岩	124.3	93.8	41.5	295.5		
338	2	8981	MC26		頁岩	103.7	78.5	38.7	149.5		

第338図 石核 (7)



図版	番号	遺物	出土位置	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	分類	備考
339	1	8182	LR34		頁岩	110.3	127.1	63.3	740.0		

第339図 石核 (8)

頻値を示す。厚さは、最大79.5mm、最小5.2mm、平均22.9mmで、15.1～20.0mmのものが308点27.8%と最頻値を示す。重量は、最大1,100.0g、最小1.8g、平均63.1gで、20.1～25.0gのものが98点と最頻値を示す。石核の各サイズ分布は第331図・第92表に示した。

註1 阿部朝衛「先史時代人の失敗と練習 - 石鏃と磨製石斧の分析から - 」『考古学雑誌』第86巻第1号 1 - 26 p .(2001)、阿部朝衛「石鏃」『峠下聖山遺跡』七尾町教育委員会 p .119 - 130 339 p .(1979)

註2 吉田集而編著『生活技術の人類学』9 p . 472 p . 平凡社 (1995)、佐藤宏之『日本旧石器文化の構造と進化』柏書房 (1992)



図版	番号	遺跡	出土位置	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	備考
340	1	103673	LN34		黒曜石	46.5	48.0	28.2	48.2	剥片
340	2	103674	LO34		黒曜石	42.8	44.6	31.2	52.8	石核

第340図 接合資料(剥片と石核)

第5節 中世・近世の遺物

1 陶磁器・製鉄関連遺物・木器

(1) 陶磁器

5点出土している。第341図1は、森田編年^(註1)龍泉窯 類の青磁碗で、時期は、13世紀である。

2以降は近世陶磁器の碗である。産地は伊万里の波佐見周辺である。

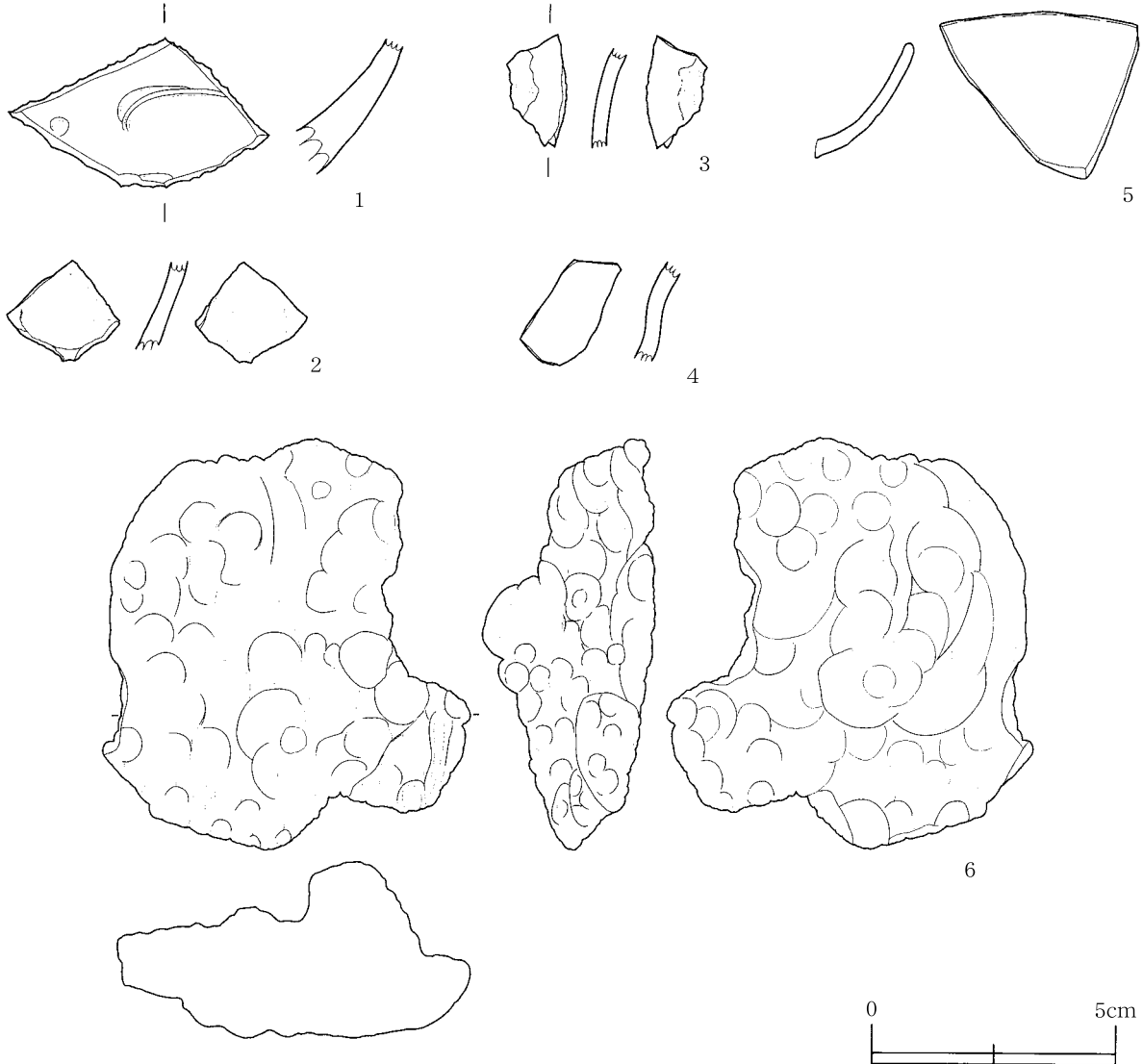
(2) 製鉄関連遺物

碗形滓が1点出土している。

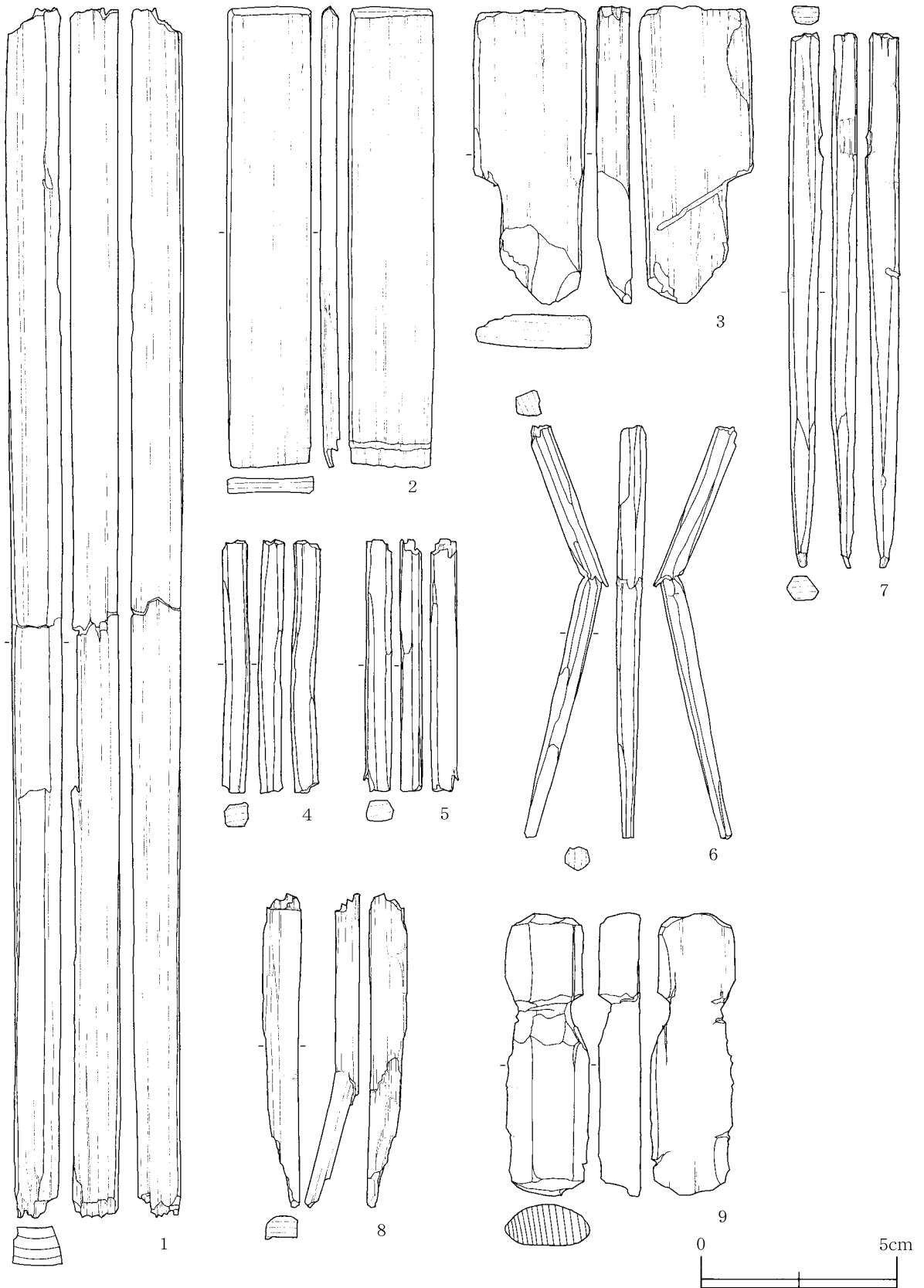
(3) 木器

棒状を呈する物が7点、板状を呈する物が2点出土した。いずれも折れている。第342図1・7～9は、直径1cmを超える棒状木製品である。9は頭部に抉りがはいる。4～6は、箸、又は齋串である。

註1) 森田勉「太宰府出土の中国輸入陶磁器について - 型式分類と編年を中心として - 」『太宰府陶磁器研究 - 森田勉氏遺稿集 - 』71 - 115 p . (原典は横田賢次郎との共著 (1978年) 『九州歴史資料館研究紀要』4集 1 - 26 p . (1995)



第341図 中世・近世遺物 1 龍泉窯青磁 2～5 近世国産陶磁器 6 碗形滓



第342図 木器 (1)

第3章 自然科学分析

第1節 森吉町向様田A遺跡出土土器付着物の¹⁴C年代測定

総合研究大学院大学 博士後期課程 日本歴史研究専攻 小林謙一

国立歴史民俗博物館 情報資料研究部 今村峯雄

国立歴史民俗博物館 情報資料研究部 坂本 稔

国立歴史民俗博物館 情報資料研究部 陳 建立

向様田A遺跡出土縄紋土器の、土器付着炭化物の¹⁴C年代測定を試みた。試料番号はA K Tとした。今回、4点の縄紋土器(表1)から、測定用の炭化物を採取し処理したが、2点は十分な炭素量が回収できず、2点について¹⁴C年代を得た。以下に、採取試料の状況、処理方法、測定及び暦年較正を報告する。

表1 測定対象資料と炭化物の状態

A K T	注記	炭化物の状態	付着部位	時期	型式	挿図
145	S T 183 L Q 35 a 357 - 1	土器付着	口縁内	縄紋晩期	大洞 C ₁ 台付鉢	第97図9
163	S T 183 L R 36 398	土器付着	胴内	縄紋晩期	大洞 B - C	第66図6
159	S T 184 1202 - 1	土器付着	胴外文様上	縄紋晩期	大洞 B ₂	第56図5
164	S T 183 L O 34 b 422	土器付着	胴内	縄紋晩期	大洞 C ₁	第97図8

1 炭化物の処理

試料については、以下の手順で試料処理を行った。の作業は、国立歴史民俗博物館の年代測定資料実験室において小林、は、坂本・陳が行った。

前処理：有機溶媒による油脂成分等の除去、酸・アルカリ・酸による化学洗浄(A A A処理)。

まずアセトンに浸け振とうし、油分など汚染の可能性のある不純物を溶解させ除去した(3回)。A A A処理として、80、各1時間で、希塩酸溶液(1 N - HCl)で試料に含まれる炭酸カルシウム等を除去(2回)し、さらにアルカリ溶液(0.1 N - NaOH)でフミン酸等を除去する。3 - 4回処理を行い、ほとんど着色がなくなったことを確認した。さらに充分(180分)に酸処理を行い中和後、水により洗浄した(3 - 4回)。各試料は、採取した総重量(表2の採取量(mg)以下同じ)、A A A前処理を行った量(処理量)、前処理後回収した量(回収量)、ガス精製に供した量(精製)、二酸化炭素の炭素相当量(ガス)を、それぞれ表2に示す。通常は、基本的に前処理した試料の半分を精製している。土器付着物については、前処理のうち、最初のアルカリ溶液を保存してある。

二酸化炭素化と精製：酸化銅により試料を酸化(二酸化炭素化)、真空ラインを用いて不純物を除去。

グラファイト化：鉄触媒のもとで水素還元しグラファイト炭素に転換。アルミ製カソードに充填。

A A A処理の済んだ乾燥試料を、500mgの酸化銅とともにバイコールガラス管に投げ、真空に引いてガスバーナーで封じ切った。このガラス管を電気炉で850で3時間加熱して試料を完全に燃焼させた。

得られた二酸化炭素には水などの不純物が混在しているので、ガラス真空ラインを用いてこれを分離・精製した。

1.5mgのグラファイトに相当する二酸化炭素を分取し、水素ガスとともにバイコールガラス管に封じた。これを電気炉で650℃で12時間加熱してグラファイトを得た。管にはあらかじめ触媒となる鉄粉が投じてあり、グラファイトはこの鉄粉の周囲に析出する。グラファイトは鉄粉とよく混合した後、孔径1mmのアルミニウム製カソードに60kgfの圧力で充填した。

2 測定結果と暦年の較正

AMSによる¹⁴C測定は、炭素14標準試料(NIST)とともに加速器分析研究所(測定機関番号IAAA)に依頼して行った。

年代データの¹⁴C BPという表示は、西暦1950年を基点にして計算した¹⁴C年代(モデル年代)であることを示す(BPまたはyr BPと記すことも多いが、本稿では¹⁴C BPとする)。¹⁴Cの半減期は国際的に5,568年を用いて計算することになっている。誤差は測定における統計誤差(1標準偏差、68%信頼限界)である。

AMSでは、グラファイト炭素試料の¹⁴C/¹²C比を加速器により測定する。正確な年代を得るには、試料の同位体効果を測定し補正する必要がある。同時に加速器で測定した¹³C/¹²C比により、¹⁴C/¹²C比に対する同位体効果を調べ補正する。表には、加速器分析研究所による誤差を付して記してある。¹³C/¹²C比は通常、標準体(古生物belemnite化石の炭酸カルシウムの¹³C/¹²C比)偏差値に対する千分率¹³C(パーミル、‰)で示され、この値を-25‰に規格化して得られる¹⁴C/¹²C比によって補正する。補正した¹⁴C/¹²C比から、¹⁴C年代値(モデル年代)が得られる(英語表記ではConventional Ageとされることが多い)。

< 暦年較正 >

測定値を較正曲線INTCAL98(暦年代と炭素14年代を暦年代に修正するためのデータベース、1998年版)(Stuiver, M., et al. 1998)と比較することによって実年代(暦年代)を推定できる。両者に統計誤差があるため、統計数理的に扱う方がより正確に年代を表現できる。すなわち、測定値と較正曲線データベースとの一致の度合いを確率で示すことにより、暦年代の推定値確率分布として表す。暦年較正プログラムは、OxCal Programに準じた方法で作成したプログラムを用いている。統計誤差は2標準偏差に相当する、95%信頼限界で計算した。年代は、較正された西暦cal BCで示す。()内は推定確率である。図は、各試料の暦年較正の確率分布である。

表2 試料の重量・炭素含有率

AKT	試料の重量(mg)				状態	精製用	ガス*	含有率2(%)	含有率3(%)	
	採取	処理	回収	含有率1(%)						
145	59	20	2.19	10.9	良	2.07	1.23	59.4	6.46	1)
159	100	26	1.19	4.6	良	0.80	0.28	35.0	1.60	2)
163	499	32	3.07	9.7	良	1.85	1.12	60.5	60.5	1)
164	140	21	0.64	3.0	m多	-	-	-	-	2)

註) mはミネラル。ガス*は、二酸化炭素ガス圧からの炭素換算量(mg)。含有率1は回収量/処理量、含有率2はガス相当量/精製用重量、含有率3は含有率1×含有率2。右欄外の1)は、処理を小林、処理を坂本・陳が処理。2)は、調整・測定は保留。

表3 測定結果と暦年較正年代

A K T	測定機関番号	炭素年代 ¹⁴ C B P ¹⁾ ¹³ C‰ (補正值)		暦年較正cal BC (2) (%) は確率密度分布					挿図
145	I A A A 31101	- 40.1 ± 0.9	2980 ± 40	1370 - 1350 3.4%	1350 - 1340 0.9%	1310 - 1100 84.9%	1100 - 1050 6.1%		第97図9
163	I A A A 31102	- 29.6 ± 0.9	3110 ± 40	1480 - 1480 0.6%	1440 - 1260 94.4%	1220 - 1220 0.5%	²⁾		第66図6

註1) 加速器分析研究所での ¹³C 値は、加速器による測定であり、報告された誤差を付す。

註2) 1220 - 1220cal B C は、1220 - 1215cal B C の暦年較正年代であることを示す。同様に、1480 - 1480cal B C も1480 - 1475 cal B C を示す。

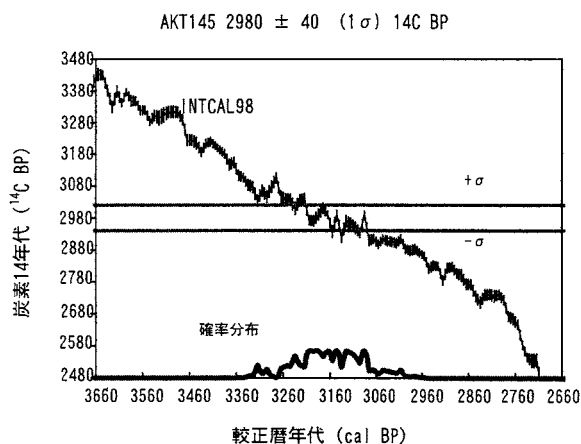
< 結果 >

大洞 B - C 式に相当と考えられる A K T 163 (第66図 6) は、紀元前1220年以前、大洞 C₁式と考えられる A K T 145 (第97図 9) は、紀元前1050年以前となり、ともにこれまでの測定結果からみるとやや古い年代である。今後、測定例を増して検討を重ねたい。

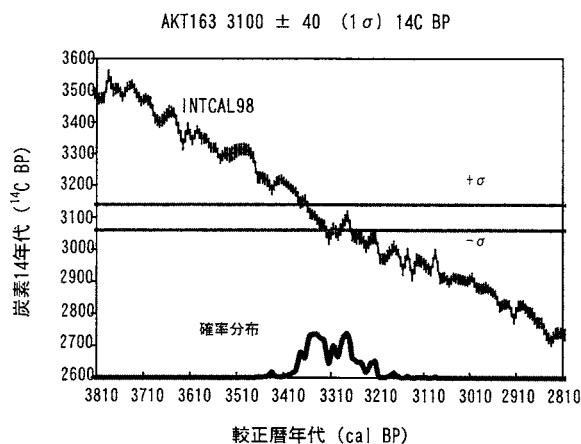
この分析は、日本学術振興会科学研究費 平成15年度基盤研究(A・1)(一般)「縄文時代・弥生時代の高精度年代体系の構築」(課題番号13308009)の成果を用いている。試料の採取にあたっては、東京芸術大学の建石徹、植月学両氏の協力を得た。試料処理においては、東邦大学野田稔、舛田奈緒子両君の協力を得た。記して謝意を表します。

参考文献

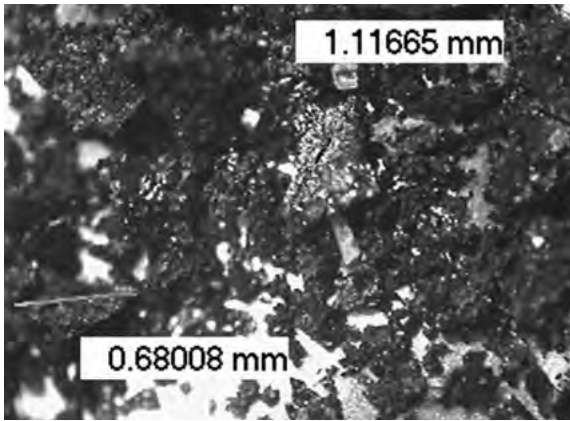
Stuiver, M., et. al. 1998 INTCAL98 Radiocarbon age calibration, 24,000-0 cal BP. Radiocarbon 40(3), 1041-1083.



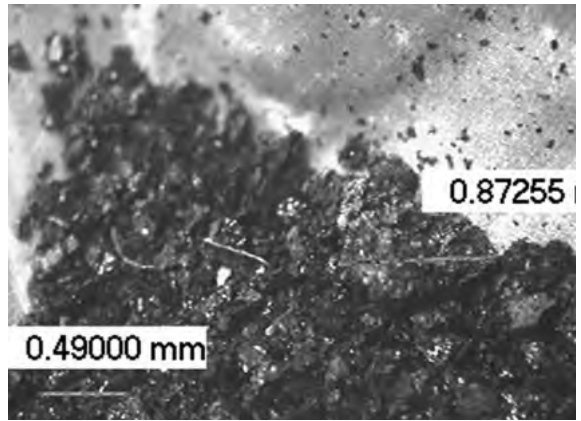
解析結果	
t _{median} =	3160 cal BP
95% range	
1370 cal BC ~	1350 cal BC (3.4%)
1350 cal BC ~	1340 cal BC (0.9%)
1310 cal BC ~	1100 cal BC (84.9%)
1100 cal BC ~	1050 cal BC (6.1%)



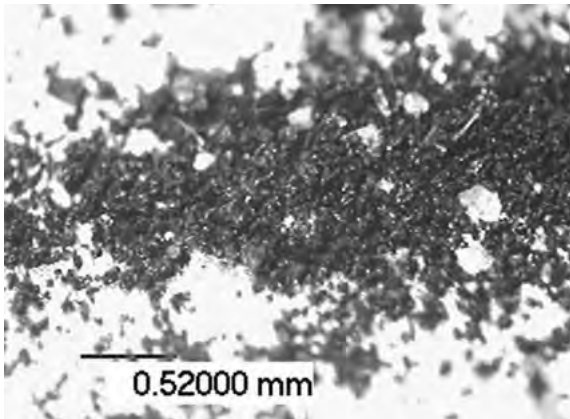
解析結果	
t _{median} =	3310 cal BP
95% range	
1480 cal BC ~	1480 cal BC (0.6%)
1440 cal BC ~	1260 cal BC (94.4%)
1220 cal BC ~	1220 cal BC (0.5%)



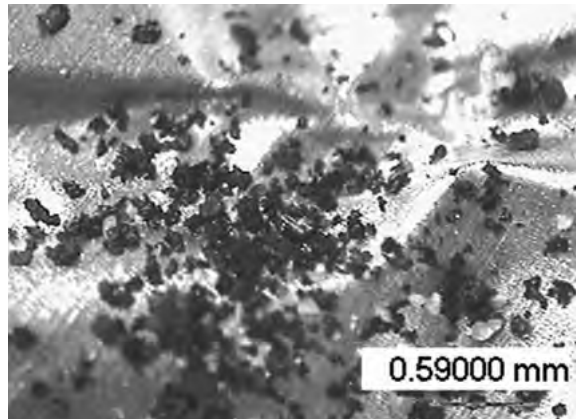
A K T 145 A A A 処理後 26倍



A K T 163 A A A 処理後 24.5倍



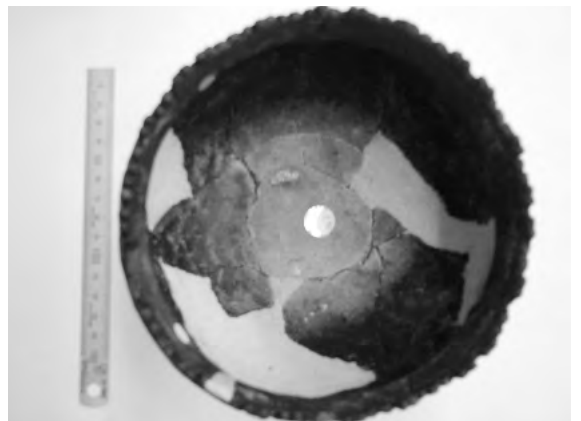
A K T 159 A A A 処理後 23倍



A K T 164 A A A 処理後 24倍



A K T 163 土器



A K T 163 土器内面 炭化物付着状況



A K T 163 土器内面 炭化物付着状況

秋田県	埋文鷹巣	写 拡大写		
向様田A	AKT	遺跡		
145	2M99A. ST183 L035A]			
	60357-1			
晩期	20603	12		
方柄 C1 式		期		
口縁	胴	底		
外内	外内	外内		
腐	やや良	やや不良	不良	
お	ス	炭化材	こぼれ	漆
2003年3月28日 小林				

50倍

全 59.43 mg
保 _____ mg
AAA 14 mg

炭化物採取チェックシート

第4章 まとめ

遺物の整理を進める過程で本遺跡の遺構についての理解が、2002年度刊行の『遺構篇』考察とは大きく変わった。

『遺構篇』では捨て場数を2箇所とし、それぞれに北西部捨て場S T 183、南西部捨て場S T 184と呼称していた。本書でも、発掘調査時及び『遺構篇』の呼称を尊重して「捨て場」の用語を使ってきた。そしてS T 183、184以外の、別地点の小さな谷を埋める遺物の廃棄単位＝集中地点を1回性の遺物安置行為ととらえ、遺物安置行為が複数回確認でき、遺跡内における遺物出土重量偏差値が50を超えるクラスターを、新たに3号と4号の「捨て場」として認定した。

しかし本遺跡における「捨て場」の名称は、以下に述べる理由から「土器塚」の名称を使用すべきと考える。まず、土器塚を定義する。

土器塚とは、1937年の大山史前学研究所による遠部台遺跡発掘調査報告以来、1957年の吉見台遺跡概報などで一般的に用いられている概念・用語である^(註1)。土器塚は、以下の2点によって定義づけられる。

堆積層のマトリクス(基質)は、土器・土器破片で構成される。

完形土器・大形破片が集積される。集積行為は1箇所、または近接する複数箇所に1回から複数回断続して行われて重層化する。加えて、土器集積行為が重層化した結果、その部分が盛り上がり「塚」状を呈する場合が多い。

遺物が大量に出る広義の「捨て場」から「土器塚」を弁別するためには、調査者が土器集積行為とそれが行われた場に、当事者の明確な意志を積極的に読み取ることが必要である。

本遺跡の場合、各時期ごとに集積の重心点を移動しながら、数量の卓越する主体器種を中心として、他器種がその周辺に配置されている。そして遺物の堆積が明確な饅頭形をとる。

従って、前章まで「捨て場」と呼んでいた4基の遺構は、「土器塚」として墓域形成にともなう祭祀を行った遺構として積極的に評価することが出来る^(註2)。土器塚の数的な認定基準を、土器出土重量偏差値50以上のグリッドにおいた。偏差値は、全出土土器重量約4.7tを遺跡調査区全体の556グリッドで割って1グリッド毎の出土土器重量平均値と標準偏差から算出したものである。出土土器重量平均値が偏差値50である。もとより土壌より土器の方が多く、「土器をまとめておいたような状態」を示していた。完形品が目立ち、割れているものも現位置において土圧でつぶれた状態であった。

土器塚は大きな攪乱を受けておらず、遺物はその原位置を良く保っている。大洞BC式期における注口土器、大洞C₁式期における浅鉢の圧倒的な集積を中心として、その他の器種が周辺を取り巻く分布状態が確認できた。また、石棒祭祀の様子をそのまま埋めた様な状態で検出した。

土器塚内部には、焼土遺構S N86・99の2基が構築されており、薄い焼土の分布は全体に渡っていた。したがって、祭祀行為は焼土の分布と関連して土器塚全体で行われていた。「塚」を構築する過程で、大きな焚き火が複数回焚かれているのは環状貝塚や大規模盛土遺構でもしばしば確認される。これを祭祀行為と結びつけ、同時にかつて後藤和民が想定した様に、ある品目の生産に特化した生産行為の結果でもあったと考えられる。

そこから、赤礫がS N99にともなって分布することから、ベンガラ生産にかかわる遺構であることを想定した。赤礫の原石・石核・剥片数量比とそれぞれの風化度組成比の間には、明確な有意差がある。すなわち、風化度の高い剥片は消費されることでその組成比率を大きく下げている。楔形石器が多いことも、石核両面から風化部分を薄くそぎ取っていく必要から両極剥離が指向された結果であろうから、技術と目的的剥片が見事に合致した結果であるといえる^(註3)。

大洞BC式と大洞C1式は、平均して39mmの標高差を持って出土した。その値を検定したところ99%の確率で高度に有意差があった。つまり、これら2型式は上下差を持って出土している。

土器は遺跡全体から約4.5t出土しており、そのうちの約3.7tを整理することが出来た。この3.7tに含まれる土器の最小個体数は、6,130個体(誤差±3%)である。出土土器全量4.5tでは7,387個体(誤差±3%)となる。

破片資料の土器組成比と、実測対象となった完形品のみから復原した土器組成比を比較すると、高度の有意差が存在した。このことは、実測対象となる完形の精製土器による土器組成の復原が、実態とは異なり、偏ったものであることを示す。遺跡の実態を示すためには破片資料を整理した上で、全体に対してどれほどの信頼性を持つものかを提示する必要があることを指摘した。

石器は8万点を超える全量にシリアルナンバーをふり、分析対象とした。北秋田郡における縄文時代晩期の石器組成を代表する内容である。大量の石器計測から判明したことは、石器組成の特徴であり、器種それぞれに対して目的的剥片の選択性が異なることであり、再生による変形過程が異なることであった。殊に、石鏃はアスファルト付着の有無によって分類し、詳細な計測をして統計処理した結果、完成品と失敗品の違いが明確となった。

また、本遺跡では4点出土した石鏃、12点出土した土掘具が、縄文時代の多角的な生業形態を考える上で重要な問題を投げかけている。これらの器種が出現する歴史的意義を、秋田県南部山内村の虫内遺跡遺跡発掘調査報告書「まとめ」^(註4)で、明確に述べている。そこでは、初期農耕の開始・受容・展開に対する違いが、その後の東西日本における農業社会発展過程の差を規定したものとして、当初から出現していたことを指摘している。

アグロ・フォレストリの視点を導入するならば、新石器時代の開始とともに強化される森林資源の管理的利用には、すでに焼き畑を含めた持続的生業システムを包括しているのであり、石鏃・土掘具を農具として積極的に評価することが、縄文時代の社会観・生業観をより具体的に復原することになる。従来、縄文時代晩期に至って関東地方貝塚群における獣骨出土量の増加現象を、狩猟圧の強化として解釈しているが、クリ・ドングリを代表とする落葉広葉樹林の管理的利用に特化するならば、そこに競合する動物が多く出現するのは生態系の道理であり、上記農耕具が目に見える形で導入されるレベルにまでアグロ・フォレストリ・システムが発展した結果と解釈し直すことが出来る。

石鏃は石器組成において8.8%をしめ、修正ウェーバー値第3位である主体器種のひとつである。石鏃が多いことを狩猟の強化と短絡するのではなく、アグロ・フォレストリによってシカ・イノシシの生活圏・ニッチ(生態学的地位)と重なり合い、植物資源の管理・確保の一端が、競合者たる動物への狩猟として顕現したと考える方がより現実的である。

そして、再度土器塚形成行為に立ち返るならば、単に土器を安置するだけでなく以下に示す様々な行為が重層化した結果であることがわかる。

第4章 まとめ

大洞BC式期における注口土器と精製鉢、大洞C₁式期の浅鉢と台付鉢の卓越と大量消費が集中域を形成すること。

2号土器塚において石棒祭祀と石剣の大量破損・廃棄と共に行われていること。

そこに石鍬が大量に組成すること。

類似した器種であっても石器がそれぞれの分布域を独自に占めること。

これらの様々な行動が独立して行われたはずがない。全ては有機的に関連し合う意味ある行為であり、それらを担った一人ひとりにセレモニー実行上の役割・立場があったことを類推させる。

大塚^{註5)}の模擬戦説はおくにしても、石剣を徹底して壊すことに意義を認めるならば、土器が原位置で潰れている出土状況とは対極にあるのであり、そこにもセレモニーにおける振る舞いの違いを見いだすことが可能である。つまり遺跡という「劇場」の土器塚という「舞台」で演じられた「演題」の差である。縄文時代の祭祀行為を「身振り」^{註6)}とアフオーダンス^{註7)}から復原^{註8)}することを試みるならば、麻生優が構築した「原位置論」の現代的意義を再考し、発掘調査で実践する必要がある。

註1 池上啓介「千葉県印旛郡白井町遠部石器時代遺跡の遺物」『史前学雑誌』第9巻3号史前学会(1937)、近森正他『佐倉市吉見台遺跡発掘調査概要』佐倉市遺跡調査会(1982)、近森正他『佐倉市吉見台遺跡発掘調査概要』佐倉市遺跡調査会・佐倉市教育委員会(1983)、財団法人印旛都市文化財センター『千葉県佐倉市吉見台遺跡A地点』663p.(2000)、菅谷通保「245 遠部台遺跡・江原台遺跡」『千葉県の歴史 資料編考古1(旧石器・縄文時代)』896-901p.1018p.(2000)、田川良「246 吉見台遺跡」『千葉県の歴史 資料編考古1(旧石器・縄文時代)』902-906p.1018p.(2000)など。

註2 近年出版された秋田県埋蔵文化財センターの報告書では、「捨て場」が「遺構」として扱われる場合と「包含層」として扱われる場合がある。前者は白坂・池内・萩の台・前通遺跡が、後者は伊勢堂岱・戸平川・桂の沢遺跡がある。戸沢は「土器廃棄場」について、破損した土器を大量に捨てた集積場としながら、そこに「信仰上の行為」(祭祀)など様々な付帯事項をつけて、個々の事象についてその性格を解明する必要があることを指摘している^(註9)。

以上からも「捨て場」という用語は、明確な定義がなされていない事は明らかである。貝塚(Shellmatrix site^(註10))や盛り土遺構が「包含層」と呼ばれず、あくまで遺構として積極的に評価されているのは、その平面形態と層位を形成したプロセスに対して、現代人が「古代人の行為に対する強い意志」を積極的に読み取ったからに他ならない。従って、本遺跡の様に土器の集積行為と祭祀が強い関係を持つ遺物集積遺構に対しては、より厳密に「土器塚」という用語を適用する。

註3 バリノ・サーヴェイ株式会社の五十嵐俊雄氏には、岩石鑑定をしていただき、「転石ではなく、これ程大量にあるなら、近くの露頭から直接採取したはずだ。露頭がどこかにあるのではないか?」というコメントをいただいた。感謝いたします。児玉^(註11)による青森県宇越遺跡出土赤鉄鉱の形態分析では、角礫状を呈するもの約7割に対して剥片2割、その他1割となっている。さらに「頁岩主体の角礫」からはベンガラを採取することは難しく、宇越遺跡出土赤鉄鉱中には「コークス状の赤鉄鉱が非常に少なく、出土資料を使用してベンガラを生産することは非常に困難」であり、コークス状を呈する部分を剥ぎ取ってベンガラが生産された結果、残されたのが頁岩主体の角礫と剥片であったことを指摘している。また、2003年には『旧石器考古学』64で、「赤色顔料」の特集が組まれている。

註4 秋田県教育委員会「まとめ」秋田県文化財調査報告書第274集『虫内 遺跡 - 東北横断自動車道秋田線発掘調査報告書 -』452p.(1998)

註5 大塚達朗「付篇 石剣考」『縄文土器研究の新展開』333-336p. 同成社(2000)

註6 ルロワ=グーラン, アンドレ 荒木享訳『身振りと言葉』新潮社(1973)

註7 ギブソン, ジェームズJ. 古崎敬他訳『生態学的視覚論 - 人の知覚世界を探る -』サイエンス社(1985)、リード, エドワード・S. 細田直哉訳、佐々木正人監修『アフオーダンスの心理学 生態心理学への道』新曜社 484p.(2000)

註8 Gamble, Clive『PALAOLITHIC SOCIETIES OF EUROPE』505p. Cambridge University Press(1999) 日本語訳は田村隆訳『ヨーロッパの旧石器社会』同成社 457p.(2001)

註9 戸沢充則「土器廃棄場」『縄文時代辞典』東京堂出版 pp.140(1994)

註10 Klassen, Christean『Shells』Cambridge University Press(1999)

註11 児玉大成「縄文時代におけるベンガラ生産の一樣相 - 宇越遺跡出土赤鉄鉱の考古学的分析 -」『青森県考古学会30周年記念論集』青森県考古学会 pp.83-109 182p.(2002)



1 L N35 b 642



2 L N36 b 588



3 L N35 b 641



4 L N35 b 652



5 L N35 c 650-1



6 L N35 d 576



7 L N36 a 590



8 L N36 b 586

1号捨て場 (S T183) 遺物出土状況



1 L O33b 430



2 L O33b 431



3 L O33c 437



4 L O34d 648



5 L O34b 422



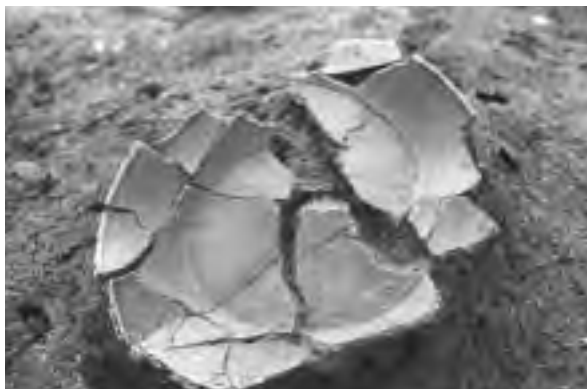
6 L O34c 639



7 L O34c 428



8 L O34d 441



1 L O 35 a 653



2 L O 35 a 654



3 L O 35 a 681



4 L O 35 b 692 ~ 695・699



5 L O 35 a 655



6 L O 35 a 655 (左) 672 (右)



7 L O 35 c 650-2



8 L O 35 c 657

1号捨て場 (S T 183) 遺物出土状況



1 L O35 c 656



2 L O35 c 662



3 L O35 c 678



4 L O36 a 575



5 L O36 a 578



6 L O37 d 367



7 L P33 c 267



8 L P33 c 533

1号捨て場 (S T183) 遺物出土状況



1 L P 33 d 532



2 L P 34 a 142



3 L P 34 a 405



4 L P 34 b 221



5 L P 34 b 220



6 L P 34 c 143



7 L P 34 c 698



8 L P 34 c 275

1号捨て場 (S T 183) 遺物出土状況



1 L P 34 c 144



2 L P 34 d 637



3 L P 35 b 145



4 L P 35 b



5 L P 35 b 665



6 L P 35 c 327



7 L P 35 c 325



8 L P 35 c 324

1号捨て場 (S T 183) 遺物出土状況



1 L P 36 d 363



2 L P 35 c L P 36 a



3 L P 35 c 146



4 L P 36 b 668



5 L P 37 a 366



6 L Q 33 a 113・114



7 L Q 33 b 110・111・112



8 L Q 33 c 615

1号捨て場 (S T 183) 遺物出土状況



1 L Q33 c 616



2 L Q33 d 614



3 L Q33 d 613



4 L Q33 d 534



5 L Q33 d 204



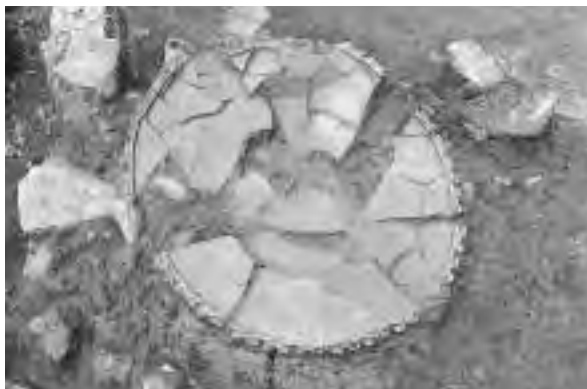
6 L Q34 a 208



7 L Q34 a 247



8 L Q34 a 210



1 L Q34 a 212



2 L Q34 a 209



3 L Q34 b 511



4 L Q34 b 239



5 L Q34 b 245



6 L Q34 b 246



7 L Q34 b 248



8 L Q34 b 448

1号捨て場 (S T183) 遺物出土状況



1 L Q34 b 617



2 L Q34 b 562・618



3 L Q34 d 263



4 L Q34 d 274



5 L Q35 a 702・703・705・707



6 L Q35 a 676



7 L Q35 a 702・703



8 L Q35 a 705

1号捨て場 (S T183) 遺物出土状況



1 L Q35 a 262



2 L Q35 a 709



3 L Q35 b 194・215



4 L Q35 b 216



5 L Q35 b 645・646



6 L Q35 b 647



7 L Q35 b 647



8 L Q35 b 686 (注口)・687 (石棒)

1号捨て場 (S T183) 遺物出土状況



1 L Q35 b 651



2 L Q35 b 671



3 L Q35 b 691



4 L Q35 c 190



5 L Q35 c 251



6 L Q35 c 252



7 L Q35 d 392



8 L Q35 d 550

1号捨て場 (S T183) 遺物出土状況



1 L Q35 d 558



2 L Q35 d 621



3 L Q36 a 451



4 L Q36 a 619



5 L Q36 d 443



6 L Q37 c 635



7 L R33 a 185



8 L R33 b 217

1号捨て場 (S T183) 遺物出土状況



1 L R 33 b 218



2 L R 34 a 186



3 L R 34 b 28・29



4 L R 34 b I層 109



5 L R 34 c 8



6 L R 35 b 54・55



7 L R 35 c



8 L R 36 a 260

1号捨て場 (S T 183) 遺物出土状況



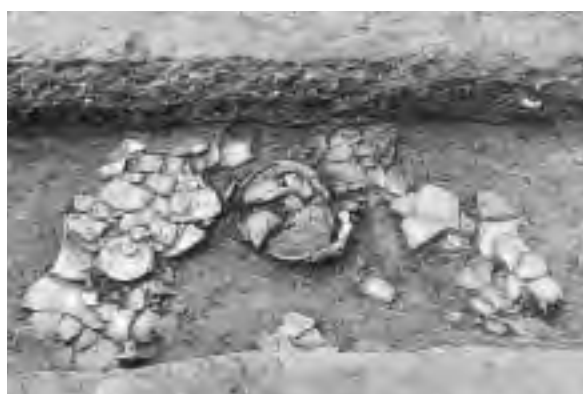
1 L R 36 b 70・71



2 L R 36 b 397



3 L R 36 b 401



4 L S 33 b ~ L T 33 a



5 L S 33 b 3



6 L S 34 b I 層 137



7 L T 34 c 644



8 L T 36 b 261

1号捨て場 (S T 183) 遺物出土状況



1 MA25 a 1014



2 MA25 a 1016



3 MA25 c 1074



4 MA25 c 1128



5 MA25 c 1134



6 MA26 b 1142



7 MA26 c 1176



8 MA27 a 1135

2号捨て場 (S T184) 遺物出土状況



1 MA27 a 1136



2 MA27 b 1113



3 MA27 c 1238 (壺)・MA28 b 1245 (ミニチュア土器)



4 MA27 c 1026



5 MA27 c 1029



6 MA27 c 1226



7 MA27 d 1137



8 MA28 a 1038

2号捨て場 (S T184) 遺物出土状況



1 M A 28 a 1039



2 M A 28 b 1083



3 M A 28 b 1084



4 M A 28 a 1150 ~ 1153 • 1168



5 M A 28 a 1177 • 1178



6 M A 28 a 1221



7 M A 28 a 1222



8 M A 28 a 1277

2号捨て場 (S T 184) 遺物出土状況



1 MA 28 b 1230 ~ 1233 MA 27 c 1235



2 MA 28 b 1239



3 MA 28 b 1243



4 MA 28 b 1279



5 MA 28 b 1295 · 1296



6 MA 28 b 1297



7 MA 28 c 1334



8 MA 28 b 1335 · 1336

2号捨て場 (S T184) 遺物出土状況



1 M A 28 c 1278



2 M A 28 c 1285・1287~1294・1298~1300・1319~1320



3 M A 28 c 1347



4 M A 28 c 1339~1346



5 M A 28 c 1059



6 M A 28 c 1059



7 M A 28 c 1059



8 M A 28 c 1059

2号捨て場 (S T 184) 遺物出土状況



1 MA28c 1061・1065



2 MA28c 1061



3 MA28c 1065



4 MA28c 1068



5 MA28c 1073



6 MA28c 1154



7 MA28c 1207

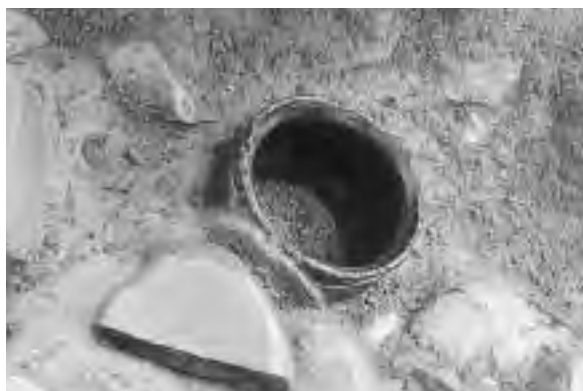


8 MA28c 1208

2号捨て場(S T184)遺物出土状況



1 MA28 c 1213ミ二壺・1214壺・1215注口 MB28d 1216



2 MA 28 c 1217



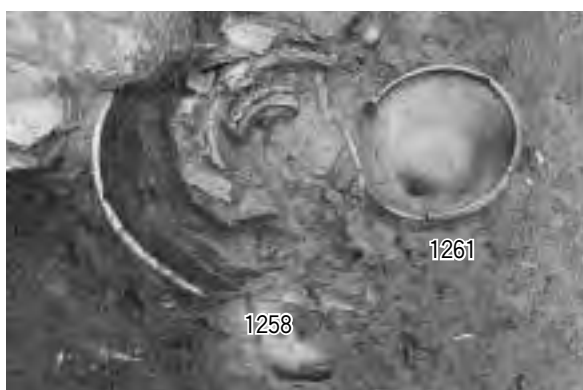
3 MA 28 c 1218



4 MA 28 c 1220



5 MA 28 c 1254・1255・1257・1258・1259



6 MA 28 c 1258・1261



7 MA 28 c 1271



8 MA 28 c 1272

2号捨て場 (S T 184) 遺物出土状況



1 MA28c 1274



2 MA28d II層 1051



3 MA28d 1050



4 MA28d 1212



5 MA28d 1211



6 MA28d 1227



7 MA28d 1267



8 MA29b 1190

2号捨て場(S T184)遺物出土状況



1 M A29b 1191



2 M B25 d 1143



3 M B25 d 1144



4 M B26 c 1089



5 M B27 c 1253



6 M B27 d 1098



7 M B28 a 1102



8 M B28 a 1106



1 MB28 a 1156



2 MB28 b 1110



3 MB28 b 1158



4 MB28 b 1159



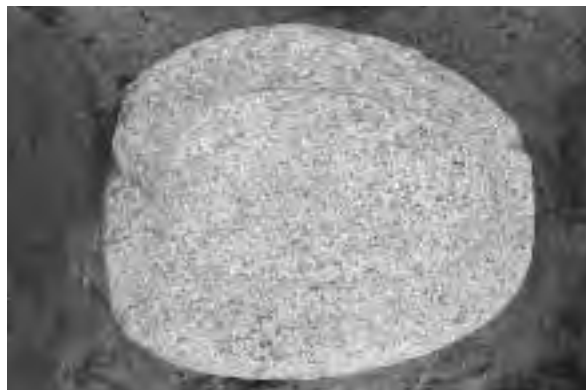
5 MB28 b 1170



6 MB28 b 1198



7 MB28 b 1322・1323



8 MB28 c 1160

2号捨て場(S T184)遺物出土状況



1 MB28d 1119



2 MB28d 1120



3 MB28d 1163



4 MB28d 1166



5 MB28d 1169



6 MB28d 1324



7 MB28d 1325 ~ 1327 · 1330



8 MB29a 1125

2号捨て場 (S T184) 遺物出土状況



1 MB29 a 1126



2 MB29 b 1129



3 MC26 a 1130



4 MC26 a 1131



5 MC26 d 1133



6 MC28 c 1206



7 MC27 c 1219



8 MC27 d 1262

2号捨て場 (S T184) 遺物出土状況



1 L T 25 a 1003



2 L T 25 c 1005朱塗り



3 L T 26 b 183



4 L T 26 b 184



5 L T 27 c 1011



6 MA 36 b



7 MA 37 c



8 MB 34 d

2号捨て場 (S T 184) ・ 3号捨て場遺物出土状況



1 3526



2 3121



3 3141



4 3123



5 3081



6 3173



7 3203



8 3137

大洞B₂式



1 3160



2 3030



3 3100



4 3524



5 3398



6 3369



7 2



8 3360

大洞B₂式



1 3194



2 80



3 3078



4 626



5 3259



6 649



7 3118



8 3448

大洞B₂式



1 3129



2 3107



3 1



4 3110



5 1202-1



6 1332



7 1262



8 3111



1 3069



2 3017



3 3113



4 3511



5 678



6 3231



7 3183



8 3182

大洞B₂·BC式 1~4 大洞B₂式 5~8 大洞BC式



1 3249



2 3232



3 3234



4 3244



5 3228 正面



6 1162-2



7 3228 下面



8 683

大洞BC式



1 240



2 3236



3 3289



4 3233



5 3291



6 3076



7 3177



8 3209

大洞BC式



1 3205



2 3207



3 1169



4 3215



5 3247



6 3208



7 3214



8 3211

大洞BC式



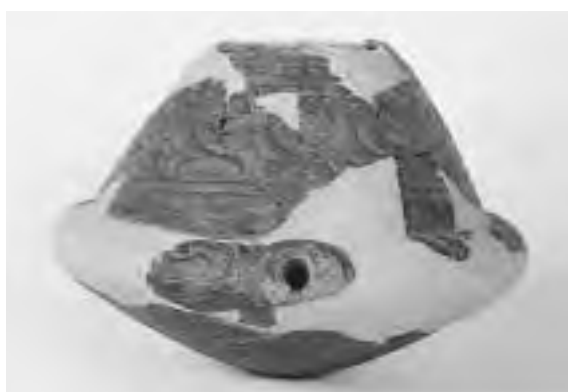
1 3212



2 71



3 3115



4 3077



5 1253



6 3206



7 511

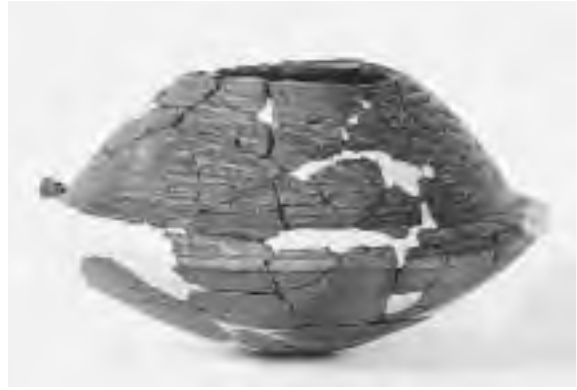


8 3097

大洞BC式



1 3204



2 1257-1



3 1121



4 3237



5 3126



6 3238



7 3028



8 465

大洞BC・C₁式 1~7 大洞BC式 8 大洞C₁式



1 3229 正面



2 3229 側面



3 372-2



4 230-2



5 357-1



6 1257-2 正面



7 312



8 1257-2 下面

大洞BC・C₁式 1・2 大洞BC式 3~8 大洞C₁式



1 289 正面



2 3217



3 289 下面



4 3150



5 3230



6 3158



7 3288



8 3290

大洞C₁式



1 1235 正面



2 3222 正面



3 1235 下面



4 3222 下面



5 3220 正面



6 3224 正面



7 3220 下面



8 3224 下面

大洞C₁式



1 3169 正面



2 1216-2 正面



3 3169 下面



4 1216-2 下面



5 3225 正面



6 1053 正面



7 3225 下面



8 1053 下面



1 3171 正面



2 3436



3 3171 下面



4 630



5 3227



6 3235



7 3124



8 3101

大洞C₁・C₂式 1～7 大洞C₁式 8 大洞C₂式



1 3223 正面



2 632-1 正面



3 3223 下面



4 632-1 下面



5 3219



6 1231



7 159



8 143

大洞C₁式



1 3226 正面



2 368-1 正面



3 3226 下面



4 368-1 下面



5 1068



6 369



7 3213



8 1098

大洞C₁式



1 142



2 3292



3 562



4 3216



5 岩偶

大洞C₁式



1 大洞BC式土偶 3500・246・3488・3501・146-2



2 大洞C₁式土偶 3502・518・321・146-1・217



2 大洞C₁式土偶 3489



1 大洞C₁式土偶 1227



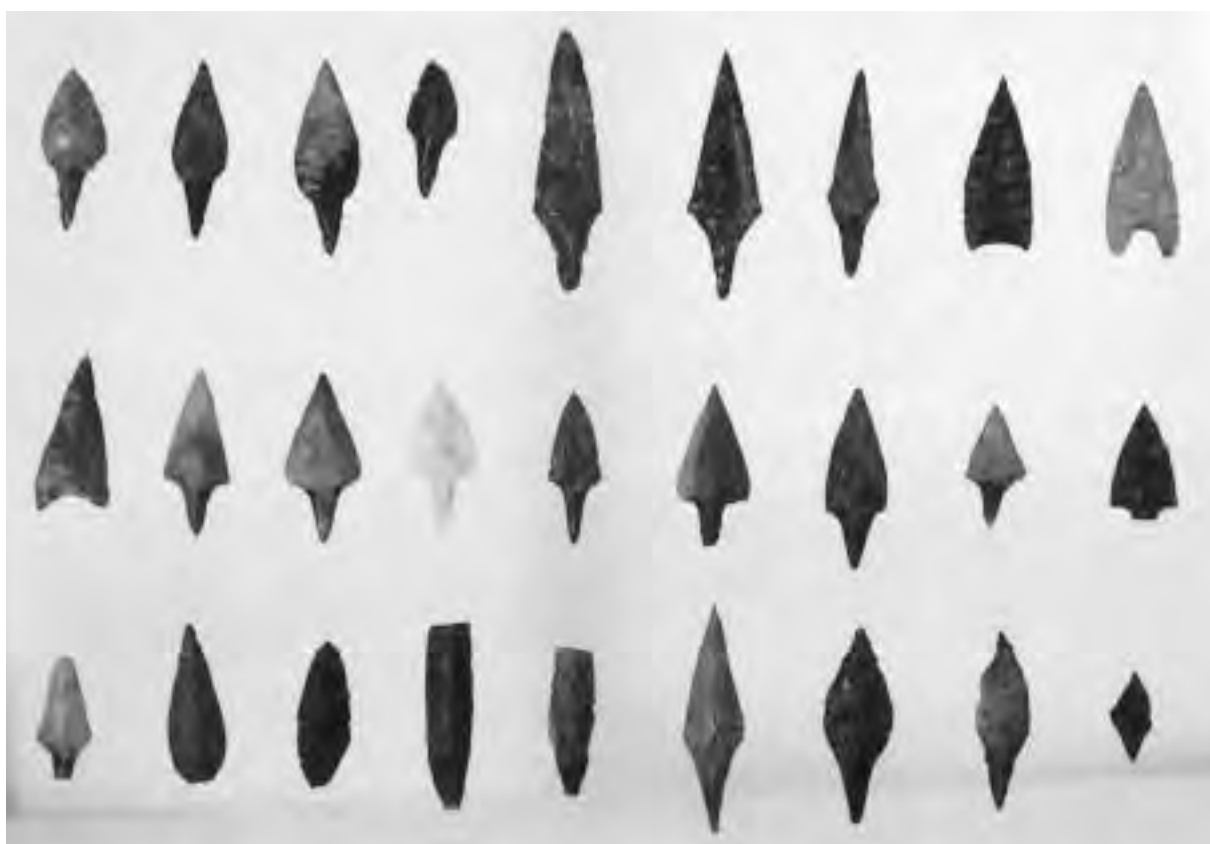
1 大洞式土偶 3499・456・3492・3498・3491・3490・3495
3497・3493・3494・3496



2 大洞BC・C₁・C₂式土製品 3485・3486・3484・3487



1 大洞式土製品 3508・3506・3505・3507



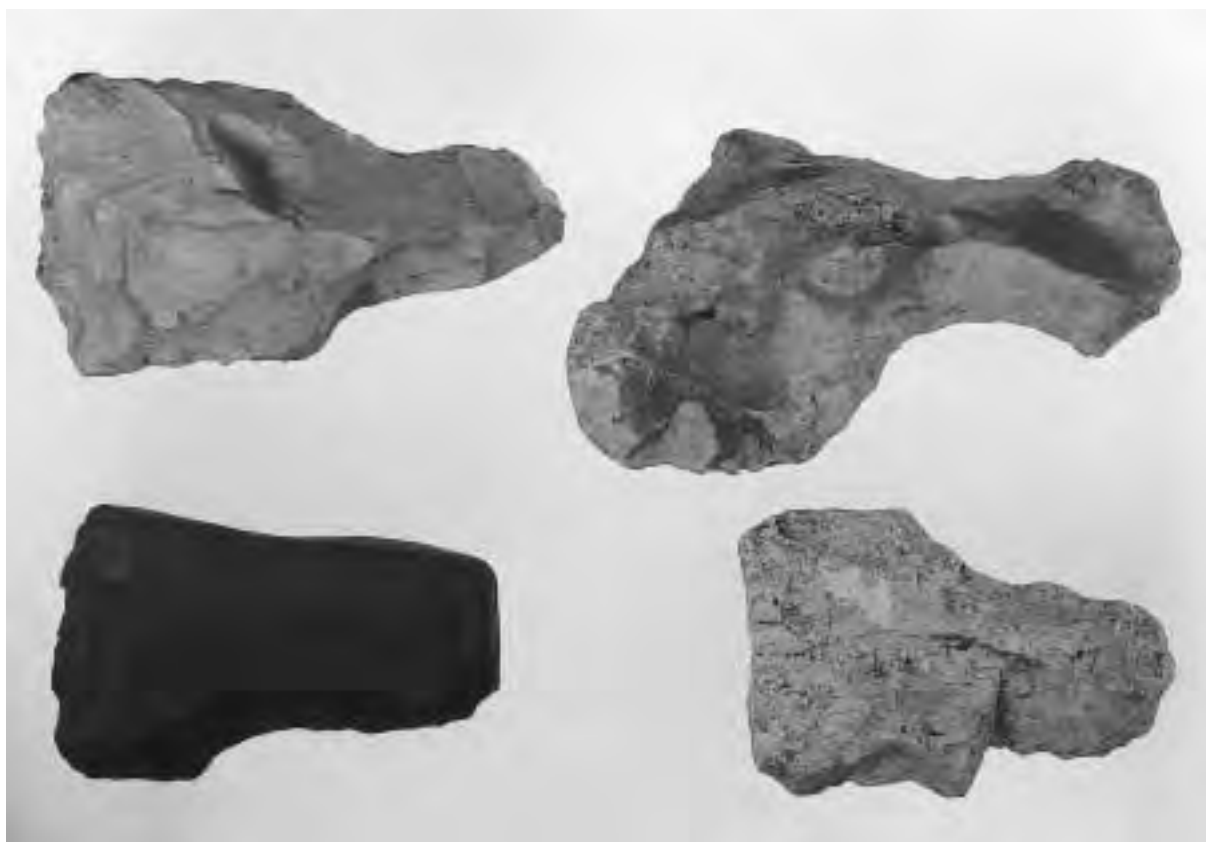
2 石鏃



1 尖頭器 表



2 尖頭器 裏



1 石鍬



2 土掘具



1 磨製石斧



2 石匙



1 石篔



2 楔形石器



1 石錐 表



2 石錐 裏



1 岩版



2 石棒·石劍



1 岩偶



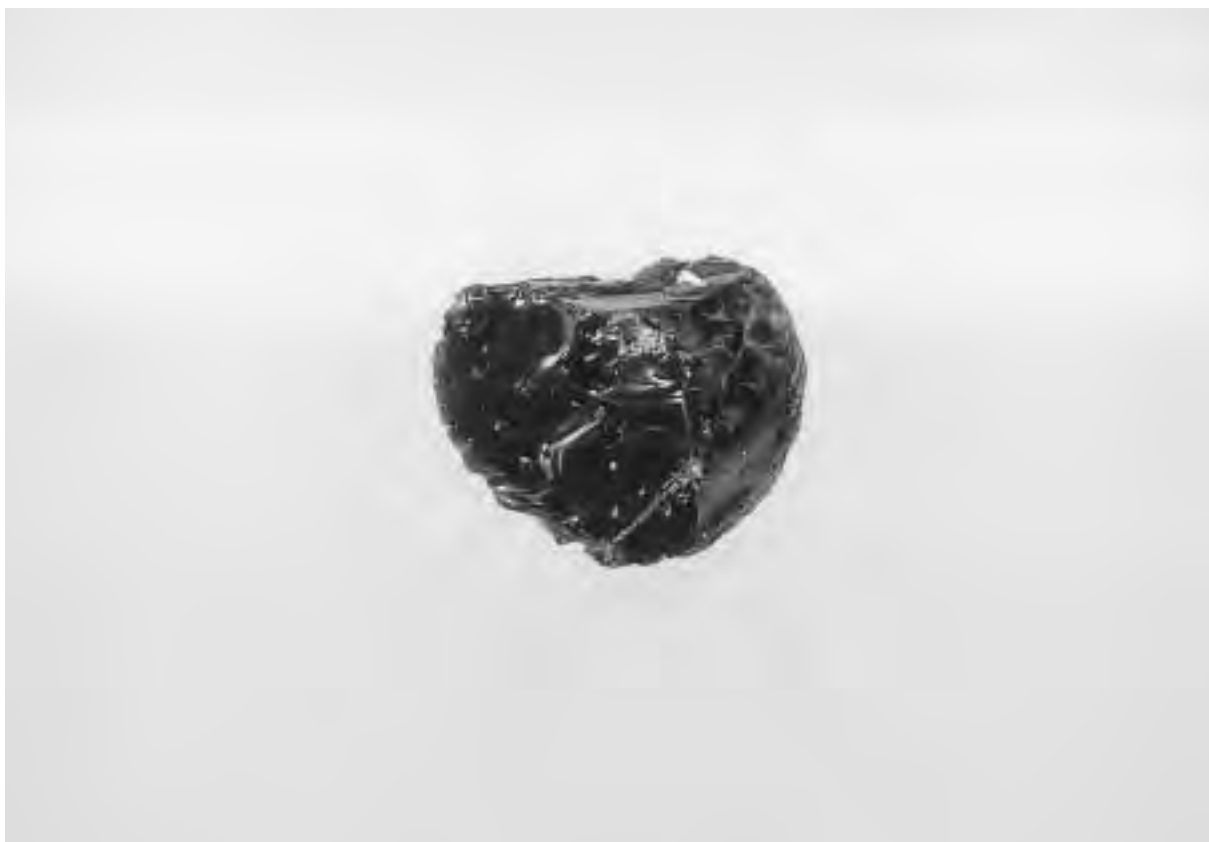
2 异形石器



1 石冠



2 有孔石製品



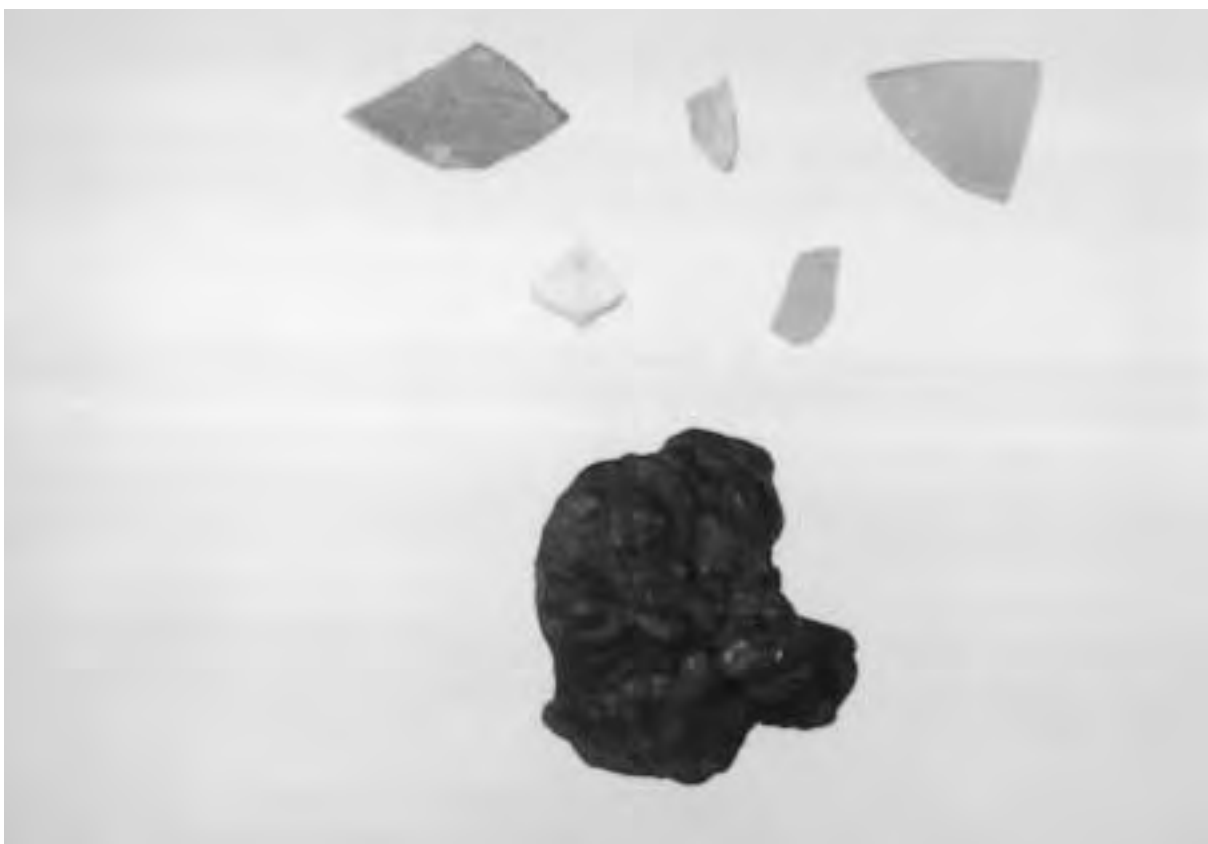
1 接合資料



2 赤礫（顔料素材の鉄鉱石・鉄石英）



1 木製品



2 龍泉窯青磁・国産磁器・碗形滓

報 告 書 抄 録

ふりがな	むかいさまだ いせき いぶつへん							
書名	向様田A遺跡 遺物篇							
副書名	森吉山ダム建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次	XII							
シリーズ名	秋田県文化財調査報告書							
シリーズ番号	第370集							
編著者名	柴田陽一郎・宇田川浩一・佐々木彩子・小林謙一・今村峯雄・坂本稔・陳建立							
編集機関	秋田県埋蔵文化財センター							
所在地	〒014-0802 秋田県仙北郡仙北町払田字牛嶋20番地 電話(0187)69-3331							
発行年月日	西暦2004年3月							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 °	東経 °	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
むかいさまだ いせき 向様田A遺跡	あきたけんきたあきた 秋田県北秋田	05323		40° 02 26	140° 28 35	20000717	7,600m ²	森吉山ダム建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査
	ぐんもりよしまもりよし 郡森吉町森吉					20001027		
	あざむかいさまだいえ 字向様田家ノ しも8外					20010517 ~ 20011019		
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
向様田A遺跡	墓 祭祀 生産	縄文時代 大洞B ₂ 式 ~ 大洞C ₂ 式 中世 13~14世紀 江戸時代	捨て場 4基 ベンガラ生産 遺構 1基	完形土器 853点 土器破片 13,907点 土器総重量 約4.5t 石器 83,529点 土偶・土製品・石製品	縄文時代晩期の墓域に伴う捨て場の形成過程が明らかとなった。焼土遺構とその周辺に大量のベンガラ素材が分布し、ベンガラ生産に関わる工房址であることが明らかとなった。大洞BC式土器と大洞C ₁ 式土器が、レベル差を持って出土した。			

秋田県文化財調査報告書第370集
向様田 A 遺跡 遺物篇
- 森吉山ダム建設事業に係る
埋蔵文化財発掘調査報告書XII -

印刷・発行	平成16年 3 月
編 集	秋田県埋蔵文化財センター 〒014-0802 仙北郡仙北町払田字牛嶋20番地 電話(0187)69-3331 FAX(0187)69-3330
発 行	秋田県教育委員会 〒010-8580 秋田市山王 3 丁目 1 番 1 号 電話(018)860-5193
印 刷	株式会社 秋北新聞社